船来山古墳群

2007

岐阜西開発株式会社 財団法人岐阜市教育文化振興事業団



105号墳(B2支群)出土遺物



71号墳(E支群)出土遺物

例 言

- 1. 本書は、船来山古墳群(岐阜県遺跡番号G32G02763~02767他)に所在する埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
- 2. 調査は(仮称)岐阜西カントリークラブ(ゴルフ場)造成に伴う緊急発掘調査で、埋蔵文化財包蔵地の発掘調査に関する業務委託契約に基づき、委託者・岐阜西開発株式会社の調査経費負担により、受託者・岐阜市遺跡調査会及び(財)岐阜市教育文化振興事業団が実施した。
- 3. 調査期間及び調査組織は下記のとおりである。

調査期間

現地調査 平成7年10月16日~平成8年11月21日

整 理 平成8年11月22日~平成9年9月30日

調査組織

平成7年度

調査主体者 岐阜市遺跡調査会理事長 後藤左右吉(岐阜市教育委員会教育長)

事 務 局 岐阜市遺跡調査会事務局長 北川 雅弘(岐阜市教育委員会文化課課長)

平成8·9年度

調査主体者 (財)岐阜市教育文化振興事業団理事長 後藤左右吉

事務局 (財)岐阜市教育文化振興事業団埋蔵文化財調査事務所所長

安田 五郎(平成8年度 (財)岐阜市教育文化振興事業団事務局長)

戸田 好美(平成9年度 同)

同 副所長

高木 洋(平成7年度 岐阜市教育委員会文化課)

(平成8・9年度 岐阜市教育委員会社会教育課)

4. 調査参加者は下記のとおりである。

調 査 担 当 若尾 政春(平成7年度 岐阜市教育委員会文化課)

(平成8年度 岐阜市教育委員会社会教育課)

恩田 裕之(平成7年度 岐阜市遺跡調査会主任調査員)

(平成8・9年度 (財)岐阜市教育文化振興事業団

埋蔵文化財調查事務所)

調 査 員 松葉 竜司 沢田伊一郎

調査補助員 加藤 裕子 川橋 靖子 棚橋 英子 倉持 和美

作 業 員 臼井 郷弘 大山 一郎 可児 昇 苅谷 克己

河合 茂 佐藤鋼二郎 鷲見 竜雄 高井 清

立川 力 玉木 勝 中村 光嗣 林 重夫

福田 基二 藤吉 清 安田 金一 山田 定一

- 5. 現地調査はA・B・C区を恩田が、D・E・F区を若尾が担当した。
- 6. 本書の執筆分担は次の通りである。全体の編集は恩田が行った。

第1章 松葉 竜司

第2章 若尾 政春

第3・5章 恩田 裕之

- 7. 地形測量図は、(株)マエダに委託し、空中写真測量によった。以下の古墳の石室実測図及び外護列石立面図は(有)高居・(株)マエダに委託し、その他は若尾・恩田・松葉・加藤・川橋が作成した。 92, 105, 115, 222, 225, 227, 229, 230, 231外, 236, 240, 246, 247, 251, 278 (有)高居 248, 252, 256, 257, 259 (株)マエダ
- 8. 出土遺物の整理・復元は主に加藤・川橋が、遺物実測は恩田・松葉・沢田・加藤・川橋が行った。 挿図・図版の作成は主に恩田・松葉が行った。
- 9. 金属製品の保存処理、象嵌の研ぎ出しは(株)京都科学に委託した。
- 10. 独立丘陵全体を船来山と呼称し、この山に存在する古墳(群)全てを船来山古墳群として一括した。 古墳番号は糸貫町・本巣町(現本巣市)に位置するものを含めて通番とした。
- 11. 挿図及び付図に示す北及び国土座標は、日本測地系第Ⅲ座標系上におけるそれを指す。
- 12. 石室実測図の縮尺はすべて1/40に、遺物実測図は一部を除いて1/3に統一した。
- 13. 石室側壁の左右は、奥壁から開口部を向いてのそれを指す。
- 14. 各支群の地形測量図中、「調査後排土置場」としている箇所は、全面調査して遺構が無いことを確認した後、排土置き場としたものである。
- 15. 文中の註は章末にまとめて記載した。
- 16. 現地調査及び報告書作成の過程で下記の方々及び機関に御指導・御協力を賜った。深く感謝する次第である。(敬称略)

国島 弘 赤塚 次郎 井川 祥子 岡戸 邦仁 恩田 知美 澤村雄一郎

鈴木 元 千藤 克彦 中井 均 中井 正幸 藤井 康隆 藤岡比呂志

森島 一貴 横幕 大祐 吉田 英敏 渡辺 博人

岐阜西開発株式会社 岐阜県教育委員会 岐阜市教育委員会 糸貫町教育委員会

17. 遺物の分類・年代観は次の文献に依拠している。

須恵器 渡辺博人「美濃の後期古墳出土須恵器の様相-蓋坏の型式設定とその編年試案-」

『美濃の考古学』創刊号 1996

田辺昭三『須恵器大成』 1981

土師器 内堀信雄・横幕大祐「山中~宇田式併行期の美濃西部域土器編年」

『土器・墓が語る』第6回東海考古学フォーラム資料 1998

内堀信雄・井川祥子「美濃における古代土師器煮炊具の様相」

『鍋と甕そのデザイン』第4回東海考古学フォーラム資料 1996

18. 出土遺物は、岐阜市教育委員会が保管している。

19. PDF版ではA3折込図をA4に収まるよう 70%に縮小している。よって石室実測図 の縮尺も 1/40 に統一されていないので注意されたい。なお縮小した挿図は次のとおりで ある。また別添図もB3からA4に縮小している。

第7回・第20回・第40回・第49回・第50回・第83回・第89回・第90回・第103回・第108回

目 次

第1章 遺跡の立地	234号墳 · · · · · · 68
第 1 節 船来山古墳群をとりまく地理的環境 … 1	236号墳 · · · · · · 69
第2節 船来山における歴史的環境・・・・・・1	237号墳 · · · · · · 69
第3節 船来山古墳群をとりまく歴史的環境 …3	238号墳 · · · · · · 69
第2章調査の経緯と経過	239号墳 · · · · · · 69
第 1 節 調査に至る経緯・・・・・・・8	240号墳 · · · · · 69
第 2 節 調査の経過・・・・・・・9	241号墳 · · · · · · · · 72
第3章発掘調査の成果	242号墳 · · · · · · · 72
第 1 節 A区 · · · · · · · · · · · · · · · · 12	243号墳 · · · · · · · 72
107号墳 · · · · · · 12	244号墳 · · · · · · · 72
108号墳 19	245号墳 · · · · · · · · 76
223号墳 · · · · · · 19	その他・・・・・・・ 76
224号墳 · · · · · · 21	第 5 節 E区 ······ 78
226号墳 · · · · · · 22	71号墳 · · · · · · · · 78
228号墳 · · · · · · 22	116号墳 · · · · · · 85
276号墳 · · · · · · 23	246号墳 · · · · · · 88
その他・・・・・・25	247号墳 · · · · · · 88
第 2 節 B区 ······ 26	248号墳 · · · · · · 93
96号墳 · · · · · · 26	252号墳 · · · · · · 95
249号墳 · · · · · · 37	256号墳 · · · · · · 96
250号墳 · · · · · · 37	257号墳 · · · · · · 96
251号墳 · · · · · · 37	258号墳 · · · · · · 97
253号墳 · · · · · 40	259号墳 · · · · · · 98
254号墳 · · · · · · 42	260号墳 · · · · · · 101
255号墳 · · · · · · 43	その他・・・・・・・102
105号墳 · · · · · · 43	第 6 節 F区 ······ 104
104号墳 51	222号墳 · · · · · · 104
その他	225号墳 · · · · · · 104
第 3 節 C区 · · · · · · 53	227号墳 · · · · · · 109
92号墳 · · · · · 53	229号墳 · · · · · · 109
235号墳 · · · · · 54	230号墳 · · · · · · 112
その他・・・・・・・61	231号墳 · · · · · · · 114
第 4 節 D区 · · · · · · 62	277号墳 · · · · · · · 114
95号墳 · · · · · 62	278号墳 · · · · · · 117
115号墳 · · · · · · 62	その他・・・・・・・117
232号墳 · · · · · · 67	第 4 章 自然科学分析 · · · · · · · 146
233号墳 · · · · · 68	第 5 章 総括・・・・・・・・ 148

挿図目次

第1図	周辺の地形分類と遺跡分布	第35図	254号墳遺物出土状況図
第2図	周辺の遺跡分布	第36図	254号墳石室実測図
第3図	試掘調査出土遺物実測図	第37図	254号墳出土遺物実測図
第4図	調査区位置図	第38図	255号墳石室実測図
第5図	A区地形測量図	第39図	105号墳遺物出土状況図
第6図	107号墳遺物出土状況図	第40図	105号墳石室実測図
第7図	107号墳石室実測図	第41図	105号墳出土遺物実測図(1)
第8図	107号墳出土遺物実測図(1)	第42図	105号墳出土遺物実測図(2)
第9図	107号墳出土遺物実測図(2)	第43図	105号墳出土遺物実測図(3)
第10図	108号墳石室実測図	第44図	104号墳出土遺物実測図
第11図	223号墳石室実測図	第45図	B区出土遺物実測図
第12図	224号墳出土遺物実測図	第46図	B区遺構実測図
第13図	224号墳石室実測図	第47図	C区地形測量図
第14図	226号墳石室実測図	第48図	92号墳出土遺物実測図
第15図	228号墳石室実測図	第49図	92号墳石室実測図
第16図	276号墳主体部実測図	第50図	235号墳石室実測図
第17図	276号墳出土遺物実測図	第51図	235号墳墳丘測量図
第18図	A区遺構実測図	第52図	235号墳出土遺物実測図
第19図	A区出土遺物実測図	第53図	235号墳周溝出土遺物実測図
第20図	B1区地形測量図	第54図	C区出土遺物実測図
第21図	B2区地形測量図	第55図	D区地形測量図
第22図	96号墳調査前測量図	第56図	95号墳石室実測図
第23図	96号墳墳丘測量図	第57図	115号墳石室実測図
第24図	96号墳出土遺物実測図(1)	第58図	95号墳出土遺物実測図
第25図	96号墳出土遺物実測図(2)	第59図	115号墳出土遺物実測図
第26図	96号墳出土遺物実測図(3)	第60図	232号墳石室実測図
第27図	96号墳出土遺物実測図(4)	第61図	233号墳石室実測図
第28図	96号墳出土遺物実測図(5)	第62図	234号墳石室実測図
第29図	249号墳石室実測図	第63図	234号墳出土遺物実測図
第30図	249号墳出土遺物実測図	第64図	236号墳石室実測図
第31図	250号墳石室実測図	第65図	236号墳出土遺物実測図
第32図	251号墳石室実測図	第66図	237号墳石室実測図
第33図	251号墳出土遺物実測図	第67図	238号墳石室実測図
第34図	253号墳石室実測図	第68図	239号墳石室実測図

第69図	240号墳石室実測図	第105図	E区出土遺物実測図
第70図	240号墳出土遺物実測図	第106図	F区地形測量図
第71図	241号墳石室実測図	第107図	222号墳石室実測図
第72図	241号墳出土遺物実測図	第108図	225号墳石室実測図
第73図	242号墳石室実測図	第109図	225号墳出土遺物実測図
第74図	243号墳石室実測図	第110図	227号墳墳丘測量図
第75図	243号墳出土遺物実測図	第111図	227号墳石室実測図
第76図	D区出土遺物実測図	第112図	227号墳出土遺物実測図
第77図	244号墳石室実測図	第113図	229号墳石室実測図
第78図	244号墳出土遺物実測図	第114図	230号墳石室実測図
第79図	245号墳石室実測図	第115図	230号墳出土遺物実測図
第80図	245号墳出土遺物実測図	第116図	231号墳外護列石実測図
第81図	E区地形測量図	第117図	277号墳墳丘測量図
第82図	71号墳遺物出土状況図	第118図	277号墳出土遺物実測図
第83図	71号墳石室実測図	第119図	278号墳墳丘測量図
第84図	71号墳出土遺物実測図(1)	第120図	278号墳出土遺物実測図
第85図	71号墳出土遺物実測図(2)	第121図	F区出土遺物実測図
第86図	116号墳出土遺物実測図	第122図	赤色物の蛍光X線スペクトル図
第87図	116号墳石室実測図	第123図	石室推移表
第88図	116号墳遺物出土状況図	第124図	石室の分類と法量グラフ
第89図	246号墳墳丘測量図	第125図	石材法量グラフ
第90図	246号墳石室実測図	第126図	石材の使用方向(1)
第91図	246号墳出土遺物実測図	第127図	石材の使用方向(2)
第92図	247号墳墳丘測量図	第128図	石材の使用方向(3)
第93図	247号墳出土遺物実測図	第129図	石材の使用方向(4)
第94図	247号墳石室実測図	第130図	石材の使用方向模式図
第95図	248号墳石室実測図	第131図	石室の掘方模式図
第96図	248号墳出土遺物実測図	第132図	A支群の立地と変遷
第97図			
7901	252号墳石室実測図	第133図	B1支群の立地と変遷
第98図	252号墳石室実測図 256号墳石室実測図	第133図 第134図	B1支群の立地と変遷 B2支群の立地と変遷
第98図	256号墳石室実測図 257号墳石室実測図	第134図	B2支群の立地と変遷
第98図 第99図	256号墳石室実測図 257号墳石室実測図 258号墳石室実測図	第134図 第135図	B2支群の立地と変遷 C支群の立地と変遷
第98図 第99図 第100図	256号墳石室実測図 257号墳石室実測図 258号墳石室実測図 259号墳石室実測図	第134図 第135図 第136図	B2支群の立地と変遷 C支群の立地と変遷 D支群の立地と変遷
第98図 第99図 第100図 第101図	256号墳石室実測図 257号墳石室実測図 258号墳石室実測図 259号墳石室実測図 259号墳出土遺物実測図	第134図 第135図 第136図 第137図	B2支群の立地と変遷 C支群の立地と変遷 D支群の立地と変遷 E支群の立地と変遷

表 目 次

図版目次

	第	1表	作業工程表
--	---	----	-------

第2表 古墳一覧表(1)

第3表 古墳一覧表(2)

第4表 出土遺物一覧表(1)

第5表 出土遺物一覧表(2)

第6~15表 土器観察表(1)~(10)

第16表 鉄鏃観察表

第17表 耳環観察表

第18表 玉類観察表

第19~24表 埴輪観察表(1)~(6)

第25~29表 石材法量表(1)~(5)

第30表 石室各要素の集計表

図版1 A区全景

図版 2 107・108号墳

図版 3 108 · 223 · 224号墳

図版 4 224 · 226 · 228 · 276号墳

図版 5 B区全景

図版 6 A区SK · 96 · 249号墳

図版7 249・250・251号墳

図版 8 251·253·254号墳

図版 9 255・105号墳

図版10 105・92号墳

図版11 C区全景・92号墳

図版12 235号墳

図版13 D区全景

図版14 95・115・232号墳

図版15 232・233・234・236号墳

図版16 236・237・238・239・240号墳

図版17 240・241・242号墳

図版18 243 · 244 · 245 · 71号墳

図版19 E区全景

図版20 71号墳

図版21 116・246号墳

図版22 246·247·248·252号墳

図版23 252・256・257号墳

図版24 257 · 258 · 259 · 260号墳

図版25 260・222・225号墳

図版26 F区全景

図版27 225 · 227 · 229号墳

図版28 229・230・231号墳

図版29 277·278号墳

図版30~44 遺物

別 添 図

船来山古墳群分布図

第1章 遺跡の立地

第1節 船来山古墳群をとりまく地理的環境

船来山古墳群は、岐阜市および糸貫町・本巣町(現本巣市)の市域境界上に位置する船来山(標高 116.5m)および郡府山(標高110.0m)の尾根上から山麓に至る、ほぼ全域にかけて分布する。以下、船来 山、郡府山からなる独立丘陵全体を「船来山」と呼称する。

船来山は北方に連なる美濃山地の南端から独立する丘陵であり、根尾川左岸に位置する。揖斐川の 支流である根尾川は旧本巣町山口付近を扇頂とし、半径約8kmの広がりを持つ扇状地を形成した。現 在、根尾川と船来山との間に支流の糸貫川が南流するが、1530年の大洪水により本流が藪川(現在の根 尾川)に移るまでは根尾川の本流であったことが想定されている。特に船来山南方の扇状地には多くの 旧河道痕跡、後背湿地、自然堤防が残されており、古代以後、幾度にも及ぶ流路変更があったことが 窺える。旧河川が船来山西麓を沿うように流下した時期もあり、船来山西端付近には湿地帯が見られ る。船来山の東方、鳥羽川左岸域には黒野台地と呼ばれる微高地(低位段丘面)が展開し、また美濃山 地から流れ出る河川に沿って狭小な砂礫台地、谷底砂礫平野が形成される(第1図)。

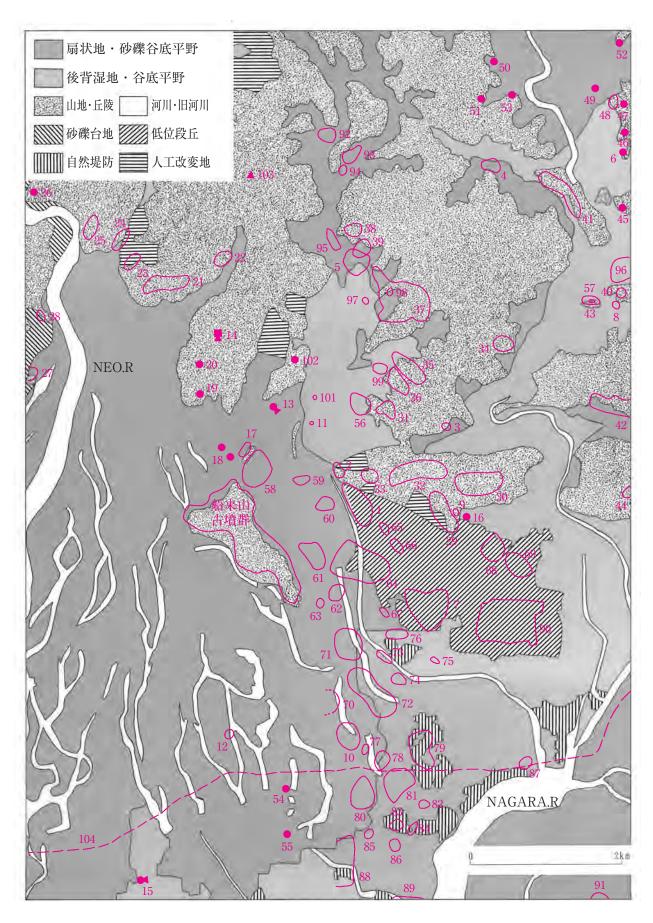
船来山は主尾根を南東から北西に走らせ、北西端で角度を90度近く北東に変える。船来山を構成する地層面の走向が北西から南東に延びることを反映した主尾根形成である。地表面の傾斜は主尾根から南西斜面に向けては緩やか、北東斜面に向けては急であり、地層面傾斜は南西に向かって60度の傾斜を測る。主尾根から直交して支尾根が細かく舌状に延びるが、今回の調査区域、C区が崖錐堆積物層に位置する以外は、A・B・D~F区が支尾根上にあり、調査区の地層走向はそれぞれの支尾根派生方位と基本的に一致する(註1)。

船来山を含めた周辺山地の地質構成は、基本的には美濃帯の那比ユニットに属する中古生層(塊状の中粒・粗粒硬砂岩・砂岩泥岩互層・チャートなど)からなる。船来山では硬砂岩が主体を占め、一部に軟砂岩、粘質系岩が分布する。ただし、各調査区における岩体(岩盤)はA区が軟砂岩・泥岩系、B区が硬砂岩、D区が泥岩系、E区が軟砂岩・泥岩系、そしてF区では軟砂岩が主体となる傾向がある。古墳石室に用いられた石材種は硬砂岩が中心を占めるが、この岩種が必ずしも各調査区に普遍的に分布するとは言えない。

第2節 船来山における歴史的環境

現在、確認し得る船来山における人間活動は縄文時代早期まで遡る。押型文土器および石器群が過去の発掘調査で出土しており、これ以外に石鏃などが採集されている。弥生時代の動向ははっきりしないが、今回の調査で弥生土器片が出土している。

古墳時代に関しては、『岐阜県遺跡地図(改訂版)』に船来山古墳群として87基との記載があるように古くから古墳群の存在が周知され、前期から継続的に造墓活動が行われ、後期、終末期に最盛期を迎えることが過去の断片的な調査から知られていた。船来山24号墳、同87~90号墳の発掘調査が実施さ



第1図 周辺の地形分類と遺跡分布

れている。24号墳は昭和42年、豪雨崩壊による緊急調査において割竹形木棺を伴う粘土槨を埋葬施設に持ち、葺石を伴う推定径20mの円墳であることが確認され、仿製三角縁神獣鏡、内行花文鏡などの銅鏡5、勾玉10、管玉188、ガラス製小玉298、石釧3、鉄刀7、鉄剣13、鉄鉾1、刀子2、鉄鑿1、鉄錠1、鉄鎌2、鉄鋸1、銅鏃30以上などの威信財、武具、農工具といった豊富な副葬遺物が出土し、5世紀前後の築造であることが想定された。27号墳では銅鏡(鼉龍鏡)1が出土し、24号墳とほぼ同時期とされている。87~90号墳は6世紀代の横穴式石室墳で、須恵器、土師器、鉄鏃、刀子、管玉などが出土する。また、帰属墳は不明であるが須恵器などの採集例は多い。

中世以後、船来山に対してさまざまな人為的な手が加えられてきた。斉藤道三が伊勢の福島四郎右衛門に宛てた書状(『豊後臼杵稲葉文書』)に「次郎は筵田と申在所へ執出候。」とあること、あるいは「…中頃転地築城、請桑山之城、」(『美濃国古蹟考 巻之四』)といった史料の存在と、糸貫町域」支群で検出された2基の掘切遺構の存在から室町末期から戦国期において美濃守護代にあった土岐氏が船来山に砦(筵田の砦)を築いていたことが推測される。また、糸貫町域K・O支群などで検出された石切場は享保年間の印刻が認められ、江戸中期に名古屋城天守閣修理に伴い、船来山の岩体あるいは古墳石室から石材が搬出されたことを暗示しているが、これが大規模な石室破壊をもたらしたことは想像に難くない。中世末から近世にかけて船来山山麓に寺社建築が進むが(胜2)、寺社建造物や石段、墓石などへの石室構成材の転用も窺われるところである。

船来山南方、旧糸貫町域にかけては柿畑が広がり、富有柿の産地として全国的に知られる。当地での柿栽培は16世紀まで遡り、特に第二次大戦前後の時期に船来山山麓では畑地への開墾が進んだ。今回の調査においても畑地としての土地利用が古墳に改変を与えた状況を確認している。このように中世以後、現代にかけて継続的な人為的活動が船来山に所在する古墳群に一定の改変を与えたものと考えられる。

第3節 船来山古墳群をとりまく歴史的環境

船来山周辺に所在する諸遺跡の動向を、伊自良川右岸域から西側の岐阜市北西部域および糸貫町・本巣町の一部の地域を対象に既往の調査、岐阜市教育委員会が実施した遺跡分布調査の成果(註3)などを踏まえて時期ごとに概観する(第2図)。

旧石器時代に属する遺跡は確認されていない。縄文時代の諸遺跡は御望山麓および板屋川流域に集中的に分布しており、その生活基盤を窺うことができる。御望A遺跡(1)からは縄文前期後葉の竪穴住居跡9棟などが検出され、犬塚遺跡(2)から石鏃、打製石斧、石錘が、村山遺跡(3)から有舌尖頭器、石鏃が、佐野遺跡(4)から御物石器、石刀が採集されている。弥生時代の諸遺跡は小河川沿いに分布し、付近に後背湿地を有していることから農耕生産に一定の関わりを有した集落であったものと考えられる。下西郷一本松遺跡(72)からは弥生中期後半以後の竪穴住居跡、土坑などが検出され、甕、台付甕、壺、高杯、器台などが出土している。犬塚遺跡(2)から壺、高杯が、彦坂遺跡(8)から器台が、洞山上遺跡(9)からは高杯が採集され、弥生中後期の集落と考えられる。

船来山周辺には古墳時代前期から中期に至る小首長墳が連綿と築造される。宝珠古墳(13)は船来山

の北方約1kmに所在し、粘土郭を埋葬施設に持つ全長48mの前方後円墳である。銅鏡2、勾玉2、管 玉19、石釧1、紡錘車2(いずれも石製)、埴輪片などが出土し、4世紀後半の築造が想定されている。 北ヶ谷古墳(14)は宝珠古墳に近接する全長約63mの前方後方墳である。詳細は明らかでないが、4世紀 中葉の築造が想定されている。宗慶大塚古墳(15)は船来山の南方約3kmに所在する全長約63mの前方 後円墳であり、墳丘の範囲確認調査が実施されている。小山古墳(16)は船来山の東方約2kmの平野部 に所在する周濠を伴う径28mの円墳であり、埋葬施設は不明であるが玉類の出土が知られ、5世紀代の 築造が想定されている。船来山24号墳、27号墳、あるいは後述の明音寺2号墳を含め、これらの古墳 は船来山周辺、揖斐川流域における古墳時代前期から中期に至る小首長墳の系譜で捉えられている。

古墳時代後期から終末期にかけては美濃山地の南端を構成する山麓部を中心に爆発的な群集墳形成が見られる。分布図に図示し得なかった大野町域および岐阜市北部の山間部域においても同様に後期群集墳が密集する。

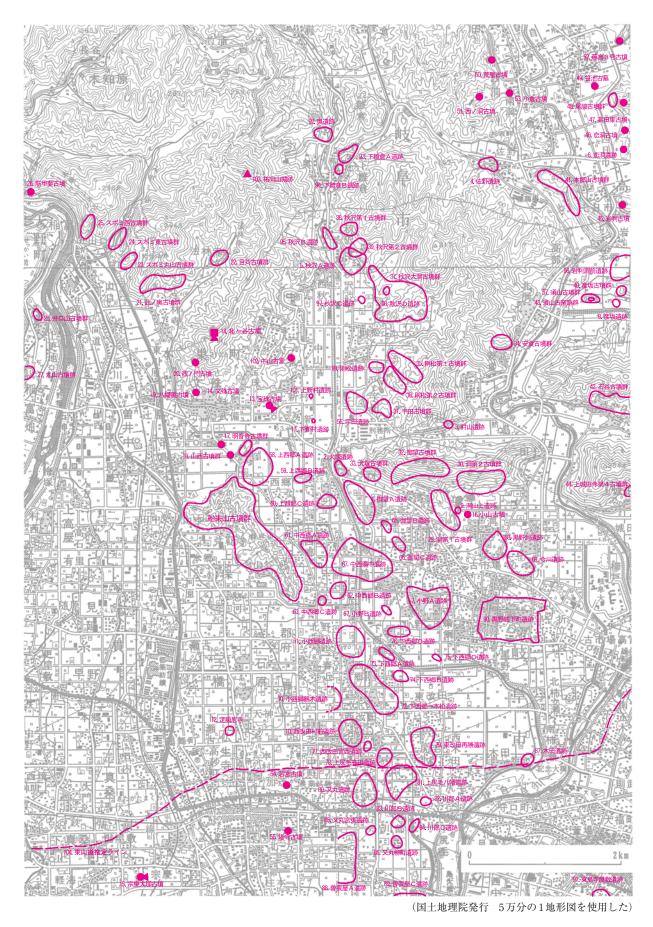
根尾川流域に所在する此ノ奥古墳群(法林寺古墳群)(21)は9基の円墳からなり、横穴式石室を埋葬施設とする。須恵器(杯、杯蓋、有蓋高杯、直口壺、短頸壺、台付瓶、平瓶、提瓶)、耳環、兵庫鎖、刀子、玉類が採集されている。

板屋川流域には明音寺古墳群(17)、秋沢大洞古墳群(37)、則松古墳群(第1支群・第2支群)(35・36)、 秋沢古墳群(第1支群・第2支群)(38・39)などが分布する。明音寺古墳群は前方後円墳1基(2号墳、全長55m)、円墳4基からなり(註4)、2号墳に関しては5世紀後葉の年代が想定されている。秋沢大洞古墳群は18基の円墳からなり、埋葬施設は横穴式石室である。則松第1古墳群は9基、第2支群古墳群は12基、秋沢第1古墳群は6基、第2古墳群は2基の円墳からなり、いずれも横穴式石室墳である(註5)。

伊自良川流域には本郷山古墳群(41)、須山古墳群(57)、上城田寺古墳群(44)などが分布する。本郷山古墳群は8基の円墳からなる横穴式石室墳である。須恵器(杯、杯蓋、高杯、壺、處、平瓶)の出土が知られている。須山古墳群は横穴式石室を埋葬施設に持つ4基の円墳からなり、後述する須山古窯跡群と同一丘陵上に立地する。須恵器(杯、高杯、壺、處、平瓶)、勾玉、直刀、鉄鏃の出土が知られる。上城田寺第4古墳群は分布調査で17基が確認されていたが、平成3~4年の発掘調査において11基の横穴式石室墳が調査された。径10m前後の小円墳からなる典型的な後期群集墳である。土器(須恵器、土師器)、武具(大刀、小刀)、装身具(勾玉、管玉、小玉、平玉、棗玉、耳環)、工具(刀子、紡錘車)などが出土している。

これらの古墳群は丘陵、山麓の尾根上や山裾の緩斜面上に分布するが、その表層地質(岩体)は砂岩、チャート、泥質岩系からなる。地質別に見れば船来山古墳群、秋沢大洞古墳群、宇田古墳群などが砂岩分布域に、御望古墳群、本郷山古墳群、上城田寺第4支群古墳群がチャート分布域に、そして此ノ奥古墳群などが泥質岩系分布域に立地するが、古墳群形成に表層地質に左右される偏向性は見られず、基本的には古墳群の選地に表層地質の影響を受けないことが理解できる。

古墳時代の集落遺跡として宇田遺跡(56)、下西郷一本松遺跡(72)が、生産遺跡として須山古窯跡群(43)が知られる。宇田遺跡からは2群の柵列が確認されており、5世紀後半から律令期に至るまでの



第2図 周辺の遺跡分布

時期の須恵器、土師器、木器類が出土。下西郷一本松遺跡では20基以上の竪穴住居跡が検出され、須恵器、土師器(受口状口縁甕、くの字甕、高杯、S字状口縁台付甕、宇田型甕、伊勢型甕)などが時期的組成を把握できる状態で出土している。併せて遺跡からは船来山古墳群において未だ古墳造営が行なわれている時期、7世紀中葉の土壙墓1基が検出され、耳環、須恵器(杯、短頸壺)が出土している。現段階で船来山古墳群被葬者集団との階層差、帰属集団の差異による葬法差を示すものかは明らかではない。須山古窯跡群は2基の須恵器窯からなり、6世紀末葉から7世紀初頭の須恵器が豊富に出土する。美濃地域の古墳時代後期須恵器編年の定点を示す基礎資料として重要視される。

律令期以後、船来山東方から南方にかけての扇状地に密に遺跡が展開する。これらの遺跡からは、 須恵器、灰釉陶器、山茶碗を中心とした古代から中世、近世に至る時期の遺物が採集されている。近 年、開発事業等に伴う試掘調査が断片的に実施され、上西郷C遺跡(60)では時期不明の竪穴住居跡が、 小野A遺跡(7)では中近世の土坑、溝、小穴が、小西郷鶴木遺跡(70)では小穴が、中西郷B遺跡(62)で は古代の土坑、小穴が検出されている。これらの遺跡の大半は根尾川扇状地、低位段丘、砂礫谷底台 地に広く展開し、後背湿地面を避けた遺跡形成である。

中山瓦窯跡(102)からは平安時代の単弁蓮華文軒丸瓦、複弁蓮華文軒丸瓦、丸瓦、平瓦が出土している。

岐阜市域の古代遺跡に関しては、8世紀を第一のピークとして盛行することが指摘されているが、 船来山周辺の律令期遺跡の動向についても同様の傾向が看取される。この背景には東山道(104)の整備、 席田君邇近と新羅系帰化移民の当地への移動による席田郡設置などに伴う人口増加があったことが推 測され、律令国家体制の汎列島的な在地社会への浸透と連動する動きであるものと考えられる。

- 註1 各調査区において確認できる地層走向を任意の5地点で略測した結果、各調査区においてそれほどの差はなく、それぞれ磁 北から北西~南東の方向に20度から50度を振った走向である。
- 註 2 調査地近辺に北野神社、八幡神社、智勝院が存在する。1646年建立の智勝院以外、由緒は不明である。智勝院に伴う墓石、 北野神社の灯籠が江戸期の年号が印刻されている。
- 註3 各遺跡の事実記載に関しては先行研究などに拠り、参考文献として一括して掲げた。また分布調査の内容を踏まえ、岐阜市域の遺跡名称については『岐阜市遺跡詳細分布調査報告書』『岐阜市遺跡地図』に全面的に従う。そのため、本文中、表中の「旧」という表現は岐阜市史などに記載された遺跡名を指す。
- 註4 旧1号墳、旧2号墳は横穴式石室墳であることが知られ、旧1号墳から金銅装馬具(三環鈴、鏡板付轡)、須恵器(杯蓋、杯、 短頸壺)が、旧2号墳から珠文鏡、玉類が採集されているが、現存する古墳と従来から把握されている古墳との対応関係は不 明である。
- 註5 岐阜市詳細分布調査の際、則松第1古墳群1号墳より須恵器片が採集されている。

《参考文献》

脇田浩二『地域地質研究報告 谷汲地域の地質』 1991 通商産業省工業技術院地質調査所

高橋常義『糸貫川廃川史』 1982 本巣郡総合開発公社

岐阜県企画部地域振興課編『土地分類基本調査 大垣 5万分の1』 1983

岐阜県企画部地域振興課編『土地分類基本調査 谷汲 5万分の1』 1994

楢崎彰一「第五章 古墳時代」『岐阜市史』通史編 原始・古代・中世 1980 岐阜市

大参義一・楢崎彰一他「第二部 考古」『岐阜市史』史料編 考古・文化財 1979 岐阜市

岐阜市教育委員会編『岐阜市遺跡詳細分布調査報告書』『岐阜市遺跡地図』 1996

内堀信雄「考察 岐阜市における古代~中世の集落遺跡の動向」

『岐阜市遺跡詳細分布調査報告書』 1996 岐阜市教育委員会

吉岡勲「第一章 自然環境」「第二章 歴史的背景」『糸貫町史』通史編 1982 糸貫町

横山栄助他「第二章 原始・古代・中世」『本巣町史』通史編 1975 本巣町

吉岡勲他「第二章 大野町のなりたち」『大野町史』通史編 1985 大野町

吉岡勲他「第二章 歴史的背景」『北方町史』通史編 1982 北方町

伊自良村教育委員会編『伊自良誌 全』 1973 伊自良村役場

『高富町史』通史編 1980 高富町

西郷の歴史刊行会編『西郷の歴史』 1982

岐阜市教育委員会編『上城田寺古墳群』 1994

糸貫町教育委員会編『船来山古墳群富有柿の里地点発掘調査報告書』 1994

真正町教育委員会編『宗慶大塚古墳 周濠範囲確認発掘調査概要報告書』 1988

岐阜市教育委員会編『御望遺跡 市道西郷1号線建設に係る緊急発掘調査の記録』 1995

岐阜市教育委員会編『宇田遺跡発掘調査報告書』 1975

岐阜市教育委員会編『平成8年度岐阜市市内遺跡発掘調査報告書』 1997

岐阜市教育委員会·(財)岐阜市教育文化振興事業団編『平成13·14年度岐阜市市内遺跡発掘調査報告書』 2003

中井正幸「美濃における古墳群の形成とその画期(下)」『古代文化』 1996

中井正幸他「第13章 美濃」『前方後円墳集成』中部編 1992 山川出版社

美濃古墳文化研究会編『美濃の前期古墳』 1990

吉岡勲『美濃平野における東山道補稿』 1986 信濃史学会

吉田英敏「第4章 中世の山城」「第5章 近世の石切場」『船来山古墳群』 1999 糸貫町教育委員会・本巣町教育委員会(船来山古墳群発掘調査団)

糸貫町教育委員会編『船来山古墳群 富有柿の里地点発掘調査報告書』 1994

第2章 調査の経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

船来山古墳群は、古くから知られていた。特に知られるようになったのは、昭和42年の土取り工事 に伴って船来山24号墳から5面、船来山27号墳から1面の計6枚の鏡が出土したことからである(駐1)。

昭和59年9月に(仮称) 岐阜西カントリークラブ(ゴルフ場) 造成事業の計画として事業者岐阜西開発株式会社から岐阜市に土地売買等届出前協議申出書が提出された。この申し出を受け、市の関係各課による調整会議が開催された。この開発計画は、岐阜市・糸貫町・本巣町にまたがる船来山全体に18ホールのゴルフ場を建設するものであった。

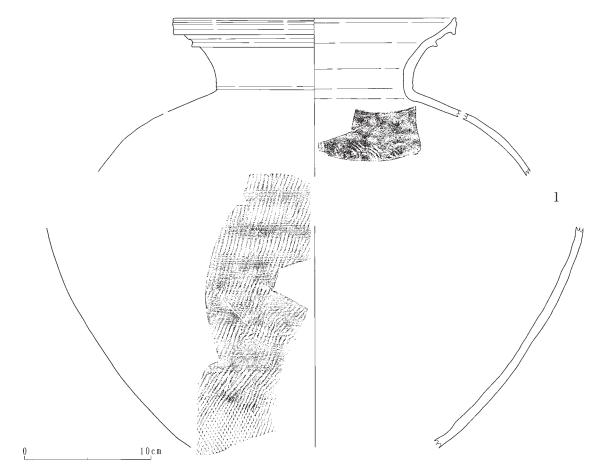
岐阜市教育委員会(以下市教育委員会)は、開発区域内に船木山古墳群・桑山古墳群・阿弥陀寺古墳群(計2)等の埋蔵文化財が多数在ることから、岐阜県教育委員会(以下県教育委員会)・糸貫町教育委員会・本巣町教育委員会と遺跡の取り扱いに関する協議を平成元年4月から開始した。平成元年9月には、船来山古墳群保存計画書を事業者に提出し設計変更を求めた。それに先だって、昭和60年4月に県教育委員会・糸貫町教育委員会・事業者、昭和63年1月に三重大学八賀晋教授が分布調査を実施した。事業者は、開発区域の縮小、コースの見直し等の設計変更を実施し、平成2年5月・平成5年2月に開発予備協議を行った。糸貫町教育委員会では、平成4年12月に2回分布調査を行い、また、平成5年10月から試掘調査を実施した。市教育委員会では、平成5年12月に糸貫町教育委員会に試掘調査を依頼し、平成6年6・7月には同町教育委員会の試掘調査の協力要請に対して職員を1人派遣した。試掘によって船来山古墳群の後期古墳の構築の特徴がわかりだした。一般的に高い墳丘を持つタイプのものではなく、地山を深く掘り下げる掘方を持ち、ほとんど墳丘が残存していない。そのため、表面から発見することは困難であり、本調査が始まると古墳の数は増加すると予想された。また、かなり遺構が破壊されている事もわかった。

平成7年3月16日に船来山古墳群発掘調査に係る約定書が締結され、1市2町の各発掘区域が決定した。これによって、岐阜市・糸貫町の境界線は、糸貫町と本巣町で編成する船来山古墳群発掘調査団が担当することになり、市教育委員会は、岐阜市側にのびる支尾根のみを担当することとなった。試掘調査の結果、北からA~F区の既知の10基がコース等開発区域内となり約8,000㎡が発掘調査の対象となった。岐阜市・本巣町との境界線の尾根とA区との間にある尾根は、遺構を確認できなかった。この区域内で発掘調査を実施する方向で、市教育委員会と事業者の間で協議調整に入った。数回の協議の後、事業者の委託により岐阜市遺跡調査会(以下調査会)が発掘調査を行うことになった。平成7年4月1日、県教育委員会を立会人として事業者・市教育委員会・調査会の三者間で覚書(協定書)を締結、平成7年4月から整理・報告書作成までの平成8年3月までに発掘調査・整理・報告書作成を実施することとなった。

調査会は覚書締結後、初年度契約を直ちに事業者と締結し以降諸準備作業、5月の上旬にはC区から発掘調査を開始する予定であったが、事業者側の事情により調査の開始が遅れた。計画を再考し、

平成7年10月1日、初年度契約を締結、翌日調査に着手した。

文化財保護法に基づく届出は、平成7年2月14日に事業者から第57条の2、9月14日に調査会から 第57条を提出した。



第3図 試掘調査出土遺物実測図

第2節 調査の経過

発掘調査は平成7年10月2日以降諸準備作業の後、10月16日に着手、一部の空白期間を挟んで平成8年11月21日に現地調査を終了した。この間の作業工程は第1表の通りである。調査区域は、便宜上北からA~F区の6区に分けた(第4図)。

調査は、2班体制でA区とF区から着手した。現地での調査は、基本的には下記の手順で実施した。

- 1. 発掘対象区域内の表土を全面的に剥ぐ。
- 2. 既知の古墳の墳丘・周溝などは、畦を残しながら2次堆積土を除去する。
- 3. 石室内の埋土を掘り下げ、遺物の出土状況・床面の状態を確認する。
- 4. 石室・外部施設などの各種図面を作成する。主な図面作成は遺物検出時と掘り上がり時の2回に分けて行った。
- 5. 墳丘・石室の断ち割り、断面を観察後、図面を作成する。

6. 石材を除去、掘方の検出、図面を作成する。

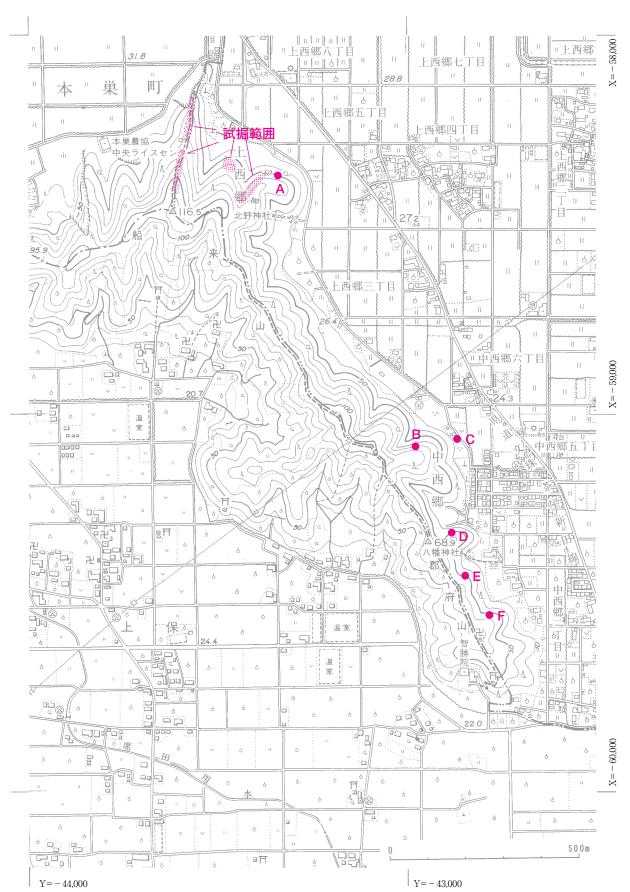
各種図面は、 $1/10 \cdot 1/20$ で作成した。写真撮影は、適時行った。カメラは、 6×9 cm版カラーリバーサル・白黒、35mm版カラーリバーサル・白黒を使用した。

初めの計画では、平成7年度にA・C・D・E・F区、平成8年度にB区の発掘、7月末には現場作業終了、8月から整理・報告書作成作業開始、平成9年度の6月には報告書の刊行をする予定であった。しかし、12月末と1月上旬の記録的な積雪で1カ月弱作業を中止したほか、続々と新たな古墳が検出されたため、平成7年度の調査区域をA・C・D・F区に変更した。平成8年度は残りのB・E区を調査した。B・E区の完掘後、前年度にできなかった古墳を含めて断ち割り作業を実施した。平成8年10月19日には、隣接して発掘調査を実施している糸貫・本巣町教育委員会の船来山古墳群発掘調査団と共同で現地説明会を実施した。現地調査は11月21日に終了した。

- 註1 岐阜市『岐阜市史』史料編 考古・文化財 1980
- 註2 『岐阜市史』では「舟木山古墳群」「桑山古墳群」、『岐阜県遺跡地図』では「山本古墳群」「弥勒寺古墳群」「山谷古墳群」 「桑山古墳群」「船木山古墳群」の名称が使用されている。例言でも触れているとおり、今回の一連の調査では、独立丘陵全 体を「船来山」、またそこに存在する古墳(群)全てを「船来山古墳群」として一括し、名称も統一する。

		平成7年度							平成8年度												平成9年度					
	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
準備作業																										
A区発掘調査																										
B区発掘調査																										
C区発掘調査																										
D区発掘調査																										
E区発掘調査																										
F区発掘調査																										
断割・解体調査																										
整理作業																										

第1表 作業工程表



この図は岐阜市の承認を得て、岐阜市作製の図面を複製し、背景図としたものである。 平成19年9月10日 承認番号第12号

第4図 調査区位置図

第3章 発掘調査の成果

第1節 A区

船来山三角点から東に延びる尾根が急傾斜で下った直下に形成された、緩やかな傾斜の尾根に当たる。試掘調査の結果、主尾根からA区までの間に古墳の分布は見られず、立地上独立した古墳群とも捉えられるが、A支群と認識することとする。

A支群では、試掘調査で尾根筋上に107・108号墳及び木棺直葬墓(276号墳)の3基が確認されており、合わせて南北両斜面も可能な限りの調査を行った。結果、南斜面に新たに4基の横穴式石室を検出し、また北斜面には岩盤を人為的に削ったと見られる痕跡、その他性格不明の土坑3基を確認した。

107号墳

須恵器

遺構(第7図・図版2)

尾根上の緩傾斜部に立地する。掘方は斜面を平面「コ」字状に掘削するもので、通常の横穴式石室 と思われるが、掘方底の玄門部にわずかな段を有し、玄室の床面が1段下がる構造である。残存状況は 悪く、石材の抜き取りが著しい。奥壁前を除き床面にも撹乱が及んでいる。

石室は玄室部しか残存しないが、長さ約3.7mとA支群では最大の石室である。玄室の最大幅1.5m、 奥壁幅1.3mで、緩やかな胴張プランを呈する。羨道部と思われる箇所には1石も残存しないが、岩盤 の削平が奥壁より5m程度の位置まで及んでいるため、最低でも1m程の羨道があったと見られる。 左側壁の玄門部は、岩盤が土坑状に深く掘削されており、立柱石があった可能性が高い。

石材はほとんどが硬質の砂岩であり、比較的大きく、大きさにばらつきがみられる。奥壁は板状の石を2枚立て並べているが、石材はチャートで船来山古墳群では希少な例である。棺台と見られる平坦な石2個が残存するが、その対になるものはない。

遺物(第8~9図・図版30~31)

床面は一部を除き攪乱されているため、原位置を保つと思われる遺物は少ない。完形の遺物は奥壁直下、右側壁奥壁寄り直下に集中し、また開口部周辺にも散在していた。右側壁、奥壁直下の遺物は追葬時の片付けによるものと見られ、原位置を保つと見られるが、開口部周辺の遺物は撹乱によって移動している可能性がある。埋土中出土の遺物は107号墳の立地や周囲の状況から、別の古墳からの流入とは考えにくい。撹乱時に埋土に混入したものと見られるため、元来当墳の遺物であると考える。

蓋杯・高杯・壺・提瓶が出土している。2 と 8 は胎土、焼成具合からセットであると思われる。杯身(11)は内面口縁部に沈線が巡り、外面底部にはヘラケズリが施される。高杯(15)は脚部に2段のスカシがあり、上段のものは切目を入れているに過ぎない。スカシの間には2条の幅広の沈線が巡る。杯部の底部にはヘラケズリが施される。壺(19)は底部にヘラケズリ、体部にカキ目が施される。提瓶(21)は色調が黒く、細かいカキ目が全体に施される。

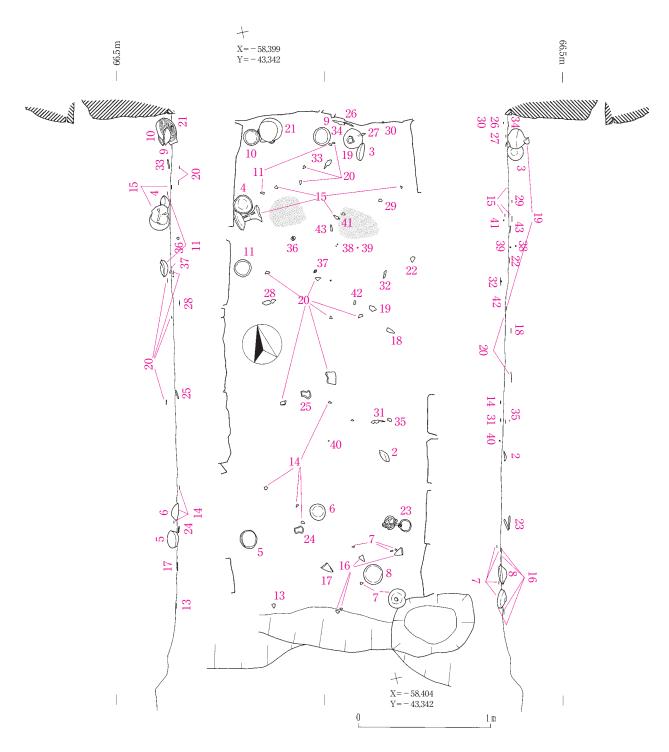
須恵器は4~5型式のものが多く、次いで6型式、9型式のものがある。古いものは奥壁・側壁直



第5図 A区地形測量図

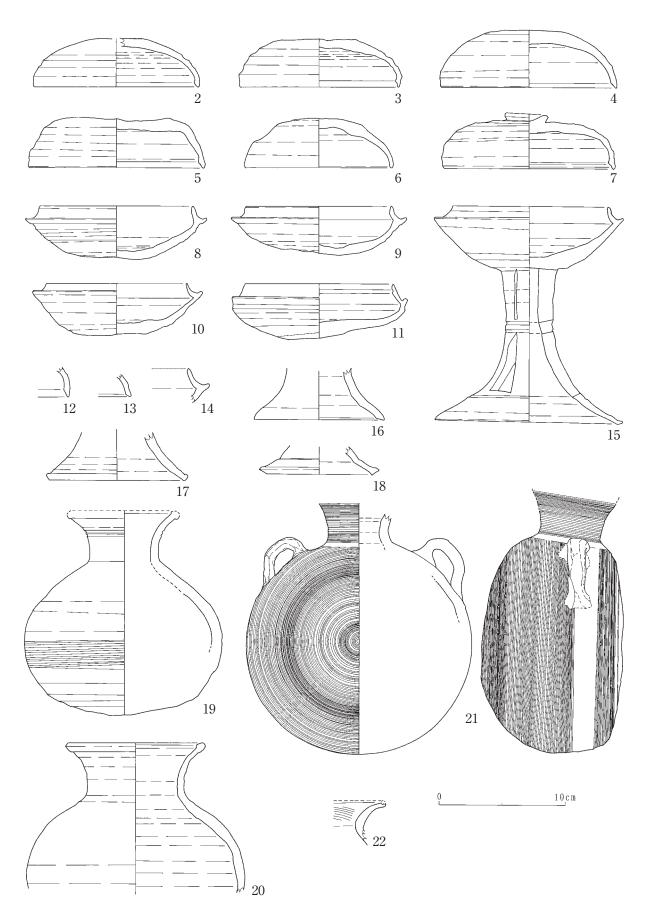
土師器

2個体の甕が出土している。いずれも伊勢型甕 A 1 類で、46の底部には「×」状のヘラ記号が見られる。

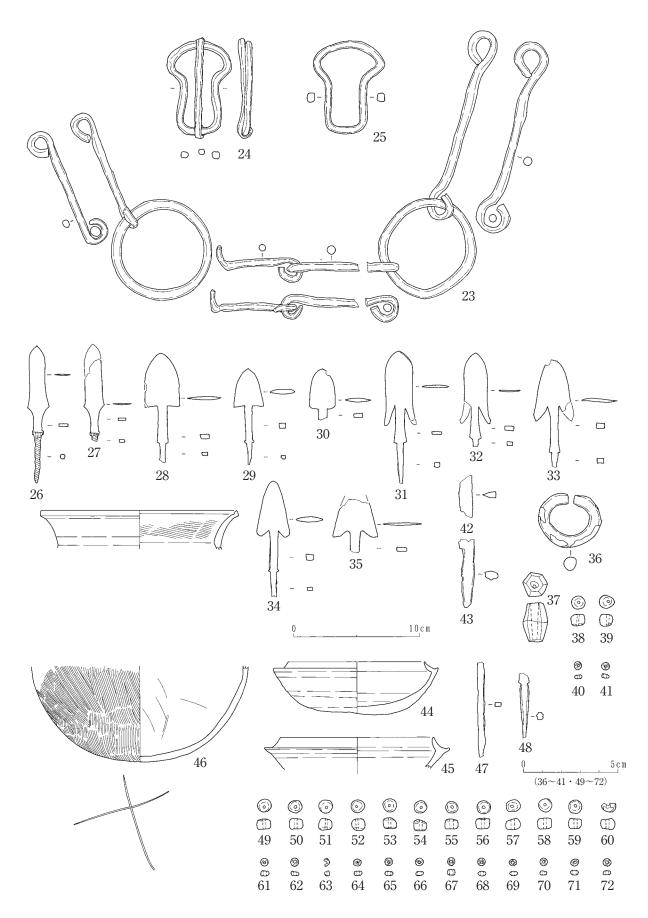


第6図 107号墳遺物出土状況図

第7図 107号墳石室実測図



第8図 107号墳出土遺物実測図(1)



第9図 107号墳出土遺物実測図(2)

馬具

轡(23)の引手は蕨手状のもので「く」字形の屈曲はない。鏡板は立聞が付かず、引手が直接連結する。左右(図での左右)の鏡板は直接接合せず、引手左右の長さに相違が見られることから、同一個体で無いとも考えられる。長い引手の鏡板と接続している環は先端が細くなっており、摩耗が認められるものの、左の引手と鏡板の間には余裕がなさすぎる。また鏡板の規格は同一であること、出土状況からも、引手の短さは補修痕であり、左右は同一個体であると考えた方がよいようである。鏡板の環径が比較的大きいものの、鉄棒が華奢である点、引手が「く」字形に屈曲しないことから6世紀後半でも中葉に近い時期と比定できる。鉸具(24・25)は鐙のものである(註1)。

武具

鉄鏃((12))が11~12個体出土した。10個体が鏃身を残すが、三角形のもの(26~30)5個体、腸抉三角形のもの(31~35)5個体である。明確に長頸式と判別できるのは47の1点のみで、48が不明の他、残りは平根式である。26・27には関・茎部に木質部とさらにその上に巻かれた樹皮が残存する。47,48は埋土をふるいにかけた際に出土した。

装身具

耳環(36)は長径3.4cm、やや大ぶりである。銅芯に銀板を巻き付けたもので、全体に銀色を呈するが、内側の一部は金色である。

その他水晶製切子玉(37)などが出土し、土製丸玉 $(38, 39, 49\sim60)$ は径 $6\sim7$ mmで表面は暗灰色を呈する。ガラス製小玉 $(40, 41, 61\sim72)$ は径 $3\sim4$ mmでスカイブルーのものが多い。

108号墳

遺構(第10図·図版2,3)

ほぼ尾根線上に立地し、尾根の先端方向に開口する。

左右側壁とも最高 2 段、奥壁は残存せず、遺存状況は悪い。掘方の底面長は3.7mを測る。奥壁部には主軸と直交する深さ20cm程の長円形の穴が検出でき、立石を据えていた可能性が高い。これらのことから石室は最低でも3.4mの長さを有していたと考えられる。石室の幅は0.7m、胴張はほとんど見られない。石材は1石を除き硬質の砂岩である。

遺物

埋土中を含めて1点も出土していない。

223号墳

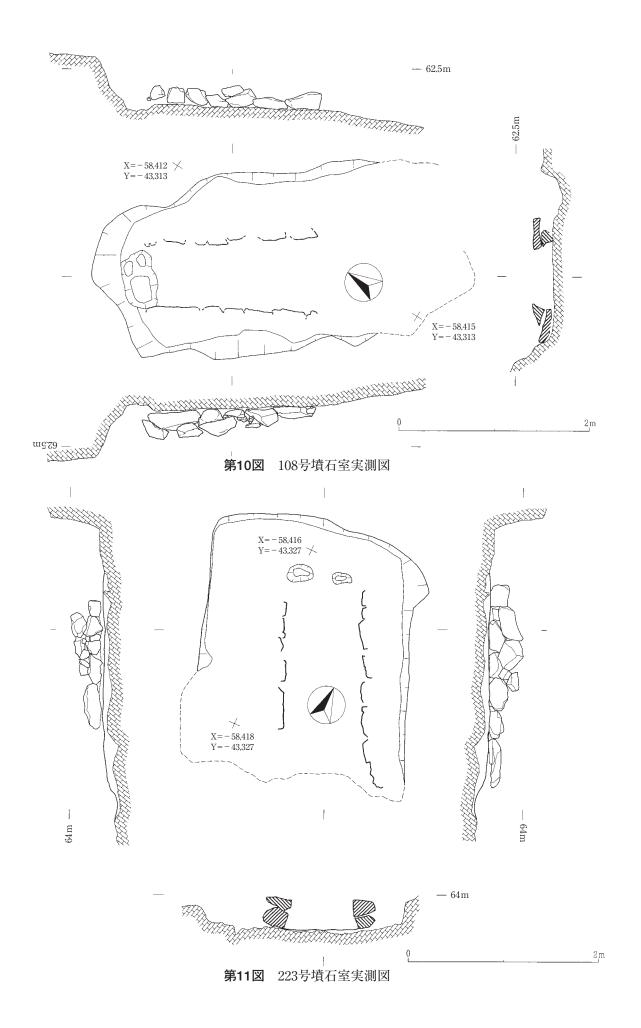
遺構(第11図・図版3)

276号墳の下、尾根の南斜面に立地するが、開口方向は斜面下方方向に対して東に振る。

奥壁は残存せず、左右側壁とも2段と残りは悪い。奥壁は残存していないが、2箇所で設置痕を検出した。石室の幅は0.8m、胴張はほとんど見られない。掘方は垂直に掘り下げており、規模は比較的大きい。特に幅は石室の幅に比べ、広いことが特徴的である。石材は大部分が硬質の砂岩である。

遺物

埋土中より土師器片が数点出土したが、いずれも上から転落し混入したものと考えられる。



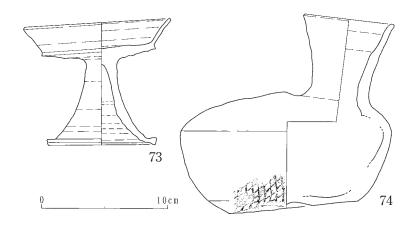
224号墳

遺構(第13図・図版3,4)

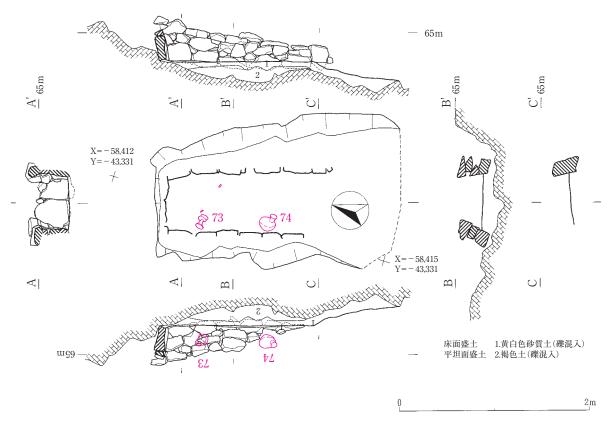
尾根の南斜面に立地するが、開口方向は斜面下方方向に対して東に振る。

石室は小さいながらも残りは良い方で、 $2 \sim 3$ 段が残存する。左側壁には小さな立柱石があり、掘 方の削平部分の大きさから、最低でも0.8mの羨道がつく。奥壁は縦位の立石を2 石並べている。玄室 の長さ1.8m、幅0.6m、胴張はほとんど見られない無袖式の石室である。掘方は元々窪んだ部分を利用

しており、土で整地して平坦面を造り出し、それを基盤に石を積んでいる。石材は大部分が軟質の砂岩で、1段目は長手積み・平積み、2段目以上は小口積み・長手積みである。



第12図 224号墳出土遺物実測図



第13図 224号墳石室実測図

遺物(第12図·図版31)

右側壁の直下から、ほぼ完形の須 恵器2個体が出土した。いずれも美 濃系9~10型式のもので、7世紀後 葉~末の構築と見られる。

須恵器

73は無蓋高杯で、杯部は底部、口 縁部とも直線的でシャープである。 74の平瓶は外面底部に斜格子のタタ キ痕が見られる。

226号墳

遺構(第14図・図版4)

尾根の南斜面に立地し、開口方向 は斜面に対して東に振る。

奥壁と両側壁がわずかに残存するだけで、状況は悪い。奥壁部での幅は0.4mで、玄室は胴張を呈するようである。奥壁は横位の立石を使用している。掘方は元々窪んだ部分を利用しており、土で整地して平坦面を造り出し、それを基盤に石を積んでいる。石材は全て砂岩で、大部分が軟質のものである。

遺物

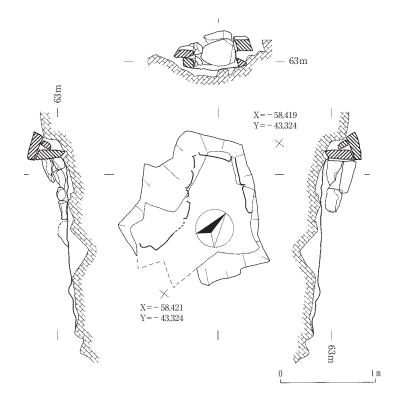
埋土中を含めて1点も出土してい ない。

228号墳

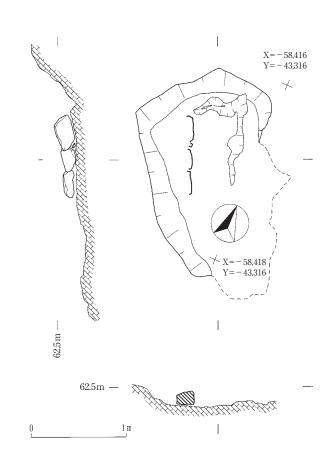
遺構(第15図・図版4)

ほぼ尾根線上に立地し、尾根の先 端方向に開口する。

右側壁1段3石のみの残存で、状況は悪い。奥壁部分には溝状の掘り込みがあり、形状から2石の立石を並べて使用していた可能性が高い。左側壁は1石も残存しないが、掘方



第14図 226号墳石室実測図



第15図 228号墳石室実測図

底にわずかな段が見られ、位置と方向は推測できる。奥壁部での石室幅は推定0.5m、掘方の大きさから全長1.4m以上といえる。石材は全て砂岩で、長手積み・平積みで使用している。

遺物

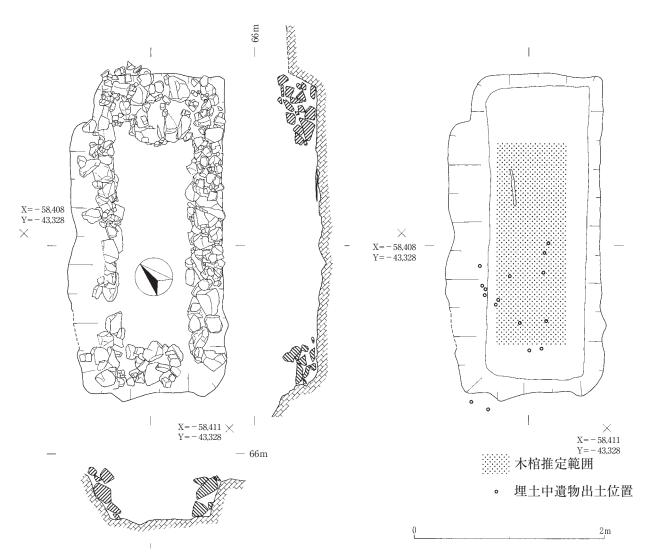
埋土中を含めて1点も出土していない。

276号墳

遺構(第16図・図版4)

支尾根筋上に立地し、木棺直葬を主体部とする。主軸は尾根線にほぼ直交し、真北からは約45度東に振る。墓壙は岩盤を3.4m×1.6mの長方形に掘り込み、木棺設置後、砂岩礫を墓壙との隙間に詰め込んだものと推測される。礫の残存状況から木棺は箱形のものであろう。墓壙の深さは0.3mを測る。

墳丘は残存しないが、墓壙から5m西で、墓壙主軸と平行する浅い溝状のものが検出された。土師器も出土していることから、周溝を持つ可能性が高いと見られる。ただし溝状遺構は北斜面の岩盤掘削痕に連続することから、石材採掘痕の可能性も否めない。主体部が墳丘中央にあったと仮定すると、大きさは約10mを測る。



第16図 276号墳主体部実測図

遺物(第17回·図版31)

墓壙床面から鉄剣が出土した。木棺推定範囲の北西寄りの位置で、切先が中央方向に向いている。 試掘調査及び本調査時、墓壙埋土中から土師器片が出土している。また周溝?埋土や北側斜面の下、 テラス状になった箇所に堆積した流土中から数点土師器片が出土している。

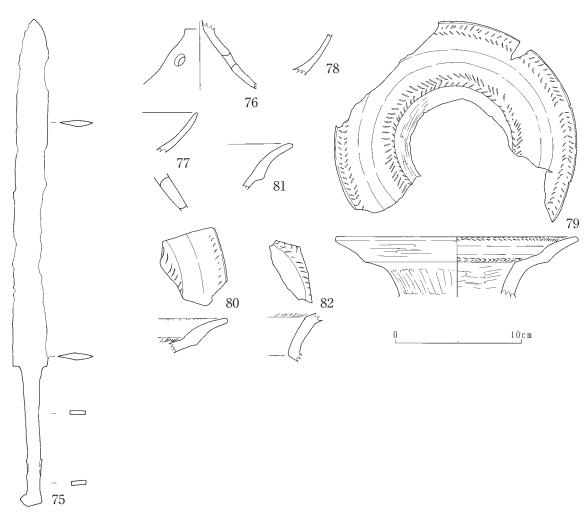
鉄剣

全長38.0cm、刃部の長さ27.5cm、同最大幅3.0cm、同厚さ0.7cmである。柄の部分は幅1.2cm、厚さ 0.4cmと薄い長方形の断面形状である。刃部を中心に痩せてはいるが、ほぼ完形と見られる。

土師器

76~80は主体部埋土中から出土、81,82は周溝?埋土中から出土した。

76~78は高杯で、摩耗が激しいが、内外面ともミガキ調整が施されていた可能性が高い。79~82は 二重口縁壺である。81を除く他は爪形文が口縁部を全周する。施文のパターンや位置が異なるため、 全て別個体のものである。フォーラムⅢ期(廻間Ⅱ併行)と考えられる。



第17図 276号墳出土遺物実測図

その他

遺構(第18図・図版6)

SK20 · 21

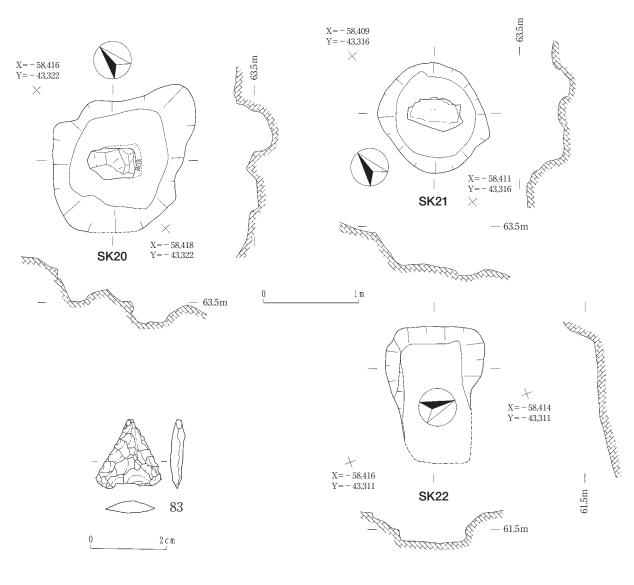
岩盤を掘り込んだ土坑の底に、岩盤の一部が掘り残されている様相で、性格は不明である。石材を採った跡であろうか。SK20は長径1.9m、短径1.5m、最大深さ0.4m、SK21は径1.2m、最大深さ0.4mを測り、SK20の底の一部には、掘削に使用した工具痕が残存する。

SK22

石室掘方のような形状の遺構であるが、底部の幅が0.6mと小さく、石室掘方ではないと判断した。 性格は不明である。長さ1.4m、深さ0.3m。

遺物(第19図)

107号墳開口部下、流土中よりサヌカイト製の石鏃が1点出土している。



第19図 A区出土遺物実測図

第18図 A区遺構実測図

第2節 B区

B区は地形的に2つに大別することができる。主尾根から東に延びる支尾根(以下B1区と呼称)と、B1尾根先端から一段低く南東に派生する尾根(同B2区)である。前者は主尾根から分岐した後、急傾斜で下るが、先端部は再び高度を上げ、独立したピークが形成されている。96号墳はその頂部に立地し、その先は再び急傾斜をなし、山麓のC区に至る。B2尾根はB1尾根先端のピークから南東方向に延び、16m程下がったところで緩傾斜面となる。105号墳はその緩斜面尾根筋上に位置し、さらにその先端には104号墳が試掘調査によって確認されている。

主尾根から96号墳のあるピークまでの約50mの間には遺構は存在せず、またB1とB2の間にも水平、 垂直距離ともに15m程の空白区域があり、古墳分布域としては独立性が見られる。よってそれぞれを B1支群、B2支群として認識しておく。

B1支群は分布調査で確認されていた96号墳の他、南斜面で6基の横穴式石室墳を検出した。その周囲は古墳の空白地帯が取り囲むため、B1支群は計7基による支群と捉えられる。B2支群では試掘調査により105号墳及び104号墳の存在が確認されていたが、その後の協議で104号墳は開発区域外となったため、本調査は行わなかった。よって構成される古墳の立地や数は不明であるが、B2区の最高所に105号墳が立地しているのは明かである。B2区では105号墳の他、採石坑と考えられる土坑2基を検出した。

96号墳

遺構(第22·23図·図版 6)

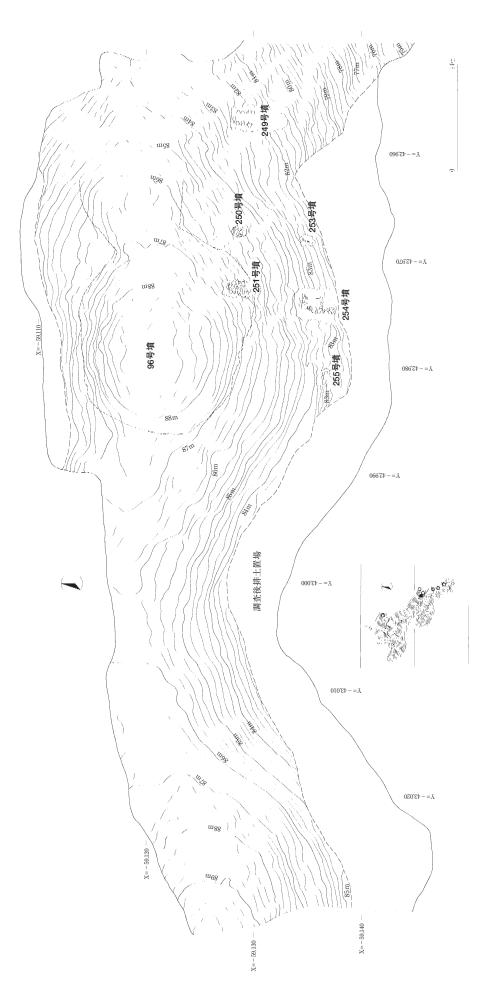
尾根の先端の高所に位置する前方後円墳である。前方部は尾根の先端を向き、墳丘の残存長28m、後円部径約18m、前方部残存長10m、同幅10m、くびれ部幅6mを測る。墳裾は岩盤を削り出して造っており、テラス状の平坦面が周囲を巡るが、前方部の先端には認められない。風化により削平されてしまったものと考えられ、全長はもう少し長かった可能性が高い。後円部には50cm程の厚さで盛土が残存していたが、主体部は残存していなかった。柿畑の開墾により墳頂部が平坦に削平されてしまったことによるものと見られる。

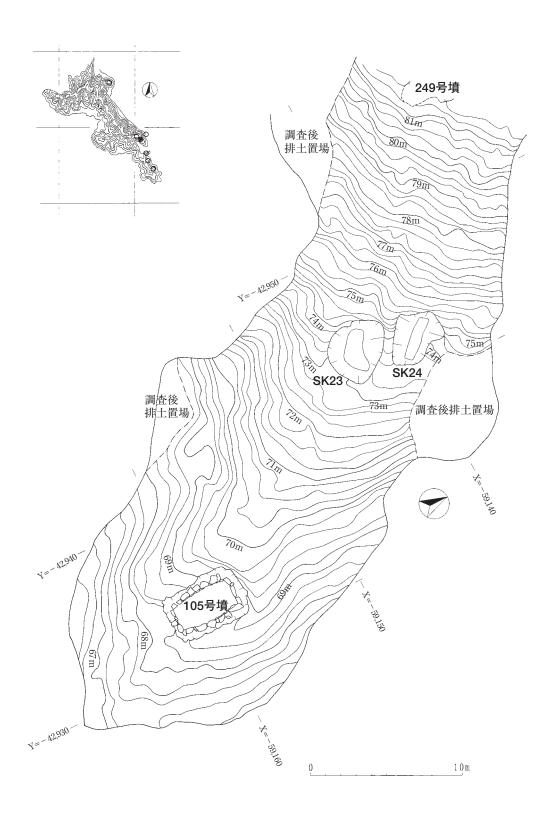
遺物(第24~28図·図版31~34)

埴輪はすべて崩れ流れた盛土に混在して出土しており、原位置を保つものはない。大多数は墳裾周辺の平坦面に堆積していた流土中からのものである。一括性はないが、本墳周辺からしか出土していないことから、96号墳から流失したものである可能性は極めて高い。鉄刀は前方部頂、厚さ数cmの表土直下、岩盤直上からの出土であり、また周辺に明確な遺構が検出されなかったため、原位置を保っていないことも考えられる。

埴輪

円筒埴輪・朝顔形埴輪のみで、形象埴輪は出土していない。接合前の総破片数は700点余りで、古墳の周りほぼ全てから出土しているが、前方部周辺は北を除く場所では出土がない。後円部南東は少ないものの、それ以外ではほぼ同じ割合で出土している。





第21図 B2区地形測量図

破片は摩耗が著しく、ハケメ調整等は大部分のものが判明しない。また表・流土からの出土であることからほとんど接合することはできなかった。よって調整の分かるもの、凸帯・口縁部・底部が残存するものを観察・計測し、破片単位で台帳を作成した。ただし後述するⅢ・Ⅳ類は個体の判別が可能であり、1個体に属する破片数が多いものがあるため個体単位で処理を行うこととした。黒斑を有するものは1点も無く、色調や胎土により次の5種類に大別できる。

I類:色調は白色系で、胎土に砂粒が全く混入しないもの。

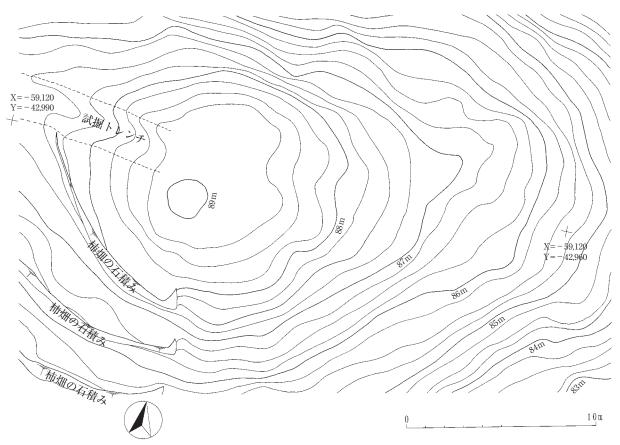
Ⅱ類:色調は黄色系で、胎土に砂粒が比較的多く混入するもの。

Ⅲ類:色調は赤色系で、胎土に砂粒が多く混入するもの。

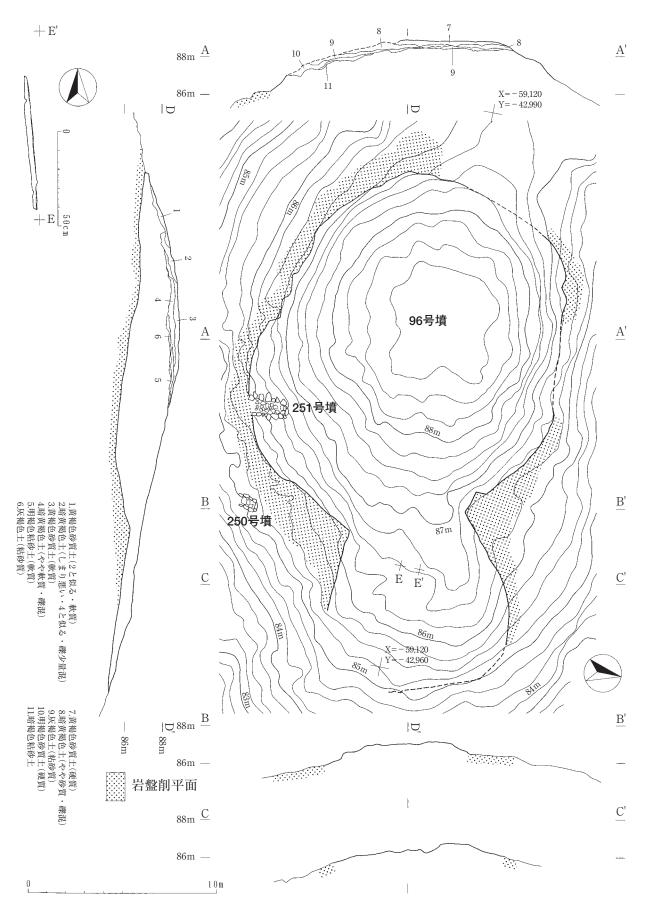
Ⅳ類:色調は褐色で、胎土に砂粒が少量混入するもの。1個体

V類:胎土に砂粒が多く混入し、焼成が硬質であるもの。須恵質に近い。2点

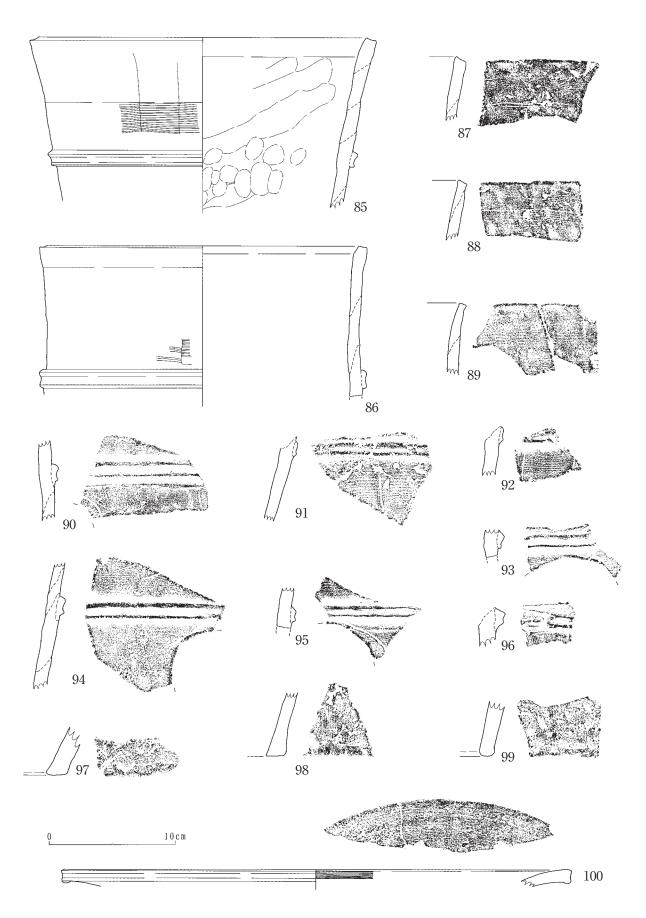
I類(85~108)には円筒・朝顔形埴輪の両者がある。凸帯は高さ平均0.4cm、幅平均1.4cmと突出度は低く、強いナデによって断面形がM字形を呈するものが多い。外面の2次調整としてB種ヨコハケが施され、静止角度はほぼ直立する。確実にB種ヨコハケが確認できるものはI類のみである。一部タテハケのものも認められるが、他類のものとは異なり、ハケメが細く多く刻まれるのが特徴である。口縁部は、大部分が最上の凸帯からほぼ直線的に直立するが、一部外に開くものも見られる。焼成は良く、比較的硬質で、器壁は薄い。底部調整は認められない。



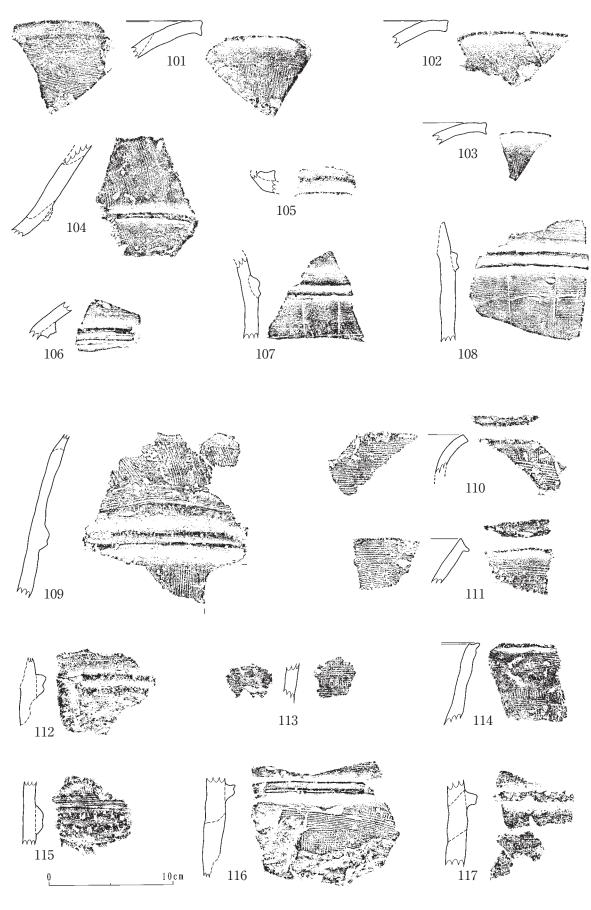
第22図 96号墳調査前測量図



第23図 96号墳墳丘測量図



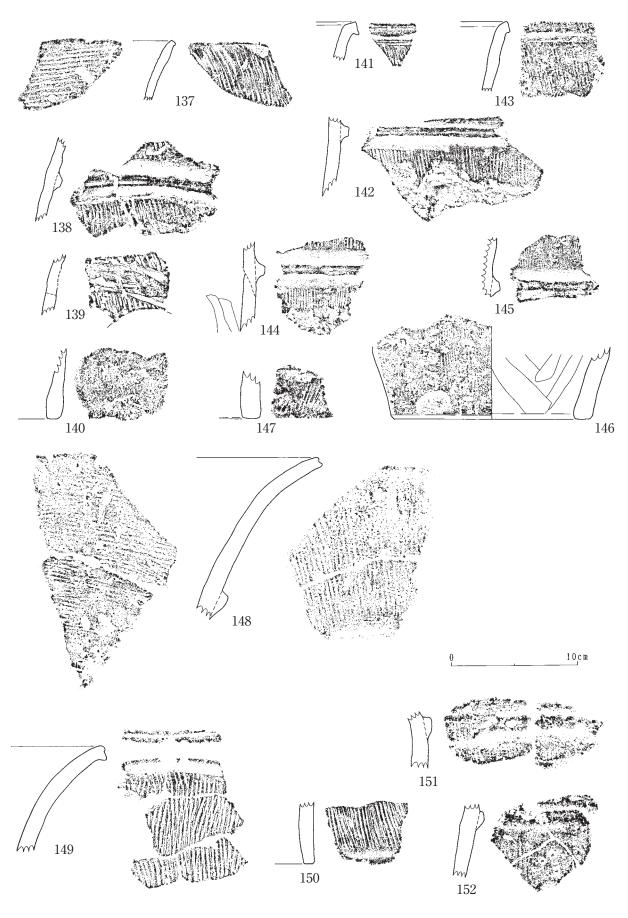
第24図 96号墳出土遺物実測図(1)



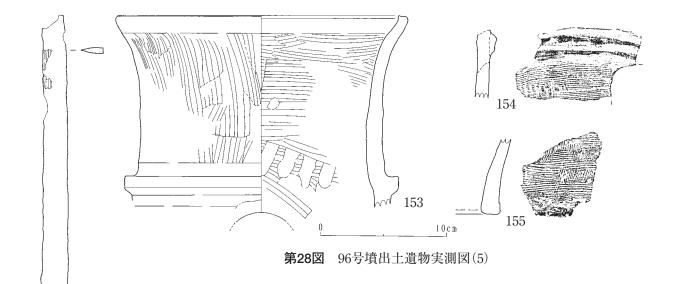
第25図 96号墳出土遺物実測図(2)



第26図 96号墳出土遺物実測図(3)



第27図 96号墳出土遺物実測図(4)



Ⅱ類(109~136)は大部分が円筒埴輪で、朝顔形のものは1点しか見られない。 凸帯の断面形状はM字形のものと、台形を呈するものがある。高さは両者とも平 均0.6cmで、幅は前者が1.6cm、後者が1.5cmを測り、突出度が高い。外面調整はヨ コハケのものとタテハケのものがある。ヨコハケは凸帯間全面ではなく、ごく一 部を施すのみで、静止痕は見られない。口縁部の形状は最上凸帯から緩やかに外 反するものと、口縁端部周辺で外方へ屈曲するものとがある。胎土に砂粒の多い ものがある。器壁は薄い。底部調整は認められない。

Ⅲ類(137~152)には円筒・朝顔形埴輪の両者がある。凸帯は高さ平均0.6cm、幅1.7cmを測り、突出度は高い。断面形状は台形のものに限定される。外面調整はタテハケのみで、ハケメは太く粗い。口縁部の形状は最上凸帯から緩やかに外反する。焼成はあまく、軟質である。器壁は厚い。底部調整は認められない。

Ⅳ類(153)は円筒埴輪である。凸帯は高さ0.8cm、幅1.6cmを測り、突出度は高く、断面形状は台形である。外面調整はタテハケで、ハケメは太く粗い。口縁部の形状は最上凸帯から緩やかに外反する。焼成は良く、硬質である。器壁は厚い。底部は出土していない。

V類(154~155)は体部と底部が1点ずつ出土しているにすぎない。凸帯は高さ 0.7cm、幅1.7cmを測り、突出度は高く、幅が広い。断面形状はM字状を呈する。

外面調整はヨコハケで、静止痕が見られないことからC種ヨコハケと見られる。焼成は良く、硬質で須 恵質に近い。器壁は薄い。底部調整はされない。

84

96号墳出土の埴輪は全て流失土中からで、厳密には一括性はない。しかし本墳周辺からしか出土していないことから、96号墳から流出したものである可能性は高い。埴輪は胎土から I ~ V 類に分類でき、その調整技法は I 類がB種ヨコハケ、Ⅱ類がヨコハケ、Ⅲ・Ⅳ類がタテハケ、 V 類がC種ヨコハケとバラエティに富む。時期はTK208~TK23併行期に比定される。

胎土による分類と出土位置には偏りが見られる。 I 類は墳丘の全周で出土しているが、約 1/3 が後 円部南から出土し、次いで20%が前方部北からである。 II 類も全周で見られるが、後円部北西からの ものが約40%を占める。 II 類は後円部西からのものが多いようである。 原位置を保つものではないた め、即断はできないが、配列された場所に偏りがあった可能性を示唆する。 また朝顔形は後円部の北 でわずかに出土しているものの、後円部の西から南にかけての範囲に多い。

武具

鉄刀(84)は残存長54.0cmで切先が欠損している。刃部の残存長さ42.5cm、最大幅2.5cm、厚さ0.6cmを測る。関の部分には2段の切り込みがあり、目釘孔は3箇所にある。同様の鉄刀は糸貫町が調査したG支群の29号墳で出土しており、刀装具として三輪玉が伴出している。

249号墳

遺構(第29図·図版6,7)

南斜面に位置し、ほぼ南に向いて開口するが、斜面に対しては西に振る。石室の遺存は悪く、残存長は1.7mであるが、掘方の全長は5m以上あり、最低でもこのサイズはあったと見られる。幅は0.9mで、胴張は見られない。奥壁の下部は2枚の立石から成ると見られる。1段目の石材は小口・長手・平積みがあるのに対して、数は少ないが、2段目には小口積みのものしかない。石材は全て硬質の砂岩である。

遺物(第30図·図版35)

玄室中央と推測される位置、右側壁直下で平瓶が出土している。また埋土中から鉄釘片が出土した。 須恵器

平瓶(156)の体部は全体的に扁平で、肩の張りが強い。美濃9型式。

250号墳

遺構(第31図・図版7)

南斜面、96号墳裾周りのテラス面に位置し、ほぼ南に開口する。

残存長1.0m、幅0.4mと小型の石室で、床面には壁体を構成する石材と同様な大きさの板状の石を敷き詰めている。奥壁の基底部は横長の1石を据えており、側壁の基底石は平積みにするものが多い。若干の掘方の掘削は見られるものの、竪穴状に窪んだ部分に土を入れ整地し、石室を構築している。敷石の範囲、右側壁最先端の内側への張り出し、石室の規模からE区256号墳(小型竪穴式石室)に類似する可能性がある。石材は軟質のものが多い。

遺物

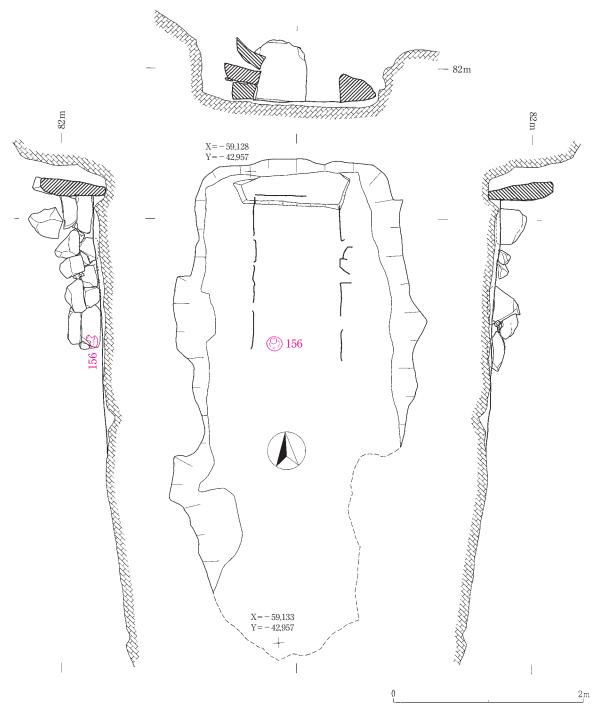
埋土中を含めて1点も出土していない。

251号墳

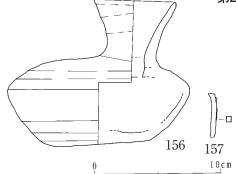
遺構(第32図·図版7,8)

南斜面、96号墳の墳丘を掘削して構築しており、ほぼ南に開口する。

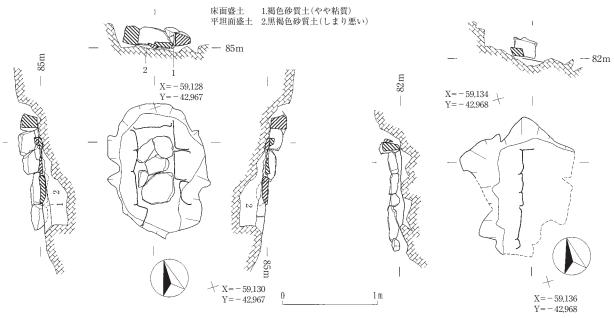
残存長2.2m、奥壁幅0.6m、最大幅0.7mでほとんど胴張は見られない。床面には小さな板状の石を敷き詰めており、右側壁に残存する立柱石の位置と合わせて、玄室部と羨道部の境界を示している。敷



第29図 249号墳石室実測図

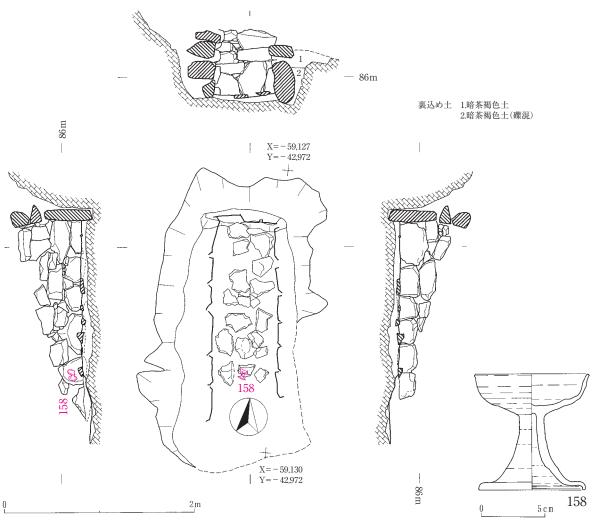


第30図 249号墳出土遺物実測図



第31図 250号墳石室実測図

第34図 253号墳石室実測図



第32図 251号墳石室実測図

第33図 251号墳出土遺物実測図

石の範囲は長さ1.8m、幅0.6mの長方形を呈し、側壁際に空白部分があることから、棺台であると考える。奥壁基底部は2石の縦長の石と1石の横長の立石で構成されており、掘方の底には奥壁設置用の溝が掘られている。側壁の石材は、1段目は右が長手積み、左が平積みで並べられ、2段目以上は小口・長手積みされている。掘方は岩盤を掘り込んで造っており、底の長さは2.8mを測る。石材は基底石を中心に軟質砂岩が多く使われ、他は硬質砂岩である。

遺物(第33図・図版35)

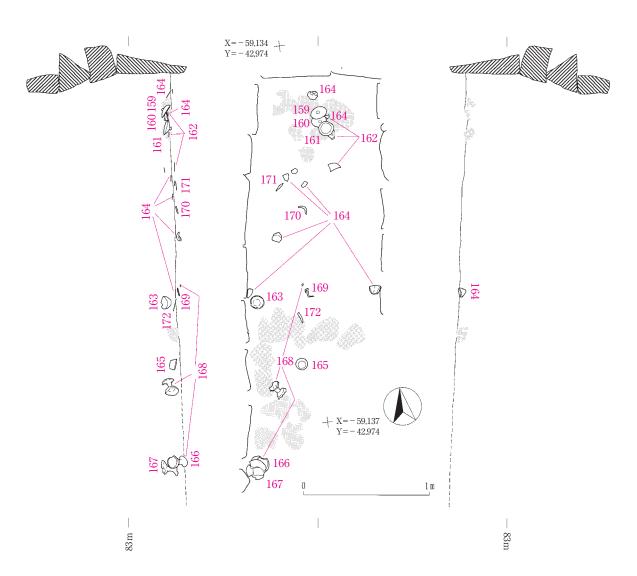
右側壁の立柱石前から、杯部が半分欠損した無蓋高杯が出土している。出土レベルは床面より若干高く、原位置を保っていない可能性もある。

須恵器

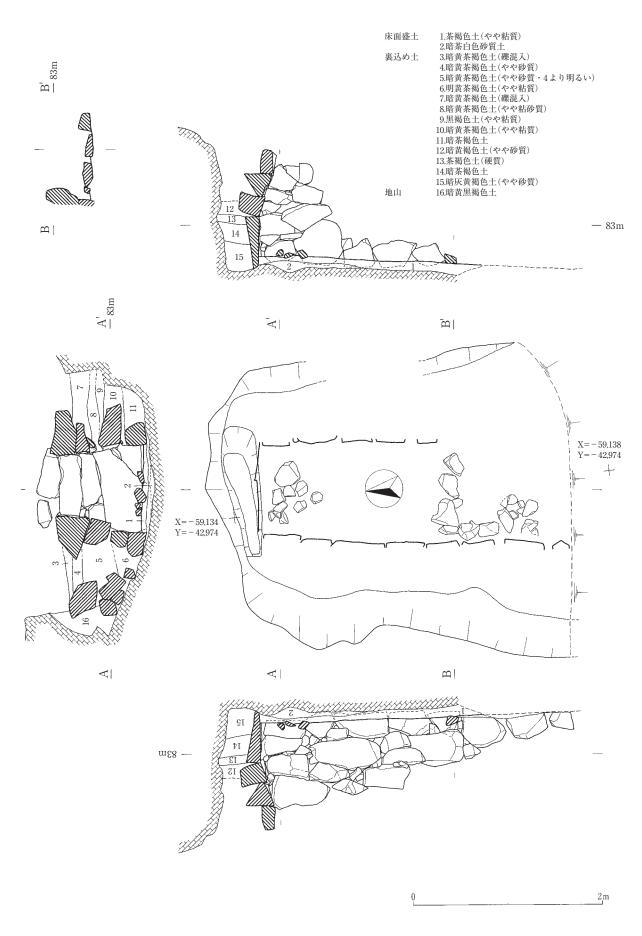
無蓋高杯(158)は美濃9~10型式。

253号墳

遺構(第34図・図版8)



第35図 254号墳遺物出土状況図



第36図 254号墳石室実測図

南斜面に立地し、やや西に振った南に開口する。斜面に対しては大きく西に振っており、左側壁は 1石も残っていない。奥壁基底部は2石以上の立石から成っていたと考えられる。残存する石材は全 て軟質の砂岩である。

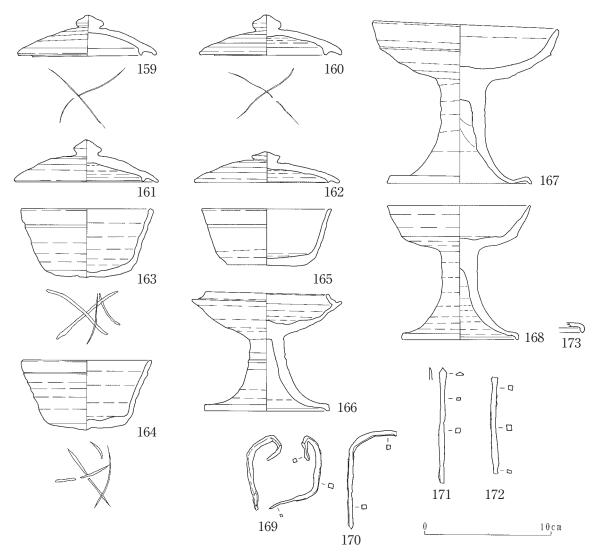
遺物

埋土中を含めて1点も出土していない。

254号墳

遺構(第36図・図版8)

南斜面に立地、ほぼ南に開口し、主軸は斜面に対して平行する。残存長3.3m、奥壁幅0.9m、最大幅1.0mであるが、床面プランでは若干の胴張が見られる。胴張の形状から、右側壁の先端部分で、玄室と羨道の境があったと思われるが、立柱石は確認できていない。石室残存部の最前に大きな樹木の根が張っており、その隙間には拳大の石が多く見られたことや、奥壁寄りから出土した杯蓋が石の上から出土したため、本来床には石が敷かれていた可能性が高い。奥壁基底部は横位の立石を変則的に2



第37図 254号墳出土遺物実測図

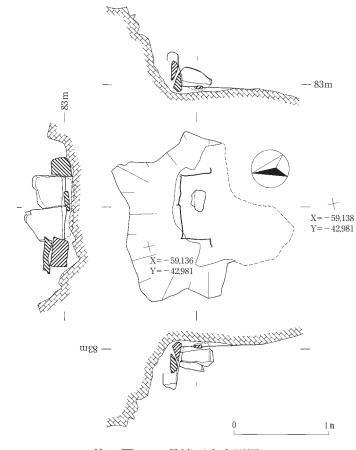
石並べて使用しており、掘方底には設置 するための溝状の掘り込みがある。石材 は全体的に大きめで、基底部に限らず長 手積みにしているものが多い。ほとんど が硬質の砂岩を使用している。

遺物(第37図・図版35)

礫床が残存する部分では完形に近い遺物が、またそれ以外では破片化した遺物が出土している傾向がある。須恵器の他、鉄製品が出土した。

須恵器

かえりの付く蓋4個体(159~162)、杯 身3個体(163~165)、有蓋高杯1個体 (166)、無蓋高杯2個体 (167~168)が出 土した。杯蓋、杯身はセットとなるもの で、胎土が緻密でともにヘラ記号が施さ れるものがある。有蓋高杯は脚部に2条 の幅広の凹線が巡る。これらは美濃9型 式に比定される。無蓋高杯(167)は杯部が



第38図 255号墳石室実測図

丸く大ぶりで、若干古い7~8型式に比定、168は杯部が直線的で、若干新しい9~10型式と見られる。 鉄製品

169,170は鎹と見られる鉄製品で、断面形状はほぼ正方形である。171,172は不明鉄製品である。 土師器

その他図化することはできなかったが、土師器甕の体部片が出土している。

255号墳

遺構(第38図・図版9)

南斜面に立地、ほぼ南に開口し、斜面に平行する。柿畑に伴う石積みで、石室は掘方とも前部が壊され、奥壁周辺を残すのみである。奥壁は2石の縦位の立石で構成され、石材は軟質砂岩が多い。

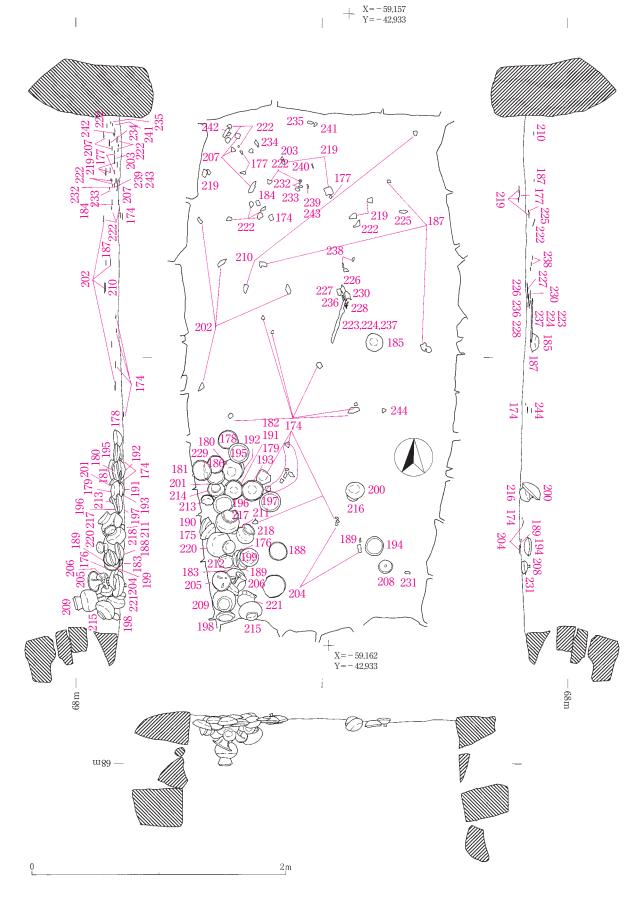
遺物

埋土中を含めて1点も出土していない。

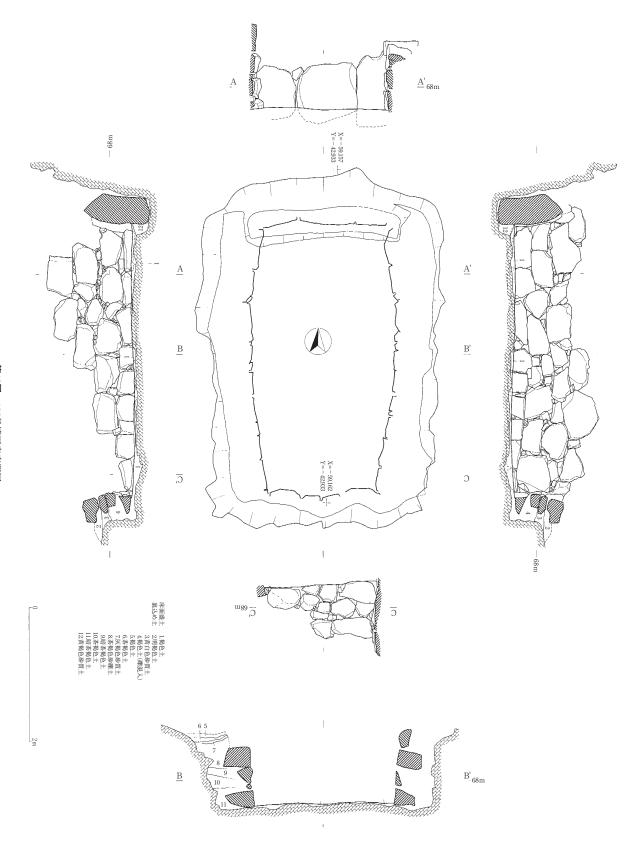
105号墳(B2支群)

遺構(第40図·図版 9, 10)

B2尾根線上に位置し、ほぼ真南に開口する石室である。開口部には明瞭な段を有し、0.8mの高さをもって石室床面に至る。入り口部分の段差は、掘方壁面の前に石をほぼ垂直に積み上げるもので、前後に複数列に並ばない。右側壁側半分が低くなっており、糸貫町での同種の石室の構造から片袖式



第39図 105号墳遺物出土状況図



の形態を持つ可能性も考えられる。しかしながら、段差の直下には片付けと見られる多量の遺物群が 出土していることや、段差部の石積みには、袖を形成するような安定した縦方向の目地が見られない ことから、本来左右に高さの差は無いものと判断しているが、はっきりは判らない。

石室の全長は4.1m、奥壁部幅1.8m、中央部最大幅2.1mで極端な胴張りを呈する。側壁の石材の大きさは比較的均一で、特に右側壁は段毎のラインが明瞭である。奥壁の基底部は掘方の底に掘られた、幅50cm、深さ20cm程度の溝状の掘り込みに、板状の石材を縦位に3石並べている。側壁基底石は奥壁の掘り込みの埋土上に設置されていることを確認しており、最初に奥壁を据えていたことが判かる。石材は小口・長手積みがほぼ半々で、平積みしている所は少ない。

掘方は軟質砂岩の岩盤を掘り込んでおり、長さ5.3m、幅3.6m、深さ1.6mある。底面と壁面の一部には掘削に使用した工具の痕跡を検出した。掘削面に対して、平行に近い角度で工具の刃が入っており、刃先の幅は約6cmを測る。

遺物(第41~43図・図版35~37)

石室の奥側 2/3 は撹乱により遺物片が散乱する状況で、遺存状態は悪かった。一方石室の開口部側は、右側壁直下に34個体が集中する遺物群があり、また中央部あたりでも完形の遺物が数個体出土する良好な状況であった。

片づけと見られる遺物群内には、3型式は確認でき、最低2回の追葬が行われていると考えられる。 出土遺物で最古のものは、190の尾張系1~2型式の杯身である。作りも精緻で古い様相を示すが、1 個体しか出土していないため、石室の構築時期は数量の多い3型式併行時と考える。

須恵器

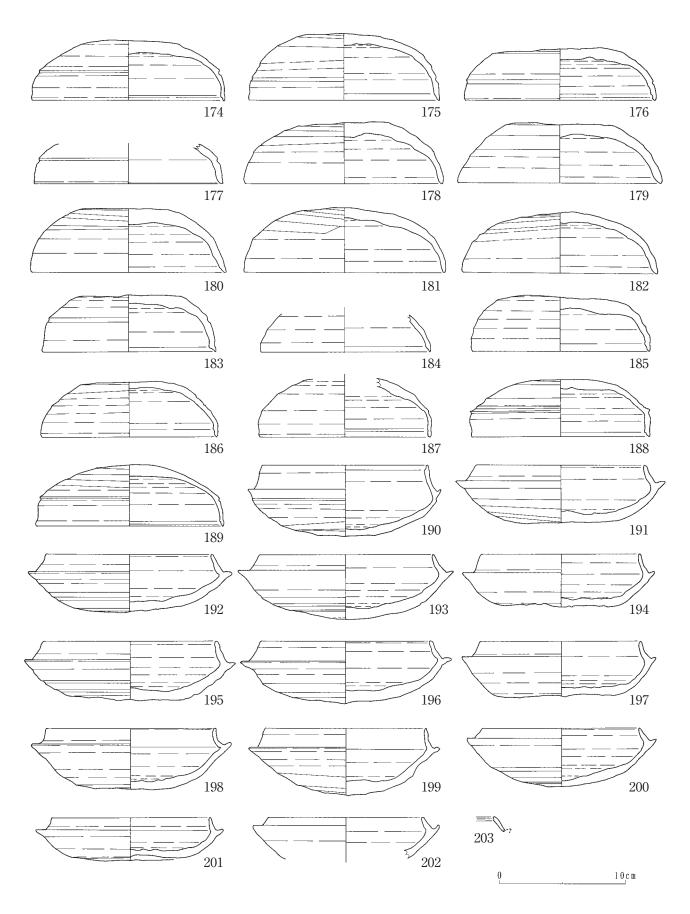
床面からは47個体が出土した。

杯蓋(174~189)は16個体、杯身(190~203)は14個体出土した。畿内系が大部分で、尾張系(188~190)は3個体である。3型式が16個体で最も多く、4型式5個体、5型式7個体、1~2型式が1個体ある。178~182の蓋と191~193・195・196の身は胎土中に大粒な川砂利が混入する特徴的なもので、セットにされた状態で出土している。それ以外では175と190がセットで出土している。また194・197は器形、焼成、色調とも酷似する。

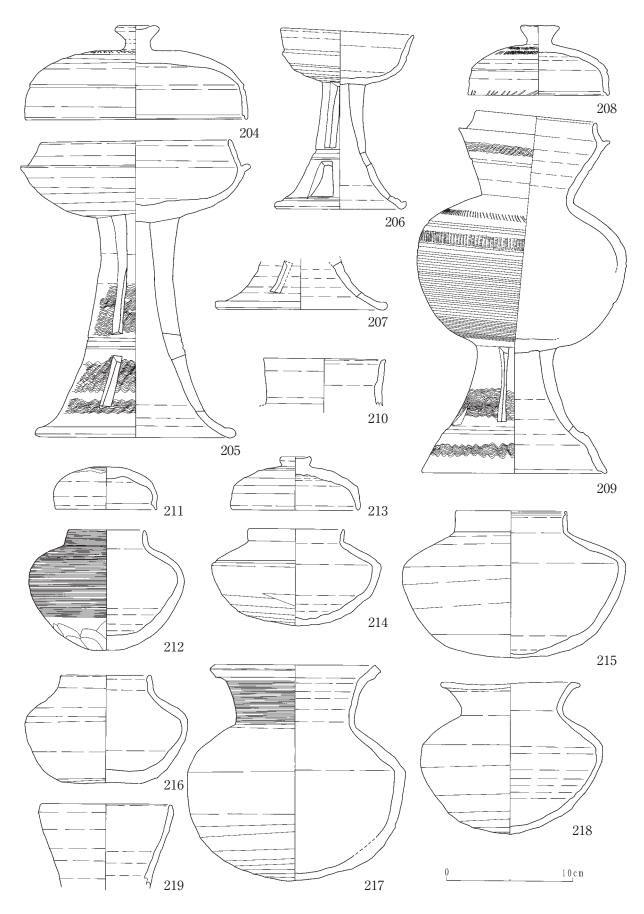
204・205は大型の有蓋高杯で、脚部には波状文、蓋天井部にはクシ状工具による列点文が施される。 206は長脚の無蓋高杯で、上下のスカシの間と脚部裾に2条の凹線が見られる。208・209は有蓋台付壺 で、各所にクシ状工具による列点文、波状文が施される。重ね焼きによる付着痕が合致するため、製 作段階からセットにされていたものである。211・212はセットとなる短頸壺であるが、両者とも全体 的に赤みを帯びた特徴的な色調を呈し、顔料が塗布されている可能性がある。215・216は蓋との重ね 焼きの痕跡が見られることから、有蓋の壺であった可能性が高い。

土師器

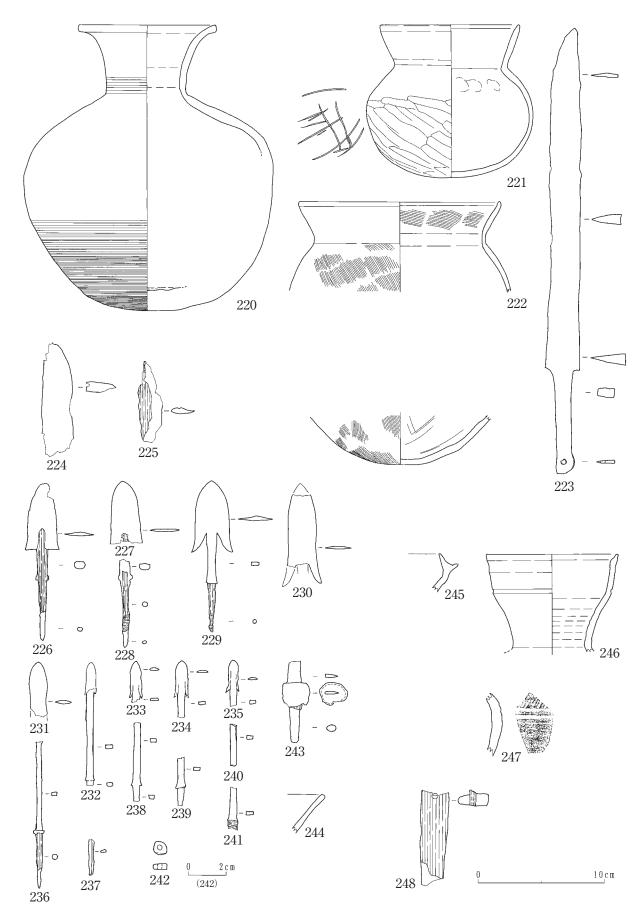
221は広口壺で赤褐色の色調を呈し、体部下半の外面にはヘラケズリが施され、外面体部にヘラ描きが見られる。222は破片化し、床面に散在していた。外面はタテハケ、内面上半はヨコハケ、下半はケズリが施される伊勢型甕A1類である。



第41図 105号墳出土遺物実測図(1)



第42図 105号墳出土遺物実測図(2)



第43図 105号墳出土遺物実測図(3)

武具

鉄刀(223)は残りが良好で、全長35.6cm、刀身長27.4cm、最大厚さ0.9cmの、小振りのものである。 柄の先端に目釘孔がある。鉄鏃は平根式三角形、平根式腸抉三角形、長頸式の3種類のものが出土している。

その他

装身具として、臼玉(242) 1 点が出土している。また床面直上から、山茶碗(244)が 1 点出土している。 104号墳(B 2 支群)

試掘調査後、開発区域外となることが決定したため、本調査は行っていない。試掘調査はB2尾根筋上にトレンチを設定して行ったが、石室のほぼ中央を横断することになり、105号墳と同様な立地であると推測される。このような立地であることと、出土遺物を見ると古い時期に構築されたと考えられることから、105号墳と同様な石室である可能性がある。

遺物(第44図・図版37)

試掘調査で出土した遺物は次の3点である。いずれも床面直上、左側壁直下より出土している。 須恵器

有蓋高杯(249)は短脚のもので、円形の透かし孔が3方向にある。杯部底部から脚部にかけてカキ目が施され、畿内系3型式に比定される。台付有蓋壺(250)は頸部に波状文とカキ目、体部にカキ目、脚

は3方向に方形の透かしがあり、 105号墳出土のもの(209)と比べ ると小振りで、口縁部の立ち上 がりが高い。畿内系1~2型式 に比定される。

部に波状文が施される。脚部に

装身具

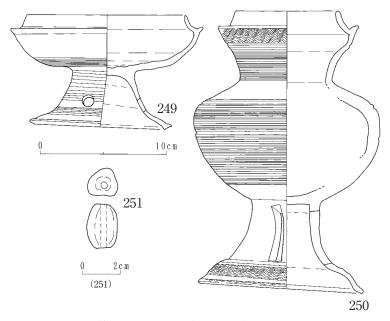
棗玉(251)は暗赤褐色の色調を 呈する琥珀製のものである。

その他

遺構(第46図)

土坑 SK23·24

B2尾根付け根に位置する。 硬質の砂岩が露呈し、節理面で 採石可能な場所であり、105号墳



第44図 104号墳出土遺物実測図

等B2支群の石室石材を採掘した痕跡であると考える。2つの土坑は接して位置しており、SK23の大きさは径約2.0m、深さ0.9m、SK24は径1.5~2.0m、深さ1.2mを測る。

遺物(第45図)

B1尾根表・流土から出土したものである。これ以外にも埴輪片が多く出土したが、それらは全て96

号墳の項で報告した。

須恵器

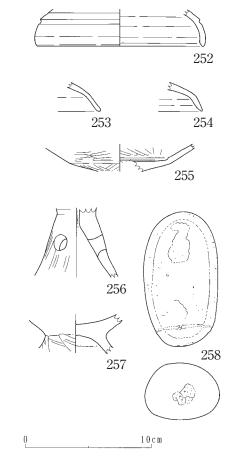
いずれも杯蓋で、252が3型式、それ以外は7型式以降のものと 思われる。

土師器

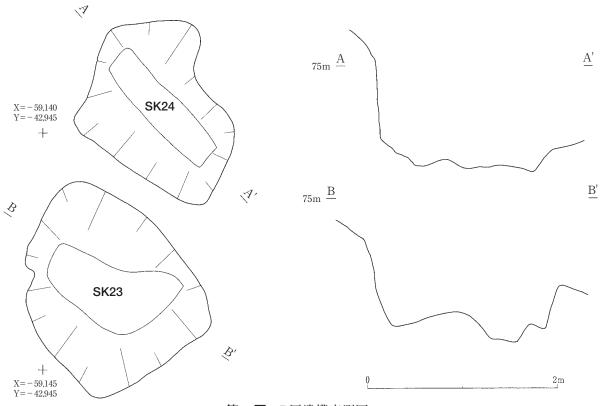
255・256は高杯、257は台付甕の底部である。

石器

258は砂岩製の敲石である。



第45図 B区出土遺物実測図



第46図 B区遺構実測図

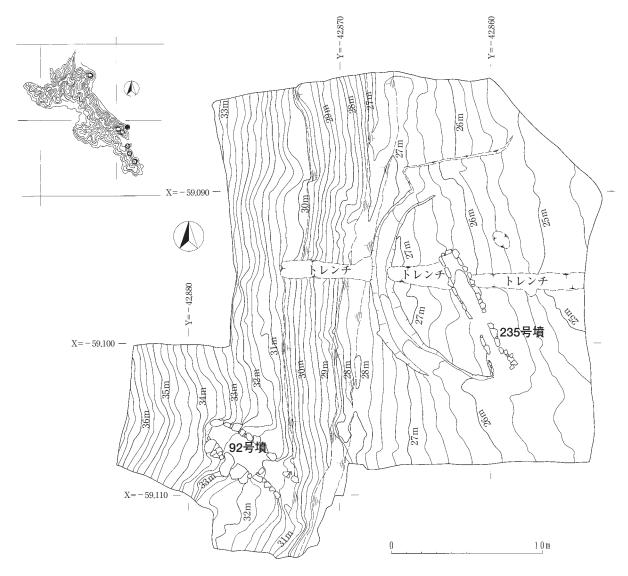
第3節 C区

C区は唯一山麓に設定された調査区である。開発区域内では、92号墳のみが分布調査によって明らかにされていたが、等高線に直交する方向でトレンチを設定したところ、235号墳を検出した。南に隣接する墓地内にもマウンドを残す古墳(91号墳)が1基存在するため、現在のところC区内の2基と合わせた計3基でC支群として捉えておきたい。表・流土、石室埋土中から弥生中期の土器が出土しているが、その時期の遺構は検出されていない。

92号墳

遺構(第49図・図版10, 11)

山麓東斜面に立地し、南東方向に開口する。石室は比較的残りが良く、右側壁は2.4mの高さが残存する。床面プランでは右側壁に袖を有することは明かであるが、対応する左側壁には立柱石が若干内側に設置されていることは分かるものの、明瞭な袖を形成していたとは言い難い。よって片袖式の石



第47図 C区地形測量図

室として報告することにする。また玄門部には右側壁側に梱石が半分残存する。玄室の長さは4.2m、 奥壁幅1.3m、最大幅2.0mと極端な胴張を呈する。羨道部は羨門に向かって緩やかに開く形状で、先端 には立石が据えられて、羨門がつくられている。石室の全長は6.9mである。

石材は全て硬質砂岩で、側壁のものは大きさにばらつきがあり、特に上に行く程大きなものを使用 している。奥壁基底部は2枚の縦位の立石が設置されている。これらは1個の石を割った後、その割 面を石室内部に向けて並べて使用していることがわかる。

掘方は地山を掘削しているが、一部は岩盤にまで達している。石室の裏込めは盛土によるが、掘方より上位の部分ではそのまま墳丘を形成しているようである。奥壁背後では、盛土の向きが異なる箇所があり、16層上面で一度作業面を形成していた可能性が高い。

遺物(第48図·図版38)

床面は硬く締まっていたが、埋土中より粉々に破砕された土器や、後世の遺物が出土するなど、石室の2次的な利用が多かったと考えられる。床面から出土した遺物は耳環1点のみであった。

須恵器

埋土中より出土した無蓋高杯(260)1個体しか時期を判別できるものはなく、尾張系6~7型式に比定される。その他平瓶(261)口縁部1個体が埋土中より出土している。

装身具

耳環(259)は銅芯銀張りで内側は金色の 色調を呈する。長径3.0cm、銅芯の径 0.8cmは大きい部類にはいる。

その他

9 C後葉の灰釉陶器瓶(262)、土師器椀(263) や12C末~13C初の山茶碗(264・265)、かわらけ(266)が出土している。

259 0 2cm 260 263 263 264 0 10cm

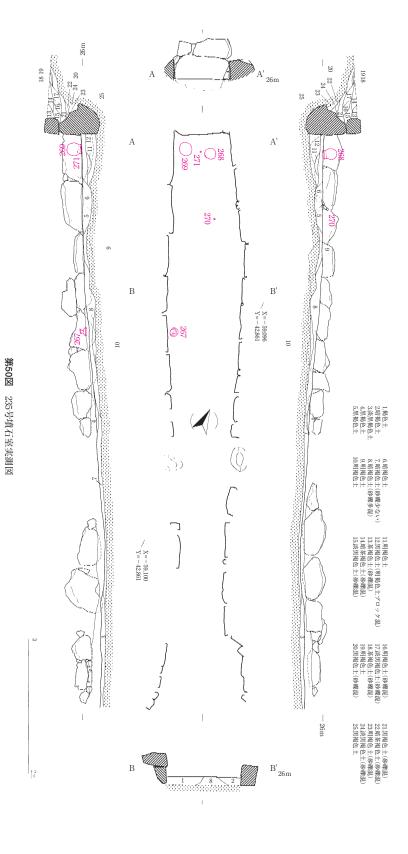
第48図 92号墳出土遺物実測図

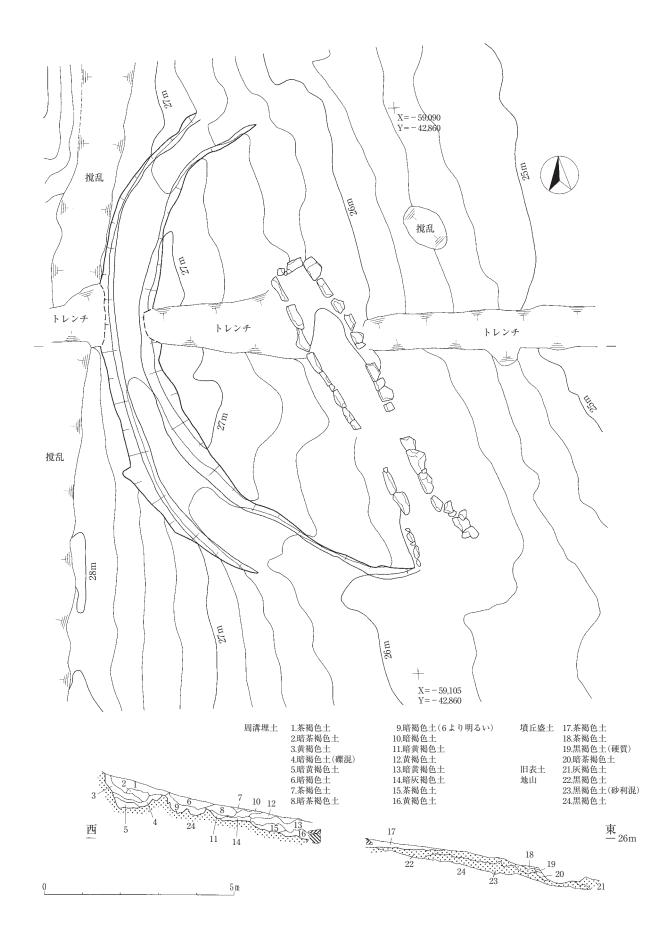
235号墳

遺構(第50·51図·図版12)

山裾から平野部に広がる緩傾斜面に立地する。開口方向は南東で、等高線に対して、平行に近い。

奥壁と側壁の一部を除き、1段しか残存しないが、平面プランはほぼ復元できる。玄室は胴張りを 呈し、玄門部にはピット状の穴が検出されたことから、立柱石が想定される。また穴と石材との位置 関係から、立柱石は内側に突出しない無袖式のものと考えられる。羨道は開口部に向かってさらに狭





第51図 235号墳墳丘測量図

め、羨門部にも立石を用いている。立石より外の石積みは前庭部と見られる。石室全長7.5m、玄室長4.6m、奥壁幅0.8m、最大幅1.1m、羨道長2.9m、前庭部長1.1mである。

石材は硬質の砂岩を用いており、1段目は長手あるいは平積みで使用している。奥壁基底部は横位の立石1石を据えている。明確な掘方は見られないが、地山を掘り込んで石室を構築しているのは間違いない。緩斜面を大きく平坦に削平しているようである。

山側のみ周溝が巡り、墳丘は径10~12m程度の楕円形を想定できる。周溝は最も残りの良いところで幅約1.5m、深さ1.0mを測り、断面形は逆台形状を呈する。

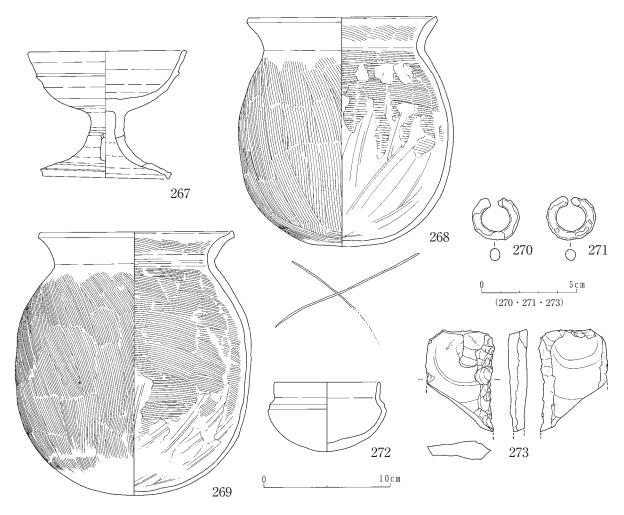
遺物(第52図·図版38)

遺物は奥壁前と玄室中央右側壁前から出土した。いずれも原位置を保っているものと思われる。奥壁前には完形の土師器甕2個体が床に伏せた状態で並べてあり、その間から耳環1点が出土している。それより1m程入口方向で耳環1点、玄室中央右側壁前には須恵器高杯が1点出土した。

須恵器

無蓋高杯(267)は杯部の口縁部下に1条の稜が巡り、尾張系 6 ~ 7 型式に比定される。埋土中からは 短頸壺(272)から出土しており、美濃系 6 ~ 7 型式に比定される。

土師器



第52図 235号墳出土遺物実測図

 $268 \cdot 269$ はともに丸底の甕で、外面はタテハケ、内面上半はヨコハケ、下半はケズリが施される伊勢型甕A 1 類である。268の外面底部には「×」状のヘラ記号が見られ、両者とも外面に使用痕がある。 耳環

270, 271とも径2.5cm、銅芯銀張りである。銅芯の径0.6cm。

周溝出土の遺物(第53図・図版38)

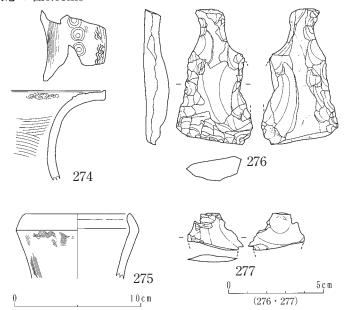
274,275は弥生土器の壺、276,277はチャート製の石器である。

その他

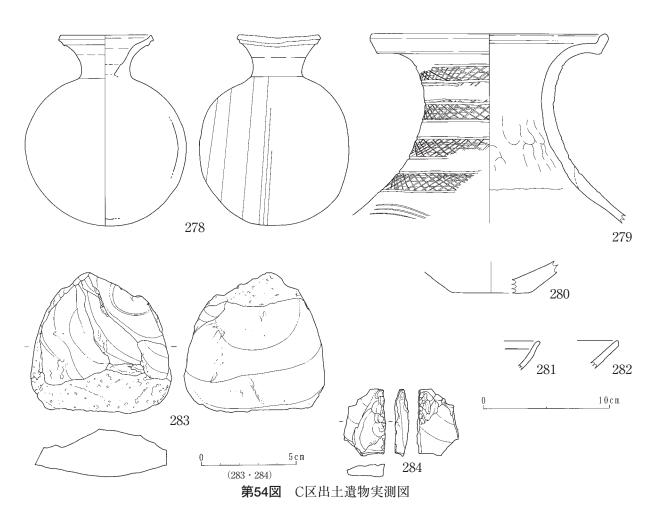
遺物(第54図・図版38)

表土・流土から出土した遺物で、278は須恵器提瓶、279は弥生土器壺、280は同底部、281は灰釉陶器、282は山茶碗、283,284はチャート製の石器である。

表土・流土を中心に弥生土器が数点出土し、 いずれも中期中葉から後葉にかけてのものと 見られるが、遺構は確認できていない。



第53図 235号墳周溝出土遺物実測図



— 61 —

第4節 D区

主尾根から東北東に延びる支尾根上にあたる。この尾根は昭和40年代の土取り工事と、土砂崩れのため尾根筋から北は削り取られている。これらの影響でクラックや地滑りの痕跡が観察でき、240号墳は玄室側が1段下がってしまっている。削り取られた範囲は不明であるが、斜面下方の石室埋土より、横穴式石室初現期に相当する古い須恵器が出土しており、尾根上に古墳が構築されていた可能性も考えられたが、今回の調査ではそのような立地のものは確認できなかった。古い地形図を見ると削り取られた箇所に、東方に延びる支尾根が1本あり、D区はB区が位置する支尾根の2本南の支尾根にあたる。

D区で最も西に位置するのは232号墳で、主尾根から30mの距離を測る。この間は現況からも古墳は 見られず、支尾根付根に空白部分があったようである。D区で確認された15基は立地上独立した古墳 群と見ることができ、D支群として捉えることとする。

試掘調査により95・115号墳の2基が確認されていたが、調査を開始するとさらに13基もの石室が高低差8m程の急な南斜面に、密集して検出された。調査区の南半は、遺構が無いことを確認した後、排土置き場とした場所で、支群が南方向に広がる可能性は無い。尾根筋の削り取られた範囲によっては、北半に幾つかの古墳が存在した可能性もある。

石室の残存状況は極めて悪く、規模や形態が不明なものが多い。

95号墳

遺構(第56図・図版14)

尾根線近くに立地する、D支群の中では最大規模の石室である。残存状況は悪く、一部を除き、側壁の1段目と、奥壁の1石が残るに過ぎない。側壁の床面プランは幅1.2mでほぼ平行しており、胴張は見られない。奥壁は左側壁と接する1石のみが残存し、掘方底に溝状の掘り込みが見られることから、この位置に奥壁があった可能性が高い。石材は長手積みをしているものが多い。

掘方の中央に奥壁を置くという事例は95号墳一例のみであり、極めて特徴的である。奥壁背後の部分は底が平坦ではなく、実質的な掘方としては使用されていないようである。また側壁の位置には掘方底に浅い溝状の掘り込みがあり、さらに両側壁部分を直角に繋ぐように「コ」字状を呈している。このような掘り込みは他にも例が見られるが、通常横方向の掘り込みには奥壁が位置する。これら二つの特徴的な点は、構築途中での設計変更あるいは改修等も考えられるが、原因は不明である。

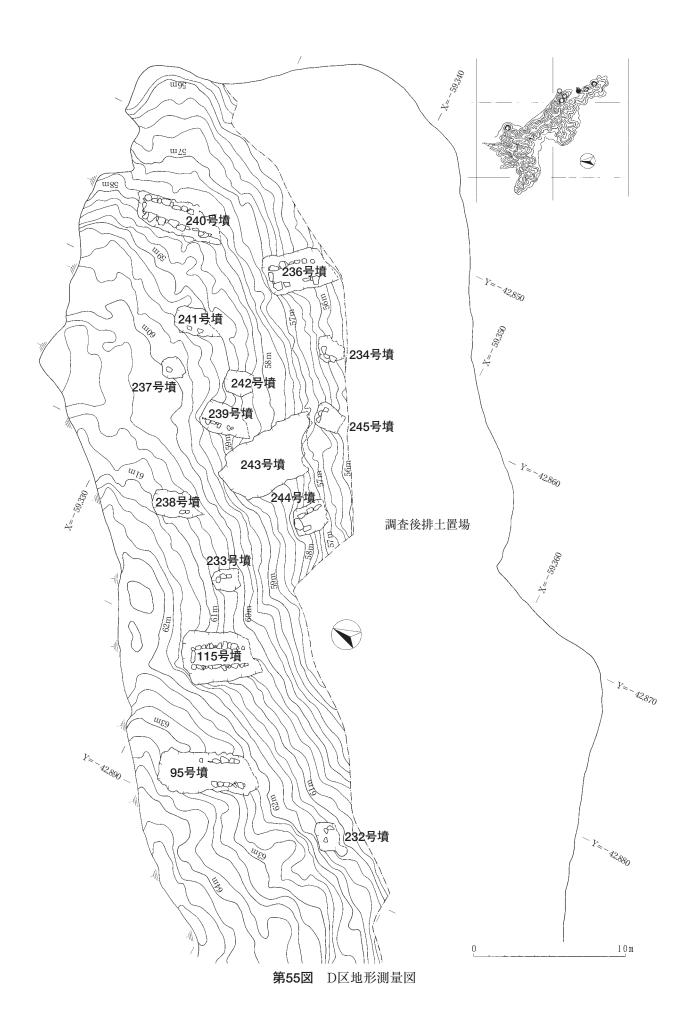
遺物(第58図·図版39)

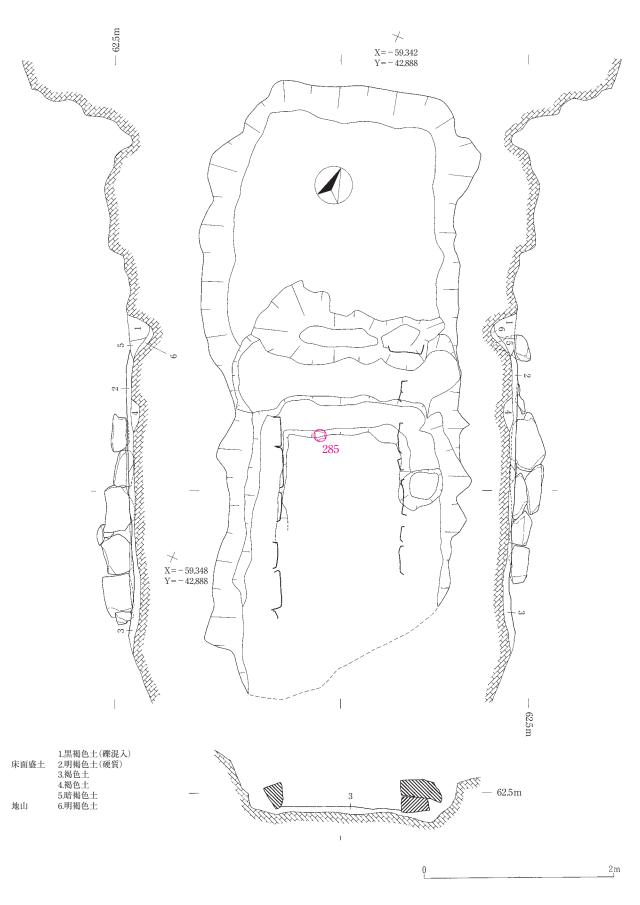
床面直上から出土したものは土師器の壺(285)1点で、他は埋土中から出土したものである。95号墳は尾根でも高い位置に立地しているため、他の古墳から混入する可能性は低いと考えられ、須恵器壺(286)も95号墳の埋葬時期を示している可能性は高い。

115号墳

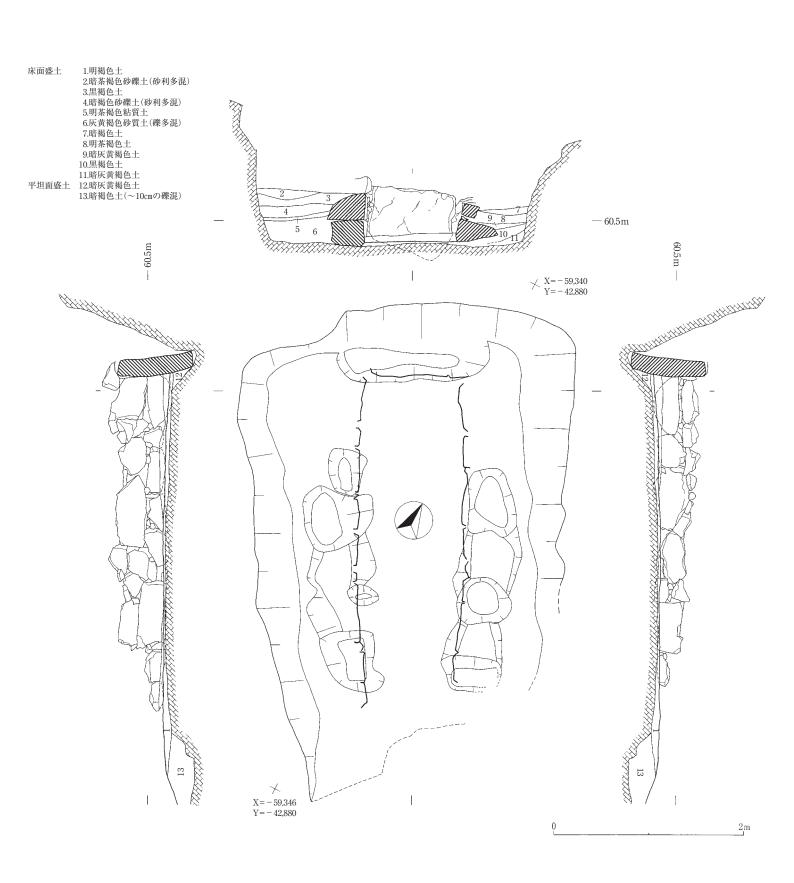
遺構(第57図・図版14)

比較的尾根線に近い南斜面に立地する。奥壁部での幅1.0m、最大幅1.1mと緩やかに胴張を呈する。

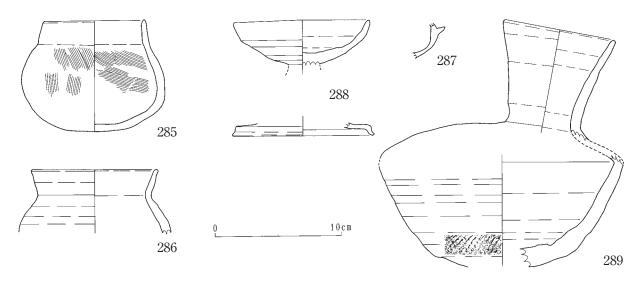




第56図 95号墳石室実測図



第57図 115号墳石室実測図



第58図 95号墳出土遺物実測図

第59図 115号墳出土遺物実測図

床面プランの胴張の形状から、玄室部がほぼ残存している状況と見られ、その長さは2.1mを測る。側壁は段毎の石材高さが比較的揃っており、横方向の目地ラインはよく見える。奥壁基底部は横位の板状の石材1石で造られている。

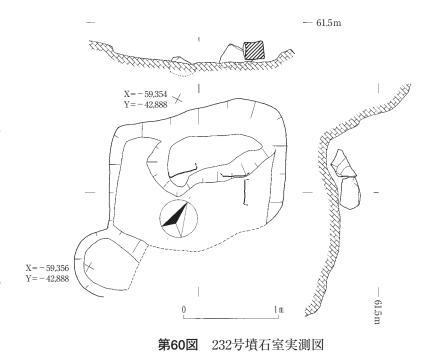
掘方は幅広で、奥壁近辺では側壁背後が特に広い。奥壁部には横方向の溝状の掘り込みがあり、玄室前半の側壁部には複数の土坑状の掘り込みが見られる。石材は長手積みをされているものが多い。 遺物(第59図・図版39)

須恵器 3 個体が出土したが、いずれも埋土中からである。ただし当墳より上方には石室が無いため、115号墳の埋葬時期を示すものとして捉えておく。無蓋高杯(288)・平瓶(289)はいずれも美濃系 9 型式に比定される。

232号墳

遺構(第60図·図版14, 15)

尾根線より約3m下方の南斜面に立地する。残存状況は悪く、奥壁2石と左側壁1石が残るのみで、奥壁部での幅は推定0.7mである。奥壁基底部は3石以上の石を横に並べ、また大きさも側壁のものと余り変わらない。立石は用いられていないようである。急斜面に立地しているため、掘方の掘削範囲も小さく、大部分が前半部の盛土上に構築された石室と見ることができる。奥壁設置部分に



— 67 —

は横方向の土坑状掘り込みが確認された。 遺物

埋土中を含めて1点も出土していない。

233号墳

遺構(第61図・図版15)

尾根線より約1.5m下方の南斜面に立地する。残存状況は悪く、奥壁1石と左側壁2石が残るのみである。奥壁基底部は縦位の立石1石が残り、掘方底の土坑状掘り込みの範囲から、右側にもう1石据えられていた可能性が高い。奥壁部での石室幅は推定0.5~0.6mと見られる。長手積みされた側壁2石は開口部に向かってやや開いており、玄室部は胴張形のプランを呈していた可能性が高い。

遺物

埋土中を含めて1点も出土していない。

234号墳

遺構(第62図·図版15)

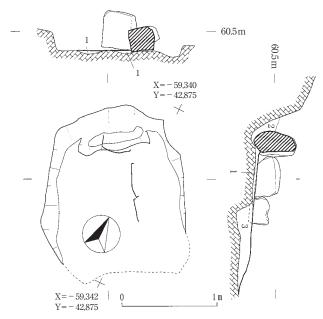
尾根線より約4.5m下方の南斜面に立地する。残存状況は悪く、奥壁1石と右側壁2石が残るのみである。2石の側壁は奥壁と直交方向に配置されているため、方形のプランを呈していた可能性が高い。掘方の範囲から見て、奥壁基底部は横位の平積み1石から成っていたようで、奥壁部での石室幅は推定0.5mである。石材はブロック状と言うより、塊状といえるもので、一応横長に設置されている。

遺物(第63図)

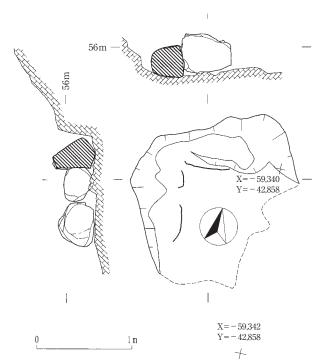
埋土中から須恵器杯蓋(290)が出土しているが、当墳の立地と石室の形態から見て、上方にあったものからの流入と考えられる。ただ290の年代観は5C代と古く、想定できる古墳は見あたらない。

床面盛土 1.明褐色土 裏込め土 2.暗茶褐色土

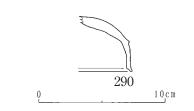
平坦面盛土 3.暗茶褐色土(2~5cmの岩盤砕石混)



第61図 233号墳石室実測図



第62図 234号墳石室実測図



第63図 234号墳出土遺物実測図

236号墳

遺構(第64図·図版15, 16)

尾根線より約4.5m下方の南斜面に立地する。左右側壁が残存し、奥壁部幅1.0m、最大幅推定1.2mとわずかに胴張を呈する。プランの形状から玄室は掘方内に収まっているようで、推定長2.9mと見られる。奥壁は板状の石を3石縦位に立て並べており、中央のものが突出して大きい。側壁は石材の大きさは揃っておらず、段毎の境界は直線的でない。石材は平積みをするものが多い。掘方の底には右側壁に浅い溝状の掘り込みが、奥壁部には土坑状の掘り込みが確認された。

遺物(第65図·図版39)

床面直上では、奥壁直下から杯身(291)が転位で出土している。また埋土中より土師器の平底甕(292)が出土した。291は猿投産で、口径9.8cmと小さく、尾張系7~8型式に比定される。292は外面底部に木葉痕が見られる。

237号墳

遺構(第66図·図版16)

尾根上の緩傾斜部縁辺に立地する。残存状況は悪く、右側壁1石が残るのみである。掘方も明瞭でなく、凹地を利用した構築と見られる。掘方の大きさから幅0.5m程度の小型の石室と推測される。

遺物

埋土中を含めて1点も出土していない。

238号墳

遺構(第67図・図版16)

尾根線より約1.5m下方の南斜面に立地する。残存状況は悪く、右側壁2石が残るのみである。掘方の大きさから判断すると、最大幅0.7~0.8m程度の石室と見られる。

遺物

埋土中を含めて1点も出土していない。

239号墳

遺構(第68図・図版16)

尾根線より約2.0m下方の南斜面に立地する。右側壁のみの残存であるが、石の並びが直線的で、掘 方底の「コ」字状の掘り込みから、幅約0.9mの方形の石室と推測される。側壁の並びの一番奥、奥壁 の位置に、小さな石材が直線上に配置されているのを確認でき、側壁の前に奥壁が位置するものであ ると見られる。主要な石材は小口積をするのが多く、大きさも比較的揃っている。

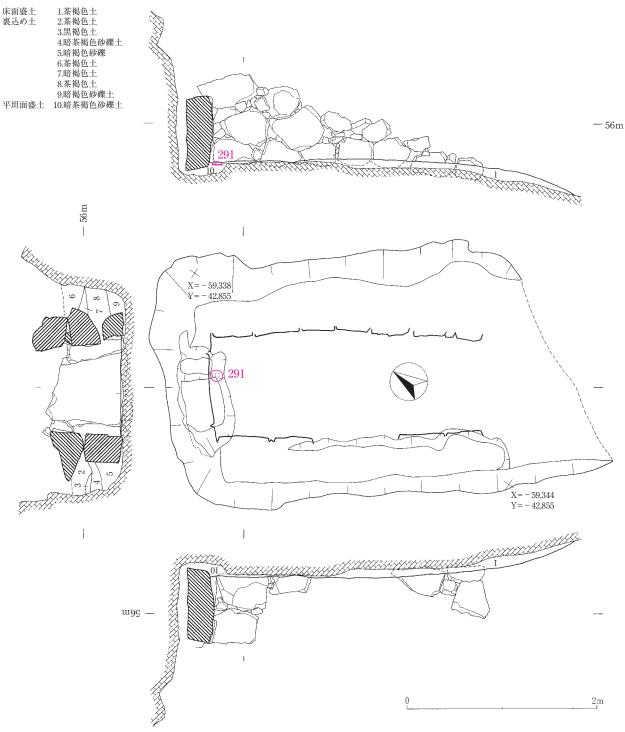
遺物

埋土中を含めて1点も出土していない。

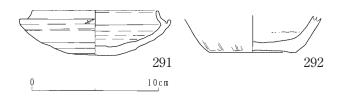
240号墳

遺構(第69図·図版16, 17)

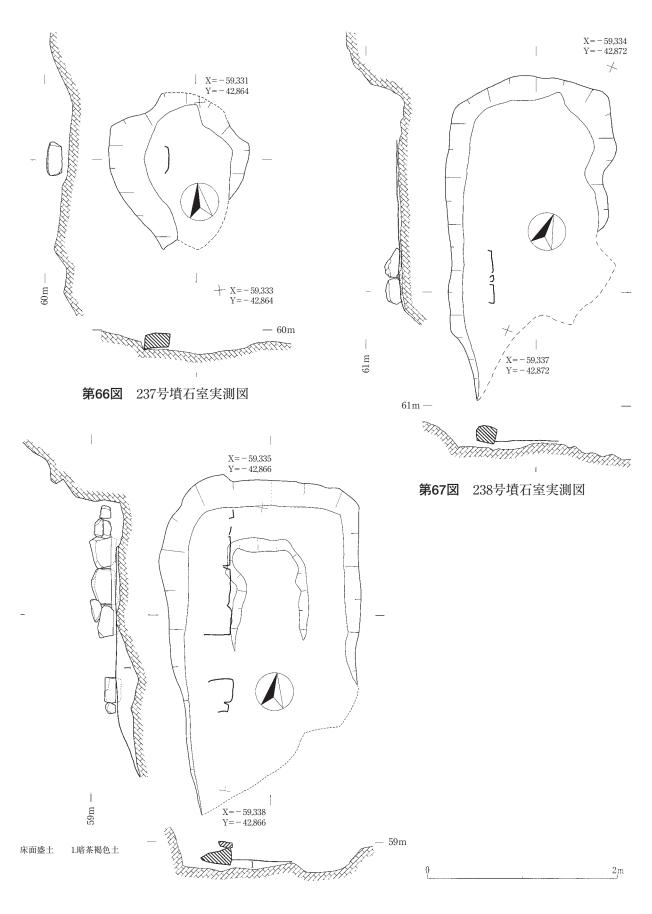
東に延びる尾根線のほぼ上に立地し、南方向に開口する。傾斜の緩い場所のため、残存状況は比較 的良好であるが、地滑りと思われる影響で玄室が1段下がってしまっている。右側壁には立柱石が残存



第64図 236号墳石室実測図



第65図 236号墳出土遺物実測図



第68図 239号墳石室実測図

するため、玄室部の状況が明らかで、長さ3.5m、幅1.0mの方形の平面プランを呈する。奥壁は板状の 立石を縦位に使用しており、右側壁側には小さな立石が並ぶ。側壁の石材は不揃いで、段の境界は明 瞭でない。石材の向きは長手積みと平積みが半々であるが、3辺のサイズは近似しており、ブロック状 というより塊状の石材が多い。掘方の底には奥壁部のみ一段深く掘削される。

遺物(第70図·図版39)

床面直上では須恵器有台杯(293)が出土している。杯部は深く箱型で、口縁部が外反する。全体的で作りがシャープで、金属器の模倣品と考えられる。埋土からは美濃系9型式の杯身(294)が出土している。240号墳の立地から見て294も埋葬時期を示していると考えられる。

241号墳

遺構(第71図・図版17)

尾根線より約1.0m下方の南斜面に立地する。残存状況は悪く、右側壁の2石を残すのみである。2 石の配置は開口部に向かって開くようで、胴張形の玄室プランを呈する可能性が高い。掘方のサイズから、最大幅0.6~0.7mと推測される。掘方は奥壁部のみ土坑状に深く掘削される。

遺物(第72図・図版39)

床面直上では、奥壁と右側壁のコーナー部から須恵器杯身(295)が正位で出土した。美濃系9型式に 比定される。埋土中からは杯身(296)、土師器甕(297)が出土した。297は伊勢型甕A2類と見られる。

242号墳

遺構(第73図・図版17)

尾根線より約1.5m下方の南斜面に立地する。残存状況は極めて悪く、石材は1石も残っていない。 掘方底には、奥壁から左側壁にかけて溝状の掘り込みが弧を描くように掘削されている。

遺物

埋土中を含めて1点も出土していない。

243号墳

遺構(第74図・図版18)

尾根線より約4.5m下方の南斜面に立地する。残存状況は極めて悪く、石材は1石も残っていない。 掘方の大きさは底面長5.9m、同幅2.7m、最大深さ1.9mとD支群では95号墳と並んで最大級の石室であったと見られる。

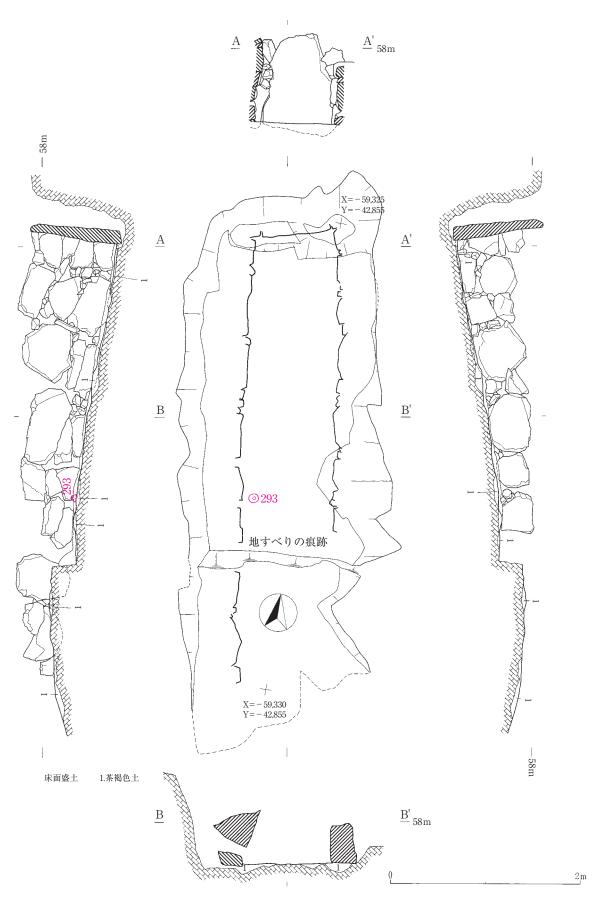
遺物(第75図・図版39)

埋土中より6個体の遺物が出土しているが、上方からの流入の可能性がある。298は須恵器杯身で美濃系9型式、299は杯身で美濃系9~10型式に比定される。300は須恵器庭か。301は土師器伊勢型甕A2類、302は土師器ミニチュアの鉢である。

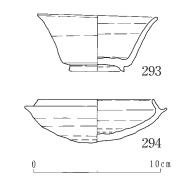
244号墳

遺構(第77図・図版18)

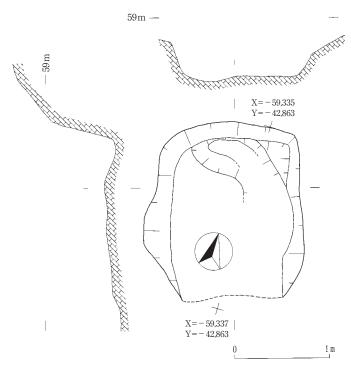
尾根線より約5.0m下方の南斜面に立地する。残存状況は悪く、奥壁と掘方内の左右側壁1段が残るのみである。側壁は開口部に向かって開いており、奥壁幅0.7m、最大幅推定1.0mの胴張プランを有す



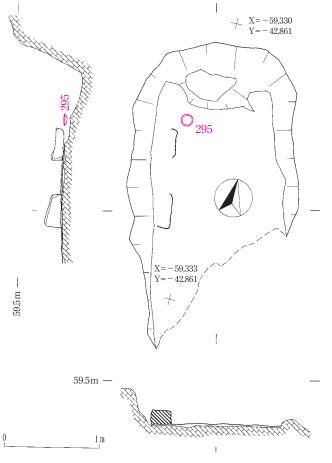
第69図 240号墳石室実測図

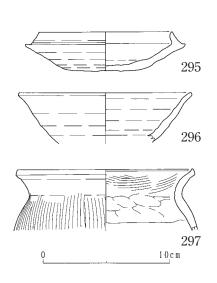


第70図 240号墳出土遺物実測図

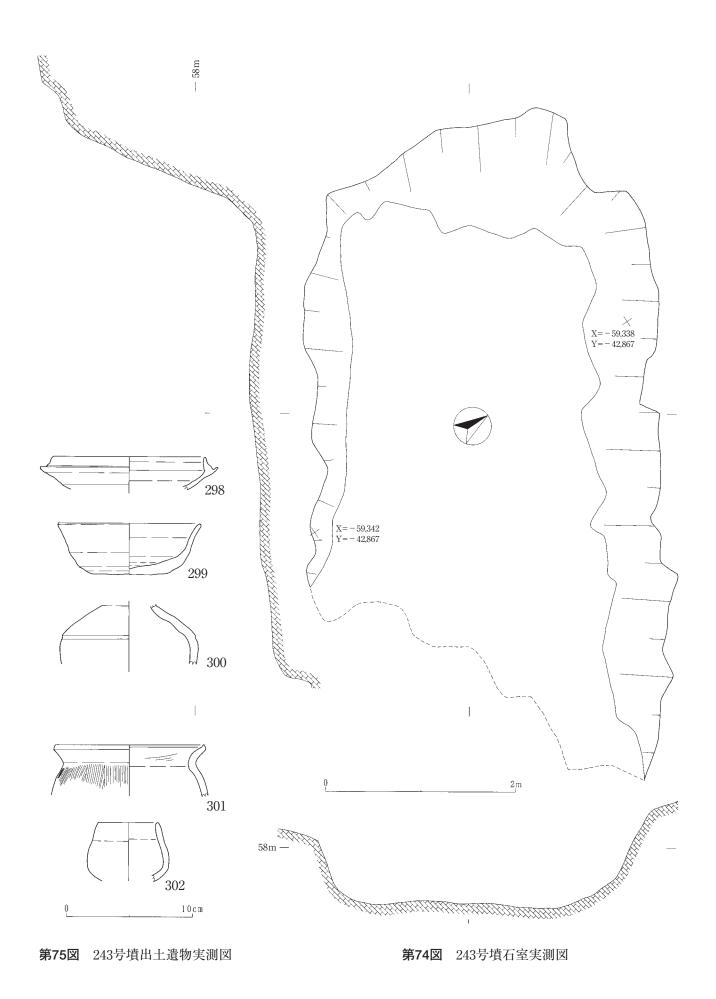


第73図 242号墳石室実測図





第72図 241号墳出土遺物実測図



— 75 —

る。奥壁基底部は縦位の立石1石から成るが、板状のものとは言い難い。側壁の石材は平積み・長手 積みで使用されている。掘方の底には側壁と奥壁の位置に「コ」字状の浅い溝状の掘り込みが掘られ ている。

遺物(第78図・図版39)

埋土中より完形の平瓶が出土している。美濃系9~10型式に比定される。

245号墳

遺構(第79図・図版18)

尾根線より約5.0m下方の南斜面に立地する。残存状況は悪く、奥壁と左側壁1石を残すのみである。 奥壁部の幅は0.8mと推測されるが、玄室プランの形状は不明である。奥壁基底部は縦位の立石と横位 の立石1石ずつで構成される。掘方は奥壁部のみ溝状に深く掘削される。

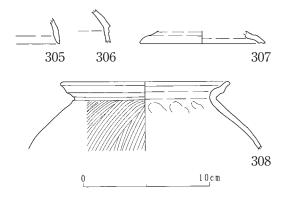
遺物(第80図・図版39)

埋土中より土師器ミニチュアの平底甕が出土している。

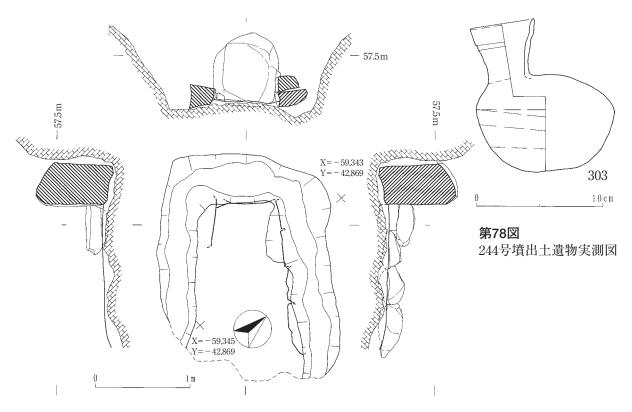
その他

遺物(第76図・図版39)

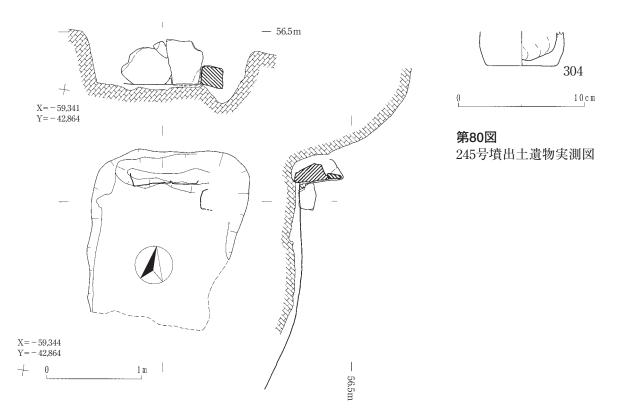
表土・流土より 5 個体の遺物が出土した。305・306は須恵器蓋、307は須恵器高杯脚部、308はS字甕である。



第76図 D区出土遺物実測図



第77図 244号墳石室実測図



第79図 245号墳石室実測図

第5節 E区

E区は糸貫町が調査を行った主尾根(G支群)から連続して緩やかに延びる支尾根上にある。尾根線上の緩斜面は幅が広い代わりに長さは短く、その端部と南北斜面は急激に傾斜が強くなる地形を呈している。D区の支尾根とは谷を1つ挟んで1本南の支尾根にあたる。分布調査、試掘調査により71,116号墳の存在は分かっていたが、調査を開始すると尾根上・南斜面を中心に新たに9基の石室が検出された。また石室以外にも通路状の遺構2条と採石の痕跡と見られる土坑1基が見つかっている。

E区最西に位置する260号墳は主尾根上といってもよいところに立地している。またG調査区との境界部分は尾根上の緩傾斜部のみが開発区域であったため、主尾根東斜面はほとんど調査を行っていない。よって支群の設定には不安を感じる部分もあるが、G支群との間に20mほどの後期古墳空白地帯が認められることを評価して、E区検出の古墳群をE支群として捉えることとする。

71号墳

遺構(第83図·図版18, 20)

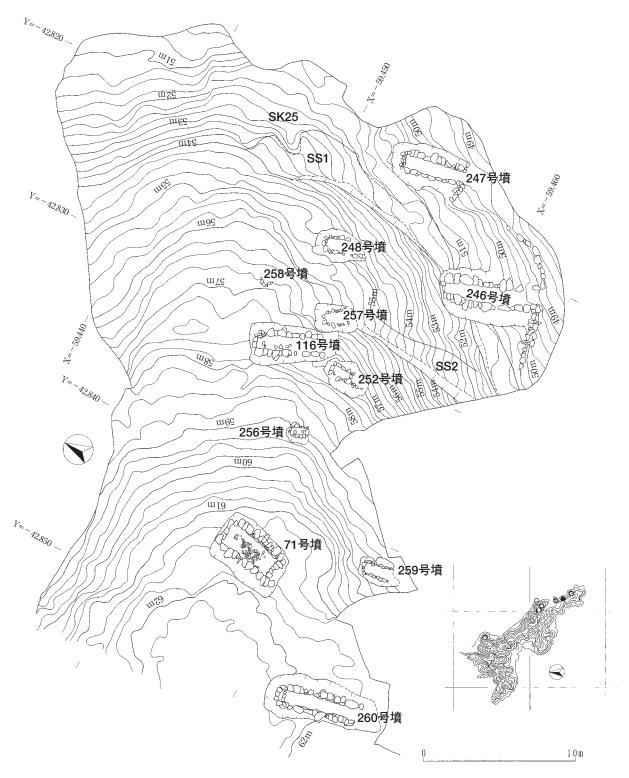
主尾根から分岐する尾根の付根、E支群の中では最高所の突端に立地する。掘方は5.0m×3.5m、深さ0.8mの方形土坑状で、石室が掘方内に収まる部分はほぼ完存している。石室は長さ3.7m、奥壁部幅1.3m、最大幅1.9m、胴張形を呈する。開口部には最低でも0.9m程度の石積みによる段が設けられている。

石材は、同型の105号墳(B2支群)と比べて、段毎の石材の高さが揃っており、段の認識がしやすい。 石材の向きは、1段目・2段目の半数以上が長手積みをしており、3段目が40%、4段目が17%と徐々 に減少する。一方小口積をしているものは1段目37%、2段目14%、3段目60%、4段目83%と上段の 方がその割合が高い。奥壁は板状の石を縦位に4石並べるが、掘方底はわずかに掘り窪められる程度 で、明瞭な掘り込みは見られない。開口部分は床面部分より約10cm高い段となっており、その上に石 積みが成される。

損壊が多いものの床面中央には、長さ2.2m、幅0.9mの長方形状の範囲に円礫が敷かれていた。石室の主軸に平行する向きで、棺台と見られる。さらにその上には上面が水平で扁平な砂岩が出土した。図中では床面が1面しか表現されていないが、遺物の出土レベルを考えると、追葬に伴って床を造り直している可能性が高い。円礫の上に置かれていることから見ても、追葬時に新たに設置された棺台の可能性を考える。円礫は近接して位置する前方後円墳26号墳(G支群)の葺石を転用した可能性が考えられる。

遺物(第84~85図・図版40~41)

遺物はほとんどが石室前半に位置していたもので、後半は攪乱のため、ほとんど出土していない。 須恵器では出土位置のレベルに違いが見られる。309・313の蓋杯はセットとなるもので、最古の型式 であるが、これら2個体は低い位置から出土しているのに対して、316・319・321は高い位置から出土 している。板状砂岩の棺台のことも含めて、床面を造り直している可能性が高いが、土層による判別 はできていない。

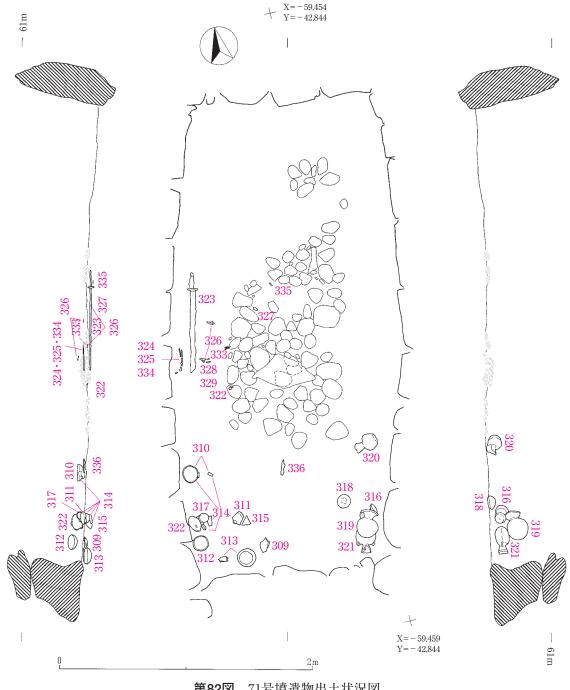


第81図 E区地形測量図

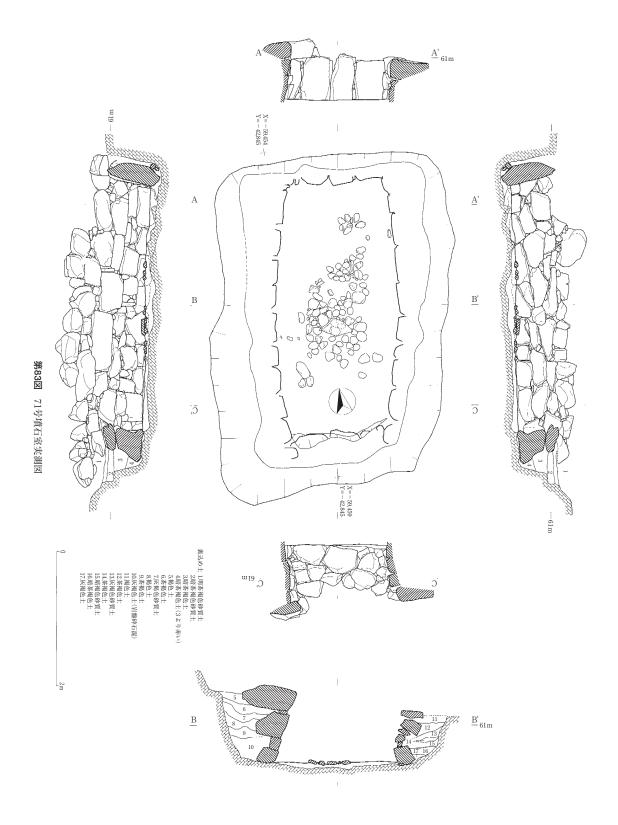
円礫の右側壁側には水平に置かれた状態で鉄刀が出土している。並んで鉄鏃も集中しており、副葬 された状態を保っている可能性が高い。玉類は管玉は棺台中央から、それ以外は埋土中から出土して いるものである。

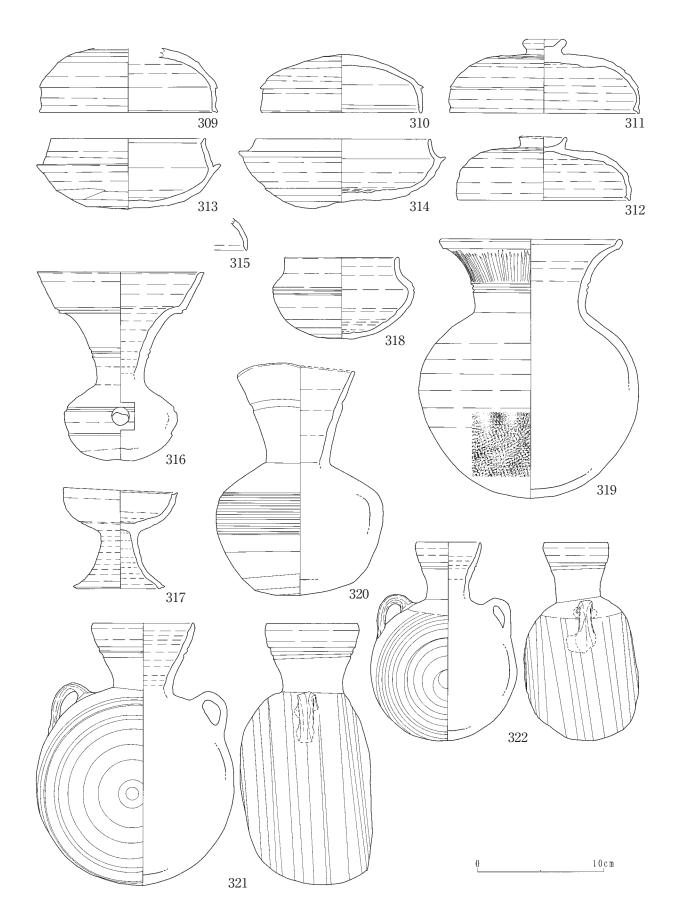
須恵器

埋土からのものも含めて34個体が出土している。最古のものは309・313の蓋杯のセットで、尾張系 $1 \sim 2$ 型式に比定される。次いで3型式のもの(311・312・314)などがあり、 $5 \sim 6$ 型式のもの(310・ 315~322)が多い。畿内系のものが多いが、前述のものを除くと、310、321が尾張系である。

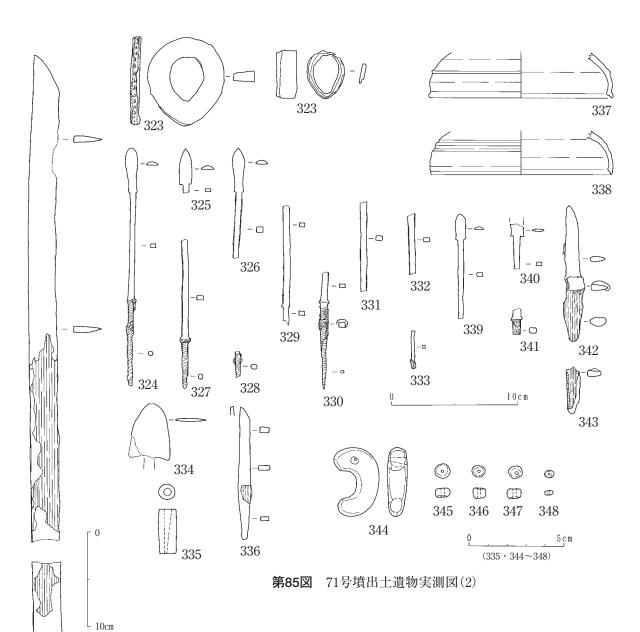


第82図 71号墳遺物出土状況図





第84図 71号墳出土遺物実測図(1)



71号墳の下方に位置する259号墳埋土中やその近辺の表土・流土中より、 $1\sim 2$ 型式と推測される遺物が出土している。71号墳より持ち出された遺物である可能性は高く、床面の改修の可能性を含めて、当墳の構築時期は $1\sim 2$ 型式と推測する。武具

右側壁直下より、鍔と鎺が装着された状態で大刀(323)が出土している。刀身は一部が欠損し、接合することができないため、全長は不明であるが、80cm位と推定される。刃部には鞘の木質が一部で残存しており、2つの目釘孔には目釘が残る。鐔は鉄製で、長径約7cm、短径約6cmの卵形である。側面には2条の線と、その間に配置された32個の「C」形の模様が銀で象嵌されている。

鉄鏃は334を除き長頸式である。

装身具

0

323

勾玉(344)が埋土中より、管玉(335)が床面から、その他玉(345~348)が埋土の水

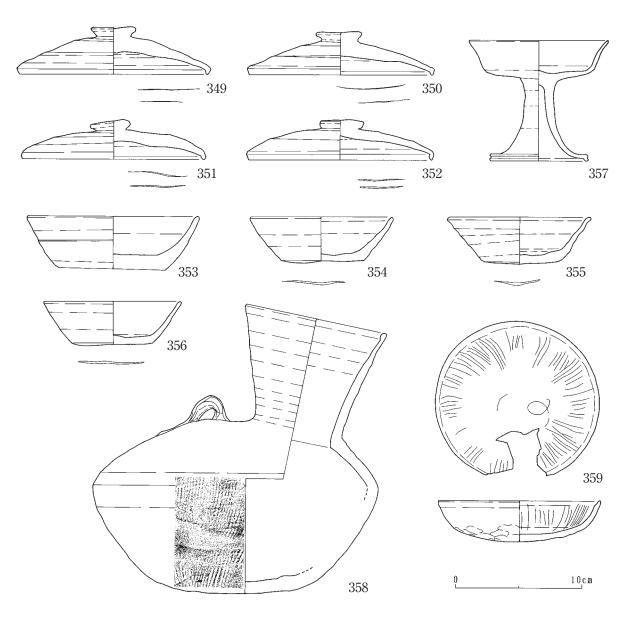
洗選別によって出土した。勾玉は瑪瑙製、管玉は碧玉製、その他はガラス製である。 工具

刀子(342)は長さ10.8cmで完存しており、柄には木質が残存している。336は一見刀子のようであるが、刃が無く、断面形は長方形を呈する。

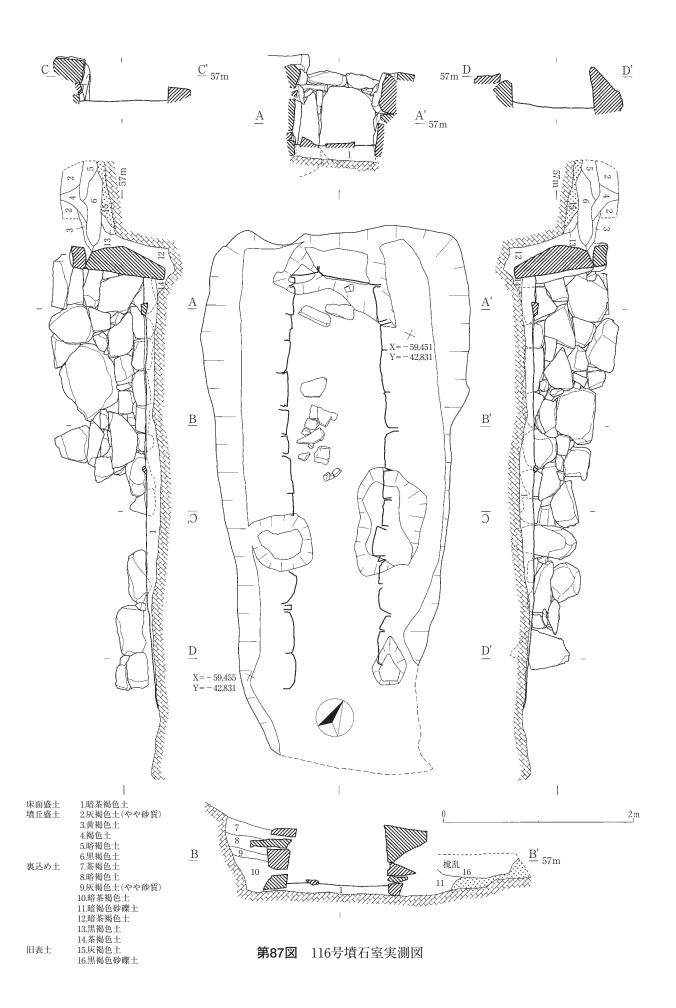
116号墳

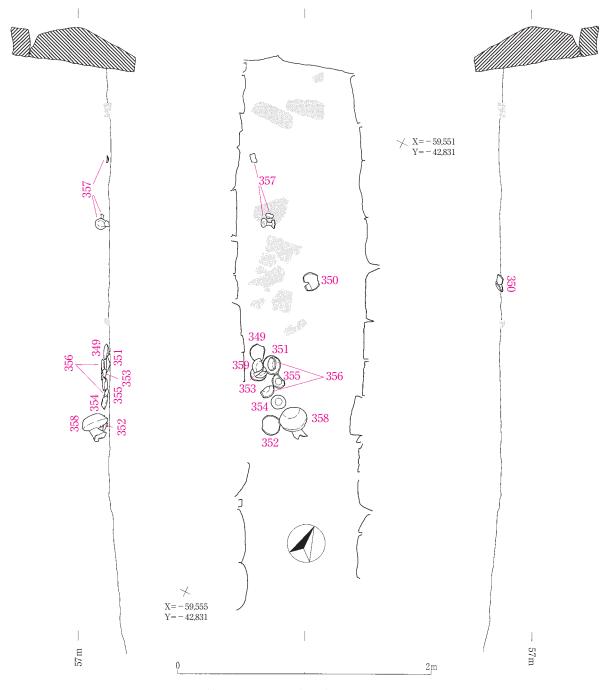
遺構(第87図・図版21)

尾根上の緩傾斜面に立地する。残存状況は比較的良好で、平面プランはほぼ完存すると見られる。 左側壁にやや内側に突出する立柱石があるため、疑似両袖式の石室といえる。右側壁の立柱石は残存 していないが、対になる位置には深い土坑状の掘り込みがあり、左と同様な構造と推測される。玄室 の長さ2.6m、奥壁部幅0.8m、最大幅1.0mと胴張形である。また羨門部と見られる立石が左側壁にある。



第86図 116号墳出土遺物実測図





第88図 116号墳遺物出土状況図

玄室床面には部分的に板状の石が残存する。範囲は不明であるが、部分的なものと見られる。

奥壁は板状の石を縦位に2石並べて基底石としている。側壁の石材は大きさのばらつきが大きく、 段の境界は不明瞭である。1段目の石材の向きも小口積み5、長手積み10、平積み6と整っていない。 掘方は比較的浅く、地形の傾斜方向と石室の開口方向の関係で、左側壁背後は明瞭な掘り込みは見られない。 底には奥壁部、立柱石、立石の部分に土坑状の掘り込みがある。

遺物(第86図・図版41)

全て床面直上から出土した。杯蓋(349~352)は端部が折り返されるもの、杯身(353~356)はそれとセットとなるもので、美濃系10型式以降に比定される。ヘラ記号が施されるものが多い。無蓋高杯(357)も同様の時期、平瓶(358)は巨大なもので、美濃系10型式と見られる。土師器杯(359)は内面に暗文が施される。表面が荒れているため底部の文様は明かでないが、口縁部は放射状の線が全周する。

246号墳

遺構(第89・90図・図版21, 22)

尾根線より約7.0m下に形成された緩傾斜面に立地する。墳丘前面には外護列石が残存する。石室は若干の胴張が見られるもののほぼ方形を呈し、玄門部に立柱石がある。左側壁のものはわずかに内側に突出するように据えられているが、右側には見られない。よって無袖式の石室であると判断する。立柱石より前方の羨道部は一段下がった状況で、また平面的にも左方向に振っている。この境界部は掘方の岩盤削平範囲と合致し、床面の盛土部分が全体的に左下方へずれたためと思われる。羨道先端には立石があり、外護列石と接続している。石室の全長は6.8m、玄室長3.7m、玄室最大幅1.2mである。側壁の石材の大きさは比較的整っており、段の境界は明瞭である。奥壁は縦位の立石を2石並べて基底部としている。

掘方は奥壁側、右側壁側が特に深く、天井石も掘方内に収まっていた可能性もある。また、背後の 急傾斜の一因ともなっている通路状遺構SS1を壊して掘方を掘削している。

外護列石は墳丘の前面のみに残存しており、その平面形状と方向から推測すると径12m程度の円墳と見られる。背後の傾斜面は急で、外護列石が背後まで巡っていたとは考えにくく、前面のみ構築されていた可能性が高い。

遺物(第91図)

埋土中より須恵器壺(360)の体部~底部が出土したのみである。

247号墳

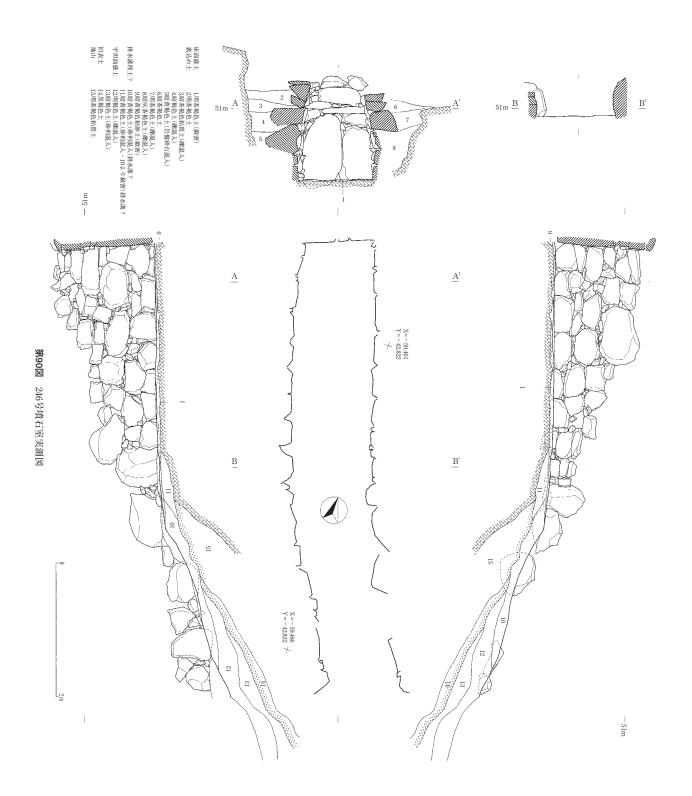
遺構(第92・94図・図版22)

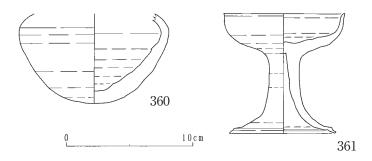
246号墳と並ぶ位置の緩傾斜面上に立地し、墳丘前面には外護列石が残存する。石室は方形の無袖式で、玄門部には立柱石、羨門部にも立石があり、外護列石と接続する。石室の全長4.4m、玄室長2.7m、幅1.0mである。

側壁の石材は形が整っておらず、段の境界は不明瞭である。奥壁の基底部は縦位の立石を2石並べてあり、上部の石材も完存するようである。石の積み方から、残存部の直上に天井石が架かっていた様子で、玄室部の高さは1.3mと推測する。

背後が急斜面であることと、石室の開口方向と斜面の方向が一致していないため、右側壁背後の掘 方が極めて深くなっている。

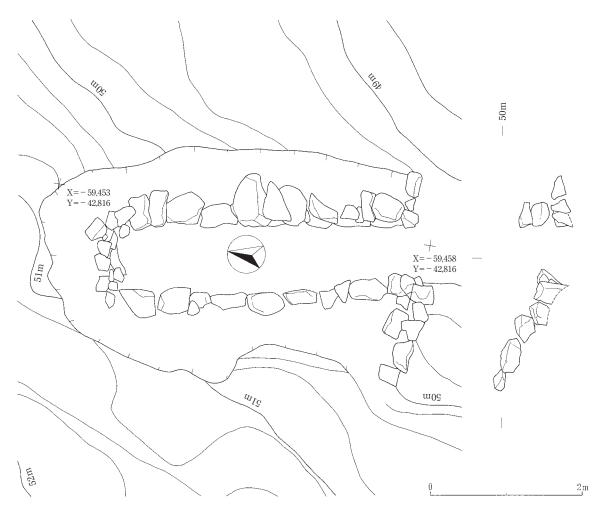
外護列石は羨門の両脇に0.5~1.0m程度残存するのみで、墳形は明らかにすることはできないが、周囲の地形状況から見て径は10mに満たない大きさであったと推測される。西側の外護列石は、斜面を駆け上がるように設置されている。単に残存状況を示しているに過ぎないかも知れないが、端部が246号墳の裾部と推定される位置と合致することから、246号墳構築後に造られた可能性が高い。





第91図 246号墳出土遺物実測図

第93図 247号墳出土遺物実測図



第92図 247号墳墳丘測量図

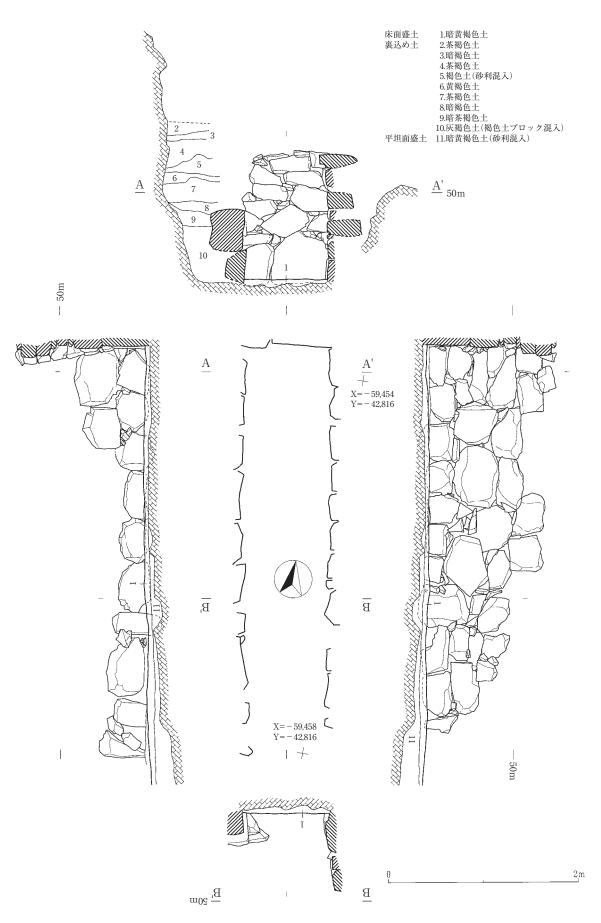
遺物(第93図·図版42)

埋土中より出土した須恵器無蓋高杯(361)は美濃系10型式に比定される。

248号墳

遺構(第95図・図版22)

尾根上の緩傾斜部縁辺に立地する。石室のプランは若干胴張を呈しており、その形状から、羨道部



第94図 247号墳石室実測図

は全く残っていないようである。奥壁部幅0.7m、最大幅0.8m、残存長2.7mである。

側壁の石材は硬質の砂岩が約半数、残りはやや軟質のものを使用しており、向きも小口積みと長手 積みが半々の割合である。奥壁基底部は縦位の立石 2 石が並べられる。

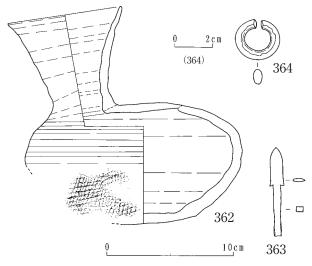
掘方の壁面は緩やかで、垂直には掘り込んでおらず、底にも掘り込みは見られない。 遺物(第96図・図版42)

床面直上で出土したものは耳環(364)のみで、 埋土中から出土した須恵器平瓶(362)は美濃系 10型式に比定される。また長頸式の鉄鏃(363) が出土している。

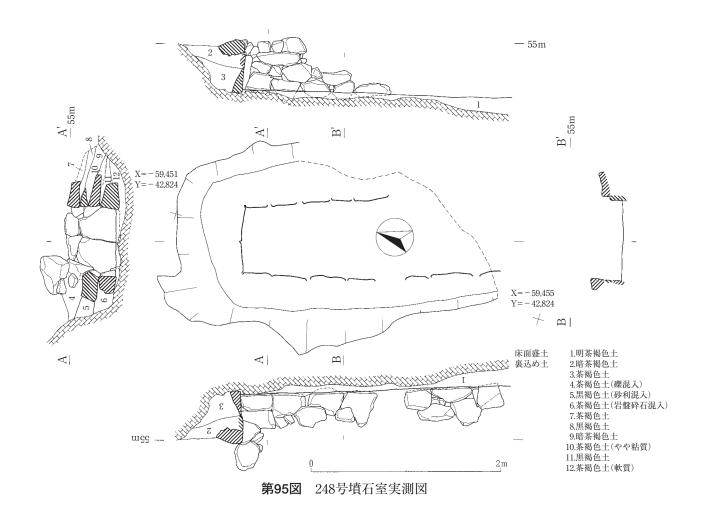
252号墳

遺構(第97図·図版22, 23)

248号墳と同様、尾根上の緩傾斜部縁辺に立 地する。床面プランは側壁が直線的な方形の 形状で、幅0.5mと小規模である。立柱石もな く、玄室と羨道の境界が全く無い無袖式の石 室と見られる。



第96図 248号墳出土遺物実測図



側壁の石材も小さく、やや軟質な砂岩が多い。奥壁は横長の石材1石で基底部を造っている。掘方の壁面も緩やかである。

遺物

埋土中を含めて1点も出土していない。

256号墳

遺構(第98図・図版23)

尾根上の緩傾斜部縁辺に立地する。長さ1.0m、幅約0.5mと極めて小さく、開口部には横位に石が設置されている。床面には2石の板状砂岩が置かれて、棺台が設けられる。棺台の配置状況から見て、開口部の石で1つの空間を閉じているものと思われ、側壁もこの石より前には見当たらないことから、小型の竪穴式石室と判断する。

石材は全体的に小さく、軟質な砂岩が多い。1段目には平積み・長手積み、3段目以上に小口積みが 主体となる。

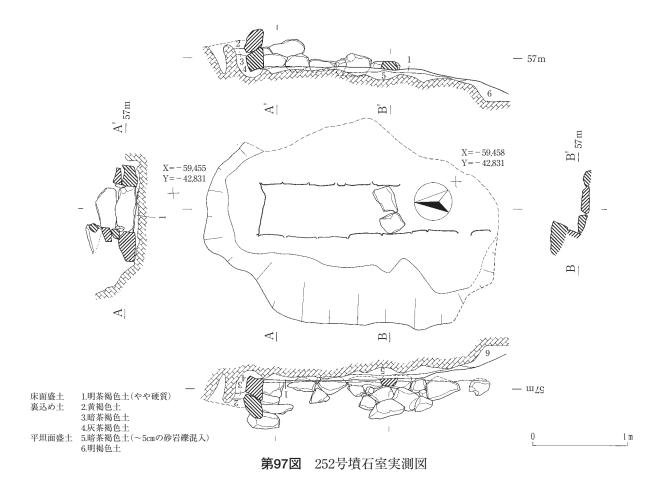
遺物

埋土中を含めて1点も出土していない。

257号墳

遺構(第99図·図版23, 24)

尾根上の緩傾斜部縁辺に立地する。奥壁幅0.7m、最大幅0.8m若干胴張を呈する。形状から玄室長は



— 96 —

2.0m位と推定される。側壁の石材は大きさが揃わず、段の境界が不明瞭である。小口積みは少なく、ほとんど長手積みと平積みで積まれている。奥壁はやや軟質な砂岩を横位に据えて基底部とする。掘方は比較的しっかり造られているが、底に掘り込みは見られない。

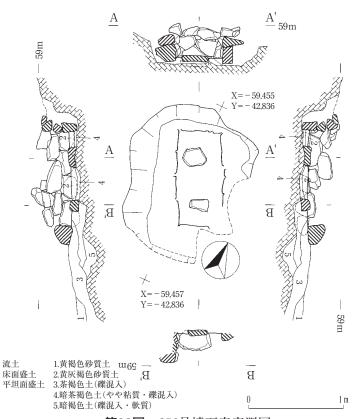
遺物

石室背後の裏込め土から須恵器壺片が1 点出土している。

258号墳

遺構(第100図・図版24)

尾根上の緩傾斜部に立地する。残存状況 は極めて悪く、奥壁と側壁によるコーナー 部が残るに過ぎない。両者の石材の積み方



第98図 256号墳石室実測図 12 13 14 - 56m X = -59,453Y = -42,828 $\frac{B'}{56m}$ X = -59.456=-42,828 m| 床面盛土 1.暗茶褐色土 裏込め土 2.暗茶褐色土 3.黒褐色土 4.暗褐色土(礫混入) М \forall 5 茶褐色十 6.暗褐色土 7.暗茶褐色土 8.黒褐色土 9.茶褐色土 10.黒褐色土 11.暗褐色土 ш99— 12.黒褐色砂質土 13.茶褐色土 1 m 14.黒褐色砂質土 15.黒褐色土(砂利混入) 13 12 16.灰褐色土 17.黒褐色土(砂利混入) 18.暗褐色土 19.黒褐色土(砂利混入) 第99図 257号墳石室実測図

は酷似しており、一見どちらが奥壁か判別しが たい程である。他の石室の主軸方向と掘方の長 軸の方向から、南東方向に開口したものと判断 した。奥壁と側壁はほぼ直交しているため、矩 形の石室と考えられ、奥壁部幅は0.6m程度と小 型である。

石材は極めて小さく、長手積みを基本とし、一部平積みを行っている。奥壁には立石を用いない。掘方は2.3m×1.1mの楕円形の土坑状で、深さも小さい。256号墳と同様な小型竪穴式石室の可能性もある。

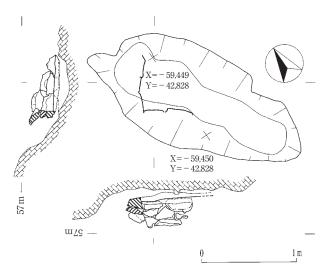
遺物

埋土中を含めて1点も出土していない。

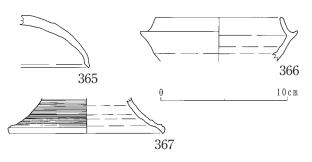
259号墳

遺構(第101図・図版24)

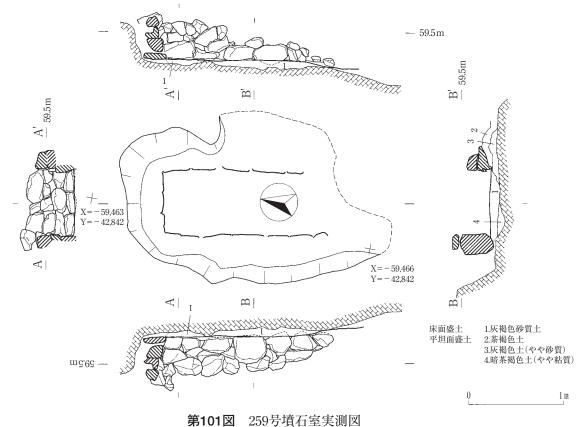
尾根線より2.5m下方の南斜面に立地する。幅 0.7mの方形の石室と見られる。側壁は段の境界 が明瞭でない。奥壁は258号墳のように、側壁



第100図 258号墳石室実測図



第102図 259号墳出土遺物実測図



同様の小型の石材を積み上げて造っている。石材は小さく、やや軟質の砂岩が大部分で、大きさは比較的揃っている。

石室の方向は、斜面に対してかなり傾いているため、左側には掘方の壁面が無い。石積みと盛土を同時に行って構築しているものと思われる。

遺物(第102図)

埋土中から5個体の須恵器が出土している。位置的に71号墳の直下にあたること、また周辺の表土・流土から、須恵器片が多く出土していることから、71号墳の遺物が撹乱によって周辺に散在、埋土中に混入したものと思われる。

須恵器

杯蓋(365・366)は畿内系3型式、高杯(367)は畿内系2~3型式に比定される。

260号墳

遺構(第103図・図版24, 25)

支尾根の付け根、主尾根の東斜面に立地する。残存状況は比較的良く、石室上部を除き完存すると思われる。全長5.7m、幅1.0mと狭長な石室である。床面プランは方形の無袖式で、立柱石が無く、玄室と羨道の境界がない。羨門部には両側壁とも立石があるが、その前に巨石が設置されている。わずかに残存する閉塞石の範囲から判断すると、巨石までが石室と考えられる。外護列石は当初から構築されなかったようである。

奥壁直前には3個の石が、主軸と直交して並べられており、棺台の可能性が考えられるが、対になるものは残存していなかった。

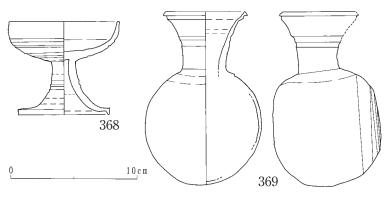
側壁の石材の大きさは不揃いで、段の境界も不明瞭である。向きも小口積み53個、長手積み39個、 平積み10個と均一性に欠ける。奥壁は縦位の立石2石を並べて基底部としている。掘方は長く、羨門 部が掘方内に収まっている。奥壁部のみ土坑状の掘り込みが成される。

遺物(第104図・図版42)

奥壁近くの床面直上で2個体の須恵器が出土した。

須恵器

無蓋高杯(368)は全体に小さく、杯部が碗状を呈する。細頸瓶(369)は小型のものである。いずれも 尾張系である。



第104図 260号墳出土遺物実測図

その他

遺構(第81図・図版25)

通路状遺構 SS1

246号墳の西方から、尾根を迂回するように曲線を描きながら、上っていく通路状遺構である。岩盤を削平することで造られており、幅はおよそ1.5mである。246号墳はSS1を壊していることから、それ以前に造られたものであるが、明確な時期は不明である。主尾根と東山麓を結ぶルートと考えられる。通路状遺構 SS2

257号墳から南へ、直線的に斜面を下る通路状遺構である。西側の岩盤を削平して造っており、幅は 1.0~1.5mを測る。傾斜はかなり急で、実際に通路として機能していたとは考えにくい。

土坑 SK25

尾根線緩傾斜部の先端に位置する。斜面の下方から上方に向かって、岩盤を掘削したようなもので、 石材の採石跡と考えられる。規模は小さい。

遺物(第105図·図版42)

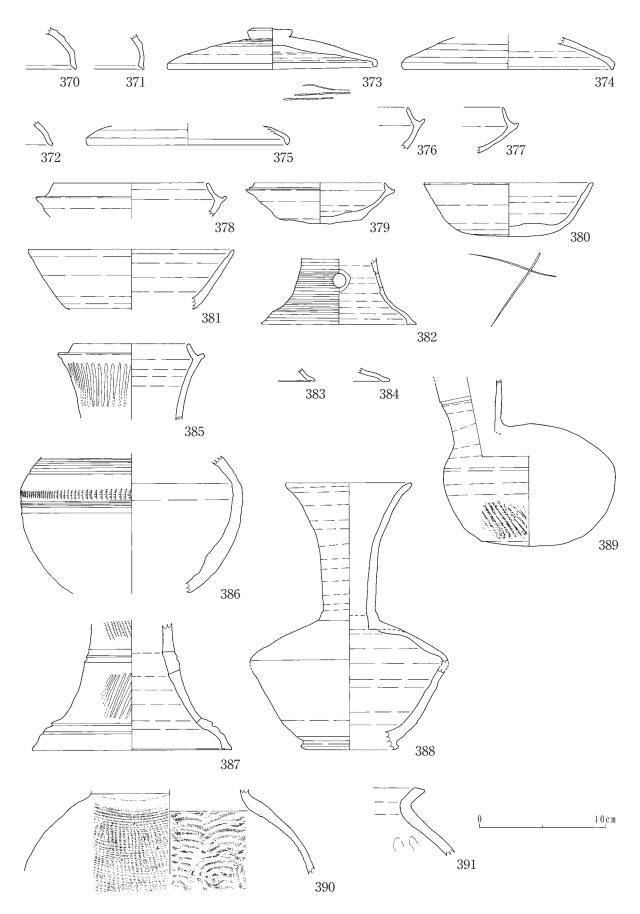
表土・流土から出土したもので、全部で42個体の遺物がある。多くは259号墳周辺とSK25周辺に集中する。大きく6世紀前葉から中葉のものと7世紀後葉のものに分けられる。

385・386・387は有蓋の台付長頸壺で、同一個体と見られる。振幅の大きい波状文や櫛状工具による列点文が施され、5世紀後半に比定される。

 $370\cdot 371$ の杯蓋、 $376\sim 378$ の杯身、383の高杯は畿内系 $3\sim 4$ 型式で、71 号墳から持ち出されたものの可能性がある。

372~375の杯蓋、379~381の杯身、388の台付長頸瓶、389の平瓶は美濃系 9~10型式のものである。 389は体部の下半にタタキ痕がある。

390は須恵器の甕、391は土師器の宇田型甕である。



第105図 E区出土遺物実測図

第6節 F区

F区は船来山南端の高所から北東に延びる支尾根にある。尾根は余り広い緩傾斜面を持たず、縦断面は他の尾根に比べて傾斜が急である。E支群のある尾根との間には広い谷が形成されており、F区はE区の1本南の尾根にあたる。

F区では、試掘調査により 1 条の溝 (277号墳東周溝) が確認されていた。本調査を開始すると、南北両斜面に大量の土砂が堆積しており、その下に 6 基の横穴式石室が埋没しているのが確認された。横穴式石室は尾根線から $2 \sim 3$ m下方に形成された緩傾斜面に立地している。尾根上には周溝墓と考えられるものが 2 基検出された。

ここで見つかった古墳群は立地として、他の支群とは異なることから、F支群として捉えることができる。ただし、さらに下(南)方の斜面、東西それぞれの方向にも構築されている可能性があることから、支群の全容を示しているものではない。

222号墳

遺構(第107図·図版25)

尾根線上の緩傾斜面の縁辺に立地する。石室上部を除き完存しており、左側壁に接続する外護列石 も検出された。石室は方形の無袖式で、全長3.1m、最大幅0.8mを測る。立柱石は無く、玄室と羨道の 境界はない。羨門部には立石が設置されており、付近には礫が散乱している。閉塞石がわずかに残存 している状況と見られる。

側壁の石材の大きさは比較的揃っているものの、段の境界は明瞭でない。奥壁は板状の立石を2石 縦位に並べて基底部としている。

掘方は岩盤を掘削するが、石室前半は盛土により平坦部が形成される。盛土は下方に位置する225号墳の石室裏込め土を覆っており、225号墳より後に構築されたことが明らかとなった。岩盤削平面のうち、床面の下方0.8mの平坦部は277号墳の裾を形成するものである可能性がある。掘方の底には奥壁部と右側壁の立石部に土坑状の掘り込みがある。

外護列石は左側壁側のみ残存していたが、それ以外の場所については不明である。

遺物

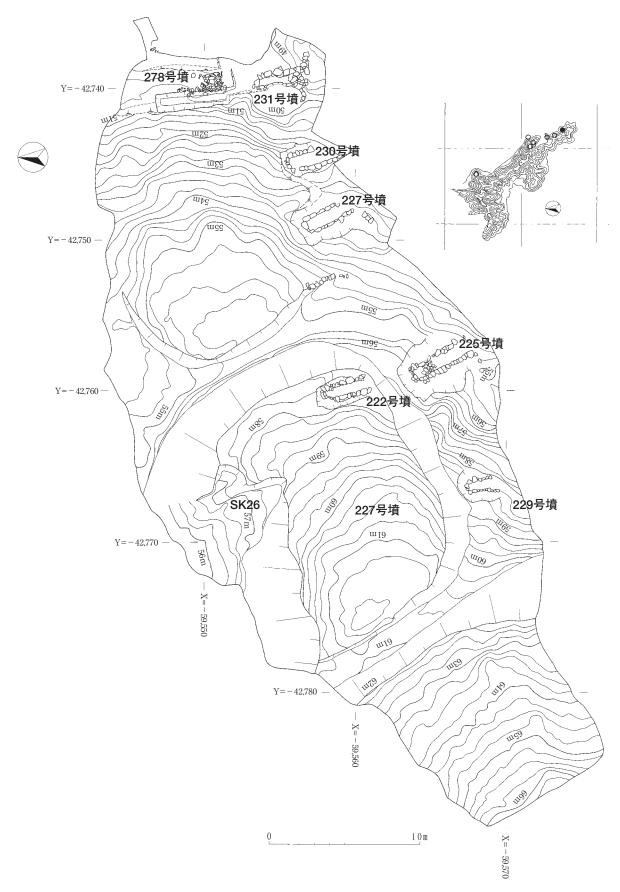
埋土中を含めて1点も出土していない。

225号墳

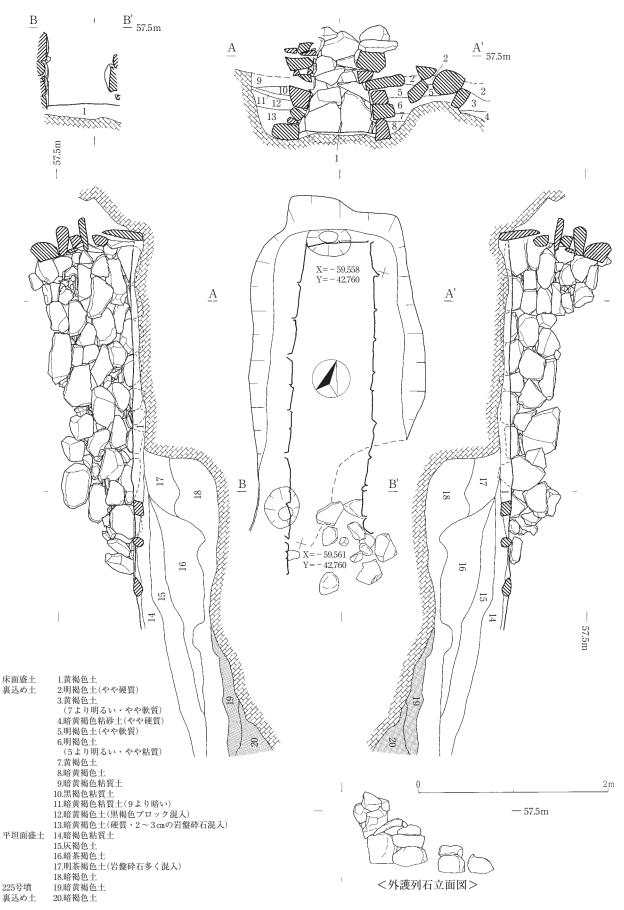
遺構(第108図・図版25, 27)

尾根線より約2.5m下方の緩傾斜面に立地する。石室は上部と左側壁の先端を除き完存する。両側壁には立柱石があるが、前側のみ若干内側に傾けて設置されている。そのため玄室幅より羨道幅がわずかに小さい。全長4.2m、玄室長2.2m、奥壁部幅0.8m、玄室中央幅1.0mと若干胴張形を呈する。羨門部にも立石があり、玄室床面の中央には礫が敷き並べられている。

側壁の石材は比較的形状や大きさが整っている。奥壁は縦位の立石 3 石を立て並べて基底部として いる。掘方は中央部では岩盤を掘り込んでおらず、築造時にはかなりの量の土が堆積していたことが



第106図 F区地形測量図



第107図 222号墳石室実測図

分かる。掘方底には奥壁と右立柱石のみ土坑状の掘り込 みがある。

右側壁には外護列石が接続しているが、左側は崩れており明かでない。

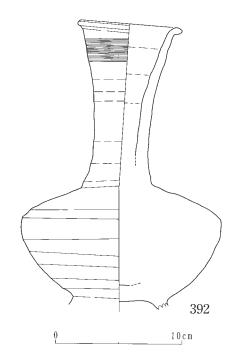
遺物(第109図・図版43)

床面直上より須恵器台付長頸壺(392)が出土している。 美濃系8~9型式に比定される。

227号墳

遺構(第110・111図・図版27)

尾根線より約2.5m下方の緩傾斜面に立地する。石室は 1段目のみが残存する。側壁には立柱石があり、玄室長 2.7m、幅0.8mの石室である。立柱石はわずかに内側に突 出して設置されているが、羨道の残存状況が悪く、疑似 両袖式と言うにはためらわれる。玄室プランは基本的に 方形で、立柱石に近いところで、若干狭まる形状は、船 来山古墳群では類例が多い。



第109図 225号墳出土遺物実測図

側壁の石材は塊状で、大きさにばらつきが見られる。奥壁基底部は縦位の立石が2石並べて設置されている。掘方は岩盤を垂直に掘り込んでおり、側壁の背後は必要以上に広い。掘方底の奥壁部には 土坑状の掘り込みがある。

墳丘前面と西側裾に外護列石が検出された。西側の外護列石は直線的に配置されているが、南半に 比べ北半は前へ崩れ落ちている様相が見える。よって断定はできないが、円墳と判断する。墳丘の径 は7~8m程度に復元できる。

遺物(第112図)

埋土中から土師器壺片(393) 1 点が出土している。体部で山形の列点文の一部が認められる。227号墳に伴うものではなく、277号墳に由来するものと思われる。

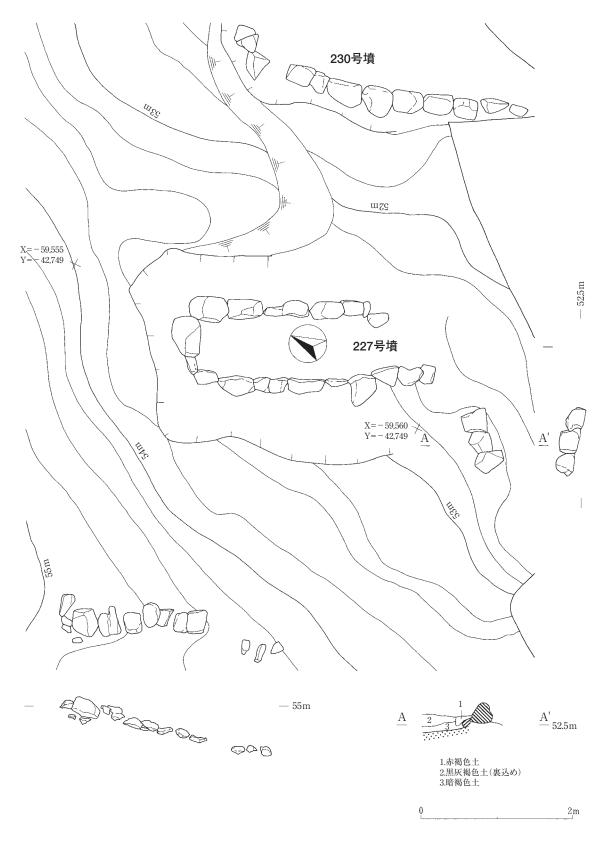
229号墳

遺構(第113図・図版27, 28)

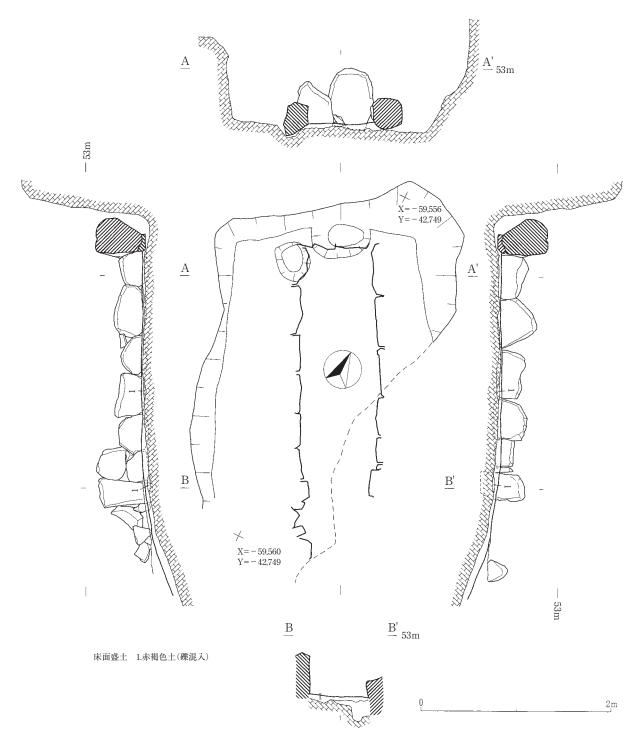
尾根線より約2.5m下方の緩傾斜面に立地する。奥半のみの残存と思われる。側壁は直線的に平行するものと考えるが、左のみ若干胴張状に曲線を描く。右側壁に立石が見られるが、プラン形状と大きさから判断すると、玄室と羨道の境界の立柱石と考えられる。玄室長1.7m、同幅0.8mを測る。

側壁の石材はブロック状で大きさも比較的揃っており、特に左側壁は段毎の境界も明瞭である。石 材の向きは、長手積みをしているのが大多数である。奥壁の基底部は板状の立石 3 石を縦位に並べて いる。

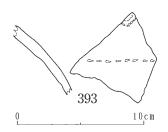
石室の向きと斜面の向きが大きくずれるため、掘方は変則的である。左側壁背後には掘方の壁面が 無く、盛土を行いつつ石材を積んでいる。



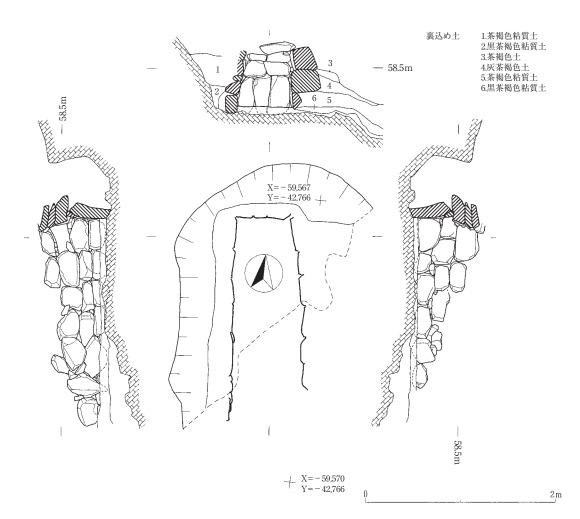
第110図 227号墳墳丘測量図



第111図 227号墳石室実測図



第112図 227号墳出土遺物実測図



第113図 229号墳石室実測図

遺物

埋土中を含めて1点も出土していない。

230号墳

遺構(第114図・図版28)

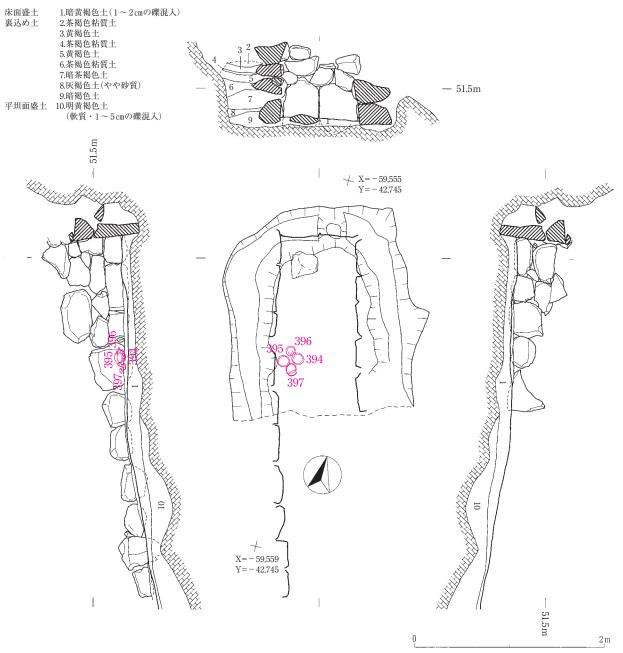
尾根線より約3.0m下方の緩傾斜面に立地する。右側壁に立石を持つが、玄室と羨道の境界なのか、 羨門部の立石なのか判断しがたい。いずれにしても方形の無袖式石室である。玄室長3.2m、同幅0.8m を測る。

側壁の石材は全体的に不定形で、大きさも整っていない。向きは小口積みと長手積みが半々位である。 奥壁は板状の立石 2 石を立て並べて基底部としている。

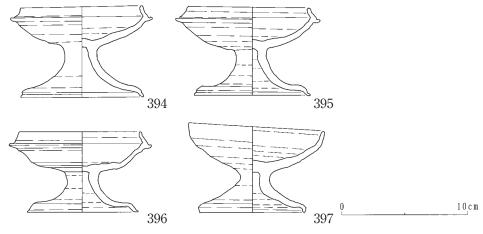
掘方は元々の緩斜面を利用しており、前半は盛土で平坦面を造り出している。底には側壁から奥壁にかけて、「コ」字状の浅い溝状の掘り込みが巡る。

遺物(第115図·図版43)

右側壁直下の床面直上から、須恵器の短脚高杯 4 個体が正位で並べられた状態で出土した。有蓋高杯 (394~396)、無蓋高杯 (397) とも美濃系7型式に比定される。



第114図 230号墳石室実測図



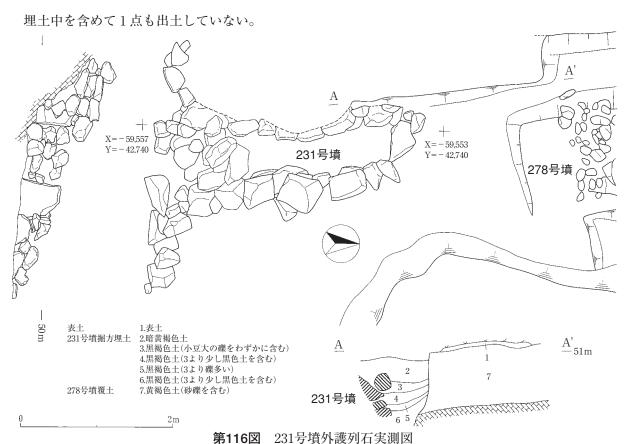
第115図 230号墳出土遺物実測図

231号墳

遺構(第116図·図版28)

石室は上部を除き、開口部から奥壁まで残存する。石室内部を掘り上げた直後、上に残した樹木が 天災で転倒したため、実測図を作成することができなかった。石室全長2.9m(左側壁側)、同3.1m(右側 壁側)、奥壁での幅0.67m、開口部幅0.76m、開口部から1/3での幅0.69m、奥壁残存高0.52m、左側壁 残存高0.83m、右側壁残存高0.96mを測る。胴張りは見られず、奥壁から2/3辺りで若干幅を増し、開 き気味になる。奥壁は最下段に1石の立石を設置し、3石を横に並べた小さな石を介して、その上に 幅一杯の石材を用いている。開口部には両壁に立石が使われる。立石の部分で閉塞石が残存していた。 墳丘前面には外護列石が残る。

遺物

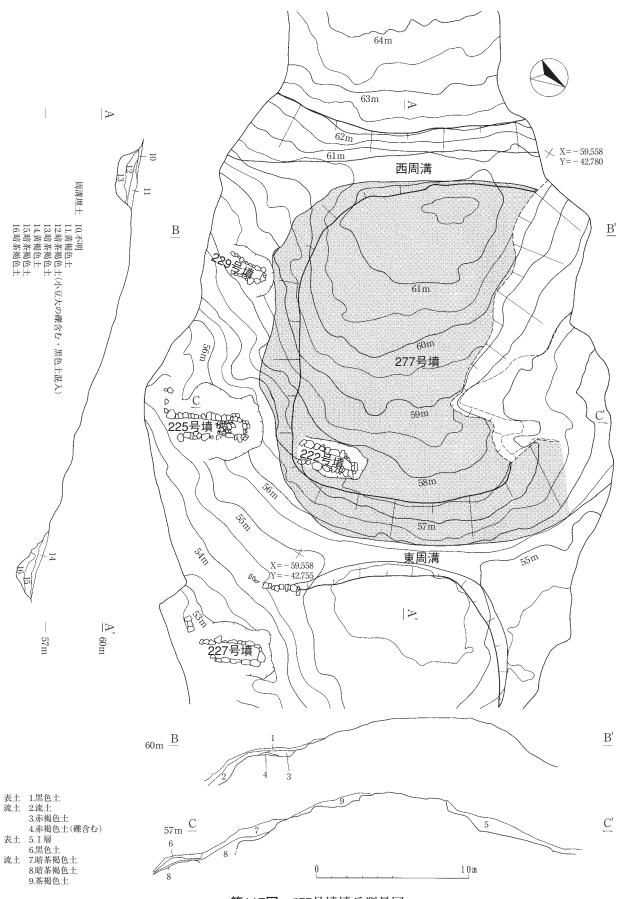


277号墳

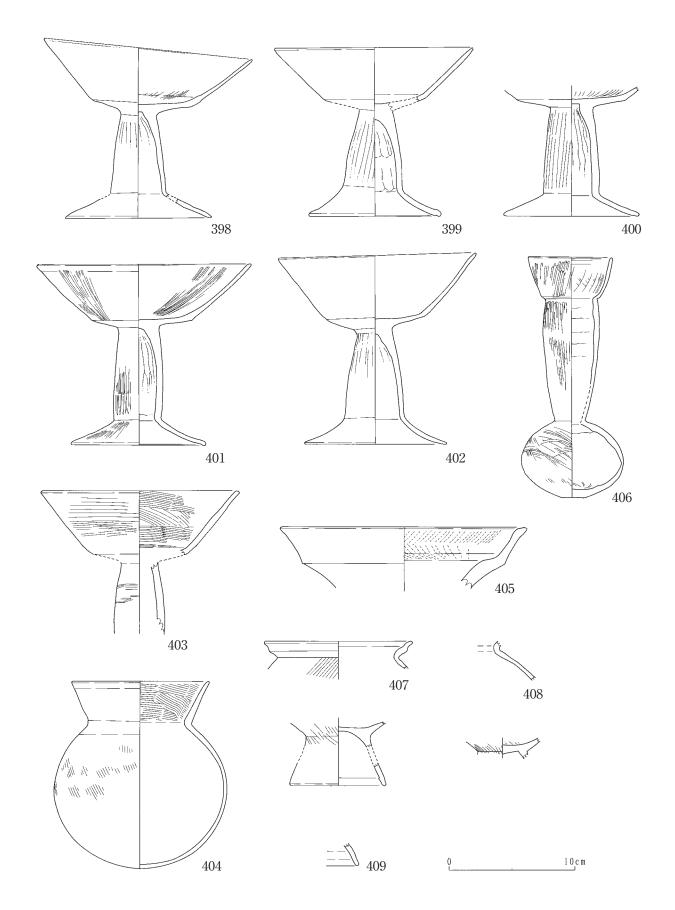
遺構(第117図·図版29)

尾根に直交する2本の堀切状の溝によって区画された遺構である。2本の溝は尾根の南北両側に向かって開いており、底の平坦部の続きと見られるものが、南斜面でも確認できた。また南北斜面には多量の土が堆積しており、さらに西の溝からは多量の土師器が一括して出土している。これらのことから周溝墓と推測される。

東西の大きさは24m、南北推定20m強の方形を呈する。北辺は採石跡とみられる遺構SK26で、岩盤を大きく削平されているため、正確な範囲は不明である。尾根線部分は表土直下で岩盤が露出し、盛



第117図 277号墳墳丘測量図



第118図 277号墳出土遺物実測図

土は裾部分を除いて、全て流出してしまっていると思われる。主体部の痕跡は全く認められない。

西方の溝は幅4.0m、深さ最大1.5m、東方は幅5.0m、深さ2.0mを測り、断面形はどちらも逆台形状を呈し、底の幅は広く、南北方向にはほぼ平坦である。

遺物(第118図・図版43, 44)

西の周溝の底近くから16個体の土師器が出土した。出土状況の記録が不十分で、詳細は不明であるが、使用後一括して廃棄したものと思われる。

398~403は高杯で脚部が屈折する。脚部の上半には縦方向のミガキが施されるが、403のみ横方向に ミガキがある。404は丸底の壺で、器壁は薄く、外面や口縁部内面にハケ目がある。第4章で記述され ているとおり、内面底部にはベンガラが付着していた。ベンガラを入れていた容器と見られる。405は 柳ヶ坪型壺で口縁部のみの出土である。406は壺で外面にミガキが施される。極めて珍妙な形状で、特 殊なものである。407・408はS字甕である。409は須恵器片で混入と見られる。

これら遺物群は松河戸Ⅰ期に比定される。

278号墳

遺構(第119図・図版29)

277号墳の下方、尾根線上に立地する。尾根を堀切る直線的な溝、葺石状の石積みとその背後の盛土から成る。半分以上は調査区外に位置するため、全容は明かでないが、盛土に掘り込まれた細長い土坑状遺構とそこから出土した土師器から判断すると周溝墓の可能性が高い。

土坑状遺構はトレンチによって壊されてしまったため、断面のみの確認である。位置や土の状況から主体部の可能性がある。石積みは比較的垂直に近く積まれており、盛土の上面にも広がっている。 溝は直線的に掘削されており、北端は閉じている。南端は巨木があり、調査ができなかった。断面形は箱堀状である。

遺物(第120図)

主体部と思われる土坑状遺構から出土している。

410は高杯、411·412はS字甕の口縁部である。遺物の様相からは、277号墳に先行して造築されている。

その他

遺構

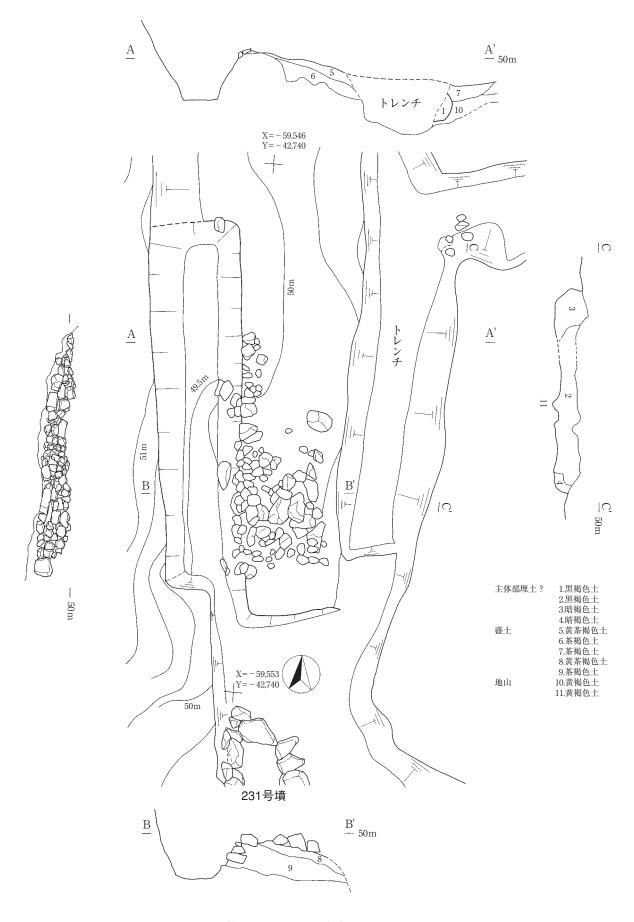
土坑 SK26(図版29)

尾根の北斜面で検出した土坑である。斜面を垂直に切り落とすように削った遺構で、石材を採った 痕跡と考えられる。その範囲は大きく、東西方向は最大15mに及ぶ。

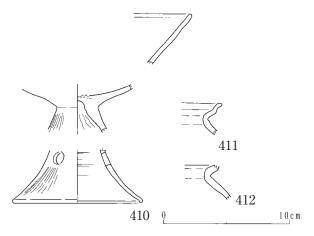
遺物(第121図)

表土・流土から出土した遺物である。いずれも土師器で、413は高杯、414は壺底部、415は二重口縁壺の頸部と底部、416は宇田型甕である。416は調査区の最西端で出土しているため、主尾根方向に当期の遺構がある可能性がある。

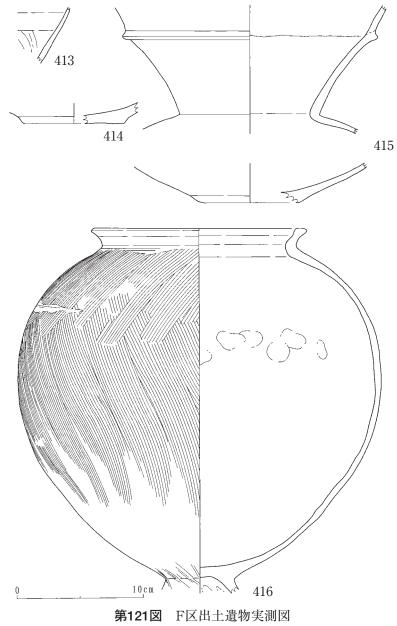
- 註1 馬具に関しては澤村雄一郎氏の多大な御教示・御協力を頂いた。記して感謝の意を表する次第である。
- 註2 鉄鏃の分類は杉山氏の分類に即した。杉山秀宏「古墳時代の鉄鏃について」『橿原考古学研究所論集』第八 1988



第119図 278号墳墳丘測量図



第120図 278号墳出土遺物実測図



支群	古墳番号	挿図 番号	主体部型式	分類	主体部内施設	全長 ()内は 残存長		開口方 向(S°E)		段数以	()内	<室 は残存長 女値の単(: 立はm			羨道 内は残 [の単位				数值	掘方 直の単f	· 位はm		外部施設
111	m .7	ш.2	±24		1 3/16/10	(m)	12(11)	1-3(0 L)	長さ	ı	幅	高	ž	段数	羡門施設	長さ	4	唱		長さ	幅	深さ	奥壁 部]
Α	107	6-9	横穴式	II	棺台	3.68		-13. 3	3.68	中央 奥壁	1.53	右側壁 左側壁	1.06 1.21	3			袖 玄門		下端 上端	:		1.55	0.20	
										入口	1.42	上 奥壁	1.21	8 2			開口		上姉					
	108	10	横穴式	IV ∼ VI		(1.78)		32.9	(1.78)	中央 奥壁	0.69	右側壁 左側壁	0.26	2			袖 玄門		下端 上端	3.72 4.05		0.46	0.20	
										入口	0.77	奥壁	-	0			開口							
	223	11	横穴式	IV ∼ VI		(2.06)	2.5m 以上	23.7	(2.06)	中央 奥壁	0.80	右側壁	0.30	2			袖 玄門		下端上端	2.55		0.51		
	22.1	10.1.0	to to N	***						入口	-	奥壁	-	0			開口							
	224	12-1 3	横穴式	V2		1.77		17.5	1.77	中央 奥壁	0.61	右側壁 左側壁	0.36	3			袖 玄門		下端上端	2.52	1.08	0.40		
	226	14	横穴式	IV ~		(0.98)		37.1	(0.98)	入口 中央	0.63	奥壁 右側壁	0.36	2 2			開口袖		下端	1.06	1.17	0.21		
	220	11	BOCA	VI		(0.50)		07.1	(0.50)	奥壁	0.02	左側壁	0.28	2			玄門		上端	1.50	1.41	0.21		
	228	15	横穴式	IV ~		(0.80)	1.4m	22.8	(0.80)	入口 中央	-	奥壁 右側壁	0.37	2			開口袖		下端	2.17	1.13	0.35	0.10	
				VI		(0.00)	以上		(0.00)	奥壁		左側壁	-	0			玄門							
	276	16-1 7	木棺直					-46.6		入口	-	奥壁	-	0			開口		下端	3.07	1.03	0.36		(周溝)
D	00	1400	葬																上端	3.35	1.64			- 公土後田博
В	96	14-2 0	不明																					前方後円墳 円筒埴輪
	249	29-3 0	横穴式	IV ∼ VI		(1.73)	4.8m 以上	-3. 6	(1.73)	中央 奥壁	0.93	右側壁 左側壁	0.34	2			袖 玄門		下端 上端	5.19 5.38		0.81	0.15	
					<u></u>					入口	-	奥壁	0.62	1			開口							
	250	31	横穴式	VII ?	棺台	(1.03)		-18. 2	(1.03)	中央 奥壁	0.40	右側壁 左側壁	0.16	1			袖 玄門		下端上端	1.20	0.89	0.20		
	0=1	00.00	48 P	***	td:/-	(0.12)		4.0	(0.1.2)	入口	-	奥壁	0.19	1			開口					0.50	0.10	
	251	32-3 3	横穴式	V 2	棺台	(2.16)		4.6	(2.16)	中央 奥壁	0.69	右側壁 左側壁	0.62	2			袖 玄門			2.80 3.15		0.73	0.10	
	253	34	横穴式	VI ?		(1.02)		-15. 4	(1.02)	入口 中央	0.67	奥壁	0.65	5			開口袖		下端	100	0.76	0.25		
	200	34	便八八	VI :		(1.02)		-15. 4	(1.02)	奥壁		右側壁 左側壁	0.10	0			玄門			1.23		0.23		
	254	35-3 7	横穴式	IV ∼	礫床?	(3.28)		-7. 3	(3.28)	入口 中央	1.05	奥壁 右側壁	0.20	1 4			開口袖		下端	366	2.39	1.34	0.10	
	201	0007	13(7)(2)	VI	BACALC .	(0.20)		1.0	(0.20)	奥壁	0.93	左側壁	0.99	5			玄門		上端	3.90	3.07	1.04	0.10	
	255	38	横穴式	IV ~		(0.32)	0.9m	-13. 0	(0.32)	入口 中央	-	奥壁 右側壁	1.12 0.22	5 2			開口袖		下端	1.30	1.28	0.89		
				VI		(***)	以上		,	奥壁	0.67	左側壁	0.15	1			玄門		上端	1.74				
	105	39-4 3	横穴式	II		4.07		1.8	4.07	入口 中央	2.12	奥壁 右側壁	0.38 1.28	1 4			開口袖		下端	4.53	3.36	1.55	0.20	
										奥壁 入口	1.80	左側壁 奥壁	1.29 0.90	5 1			玄門 開口		上端	5.30	3.58			
С	92	48-49	横穴式	ľÝ		6.92		52.2	4.23	中央	1.98	右側壁	2.36	7	立石	2.69	袖		下端	*	٠	1.36	0.15	
										奥壁 入口	1.34	左側壁 奥壁	1.51	6			玄門 開口	1 44	上端	•				
	235	50-53	横穴式	III ′		7.45		26.4	4.57	中央	1.11	右側壁	0.37	2	立石	2.88	袖		下端					周溝
										奥壁 入口	0.83	左側壁 奥壁	0.30	1 2			玄門 開口		上端					
D	95	56,58	横穴式	IV ∼ VI		(2.13)	3.7m 以上	23.3	(2.13)	中央 奥壁	1.22	右側壁 左側壁	0.35	2			袖玄門		下端上端		1.98	1.08	0.20	
										入口	1.24	奥壁	0.35	0			開口			4.50	2.48			
	115	57,59	横穴式	IV ∼ VI		(3.50)	4.5m 以上	27.2	(3.50)	中央 奥壁	0.98	右側壁 左側壁	0.56	3 2			袖 玄門		下端上端	4.82 5.30	3.27	1.10	0.25	
	200	40	In a N			10.001		20.4	10.00	入口	0.92	奥壁	0.52	1			開口						0.10	
	232	60	便八式	IV ∼ VI			0.8m 以上	28.1	(0.28)	中央 奥壁	L-	右側壁 左側壁	0.20	1			袖 玄門			1.15		0.58	0.13	
	233	61	横穴式	TV ~		(0.79)	19m	24.4	(0.79)	入口	-	奥壁 右側壁	0.20	1 0			開口袖		下端			0.46	0.05	
	200	91	IR/\J\	VI		(0.19)	以上	24.4	(0.13)	奥壁		左側壁	0.21	1			玄門			1.90		0.40	0.03	
	234	62-63	横穴式	IV ~		(0.83)		11.9	(0.83)	入口 中央	0.43	奥壁 右側壁	0.41	1			開口袖		下端	1.64	1.53	0.36		
				VI					, ,	奥壁		左側壁	-	0			玄門							
	236	64-65	横穴式	IV ~		(2.90)		34.1	(2.90)	入口 中央	-	奥壁 右側壁	0.38	2			開口袖					1.49	0.15	
				VI		,				奥壁		左側壁	0.90	3			玄門開口			4.77		-		
	237	66	横穴式	WI?		(0.32)		-6.0	(0.32)	中央		右側壁	0.76	1			袖		下端		0.93	0.24		
							以上			奥壁 入口	-	左側壁 奥壁	-	0			玄門 開口		上端	1.65	1.49	-		
	238	67	横穴式			(0.55)		21.8	(0.55)	中央	-	右側壁	0.17	1			袖			3.20		0.48		
				VI			以上			奥壁 入口	-	左側壁 奥壁	-	0			玄門 開口		上端	3.47	1.82			
	239	68	横穴式	IV ∼ VI		(2.13)		6.6	(2.13)	中央		右側壁	0.22	2			袖					0.68	0.07	
										奥壁 入口	-	左側壁 奥壁	-	0			玄門 開口			3.51				
	240	69-7 0	横穴式	V2		(4.75)		9.2	3.49	中央 奥壁	0.98	右側壁 左側壁	0.84	4		(1.26)	袖玄門			5.66 5.92		0.98	0.05	
			10							入口	0.82	奥壁	0.96	1			開口							
	241	71-72	横穴式	IV ∼ VI		(1.06)	1.5m 以上	13.6	(1.06)	中央 奥壁	-	右側壁 左側壁	0.16	1 0			袖 玄門			2.80 3.24		0.60	0.12	
	1									入口	-	奥壁	-	0			開口			, 5.5 2	1	1		

第2表 古墳一覧表(1)

支群	古墳番号	挿図 番号	主体部型式	分類	主体部内施設	全長 ()内は 残存長		開口方 向(S°E)			()内	ズ室 は残存長 数値の単f				羨道 内は残 の単位				数值	掘方 直の単f			外部施設
	•	•				(m)	24(11)		長さ	4	唱	高	ž	段数	羨門施設	長さ	1	唱		長さ	幅	深さ	奥壁 部	
D	242	73	横穴式	IV ∼ VI		-	1.2m 以上	16.3	-	中央 奥壁	-	右側壁 左側壁	-	0			袖 玄門		下端 上端	1.70 1.90	1.20 1.50	0.60	0.15	
	243	74- 75	横穴式	IV ∼ VI		-		55.6	-	入口 中央	-	奥壁 右側壁	-	0			開口 袖 左照		下端	5.91		1.92	0.10	
	244	77-7 8	横穴式			(1.53)		49.1	(1.53)	奥壁 入口 中央	-	左側壁 奥壁 右側壁	0.12	0 0			玄門 開口 袖		上端下端	2.30		0.82	0.10	
				VI		(2.00)			(2.00)	奥壁 入口	0.65	左側壁	0.29	2			玄門 開口		上端	2.43				
	245	79-80	横穴式	IV ∼ VI		(0.27)	1.4m 以上	8.3	(0.27)	中央 奥壁	-	右側壁左側壁	0.18	0			袖玄門		下端 上端	1.85 1.92	_	0.55	0.05	
Е	71	82-85	横穴式	II	棺台	3.70		-12.9	3.70	入口 中央 奥壁	1.85	奥壁 右側壁 左側壁	0.47 1.35 1.09	1 6 4			開口 袖 玄門		下端上端	4.43		0.76	0.05	
	116	86-88	横穴式	V1	礫床?	4.36		25.5	2.63	入口中央	1.36	奥壁 右側壁	0.90	2	立石	1.73	開口袖		下端	5.54		0.41	0.20	
	0.40	00.01	14: -4- 15	T/O		600		10.5	0.50	奥壁 入口	0.83	左側壁 奥壁	0.87	2	エナ	0.10	開口	0.86		5.74	2.83			日本カナ
	246	89-91	横穴式	V 2		6.82		18.5	3.72	中央 奥壁 入口	1.20 1.02 1.20	右側壁 左側壁 奥壁	1.48 1.26 1.46	4	立石	3.10	袖 玄門 開口	1.07 1.20 1.06	下端 上端	•	·			外護列石
	247	92-94	横穴式	V2		4.42		9.3	2.67	中央	0.99	右側壁	0.70	2	立石	1.75	袖玄門	0.84	下端 上端					外護列石
	248	95-9 6	横穴式	W2?		(2.72)		16.2	(2.72)	中央	0.98	奥壁 右側壁	0.85	7			袖	0.83	下端	3.14		0.50		
	252	97	横穴式	VI ?		(2.44)		-2.3	1.30	奥壁 入口 中央	0.70	左側壁 奥壁 右側壁	0.55 0.58 0.46	4 2 4		(1.14)	玄門 開口 袖	0.51	上端下端	2.88		0.25	0.10	
						, ,				奥壁 入口	0.53	左側壁	0.28	2		,	玄門 開口		上端	3.11				
	256	98	小竪穴 式	VII	棺台	1.00		23.9	1.00	中央 奥壁	0.51	右側壁	0.38	2			袖 玄門		下端 上端	1.45 1.67		0.22		
	257	99	横穴式	IV ~ VI		(1.70)		33.5	(1.70)	入口 中央 奥壁	0.46 0.77 0.67	奥壁 右側壁 左側壁	0.31 0.81 0.61	3 3			開口 袖 玄門		下端上端	2.46		0.72		
	258	100	(横穴	IV ~		(0.54)			(0.54)	入口 中央	0.70	奥壁 右側壁	0.78	3			開口袖		下端	1.82	0.44	0.31		
	050	101-102	式?)	VI? IV∼		(1.72)		10.0	(1.70)	奥壁 入口	-	左側壁 奥壁	0.20	3			玄門 開口		上端	2.26		0.41		
	209	101-102	傾八式	VI		(1.73)		10.3	(1.73)	中央 奥壁 入口	0.67 0.65 0.65	右側壁 左側壁 奥壁	0.39 0.39 0.51	3 3			袖 玄門 開口		上端	2.64		0.41		
	260	103-104	横穴式	VI	棺台 閉塞石	5.68		12.9	2.72	中央 奥壁	0.98 0.81	右側壁 左側壁	0.86 1.02	5 6		2.96	袖玄門	0.80	下端 上端	7.60 7.99		1.28		
F	222	107	横穴式	IV2		3.10		17.1	3.10	中央 奥壁	0.94 0.85 0.67	奥壁 右側壁 左側壁	1.10 1.03 0.94	6 6			開口 袖 玄門	0.93	下端上端	3.20		0.50	0.08	外護列石
	225	108-109	横穴式	IV2	礫床	4.20		30.1	2.23	入口中央	0.76	奥壁 右側壁	1.02	5 7	立石	1.97	開口袖	0.80	下端	4.51		1.27		外護列石
	005	110 110	4世/キート	W/O		(0.25)	2.5	00.0	0.25	奥壁 入口	0.81	左側壁 奥壁	0.99	5 4			玄門 開口	0.85	上端	5.00		1.01		日部が子
	227	110-112	慎 /式	IV 2		(2.65)	3.5m 以上	26.2	2.65	中央 奥壁 入口	0.83 0.66 0.76	右側壁 左側壁 奥壁	0.47 0.33 0.53	1 1			袖 玄門 開口	0.63	下端 上端	3.75 4.06		1.21		外護列石
	229	113	横穴式	V2		(2.16)		6.2	1.72	中央	0.77	右側壁	0.63	4		(0.44)	袖玄門	0.72		2.18		0.65		
	230	114	横穴式	IV2		3.80		14.3	3.18	入口 中央		右側壁	0.65	4		(0.62)					1.73	0.70	0.12	
	231	116	横穴式	M s	閉塞石	3.10			3.10	奥壁 入口 中央	0.78	左側壁 奥壁 右側壁	0.56 0.73 0.96	3			玄門 開口 袖		上端	2.20	1.92			外護列石
	201	-110	50,000		.w=2°H	0.10			0.10	奥壁 入口	0.67	左側壁	0.83				玄門開口		上端	*	*			800 974
		117-118																						周溝
	278	119-12 0	土壙?																					周溝 石積み

第3表 古墳一覧表 (2)

1																	須原	恵器																土角	师器		
接換 7 5 1 1 1 1 3 3		古	ж	杯	杯	鉢	蓋	蓋	高	有	無	高	有	有	短	短	長	広	直	壺	腿	台	台	提	細	平	甕	高	壺	提	不	杯	広	直	壺	雞	小
10 / 元	地区	墳番号	土層位	蓋	身	?	杯		杯蓋	蓋高杯	蓋高杯	杯	蓋台付壺蓋	蓋台付壺	頸壺蓋	頸壺	頸壺	口壺				頸	付壺	瓶	頸	瓶		杯?		瓶	明			П			甕
分別 7 8 1 1 1 1 1 3 3		107		7			,			1		3								2				1						١,						1	
A 28년 년 1 1 1 1 1 1 1 2 4 2 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1		107		7			_	_		1		3								2				1												1 2	
A 228 MIT.		223	埋土																																	2	
	Δ	224									1															1										Н	
200 株理 1	11	221	小計								1															1											
大き性 大きせ 大		276		_																																1	
保護 大き 大き 大き 大き 大き 大き 大き 大			小計																																	1	
Part		表・																								1										1	
下記 下記 下記 下記 下記 下記 下記 下記		249	埋土																																		
B R R R R R R R R R											1															1			1							H	
R		251	埋土																																		
D				4	3					1																										1	
10	В	254	埋土									1	_																								
採摘 16 14 1 1 1 1 1 1 1 1 2 4 2 1 2 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		104		4	3					_	2	1		1																						1	
小計 16 15 2 1 1 1 1 2 4 2 2 2 2 1 1 1 1 1 1		105	床面	16					1	1	1	1	1	1	2	4		2	-	2									,				1			1	
Refin		105		16					1	1	1	1	1	1	2	4		2		2													1			1	
Part		表·		1				2			1																1				1					3	
C 235 接信		92	埋土								1																									\Box	
235 現土	С										_	_					1																			3	
表 放		235	埋土													_																				5	
115 124 1		表•									1					1				2			1		1											8 9	
234 規土		95	床面															1															1			Ì	
株面				1	1						1															1										\vdash	
No.			床面		1																																
240 埋土 1 </td <td></td> <td>236</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td></td>		236			1																															1	
小計		240			1	1																						1								П	
241 埋土 1 小計 2 243 埋土 2 244 埋土 1 245 埋土 2 球面 3 71 埋土 4 4 1 小計 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 2 1 1 1 2 1 2 1 1 1 2 1 2 1 2 1 2 1 1 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1	D	240				1																															
小計 2		941																																		1	
244 埋土 245 埋土 1 <t< td=""><td></td><td>241</td><td>小計</td><td></td><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td></td></t<>		241	小計		2																															1	
245 埋土 妻・流土 2 1					2		1																			1			1						1	1	
Ref Ref		245	埋土																							1											1
71 理土 4 1 1 1 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		表・		3	2]	_				1]	1			1			2							1					\vdash	
Ref		71	埋土	4																																	
116 埋土 小部 4 4 4 1 1 1 1 1 1 246 埋土 1							1	2								1	1	1			1			2		1					1	_					
246 埋土 1 247 埋土 1 248 埋土 1 小計 1 257 埋土 1 259 埋土 1 260 床面 1 表 流土 7 25 床面 1 227 埋土 1 200 床面 1 227 埋土 1 200 床面 1 227 埋土 1 200 床面 3 3 1 200 床面 3 3 1 1 1 200 床面 3 3 1		116	埋土																																		
E 247 埋土		246	埋土	4	4						1									1						1						1					
248 理土 小計 70	Е	247	埋土								1																										
257 埋土 1 259 埋土 1 260 床面 1 表·流土 7 9 5 5 3 1 1 227 埋土 1 230 床面 3 3 1		248	埋土																																		
259 埋土 1 1 1 260 床面 1 1 1 表・流土 7 9 5 5 3 1 1 1 2 1 5 227 埋土 227 埋土 230 床面 3 1 <td></td> <td>957</td> <td>小計</td> <td></td> <td>1</td> <td></td>		957	小計																							1											
表·流土 7 9 5 5 3 1 1 1 2 1 5 225 床面 1 1 1 2 1 5 227 埋土 1 1 1 1 2 1 5 230 床面 3 1		259	埋土	1	1		1																														
225 床面 1 227 埋土 1 230 床面 3 1				7	Q		5				1			3								1				1	9			1	5					2	
230 床面 3 1		225	床面	Ľ			- 3							J								_			1	1				1	3						
		227	埋土 床面	H						3	1																								1	\vdash	
277 埋土 1 1 1 1 1	F	277	埋土	1							Ĺ																1							1			
278 埋土							1																				1								1	Н	

第4表 出土遺物一覧表(1)

				土角	师器					馬	具		武具				j	麦身	Į.			工	具	その	り他		石	器							
高杯	柳ヶ坪型壺	二重口縁壺	有段口縁壺	長頸壺	S字甕	宇田型甕	一付	椀	不明	轡	鉸具	鉄剣	鉄刀	鉄鏃 (?)	耳環	勾玉	切子玉	棗 玉	管玉	白玉	丸玉・小玉	刀子	不明	鉄釘·鎹	鉄滓	石鏃	削器	石匙	その他	弥 生 土器	灰釉陶器	山茶碗	かわらけ	出土層位	古墳番号
										1	2			10	1		1				4 24	2												床面 埋土	107
										1	2			12	1		1				28	2												小計	
									1																									埋土 床面	223
									1	_															2									埋土 小計	224
												1																						床面	
4		5							3			1																						埋土 小計	276
																										1								表· 床面	流土
																								1										埋土	249
																								1										小計 床面	
									1	_																								埋土	251
									1					(2)										2										小計 床面	
														(2)										2										埋土 小計	254
																		1				_												床面	104
													1	16						1		2										1		床面 埋土	105
2							1		1				3	16						1		2			1				1			1	1	小計表・	 流士
															1										_							0		床面	
								1	_						1																1	2		埋土 小計	92
									6	-					2												1	1	1	3				床面 埋土	235
									8						2												1	1	1	3				小計	
									4																				2	2	1	1		表· 床面	流土 95
																																		埋土 埋土	115 234
																																		床面	
									1																									埋土 小計	236
																																		床面 埋土	240
																																		小計	240
																																		床面 埋土	241
																									1									小計 埋土	243
																									1									埋土	244
					1																													埋土 表・	<u> 245</u> 流土
													1	11 3		1			1		4	2	1											床面 埋土	
													1			1			1		4													小計	,,,
									1																									床面 埋土	116
									1																									小計	1
																																		埋土 埋土	246
														1	1																			床面 埋土	248
														1	1																			小計	
																																		埋土 埋土	259
																																		床面 表・	260
																																		床面	225
																																		埋土 床面	230
6	1			1	3 2				2																									埋土 埋土	277
1			1		Ľ	1																												表・	<u> 2/8</u> 流土

第5表 出土遺物一覧表(2)

番号	地区	古墳 番号	出土 層位	整理 種類	器種	残存部位	口径	法器高	量(cm) その他	型式	調整・文様	色調・焼成	胎土	備考
-	試排		表土	須恵器	魙	口縁~体 部一部		15.4		5C後半	タタキ後カキ目		密(砂粒若干含)	
2	A	107	床面	7 須恵器	杯蓋	口縁2/3欠	13.0			畿内4-5	天井部ヘラ切り無調整	紫灰5RP5/1・良好	密(混入物無し)	8とセット
3		107	床面	1 須恵器	杯蓋	完形	12.6			畿内6	天井部ヘラ切り無調整		密(黒色粒子多)	
4		107	床面	2 須恵器	杯蓋	完形	13.8			畿内4-5	天井部1/3不定方向 のヘラケズリ		密(~1mmの白色砂粒若 干含・黒色粒子多)	
6	A	107	床面	4 須恵器 3 須恵器	杯蓋	完形	13.8			畿内4-5 美濃9	天井部ヘラ切り無調整 天井部ヘラ切り無調整		密(~1cmの白色礫多含) 密(0.1~0.3mmの白色砂 粒少含)	美濃須衛ではない
7	Α	107	床面	17 須恵器	蓋	完形	13.3	4.4	つまみ径3.4 つまみ高0.6	畿内4-5	リ(右)・内面天井部中 央不定方向直線的な	青灰5PB5/1・良好	密(0.1mmの白色砂粒若 干含)	
8	A	107	床面	10 須恵器	杯身	完形	11.9	4.2	受部径14.3 立上高1.0	畿内6	ナデ 底部ヘラ切り無調整	紫灰5RP5/1・良好	密(混入物無し)	2とセット
9	Α	107	床面	8 須恵器	杯身	完形	11.4	3.9	受部径13.8	畿内6	底部ヘラ切り無調整	青灰5PB5/1・良好	密(混入物無し)	
10	Α	107	床面	11 須恵器	杯身	完形	11.0	4.1	立上高1.1 受部径13.4 立上高0.7	畿内(6~)7	底部ヘラ切り無調整	青灰5PB5/1・良好 (自然釉)	密(混入物無し)	
11	Α	107	床面	9 須恵器	杯身	完形	11.7	4.4	受部径13.8	尾張4	底部2/3丁寧なヘラ		普(0.1mm~0.3mmの白	
			-b-re-	- (22-14-111					立上高1.3	and the second	ケズリ(左)		色砂粒多含・黒色粒子	
13		107	床面床面	5 須恵器 6 須恵器	杯蓋	口縁1/10 口縁一部	12.2			畿内4-5 畿内4-5	不明不明	暗青灰5PB4/1·良好 紫灰5P5/1·良好	密(混入物無し) 普(0.1~0.3mmの白色砂 粒少含)	
14	Α	107	床面	12 須恵器	杯身	口縁一部			立上高1.2	畿内4-5		暗青灰5PB4/1・良 好	密(0.1mm~0.3mmの白 色砂粒少含)	
15	A	107	床面	18 須恵器	有蓋高杯	脚部一部 欠	12.2	17.1	受部径14.9 立上高1.0 杯部高4.9 脚部高12.2 脚端部径14.0	畿内6	杯底部1/2ヘラケズ リ(右)・脚部2条の凹線・裾1条の凹線	··•	普(0.1~0.3mmの白色砂粒多含)	
16	Α	107	床面	21 須恵器	高杯	脚部1/2			脚基部径3.6 脚端部径10.2	畿内4-5		灰N6/0 ·良好	密(混入物無し)	7のような蓋
17	Α	107	床面	22 須恵器	高杯	脚部1/4			脚端部径10.6	畿内4-5		紫灰5P6/1·良好	普(0.1~0.3mmの白色砂	7のような蓋
18	A	107	床面	19 須恵器	高杯	脚部1/5			脚端部径8.2	畿内4-5	裾部1条の沈線	暗紫灰5P4/1・良好	粒若干含・黒色粒子多) 普 (0.3mmの白色砂粒若	7のような蓋
19	A	107	床面	24 須恵器	壺	口縁部欠			体部径15.6 体部高12.1	畿内5-6	底部2/3粗雑なヘラ ケズリ(左)・体部カキ	紫灰5P5/1・良好	干含・2mmの礫若干含) 密(黒色粒子多)	
20	Α	107	床面	25 須恵器	(広口)壺	口縁~体 部1/2			頸部径5.4	畿内5-6	目・口縁部2条の沈線	暗青灰5PB4/1 ·良 好	普 (~2mmの礫若干含・ 黒色粒子少)	
21	Α	107	床面	26 須恵器	提瓶	口縁欠			体部高17.0 頸部径5.4	畿内5-6	体部腹・背面カキ目・ 頸部カキ目		無色粒子少) 密(0.5mmの白色砂粒若 干含・黒色粒子若干)	環状把手
22	A	107	床面	73 土師器	魙	口縁一部			独印住3.4		体部外面タテハケ、内	暗灰黄2.5 Y 5/2·良	普(~1mmの砂粒少混	
44	A	107	埋土	15 須恵器	杯身	完形	10.7	4.2	受部径13.0 立上高0.6	畿内(6~)7	面ヨコハケ 底部ヘラ切り無調整	好 青灰5PB6/1・良好	入) 密(黒色粒子多)	
45	Α	107	埋土	13 須恵器	杯身	口縁1/8	12.0		受部径14.6	畿内6		青灰5PB5/1 ·良好	密(混入物無し)	
46	Α	107	埋土	74 土師器	魙	口縁部一 部·底部	15.7		立上高0.9 頸部径12.9		体部外面はタテハケ、 内面上半はヨコハケ、 下半ケズリ		普(~2mmの砂粒少混 入)	外面底部へラ記号 「×」
	Α	107	埋土	14 須恵器	杯身	口縁一部				不明		青灰5PB6/1 ·良好	密(混入物無し)	
	Α	107	埋土	16 須恵器	蓋杯	(立上) 天井(底)部				不明	底部ヘラケズリ(右)	灰N5/0 ·良好	密(0.2mmの砂粒多含・黒	
	Α	107	埋土	27 須恵器	提瓶?	体部一部				不明	カキ目	暗紫灰5P4/1·良好	色粒子多) 密(0.3~1mmの白色砂粒	
	A	223	埋土	1 土師器	魙	体部一部					外面ハケメ	浅黄橙10YR8/3 ·良	若干含) 密(~1mmの砂粒多含)	
	Α	223	埋土	2 土師器	蹇	体部一部					外面ハケメ	にぶい黄橙 10YR7/4・良好	密(~1mmの砂粒多含)	
	Α	223	埋土	3 土師器	不明	不明						橙7.5YR6/6 ·良好	密(~1mmの砂粒若干	
73	A	224	床面	1 須恵器	無蓋高杯	完形	12.0	9.9	杯部高3.1 脚部高6.8 脚端部径8.6 脚基部径2.4	美濃9		灰白2.5Y7/1·良 好 (自然釉)	密(0.3mmの白色砂粒少 含・黒色粒子少)	
74	Α	224	床面	2 須恵器	平瓶	完形	7.0	16.3	体部径16.7 体部高9.5 頸部径4.6	美濃9-10	底部タタキ(斜格子)	黄灰2.5 Y6/1・良好 (自然釉)	密(0.3mmの白色砂粒若 干含・黒色粒子少)	
	Α	224	埋土	3 土師器	不明	不明						にぶい橙5YR6/4・ 良好	密(白色砂粒若干含)	
76	Α	276	埋土	1 土師器	有段高杯	脚部2/3・ 杯部一部			脚基部径2.3	フォーラムIV	ミガキ?		普(~1mmの砂粒少混	
77	A	276	埋土	2 土師器	有段高杯	杯·脚部一 部				フォーラムIV	ミガキ?	橙7.5 YR 6/6・良好	入) 密(~1mmの砂粒少混 入)	
78	A	276	埋土	4 土師器	有稜高杯	杯体部一部				フォーラムIV	内面ミガキ?	橙5YR 7/6 ·良好	密(混入物無し)	
	Α		埋土	6 土師器		口縁部2/3			頸部径9.0			浅黄橙7.5 YR 8/4· 良好	密(〜5mmの礫少・〜 2mmの砂粒多混入)	
80		276	埋土	8 土師器	壺	日縁部一部					四線部内面上半爪形 文を下段はハ字状 に、上段はノ字状に施 す。5.8.9と文様の位 置が違う。	7/4・やや不良	密(~1mmの砂粒多混 入)	
	Α	276	埋土	14 土師器	高杯	脚部一部					, -	浅黄橙10YR 8/4・ 不良	普(~2mmの砂粒少混 入)	
	Α	276	埋土	9 土師器	二重口縁	口縁部一部					口縁部内面上半爪形 文をハ字状に施す		普(~2mmの砂粒多混 入)	79と同一個体の可能性有り
	A	276	埋土	3 土師器		不明					外面ミガキ?	橙5YR 7/6 不良	普(~5mmの礫若干混	

第6表 土器観察表(1)

番号		古墳 番号	出土 層位	整理 番号	種類	器種	残存部位	口径	法器高	量(cm) その他	型式	調整・文様	色調・焼成	胎土	備考
81	A A	276 276	埋土 主体部		土師器 土師器	不明二重口縁	不明 口縁部一					内面に文様は施され	橙7.5YR 7/6·良好 橙7.5YR 7/6·良好	密(混入物無し) 密(~5mmの礫少混入)	
82	A	276	以外 主体部		土師器	壺	部口縁部一					ない。 口縁部内面上半爪形	にぶい橙7.5YR	密(~1mmの砂粒混入)	
	Α	276	以外 主体部		土師器	壺	部体部一部					文をハ字状に施す 外面ハケメ	7/4・良好 橙7.5YR 7/6・良好	普(~1mmの砂粒多混	
			以外									JFШ/1//		入)	
	А	276	主体部 以外		土師器	不明	不明							密(混入物無し)	
156	В	249	表・流 床面		土師器 須恵器	平瓶	体部一部 完形	6.3	11.4	体部径14.3 体部高6.9 頸部径3.9	美濃9	外面ハケメ 底部~体部雑なヘラ ケズリ		粗(〜2mmの砂粒多含) 普(0.3mmの白色砂粒少含)	猿投?
	В	249	埋土	2	須恵器	壺?	底部一部					ヘラケズリ(不明)	灰N6/0 ·良好	密(~0.2mmの白色砂粒 少含)	
158	В	251	床面	1	須恵器	無蓋高杯	杯部1/2欠	8.8	9.2	杯部高6.0 脚部高3.2 脚端部径8.2 脚基部径1.9	美濃 9-10		灰白5Y7/1 ·良好	普 (0.3mmの白色砂粒若 干含)	
	В	251	構築以 前	2	土師器	不明	不明						橙5YR6/8・やや不 良	普(~1mmの砂粒多含)	埴輪片か?
159	В	254	床面	2	須恵器	杯蓋	完形	8.5	3.3	つまみ径2.0 つまみ高0.9 かえり高0.3	美濃9	天井部4/5ヘラケズ リ(右)	灰白7.5 Y7/1・良好	密(~0.5mmの砂粒若干含)	内面へラ記号 「×」・胎土粒子が 緻密なため美濃須 衛によく似る。
160	В	254	床面	4	須恵器	杯蓋	完形	9.2	3.2	つまみ径2.2 つまみ高1.3 かえり高0.3	美濃9	天井部4/5ヘラケズ リ(右)	灰N6/0・良好	密(~0.5mmの砂粒若干含)	内面へラ記号 「×」・胎土粒子が 緻密なため美濃須 衛によく似る。
161	В	254	床面	3	須恵器	杯蓋	完形	8.8	3.4	つまみ径2.2 つまみ高1.3 かえり高0.2	美濃9	天井部1/2ヘラケズ リ(右)	灰白5Y7/1・良好	密(黒色粒子若干)	内面へラ記号[テ] 状・胎土粒子が緻密なため美濃須衛 によく似る。
162	В	254	床面		須恵器		口縁1/3欠	9.6		つまみ径2.2 つまみ高0.9 かえり高0.2	美濃9	天井部2/3ヘラケズ リ(右)・天井部中央不 定方向直線的なナデ			胎土粒子が緻密な ため美濃須衛によく 似る。
163	В	254	床面			杯身	欠	10.0		底径6.8	美濃9	口縁部下凹線	不良(自然釉)	普(0.1mm~1mmの白色 砂粒少含)	「又」状・深身・腰に 丸み・ヘラケズリ 無し
164	В	254	床面	5	須恵器	杯身	口縁一部欠	10.0	5.6	底径6.0	美濃9	口縁部下凹線	灰白10YR7/1・やや 不良 	普(0.5mmの白色砂粒少含)	外面底部へラ記号 「又」状・深身・腰に 丸み・ヘラケズリ 無し
165	В	254	床面	7	須恵器	杯身	完形	10.1	4.6	底径6.2	美濃9		明紫灰5RP7/1 ·良 好	密(混入物無し)	深身・腰に丸み・ヘ ラケズリ無し
166	В	254	床面	8	須恵器	有蓋高杯	口縁·脚部 一部欠	9.7	9.4	受部径11.7 立上高0.9 杯部高3.7 脚部高5.7 脚端部径9.8 脚基部径2.6	美濃9	脚部 2 条の凹線	灰白5Y7/1・良好	普(0.5mmの白色砂粒少含)	美濃須衛・未知の 器形・長脚2段スカ シの名残
167	В	254	床面	10	須恵器	無蓋高杯	口縁1/3· 脚部1/2欠	14.4	12.5	杯部高4.3 脚部高8.2 脚端部径11.3 脚基部径3.6	畿内7-8	杯底部1/3ヘラケズ リ(右)・底部内面中央 に不定方向直線的な ナデ・杯腰部1条の 沈線	灰N6/0・良好	密 (0.5mmの白色砂粒若 干含)	
168	В	254	床面	9	須恵器	無蓋高杯	口縁一部・ 脚部2/3欠	11.2	10.6	底径9.0 杯部高3.6 脚部高7.0 脚端部径9.2 脚基部径2.8	美濃9-10	TAURK	灰白10YR7/1・良好 (自然釉)	普(1mmの白色砂粒少含・黒色粒子少)	尾崎大平・やや新 しい形
173		254 254	床面 埋土		土師器 須恵器		体部一部 脚裾部一部						浅黄橙10YR8/4·不良 灰白5Y7/1·良好	普(黒色粒子少) 密(混入物無し)	
173		105	床面		須恵器		口縁一部欠	15.1	4.8		畿内3	天井部切り離し後ナ デ?(右)		雷(0.3~0.5mmの白色砂 粒多含)	
175	В	105	床面	8	須恵器	杯蓋	完形	14.9	5.2		畿内3	天井部1/2ヘラケズ リ(左)・天井部内面中 央に当て具痕		密(0.3mmの白色砂粒少含)	190とセットで出土
176	В	105	床面	11	須恵器	杯蓋	口縁一部欠	14.8	4.1		畿内3	天井部1/2ヘラケズ リ(左)・天井部内面中 央には当具痕	暗紫灰5P4/1·良好	普(~5mmの礫多含)	184と似る
177	В	105	床面	15	須恵器	杯蓋	口縁1/10 残	14.8			畿内3	ヘラケズリ不明	紫灰5RP6/1・良好	密(0.1mmの白色砂粒若 干含)	
178	В	105	床面	1	須恵器	杯蓋	完形	15.4	4.9		畿内3	天井部2/3ヘラケズ リ(右)・天井部内面中 央に不定方向直線的 なナデ	青灰5PB5/1・良好	TB) 粗(0.3~0.5mmの白色砂 粒多含)	 195とセット(I)・川 砂利混入
179	В	105	床面	6	須恵器	杯蓋	完形	15.8	4.7		畿内3	1	青灰5PB5/1・良好	粗 (0.5~1mmの白色砂粒 少含)	195とセット(I)・川 砂利混入
180	В	105	床面	4	須恵器	杯蓋	完形	15.2	5.1		畿内3	天井部1/2ヘラケズ リ(右)・天井部内面中 央に不定方向直線的 なナデ	灰7.5 Y6/1・良好	粗(0.3mmの白色砂粒少含)	195とセット(I)・川 砂利混入

第7表 土器観察表 (2)

番号	地区	古墳 番号	出土 層位	整理 種類	器種	残存部位	口径	法 器高	量(cm) その他	型式	調整・文様	色調・焼成	胎土	備考
181		105	床面	2 須恵器	杯蓋	口縁一部 欠	15.8			畿内3	天井部2/3ヘラケズ リ(右)・天井部内面中 央に不定方向直線的 なナデ	灰N6/0・良好	粗(0.3mmの白色砂粒少含・1mmの礫若干含)	196とセット(I)・川 砂利混入
182	В	105	床面	7 須恵器	杯蓋	口縁一部欠	15.3	4.8		畿内3		青灰5PB5/1・良好	粗(0.3mmの白色砂粒多含)	196とセット(I)・川 砂利混入
183	В	105	床面	12 須恵器	杯蓋	完形	13.5	4.5		畿内4			密(0.1~0.5mmの白色砂	
184		105	床面	16 須恵器	杯蓋	口縁1/8残	13.4			畿内4	不明	好	粒少含・黒色粒子多) 普 (0.3mmの白色砂粒少含)	
185	В	105	床面	13 須恵器	杯蓋	完形	13.8	4.4		畿内4	天井部ヘラ切り無調 整	紫灰5RP6/1・良好	普 (0.3~0.5mmの白色砂 粒多含)	
186	В	105	床面	3 須恵器	杯蓋	完形	13.7	4.4		畿内5	天井部2/5ヘラケズ リ(右)・天井部内面中 央に不定方向直線的 なナデ	灰N6/0・良好	普(0.1mmの白色砂粒少含)	201とセット(I)
187	В	105	床面	14 須恵器	杯蓋	口縁2/3残	13.4			畿内5	不明	灰N6/0・良好	普(0.3~1mmの白色砂粒 少含・黒色粒子多)	203とセット
188	В	105	床面	9 須恵器	杯蓋	完形	13.9	4.5		尾張3	天井部1/2ヘラケズ リ(右)・全体的に薄手	灰N6/0・良好	普 (0.3~1mmの白色砂粒 若干含)	猿投
189	В	105	床面	10 須恵器	杯蓋	口縁一部 欠	14.6	4.8		尾張3	天井部2/3ヘラケズ リ(右)・全体的に薄手	青灰5PB6/1・良好	密(0.3mmの白色砂粒少含)	猿投
190	В	105	床面	25 須恵器	杯身	完形	13.0	5.6	受部径15.2 立上高2.1	尾張 1-2		青灰5PB6/1・良好	普(0.3mmの白色砂粒多 含・2mmの礫若干含)	175とセットで出土
191	В	105	床面	22 須恵器	杯身	完形	13.4	4.6	受部径16.5 立上高1.3	畿内3		青灰5PB5/1・良好	粗(0.3mm~1mmの白色 砂粒若干含・黒色砂粒多 含)	
192	В	105	床面	19 須恵器	杯身	完形	13.0	4.6	受部径16.0 立上高1.4	畿内3	底部2/3ヘラケズリ (右)・底部内面中央 に不定方向直線的な ナデ	青灰5PB5/1・良好	粗(0.5mmの白色砂粒多含)	180とセット(I)・川 砂利混入
193	В	105	床面	21 須恵器	杯身	完形	13.7	5.1	受部径16.8 立上高1.4	畿内3	底部2/3ヘラケズリ (右)・底部内面中央 に不定方向直線的な ナデ	青灰5PB5/1・良好	粗(0.5mm~1mmの白色 砂粒少含)	179とセット(I)・川 砂利混入
		105	床面	24 須恵器		完形	12.4		受部径15.1 立上高1.5	畿内4		好	普 (0.3mm~1mmの白色 砂粒若干含)	
195	В	105	床面	18 須恵器	杯身	完形	13.6	4.6	受部径16.6 立上高1.7	畿内3	底部4/5ヘラケズリ (右)・底部内面中央 に不定方向直線的な ナデ	青灰5PB5/1・良好	粗(0.3mm~1mmの白色 砂粒若干含・黒色砂粒多 含)	
196	В	105	床面	23 須恵器	杯身	受部一部 欠	13.4	4.9	受部径16.6 立上高1.4	畿内3	底部3/4ヘラケズリ (右)・底部内面中央 に不定方向直線的な ナデ	灰N6/0・良好	粗 (0.5mmの白色砂粒若 干含・黒色砂粒若干含)	
197	В	105	床面	20 須恵器	杯身	完形	12.6	4.4	受部径15.2 立上高1.3	畿内4	底部ヘラ切り無調整	紫灰5RP5/1・良好	普(0.3mmの白色砂粒若 干含)	194と似る
198	В	105	床面	27 須恵器	杯身	完形	13.2	4.8	受部径15.8 立上高1.3	畿内5	底部1/2ヘラケズリ (左)・底部内面中央 に当て具痕	紫灰5P6/1・良好	密(0.1mm~0.3mmの白 色砂粒多含)	
199	В	105	床面	26 須恵器	杯身	完形	12.7	5.3	受部径15.0 立上高1.6	畿内5	底部1/2ヘラケズリ (右)	灰N6/0・良好	普(0.1mm~0.3mmの白 色砂粒少含・黒色粒子	
200	В	105	床面	17 須恵器	杯身	完形	12.2	4.6	受部径14.8 立上高1.0	畿内5	底部2/3ヘラケズリ (右)・底部内面中央 に不定方向直線的な ナデ	灰N5/0·良好	密 (0.3mm~0.5mmの白 色砂粒少含)	
201	В	105	床面	28 須恵器	杯身	完形	12.3	3.2	受部径14.7 立上高1.1	畿内5	底部1/2ヘラケズリ (右)・底部内面中央 に不定方向直線的な ナデ	灰N5/0・良好	普 (0.3mm~1mmの白色 砂粒少含)	186とセット
202	В	105	床面	29 須恵器	杯身	口縁1/4と 底部欠	12.0		受部径14.6 立上高0.9	畿内5		紫灰5RP6/1·良好	普(0.1mm~0.3mmの白 色砂粒少含・黒色粒子若 干)	
203	В	105	床面	31 須恵器	杯身	口縁立ち 上がり一部			立上高1.1	不明		青灰5PB5/1·良好	普(混入物無し)	
204	В	105	床面	32 須恵器	高杯蓋	口縁一部欠	17.4	7.4	つまみ径3.5 つまみ高2.0	畿内3-4	天井部1/2ヘラケズリ (右)・天井部内面中 央不定方向直線的な ナデ・天井部外面クシ 状工具による列点文 1 帯	青灰5PB5/1・良好	普(〜5mmの白色砂粒・ 礫多含)	つまみ・文様は古 相
		105	床面		有蓋高杯				立上高2.1 杯部高6.5 脚部高17.4 脚端部径15.0 脚基部径5.8	畿内3-4	杯底部2/3ヘラケズ リ(左)・底部内面中央 に不定方向直線的な ナデ・脚部2条の凹 線・脚部波状文	(自然釉)	普(0.3mmの白色砂粒多含・1mmの礫多含)	文様は古相
206	В	105	床面	34 須恵器	無蓋高杯	完形	10.4		杯部高4.2 脚部高9.9 脚端部径9.8 脚基部径3.3	畿内5	杯底部1/3ヘラケズ リ(右)・脚部上下スカ シ間,裾それぞれ2条 の凹線		普(0.5mmの白色砂粒少含)	
207	В	105	床面	35 須恵器	高杯	脚裾部2/3			脚端部径12.8			灰白5Y7/1·良好	普(~1mmの砂粒少含)	長脚

第8表 土器観察表(3)

番号	地区	古墳 番号	出土	整理番号	種類	器種	残存部位	/7		量(cm)	型式	調整・文様	色調・焼成	胎土	備考
208		105	層位 床面		須恵器	有蓋台付	口縁一部	口径 11.0	器高 5.5	その他 つまみ径3.0	畿内3-4		灰5Y6/1・良好(自	 普(~1mmの白色砂粒多	
						壺蓋	欠			つまみ高1.6		(右)・天井部内面中央 に不定方向直線的な ナデ・天井部外面クシ 状工具による列点文 2 帯		含)	
209	В	105	床面	37	須恵器	有蓋台付 壺	完形	9.4	28.3	脚部高10.0 脚端部径14.2 脚基部径6.0 体部径16.4 体部高11.4 頸部径7.2	畿内3-4	体部下半カキ目・口 縁, 脚部波状文・肩部 列点文, 凹線	灰7.5 Y6/1・良好	普(0.1mmの白色砂粒多含・黒色粒子多)	
210	В	105	床面	48	須恵器	直口壺	口縁1/4	9.6		頸部径9.2	畿内4-5		青灰5PB6/1 ·良好	普(0.5mmの白色砂粒少含)	
211	В	105	床面	38	須恵器	短頸壺蓋	完形	7.9	3.4		畿内4-5	天井部1/3不定方向 ヘラケズリ	赤灰5R6/1・やや不 良	普 (0.3~1mmの白色砂粒 少含)	212の蓋 赤色顔料塗布?
212	В	105	床面	39	須恵器	短頸壺	完形	6.0	9.5	体部径12.2 体部高8.4	畿内4-5	底部1/5不定方向へ		普(~2mmの砂粒少含)	
213	В	105	床面	40	須恵器	短頸壺蓋	口縁一部 欠	10.0	4.2	つまみ径2.5 つまみ高0.8	畿内3?	天井部1/2ヘラケズ リ(右)	黄灰2.5 Y6/1・良好	普(1mmの礫少含)	214の蓋
214	В	105	床面	41	須恵器	短頸壺	完形	7.5	7.6	体部径13.4 体部高6.6 頸部径7.6	畿内3?	底部2/3ヘラケズリ (右)・肩部1条の凹線	灰N6/0・良好	普(1~2mmの礫少含)	213とセット
215	В	105	床面	42	須恵器	短頸壺	完形	8.6	11.7	体部径17.6 体部高10.0 頸部径9.0	畿内4-5	底部1/2不定方向へ ラケズリ	青灰5PB5/1・良好	密(1mmの礫若干含)	蓋を重ねて焼成し た痕跡が見られ、 本来有蓋のものと 思われる。
216	В	105	床面	43	須恵器	短頸壺	完形	6.9	8.7	体部径12.8 体部高7.6 頸部径7.6	畿内4-5	底部2/5粗雑なヘラ ケズリ(左)	灰7.5 Y6/1・良好	密(0.3mmの白色砂粒少含・黒色粒子少)	蓋を重ねて焼成し た痕跡が見られ、 本来有蓋のものと 思われる。
217	В	105	床面	45	須恵器	広口壺	口縁一部欠	12.7	17.0	体部径17.2 体部高12.3 頸部径9.3	畿内5-6	底部1/2ヘラケズリ (左)・頸部カキ目	灰白2.5 Y7/1・やや 不良(自然釉)	普(~5mmの礫少含・黒 色粒子多)	
218		105	床面			広口壺	完形	11.0	11.9	体部径14.3 体部高9.2 頸部径7.9	畿内4-5	底部1/2ヘラケズリ (左)	(自然釉)	密(0.3mmの白色砂粒少含)	
219	В	105	床面	47	須恵器	長頸瓶	口縁2/3	10.2			畿内5-6		青灰5PB5/1・良好	密(0.1~0.5mmの白色砂 粒少含)	
220	В	105	床面	46	須恵器	壺	完形	10.6	22.6	体部径19.7 体部高17.0 頸部径6.2	畿内5	体部下半カキ目	灰白2.5 Y7/1・良好 (自然釉)	普 (1~3mmの礫若干含・ 黒色粒子若干)	美濃須衛
221		105	床面		土師器	広口壺	ほぼ完形	11.1	12.1	体部径13.1 体部高8.9 頸部径8.9		体部中央にヘラ記号	明赤褐2.5 YR 5/8・ やや不良	普(~1mmの砂粒若干混 入)	
222	В	105	床面	52	土師器	魙	口縁·底部	16.0		頸部径13.5		体部外面タテハケ・口 縁部内面ヨコハケ・体 部内面にハケメは認 められない。		普(~1mmの砂粒混入)	
244		105	床面		山茶碗 (南部 系)	碗	口縁部一 部						灰白5Y7/1・良好	普(砂粒少含)	
245	В	105	埋土	30	須恵器	杯身	口縁一部			立上高0.9	TK 43		灰N6/0 ·良好	普(0.3mm~0.5mmの白 色砂粒若干含・黒色粒子	179とセット
246	В	105	埋土	49	須恵器	長頸瓶	口縁1/2	10.2			畿内5-6	口縁部1条の沈線	青灰5PB6/1・良好	普 (0.1~1mmの白色砂粒 多含)	提瓶の口縁部の可 能性有り
247	В	105	埋土	50	須恵器	壺	肩部一部				5-6	下半ヘラケズリ・肩部2 条の凹線,列点文	紫灰5P5/1・良好	密(~0.5mmの白色砂粒 少含)	
249	В	104	床面	1	須恵器	有蓋高杯	脚部2/3欠	12.5	8.8	受部径15.2 立上高1.1 杯部高4.5 脚部高4.3 脚端部径10.2 脚基部径4.9	畿内3		暗青灰5PB4/1・良 好	密(~5mmの砂礫少含)	
250	В	104	床面	2	須恵器	有蓋台付 壺	完形	8.1	21.9	脚部高6.9 脚端部径12.8 脚基部径5.3 体部径14.6 体部高9.4 頭部径7.2	畿内1-2	口縁, 体部カキ目・口縁, 肩, 脚部凹線・口縁, 開部波状文	灰N6/0・良好	普(〜2mmの砂粒少含・ 黒色粒子少)	受口の壷は5Cに多 いが、全体のプロ ポーションが崩れ ている
252	В		表·流 土	5	須恵器	杯蓋	口縁1/6				畿内系 6C代		灰白N7/0・やや不 良	 密(~1mmの白色砂粒多 含)	
253			表・流		須恵器		口縁一部				7C代		灰5Y6/1 ·良好	密(黒色粒子若干)	
254 255			表・流表・流		須恵器 土師器		口縁一部 杯底部1/4	\vdash			7C代 廻間Ⅲ	杯底部外面タテミガ	灰白7.5Y7/1 ·良好 橙5YR7/6・良好	密(黒色粒子若干) 密(~1mmの砂粒若干	
			土									キ・口縁部外面ヨコミ ガキ・内面ミガキ		含)	
256 257			表・流表・流			有段高杯 台付甕	脚基部1/2 底部·台部				宇田?	外面タテミガキ	橙5YR6/8·良好 明黄褐10YR7/6·不	密(~2mmの砂粒若干) 普(~1mmの砂礫多含)	
201	В		表・流		須恵器	(宇田甕)	天井部1/3				у-ш :	カキ目	良	音(~1mmの)の保多さ) 密(~2mmの白色砂粒多	
			土			蓋						ルギ目		含)	
	В		表・流土			不明	不明							密(~0.5mm白色砂粒若 干含)	
	В		表・流土		須恵器	魙	体部一部					タタキ	褐灰5YR5/1・良好	密(~1mmの白色砂粒若 干含)	
	В		表・流 土	4	土師器	魙	体部一部					外面タテハケ・内面ヨ コハケ	橙7.5 YR7/6·良好	普(~0.5mmの砂粒若干含)	

第9表 土器観察表(4)

番	地区	古墳		整理 種類	器種	残存部位			量(cm)	型式	調整・文様	色調・焼成	胎土	備考
号	⊠ B	番号	層位 表・流	番号 生新器	魙	体部一部	口径	谷高	その他		外面タテハケ	浅黄橙10YR8/4・や	粗(~1mmの砂粒少含)	
	В		土 表・流	13 土師器	魙	体部一部					外面ハケメ	や不良 橙7.5YR7/6・良好	密(~2mmの砂礫少含)	
	В		表・流	14 土師器	不明	不明					урш/1//		普(~1mmの砂粒少含)	
000	В	00	表・流	15 かわらけ		口縁一部	10.0	0.5	おから	X4: 1/L	内面ナデ	浅黄橙10YR8/4·良好		
260	С	92	埋土	1 須恵器	無蓋高杯	杯部1/2欠	10.0	9.5	杯部高3.3 脚部高6.2 脚端部径8.6 脚基部径2.2	猿投 H15 -101	脚基部1条の凹線	灰5Y6/1・良好	普(~5mmの白色砂粒多含)	
261	С	92	埋土	2 須恵器	平瓶	口縁1/3	8.0			尾張系?	口縁部2条の凹線	黄灰2.5 Y6/1・良好	密(0.3~0.5mmの白色砂	
262	С	92	埋土	7 灰釉陶器	手付小瓶	口縁部·把 手欠				尾張 K-90	灰釉	灰白5Y7/1・良好	粒若干含) 密(混入物無し)	10~11 C 東濃産
263	С	92	埋土	5 土師器	無台椀	口縁部一 部欠	13.8	4.2	底径6.5	平安Ⅱ中	ロクロ成形・底部糸切 り痕	淡橙5YR 8/4・良好	密(混入物無し)	灰袖陶器コピー・窯 酸化焔焼成・須恵 器の焼成不良品の 可能性有
264	С	92	埋土	4 山茶碗 (尾張 型)	碗	口縁一部欠				5型式		灰白2.5Y7/1・やや 不良	粗(~1mmの砂粒少含)	第4型式 12C
265	С	92	埋土	6 山茶碗 (尾張 型)	碗	口縁1/4				5型式		灰黄2.5Y7/2・やや 不良	普(~2mmの砂礫少含)	第5~6型式 12C 後半
266	С	92	埋土	8 かわらけ	Ш	口縁一部				M2類	口縁部外面ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/4· 良好	密(混入物無し)	13C 明和併行
267	С	235	床面	1 須恵器	無蓋高杯	脚部一部欠	12.1	10.2	杯部高4.9 脚部高5.3 脚端部径10.0 脚基部径2.7	猿投 H15 -101	杯底部ヘラケズリ (右)・杯底部内面中 央に不定方向直線的 なナデ・脚部3条の凹 線・裾1条の沈線	青灰5B5/1・良好	普(0.3mmの白色砂粒多含)	
268	С	235	床面	3 土師器	魙	完形	15.0	18.0	体部径16.9 体部高15.4 頸部径12.6		体部外面タテハケ・体 部内面上半ヨコハケ, 下半ヘラケズリ	橙7.5 YR 7/6・良好	普(~2mmの礫若干混 入)	外面底部へラ記号 「×」・使用痕無
269	С	235	床面	2 土師器	魙	完形	15.4	20.6	体部径18.6 体部高18.1 頸部径12.6		体部外面タテハケ・体 部内面上半ヨコハケ, 下半ヘラケズリ	橙5YR 7/6・良好	密(~2mmの砂粒若干含)	外面煤付着・内面 使用痕
	С	235	床面	4 土師器	魙	体部一部					外面ハケメ	にぶい黄橙10YR 7/4・やや不良	普(~2mmの砂粒少混 入)	
	С	235	床面	5 土師器	不明	不明						橙7.5YR 7/6 ·良好	密(~0.5mmの砂粒多含)	
272	C	235	床面 埋土	6 土師器 10 須恵器	不明 短頸壺	不明 口縁~肩	8.3		体部径9.3	美濃6-7	肩部 1 条の凹線	橙7.5YR 7/6·良好 にぶい黄2.5Y6/3・	普(~5mmの礫多混入) 密(0.1~0.3mmの白色砂	
2,2)					部2/3欠	0.0		頸部径8.3	Nuco i	M ID I A VI CIM	良好(自然釉)	粒若干含・黒色粒子多)	
	С	235	埋土	12 土師器	魙	体部一部						にぶい黄橙10YR 6/4・良好	普(~1mmの砂粒少混 入)	
	С	235	埋土	11 土師器	不明	不明					外面ハケメ	橙7.5YR 7/6・やや	普(~2mmの砂粒多混 入)	
	С	235	埋土	13 土師器	不明	不明							普(~1mmの砂粒少・茶 色粒子少混入)	
	С	235	埋土	14 土師器	不明	不明					内面ハケメ	不良 にぶい黄橙10YR	普(~1mmの砂粒少混	
	С	235	埋土	15 土師器	不明	不明						6/3・やや不良 橙5YR 6/6・やや	入) 普(~1mmの砂粒少・茶	
												不良	色粒子若干混入) 普(~2mmの砂粒若干混	
	С	235	埋土	16 土師器	不明	不明						にぶい橙7.5YR 7/4・やや不良	音(~2mmの砂粒右十説 入)	
274	С	235	周溝埋 土	23 弥生土 器	壺	口縁部一 部					口縁部内面ハケメ・円 形浮文・端部内面波 状文	灰白10YR8/2·良好	普(~1mmの砂粒多含)	
275	С	235	周溝埋 土	22 弥生土 器	壺	口縁1/4					口縁部外面波状文	浅黄橙10YR8/4·不 良	密(~1mmの砂粒多含)	
	С	235	周溝埋 土	17 土師器	魙	体部一部					体部外面タテハケ・内 面ヨコハケ		密(混入物無し)	
	С	235	周溝埋 土	18 土師器	魙	体部一部					外面ハケメ	にぶい黄橙 10YR6/4・やや不良	密(~1mmの砂粒少含)	
	С	235	月満埋 土	19 土師器	魙	体部一部					外面ハケメ・内面ケズリ	にぶい黄橙 10YR7/4・やや不良	密(~1mmの砂粒少含)	
	С	235	周溝埋	20 土師器	魙	体部一部					外面ハケメ	にぶい橙7.5YT6/4・	普(~1mmの砂粒少含)	
	С	235	土 周溝埋	21 土師器	不明	不明						やや不良 橙7.5YR7/6・不良	密(混入物無し)	
	С	235	土 周溝埋 土	24 弥生土 器?	不明	不明							普(~1mmの砂粒多含)	胎土から弥生土器 かと思われる。
278	С		表・流	1 須恵器	提瓶	口縁一部	6.8	15.1	体部高11.5	7C前半	体部一部カキ目		普(1mmの白色砂粒多	口縁部ゆがみ・フラ
279	С		表・流土	19 弥生土	壺	欠 口縁~肩 部1/3			頸部径3.8	弥生中期後半 (古)	□縁部に平行線→斜 格子文→2条の凹線	然釉) 灰黄褐10YR4/2·良 好	含・黒色粒子若干) 普(~2mmの砂粒多含)	スコ瓶を意識 瓜郷・280と同一個 体と思われる
280	С		表・流	20 弥生土	壺	底部1/6				弥生中期後半	の文様帯4帯		普(~2mmの砂粒多含)	279の底部と思われ
281	С		土 表・流	器 18 灰釉陶	椀	口縁一部				(古)	口縁下に2条の沈線	好 灰白5Y7/1 ·良好	密(混入物無し)	る。
282	С		表・流	17 山茶碗	碗	口縁一部						灰黄2.5Y7/2・良好	普(~1mmの砂粒多含)	
	С		表・流土	2 須恵器		腰部一部					腰部ヘラケズリ(左)	灰白5Y7/1·良好	密(0.3~0.5mmの白色砂 粒少含)	
	С		表·流 土	3 須恵器	(直口)壺	口縁部一 部						灰黄2.5 Y7/2・やや 不良	粗(~1mmの砂粒少含)	
	С		表・流		壺	頭部一部							粗(~2mmの砂礫多含)	
	С		表·流 土	5 土師器	魙	体部一部						不良	密(~2mmの砂粒多含)	
	С		表·流 土	6 土師器	魙	体部一部					内面ヨコハケ	にぶい橙7.5YR7/3・ やや不良	密(~1mmの砂粒多含)	

第10表 土器観察表 (5)

番号	地区	古墳 番号	出土 層位	整理 番号	種類	器種	残存部位	口径		量(cm) その他	型式	調整・文様	色調・焼成	胎土	備考
9	С	ш 9	表・流		土師器	不明	不明	口任	谷向	ての他			橙7.5YR6/6・やや	普(~2mmの砂粒多含)	
	С		土 表・流 土	8	土師器	不明	不明						不良 橙7.5YR6/6・やや 不良	普(~2mmの砂粒多含)	
	С		表・流	9	土師器	魙	体部一部					外面タテハケ・内面ヨ コハケ	にぶい橙7.5YR7/4・	密(~1mmの砂粒多含)	
	С		表・流土	10	土師器	魙	体部一部					外面ハケメ	やや不良 浅黄橙7.5YR8/6・ 良好	普(~1mmの砂粒多含)	
	С		表・流土	11	土師器	魙	体部一部					内面ハケメ		密(~1mmの砂粒多含)	
	С		表・流土	12	土師器	魙	体部一部					外面ハケメ	浅黄橙7.5YR8/6· 不良	密(~3mmの砂粒多含)	
	С		表・流		土師器	魙	体部一部					内面ハケメ	橙5YR7/8·不良	密(~2mmの砂粒多含)	
	С		表・流土	14	土師器	売	体部一部						浅黄橙7.5YR8/6· 不良	密(~1mmの砂粒少含)	
	С		表·流 土	15	土師器	魙	体部一部					外面ハケメ	浅黄橙10YR8/4·不 良	密(~0.5mmの砂粒少含)	
	С		表・流 土	16	土師器	不明	不明						浅黄橙10YR8/4·不 良	密(混入物無し)	
285	С	95	表·流 床面		土師器 土師器	不明 広口壺	不明 口縁部1/3	8.1	0.0	体部径11.4		体部外面上半タテハ	橙5YR6/6・不良 橙5YR 7/6・不良	粗(~1mmの砂粒少含)	
280	D	95		1	工脚益	ムロ霊	欠	8.1	8.8	体部高6.8 頸部径8.8		ケ・体部内面上半ヨコ ハケ	位318 7/6 小尺	普(~5mmの礫少混入)	
286	D	95	床面	2	須恵器	広口壺	口縁~肩 部1/3	9.9			美濃須衛 7C代		灰白7.5 Y7/1・良好	密(黒色粒子若干)	
287	D	115	埋土	2	須恵器	杯身	受部一部				1014	底部ヘラケズリ(不明)	灰N4/0·良好	密(0.1 mmの白色砂粒少含)	
288	D	115	埋土	3	須恵器	無蓋高杯	杯部4/5, 脚部1/2	10.6		杯部高3.5 脚端部径11.0 脚基部径2.4	美濃9	杯底部2/3ヘラケズ リ(右)	褐灰7.5 YR6/1・良 好 (自然釉)	密(0.5mmの白色砂粒少含)	
289	D	115	埋土	4	須恵器	平瓶	体部2/3欠	8.8		脚基部住2.4 体部径19.4 頸部径5.7	美濃9	体部下半タタキ後ヨコ ナデ	灰白2.5 Y7/1・良好 (自然釉)	密(0.1mmの黒色砂粒若 干含・黒色粒子少)	
290	D	234	埋土	1	須恵器	杯蓋	口縁一部			3€ HP (± 0.1	5C代	天井部ヘラケズリ	青灰5B5/1・良好	密(0.3mmの白色砂粒若	
291	D	236	床面	1	須恵器	杯身	ほぽ完形	9.8	3.5	受部径12.0 立上高1.0	猿投H101	(左)・明瞭な稜 底部1/3ヘラケズリ (左)	橙5YR7/6・不良	干含) 密 (0.1mmの黒色砂粒多	
292	D	236	埋土	2	土師器	魙	底部1/3			近上尚1.0 底径6.8	B2類	外面タテハケ・外面底 部木葉痕	橙5YR 7/6・良好	含) 普(~2mmの砂粒多・茶 色粒子若干混入)	号「×」
	D	236	埋土	3	土師器	蹇?	体部一部					外面タテハケ	灰N6/6・やや不良	普(混入物無し)	
293	D	240	床面	1	須恵器	有台杯	完形	9.6	4.5	底径5.4 高台径4.3 高台高0.6	7C後半	底部ナデ後高台貼付	灰白2.5 Y7/1・良好 (自然釉)	普(混入物無し)	金属器の模倣品
294	D	240	埋土	2	須恵器	杯身	口縁一部	9.1	3.5	受部径11.2	美濃9		明紫灰5P7/1·良好	密(~2mmの白色礫若干	
	D	240	埋土	3	須恵器	高杯?	欠 杯底部一			立上高0.6			黄灰2.5 Y6/1・良好	含) 普(0.1~0.5mmの白色砂	
295	D	241	床面	1	須恵器	杯身	完形	10.5	3.1	受部径12.6 立上高0.9	美濃9	底部ヘラ切り後デ・ 底部内面中央に不定 方向直線的なナデ	灰白10YR7/1・良好	粒少含) 密 (0.1mmの砂粒若干含)	
296	D	241	埋土	2	須恵器	杯身	口縁1/4	13.5		底径7.6	7C後半	301023333	灰白7.5Y8/1 ·良好	密(0.1mm~0.3mmの白 色砂粒若干含・黒色粒子 若干)	
297	D	241	埋土	3	土師器	蹇	口縁部1/3	14.1		頸部径12.0	A2類	体部外面タテハケ・口 縁部内面ヨコハケ・内 面は口縁部以外ハケ メは見られない		普(~3mmの礫若干混 入)	
298	D	243	埋土	2	須恵器	杯身	口縁1/8	12.0		受部径14.1 立上高1.0	美濃9	底部ヘラケズリ(不明)	灰白5Y7/1・良好	密(0.5mmの白色砂粒若 干含)	
299	D	243	埋土	1	須恵器	杯身	口縁一部欠	11.3	4.1	底径8.2	美濃9-10	底部へラ切り後ナデ・ 底部内面中央に不定 方向直線的なナデ	灰白5Y7/1・良好	密(0.1mmの白色砂粒若 干含)	
300	D	243	埋土	4	須恵器	趣?	肩部一部			体部径11.0 頸部径4.3	6	肩部 1 条の凹線	黄灰2.5 Y6/1・良好	密(0.1mmの白色砂粒若 干含)	
301	D	243	埋土	5	土師器	測	口縁部 1/4,体部 一部	12.0			7C前葉	体部外面タテハケ・口 縁部内面ヨコハケ・残 存体部内面にハケメ は見られない		普(混入物無し)	
302	D	243	埋土	6	土師器	壺	口縁~腰 部1/3	4.8		体部径6.5 頸部径5.6		1475-940-4	灰白2.5 Y 8/1・やや 不良	普(~1mmの砂粒少混 入)	にチュア
	D	243	埋土	3	須恵器	蓋杯	天井(底)部					底部ヘラ切り無調整	にぶい赤褐 5VP5/4・不良	密(混入物無し)	
303	D	244	埋土	1	須恵器	平瓶	完形	5.0	12.2	体部径11.0 体部高7.9	美濃9- 10		5YR5/4·不良 灰白2.5Y8/1·良好 (自然釉)	密(0.3mmの白色砂粒若 干含)	美濃須衛
304	D	245	埋土	1	土師器	鉢?	底部1/3			頸部径3.3 底径5.4		外面底部木葉痕	浅黄橙10YR 8/3・ やや不良	普(~1mmの砂粒混入)	
305 306			表·流 表·流 土		須恵器 須恵器		口縁一部口縁一部					凹線による稜	灰7.5Y6/1 ·良好 灰5Y6/1 ·良好	密(黒色粒子若干) 密(0.1mmの白色砂粒若 干含・黒色粒子若干)	
307	D		表·流 土	4	須恵器	高杯	脚裾部一 部			脚端部径10.0			褐灰7.5YR5/1 ·良 好	密(~1mmの白色砂粒若 干含)	
308	D		表・流土	1	土師器	S字甕	口縁部1/3				D2類	体部外面タテハケ		普(~2mmの砂粒多含)	
	D		表・流土	5	須恵器	不明	体部一部						灰5Y6/1·良好	密(0.1~0.3mmの白色砂 粒若干含・黒色砂粒若干 含)	
309	Е	71	床面	2	須恵器	杯蓋	口縁1/4残	14.0			尾張1-2	天井部2/3ヘラケズ リ(左)	灰白5Y7/1・やや不 良	粗(~1mmの砂粒若干 含・黒色粒子含)	313とセット 畿内系の可能性有

第11表 土器観察表 (6)

番号	地区	古墳 番号	出土 層位	整理 番号	種類	器種	残存部位	口径	法器高	量(cm) その他	型式	調整・文様	色調・焼成	胎土	備考
310	Е	71	床面		須恵器	杯蓋	完形	12.6	4.6	C47IB	尾張5-6	天井部4/5丁寧なへ ラケズリ(左)	灰白5Y7/1・良好 (自然釉)	普(黒色粒子若干)	猿投
311	Е	71	床面	7	須恵器	高杯蓋	口縁2/3欠	14.8	5.8	つまみ径3.4 つまみ高1.2	畿内2-3			普(0.5~1mmの白色砂粒 多含)	
312	Е	71	床面	6	須恵器	高杯蓋	完形	13.4	5.1	つまみ径3.8 つまみ高1.0	畿内3-4	天井部1/2丁寧なへ ラケズリ(左)・天井部 中央不定方向直線的 なナデ	青灰5PB5/1・良好	夕占) 密 (0.3mmの白色砂粒少 含)	
313	Е	71	床面	4	須恵器	杯身	完形	12.1	5.6	受部径14.5 立上高2.2	尾張1-2	底部2/3ヘラケズリ (右)	灰白5Y7/1・やや不 良	普(~5mmの礫少含・黒 色粒子若干)	309とセット 畿内系の可能性有
314	Е	71	床面	5	須恵器	杯身	口縁1/2欠	13.6	5.5	受部径16.2 立上高1.5	畿内3	底部1/2ヘラケズリ (左)・底部中央当具	青灰5PB6/1・やや 不良	粗(~1mmの白色砂粒多 含・2mmの礫若干含)	
315	Е	71	床面	1	須恵器	杯蓋	口縁一部				TK10~43	不明	紫灰5P5/1·良好	密(1mmの白色砂粒若 干含)	
316	Е	71	床面	12	須恵器	趣	完形	13.0	14.9	体部径8.9 体部高5.9 頸部径3.7	畿内5	底部不定方向丁寧な ナデ・肩,体部1条, 頸部2条の沈線	灰N6/0・良好	密 (0.3~0.5mmの白色砂 粒若干含・黒色粒子多)	
317	Е	71	床面	8	須恵器	無蓋高杯	完形	8.9	7.8	杯部高3.2 脚部高4.6 脚端部径7.2 脚基部径2.9	畿内5		灰N5/0·良好(自然 釉)	普(0.5~1mmの白色砂粒 若干含・黒色粒子若干)	
318	Е	71	床面	9	須恵器	短頸壺	完形	8.8	6.4	体部径11.4 体部高5.1 頸部径9.4	美濃or尾張6	底部4/5ヘラケズリ (左)・肩部に2条の沈 線		密(0.1~0.3mmの白色砂 粒少含)	
319	Е	71	床面	11	須恵器	広口壺	完形	14.2	20.5	体部径17.3 体部高14.7 頸部径8.9	畿内5	体部下半タタキ・口縁 部上半に櫛描文・口 縁部中央に2条の凹線		密(0.1~0.3mmの白色砂 粒若干含)	本来器台に乗る・ 形は古いが本来は 波状文
320		71	床面				口縁一部 欠			体部径13.1 体部高10.4 頸部径5.0	T K209	底部1/3粗雑なヘラ ケズリ(右)・体部にカ キ目・口縁部に1条の 凹線	2.5GY6/1・良好	密 (0.1~0.5mmの白色砂 粒若干含)	美濃須衛?
321	Е	71	床面	14	須恵器	提瓶	口縁一部 欠	7.9		体部高15.5 頸部径4.7	H44	体部粗いカキ目·口縁 部2条の沈線		密(1~2mmの白色砂粒 若干含・黒色粒子多)	猿投の可能性大
322	Е	71	床面	13	須恵器	提瓶	口縁一部 欠	5.0	15.6	体部高11.3 頸部径3.3	畿内5	体部腹面粗いカキ目・ 背面ヘラケズリ(左)・ 口縁部2条の沈線	青灰5B5/1・良好	密 (0.5mmの白色砂粒若 干含)	
337	Е	71	埋土	35	須恵器	杯蓋	口縁1/6残	14.4			畿内3	天井部ヘラケズリ(不明)		普(0.5~1mmの白色砂粒 多含)	
338	Е	71	埋土	34	須恵器	杯蓋	口縁1/4残	14.2			畿内3	ヘラケズリ不明	青灰5PB5/1・良好	密 (0.5~2mmの白色砂粒 少含)	
	Е	71	埋土	36	須恵器	杯蓋	口縁一部				TK 10 ?	不明	暗青灰5PB4/1 ·良 好	密(0.3mmの白色砂粒若 干含)	
	Е	71	埋土	37	須恵器	杯蓋	口縁一部				TK 10 ?	不明	暗青灰5PB4/1 ·良 好	密(0.3mmの白色砂粒若 干含)	
	Е	71	埋土	38	須恵器	蓋杯	天井(底)部 一部					天井(底)部ヘラ切り 無調整	赤灰2.5 YR4/1・不 良	普(~1mmの白色砂粒多含)	
349	E	71 116	埋土 床面		須恵器 須恵器	不明 杯蓋	不明 口縁〜天 井部	14.8	3.7	つまみ径3.6 つまみ高0.9	美濃10以降	ヘラケズリ有 天井部2/3ヘラケズ リ(右)	灰N5/0·良好 灰白5Y7/1·良好	密(~1mmの白色砂粒少含) 密(0.5mmの白色砂粒若 干含)	内面へラ記号 「=」・349-357は尾 北?ヘラケズリがシャープ
350	Е	116	床面	4	須恵器	杯蓋	口縁1/2欠	14.4	3.4	つまみ径3.6 つまみ高0.9	美濃10以降	天井部3/4ヘラケズ リ(右)	灰白7.5 Y7/1・良好	密(0.3mmの白色砂粒少含)	内面へラ記号「=」
351	Е	116	床面	2	須恵器	杯蓋	完形	14.3	3.1	つまみ径3.1 つまみ高0.9	美濃10以降	天井部3/4ヘラケズ リ(右)	灰白7.5 Y7/1・良好	密(0.3~0.5mmの白色砂 粒少含)	内面へラ記号「=」
352	Е	116	床面	1	須恵器	杯蓋	口縁一部 欠	14.4	3.2	つまみ径3.5 つまみ高0.7	美濃10以降	天井部2/3ヘラケズ リ(右)	灰白7.5 Y7/1・良好	密(0.3mmの白色砂粒若 干含)	内面へラ記号「=」
353	Е	116	床面	8	須恵器	杯身	完形	13.4	4.3	底径8.4	美濃10以降	底部全面ヘラケズリ (右)	灰白2.5 Y7/1・良好	密(0.3mmの白色砂粒少含)	内面底部へラ記号 「ニ」
354	Е	116	床面	5	須恵器	杯身	完形	11.2	3.7	底径6.6	美濃10以降	底部ヘラ切り後ナデ	灰N6/0・良好	密(黒色粒子若干)	外面底部へラ記号 「-」・美濃須衛で はない
355	Е	116	床面	7	須恵器	杯身	口縁一部 欠	11.3	3.5	底径5.8	美濃10以降	底部ヘラ切り後ナデ 調整	灰10Y6/1・良好	密(0.1mm~0.3mmの白 色砂粒多含・黒色砂粒少 含)	「-」・美濃須衛で はない
		116	床面			杯身	ほぽ完形	10.7		底径6.3	美濃10以降	底部ヘラ切り後ナデ 調整	2.5GY6/1・良好	密 (0.1mmの白色砂粒若 干含・0.5mmの黒色砂粒 若干含)	外面底部へラ記号 「-」・美濃須衛で はない
357	Е	116	床面	9	須恵器	無蓋高杯	杯部1/3欠	10.9	9.5	底径8.6 杯部高3.0 脚部高6.5 脚端部径7.5 脚基部径2.2	美濃10以降		灰白2.5Y7/1・良好	密(2mmの礫若干含)	
358	Е	116	床面	10	須恵器	平瓶	口縁一部欠	11.1	22.8	体部径22.5 体部高13.7 頸部径7.3	美濃10	体部下半タタキ後ヨコ ナデ	灰白2.5 Y7/1・良好 (自然釉)	普 (0.3mmの白色砂粒若 干含)	美濃須衛
359	Е	116	床面	11	土師器	杯	口縁部一部欠	12.8	3.2		平城Ⅱ	内面に暗文・内面ナ デ・外面指頭圧痕	橙2.5 YR 7/8・良好	密(混入物無し)	飛鳥産?
	Е	116	構築以 前	12	土師器	不明	不明						赤褐2.5YR4/8・不 良	密(混入物無し)	
360	Е	246	埋土	1	須恵器	壺	肩~底部 1/4			体部径11.8				普(0.3~0.5mmの白色砂 粒若干含・黒色粒子少)	
361	Е	247	埋土	1	須恵器	無蓋高杯		9.5	9.4	杯部高3.1 脚部高6.3 脚端部径8.2 脚基部径2.4	美濃10		(自然釉) 灰白5Y7/1·良好 (自然釉)	粒右十含・黒色粒子少 密(0.1mmの白色砂粒若 干含・黒色粒子多)	美濃須衛ではない
362	Е	248	埋土	1	須恵器	平瓶	体部3/4欠	8.9	17.4	体部径17.0 体部高9.6 頸部径4.6	美濃10	タタキ後ナデ消し	灰白N7/0・良好	密(混入物無し)	

第12表 土器観察表 (7)

番号	地区	古墳 番号	出土 層位	整理番号	種類	器種	残存部位	口径	法器高	量(cm) その他	型式	調整・文様	色調・焼成	胎土	備考
-	Е	257	構築以		須恵器	壷	頸部下一	口压	full [FI]	-(V) E	~6C	タタキ(格子)	灰N6/0・やや不良	普(白色砂粒若干含)	
365	Е	259	埋土	3	須恵器	杯蓋	部 天井部・口 縁一部				T K 10	天井部へラ切り無調整・天井部内面中央 に不定方向直線的な ナデ	青灰5B5/1・良好	密(0.1mmの白色砂粒少含)	
366 367		259	埋土		須恵器		口縁1/6			₩t 50 57 72 10 0	畿内3	ヘラケズリ非確認	暗青灰5PB4/1·良好		
307	Е	259	埋土	4	須恵器	向作	脚部1/6			四海市往12.0	M T 15∼ T K 10 ?	カキ目	青灰5B5/1・良好	密(0.3~0.5mmの白色砂 粒少含)	
	Е	259	埋土			拠	底部一部					外面はタタキ後スリ消 し・内面はタタキ後ケ ズリ	やや不良	粗(〜1mmの白色砂粒若 干含)	
	Е	259	構築以 前	1	須恵器	蓋杯	天井(底)部 1/2					天井(底)部ヘラケズリ (左)	灰白5Y7/1・良好	密(0.3~0.5mmの白色砂 粒若干含・黒色粒子少)	
368	Е	260	床面	1	須恵器	無蓋高杯	完形	8.6	7.3	杯部高3.0 脚部高4.3 脚端部径7.1 脚基部径1.9		杯底部1/2ヘラケズ リ(左)・脚部2条の凹 線		普(黒色粒子少)	
369	Е	260	床面	2	須恵器	細頸瓶	口縁一部欠	6.2	13.7	体部高8.8 頸部径3.4	尾張	体部背面ヘラケズリ (左)・口縁部2条の凹線		普(0.1~0.5mmの白色砂粒若干含)	尾張では7C後半ま で生産
370	Е		表・流 土	1	須恵器	杯蓋	口縁~天 井部一部				畿内4	天井部ヘラ切り無調 整	暗青灰5PB4/1・良 好	密(0.1~0.5mmの白色砂 粒少含)	
371	Е		表・流	2	須恵器	杯蓋	口縁一部				畿内3-4	ヘラケズリ不明	赤灰2.5YR4/1 ·良	普(0.1~0.5mmの白色砂	
372	Е		表・流	14	須恵器	蓋	口縁一部				美濃9- 10	不明	好 灰N6/0 ·良好	粒若干含) 密(混入物無し)	7C後半
373	Е		表・流土		須恵器	杯蓋	口縁1/3欠	16.4	3.3	つまみ径3.5 つまみ高0.9	美濃10	天井部2/3ヘラケズ リ(右)		普(0.3mmの白色砂粒少含)	内面へ予記号「三」状
374	Е		表・流	4	須恵器	杯蓋	口縁1/8残	16.4		2 x 0/1010.5	美濃10	天井部大部分ヘラケ	灰白2.5 Y7/1・良好	普(0.3mmの白色砂粒少	70
375	Е		表・流	5	須恵器	杯蓋	口縁1/8残	15.8			美濃10	ズリ(右) 天井部全部ヘラケズリ	灰白2.5 Y7/1・良好	含) 普(0.5mmの白色砂粒若	
376	Е		土 表・流	10	須恵器	杯身	口縁一部			立上高1.4	畿内3-4	(不明) 不明	表压5DD5/1.自私	干含) 普 (0.3mm~0.5mmの白	
			土											色砂粒少含)	
377	Е		表・流 土	11	須恵器	杯身	口縁一部			立上高1.1	畿内3-4	不明	青灰5PB5/1・良好	密(0.3mmの白色砂粒若 干含)	
378	Е		表·流 土	9	須恵器	杯身	口縁1/8	12.2		受部径15.2 立上高1.1	畿内3-4	不明	暗青灰5PB4/1・良 好	密(0.1mmの白色砂粒少 含)	
379	Е		表・流	8	須恵器	杯身	口縁2/3欠	10.2	3.2	受部径11.8	美濃10		灰白2.5Y7/1・良好		
380	Е		表・流	12	須恵器	杯身	口縁2/3欠	13.2	4.2	立上高0.6 底径8.2	美濃10	底部全面ヘラケズリ	黄灰2.5 Y6/1・良好	密 (0.1mm~0.3mmの白	外面底部へラ記号
381	Е		表・流	13	須恵器	杯身	口縁1/6	16.4		底径10.4	美濃 9(-10)	不明	灰黄2.5 Y7/2・良好	色砂粒少含) 密(0.3mmの白色砂粒若	[×]
382	Е		土 表・流	99	須恵器	高杯	脚部2/3				6C前半	カキ目	暗青灰5PB4/1·良	干含) 普(0.3~0.5mmの白色砂	
302	E		土									77-11	好	粒多含)	
383 384	E		表・流表・流		須恵器 須恵器		脚部一部 脚裾部一				畿内3-4 6C後半		暗青灰5PB4/1·良好 青灰5PB6/1·良好	普(0.3mmの白色砂粒多 普(0.3~1mmの白色砂	
385	Е		土 表・流 土	27	須恵器	有蓋台付	部 口縁部1/5	9.2			5C後半	口縁部カキ目後振幅 の大きい波状文	青灰5PB6/1・良好	粒多含) 普(0.1~0.3mmの白色砂 粒若干含・黒色粒子少)	
386	Е		表・流土	28	須恵器	五 有蓋台付 壺	体部1/3			体部径17.6	5C後半	下半タタキ後カキ目・ 肩部クシ状工具による 列点文	青灰5PB5/1・良好	普(0.1~0.3mmの白色砂粒少含・黒色粒子多)	
387	Е		表・流 土	29	須恵器	有蓋台付 壺	脚部1/6			脚端部径15.8	5C後半	上下スカシ間に2条の 凹線・上半クシ状工具 による列点文・下半 カキ目後振幅の大き い波状文		普(0.3mmの白色砂粒若 干含・黒色粒子少)	
388	Е		表・流土	35	須恵器	台付長頸瓶	体部2/3欠	9.8		高台径8.4 高台高0.7 体部径15.6 頸部径4.1	美濃10	底部ヘラケズリ(不明)	灰5Y6/1・良好	密(0.3mmの黒色粒子少)	尾張?
389	Е		表·流 土	36	須恵器	平瓶	口縁1/2欠			体部径13.5 体部高9.7 頸部径4.1	美濃9-10	体部下半タタキ	灰白2.5 Y7/1・良好 (自然釉)	密(0.3mmの白色砂粒少 含・黒色粒子多)	美濃須衛
390	Е		表・流 土	38	須恵器	翘	体部一部			頸部径12.2	6C代	タタキ後カキ目・当具 楕円形	暗青灰5PB4/1·良 好	密(白色砂粒若干含)	
391			表・流 土		土師器		口縁~肩部一部				TNZ 10	体部外面粗いハケメ	不良	粗(~5mmの礫多含)	
	Е		表・流 土	6	須恵器	杯蓋	口縁一部				TK 10		青灰5PB5/1·良好	普(0.5mmの白色砂粒多 含)	
	Е		表・流 土	26	須恵器	高杯	脚部一部				6C前半	カキ目	紫灰5RP6/1·良好	普(0.5~1mmの白色砂 粒多含)	
H	Е		表・流	7	須恵器	杯蓋	口縁一部						灰N5/0・良好	密(0.3~0.5mmの白色砂	
Н	Е		土 表・流		須恵器		口縁部一				I17(新)		灰白2.5Y7/1 ·良好	粒若干含) 密(黒色粒子少)	
	Е		表・流土	16	須恵器	杯身	腰部一部				I17(新)		灰白5Y7/1 ·良好	密(0.5mm~1mmの白 色砂粒若干含)	
	Е		表・流土	17	須恵器	蓋杯	天井(底)部 全体					天井(底)部ヘラ切り 無調整	灰赤10R6/2・不良	密 (0.1~0.3mmの白色砂 粒多含)	
\vdash	Е		表・流	18	須恵器	蓋杯	天井(底)部					天井(底)部ヘラ切り	青灰5PB5/1・良好	密(0.1mmの白色砂粒若	
\vdash	Е		土 表・流	19	須恵器	蓋杯	1/2 天井(底)部					無調整 天井(底)部ヘラ切り	灰N6/0・良好	干含) 密(黒色粒子多)	
Ш			土表・流		須恵器		一部 天井(底)部					(左) 天井(底)部ヘラ切り		密(0.1~0.3mmの白色砂	
	Е		土			蓋杯	一部					無調整	不良	粒少含)	
ΙĪ	Е		表・流 土	21	須恵器	蓋杯	天井(底)部 一部					不明	青灰5PB5/1・良好	密(0.1~0.3mmの白色砂 粒若干含・黒色粒子多)	

第13表 土器観察表 (8)

番号	地区	古墳 番号	出土 層位	整理 種類	器種	残存部位	口径		量(cm) その他	型式	調整・文様	色調・焼成	胎土	備考
	Е		表・流 土	25 須恵器	高杯	杯底部一 部	, , , , , ,					青灰5PB5/1・良好	普(0.3~0.5mmの白色砂 粒多含)	
	Е		表・流土	30 須恵器	提瓶?	体部一部					カキ目	青灰5PB6/1・やや 不良	密(0.3mmの白色砂粒若 干含)	
	Е		表・流	31 須恵器	不明	不明						青灰5B5/1·良好	密(0.1mmの白色砂粒若	
	Е		表・流	32 須恵器	不明	不明						赤灰10R5/1·不良	干含) 密(0.5mmの白色砂粒多	
	Е		土 表・流	33 須恵器	不明	不明						灰白2.5Y7/1 ·不良	含) 普(0.2mmの白色砂粒若	
	Е		土 表・流	34 須恵器	不明	不明					ヘラケズリ有り	灰N6/0・やや不良	干含) 密(0.1~0.3mmの白色砂	
	Е		土表・流	37 須恵器	細頸瓶	体部(腹面)					,,,,,,,,,,	灰5Y6/1・良好	粒少含) 普(黒色粒子多)	
			土			一部					h-h-)-			
	E		表・流表・流	39 須恵器 40 須恵器	甕 不明	体部一部 不明					タタキ カキ目		密(混入物無し) 密(黒色粒子若干)	
	Е		表·流 土	42 土師器	魙	頸部一部					体部外面タテハケ	にぶい黄橙 10YR7/4・良好	普(~2mmの礫多含)	
392	F	225	床面	1 須恵器	台付長頸 瓶	脚部欠	7.4		脚基部径7.4 体部径15.7 体部高9.1 頸部径5.5	美濃8-9	体部2/3ヘラケズリ (右)・口縁直下カキ目		普(〜2mmの白色砂粒多含)	美濃須衛
393	F	227	埋土	1 土師器	壺	肩部一部			Decide Process	(欠山~)元屋 敷	山形文・列点文	浅黄橙10YR8/4·良 好	密(混入物無し)	
394	F	230	床面	2 須恵器	有蓋高杯	完形	9.4	7.2	受部径11.1 立上高1.0 杯部高3.0 脚部高4.2 脚端部径9.7 脚基部径2.5	美濃7		灰白5Y7/1・良好	密(〜2mmの白色礫若干含)	土は美濃須衛
395	F	230	床面	4 須恵器	有蓋高杯	完形	9.5		受部径11.4 立上高0.9 杯部高3.4 脚部高3.6 脚端部径9.2 脚基部径2.4	美濃7		灰白5Y7/1·良好	密(〜2mmの白色礫若干 含)	土は美濃須衛
396	F	230	床面	3 須恵器	有蓋高杯	完形	9.4	6.4	受部径11.2 立上高1.0 杯部高3.2 脚部高3.2 脚端路径8.7 脚基部径2.3	美濃7	杯底部1/2ヘラケズ リ(右)・杯底部内面中 央に当具痕	灰白5Y7/1・良好	密(〜2mmの白色礫若干含)	土は美濃須衛
397	F	230	床面	1 須恵器	無蓋高杯	完形	10.6		杯部高3.4 脚部高3.4 脚端部径8.3 脚基部径2.3	美濃7	杯底部内面中央に不 定方向直線的なナデ	灰白N7/0・良好	密(0.1mmの白色砂粒若 干含)	土は美濃須衛
398	F	277	主体部以外	3 土師器	高杯	口縁部 2/3,脚部 欠	16.5		底径7.9 杯部高5.2 脚端部径11.6 脚基部径2.8	松河戸 I	杯部内面タテミガキ・ 脚部外面タテミガキ・ 脚基部内面しぼり	浅黄橙10YR 8/4・ やや不良	普(~2mmの砂粒少混 入)	
399	F	277	主体部以外	4 土師器	高杯	杯部2/3欠	15.6		底径8.0 脚部高8.5 脚端部径10.2 脚基部径2.7	松河戸 I	脚部外面タテミガキ	橙5YR 7/8・やや不 良	粗(~3mmの砂粒混入)	
400	F	277	主体部以外	6 土師器	高杯	杯部一部· 脚部1/5			底径8.6 脚部高8.7 脚端部径10.6 脚基部径3.4	松河戸 I	杯部内面タテミガキ・ 脚部外面タテミガキ	橙5YR 6/6・良好	密(〜2mmの砂粒若干混 入)	屈折脚
401	F	277	主体部以外	7 土師器	高杯	口縁部1/2 欠	17.0	14.3	底径7.8 杯部高5.0 脚部高9.3 脚端部径10.7 脚基部径3.2	松河戸 I	杯部内面タテミガキ・ 外面タテミガキ	橙2.5 YR 6/8・やや 不良	普(~1mmの砂粒少混 入)	屈折脚
402	F	277	主体部以外	8 土師器	高杯	口縁部一 部,脚部 1/4欠	15.6	15.0	底径7.7 杯部高6.0 脚部高9.0 脚端部径11.2 脚基部径2.8	松河戸 I	脚部外面タテミガキ	橙2.5 YR 7/6・やや 不良	普(~5mmの礫若干混 入)	屈折脚
403	F	277	主体部以外	5 土師器	高杯	口縁部2/3	15.4		底径7.4	松河戸I	杯部外面ヨコナデ・杯 部内面ナナメハケ後ヨ コハケ	橙7.5 YR 7/6・良好	普(〜2mmの黒色砂粒少 混入)	
404	F	277	主体部以外	11 土師器	直口壺	ほぼ完形	10.8	14.8	体部径13.7 体部高11.4 頸部径8.2		口縁部内面ヨコハケ・ 体部外面タテハケ	橙5YR 7/6・やや不 良	普(~2mmの砂粒多混 入)	内面底部ベンガラ 付着
405	F	277	主体部以外	9 土師器	柳ヶ坪型 壺	口縁部1/8	19.2				口縁部内面羽状文	橙7.5YR 7/6 · 不良	普(~8mmの礫多混入)	
406	F	277	主体部以外	10 土師器	壺	体部一部 欠	6.6	19.2	底径1.9 体部径8.1 体部高6.1 頸部径2.4		体部外面ナナメハケ・ 口縁部外面タテミガキ		密(茶色粒子混入)	
407	F	277	主体部以外	13 土師器	S字甕	口縁~底 部一部	11.5		脚端部径7.4 脚基部径5.0 頸部径9.6	C類	体部外面ハケメ	浅黄橙10YR 8/4· 不良	密(~1mmの砂粒若干混 入)	
408	F	277	主体部 以外	12 土師器	S字甕	頸~肩部・ 底部一部					体部外面粗いハケメ	橙5YR 7/6・やや不 良	普(~1mmの砂粒若干混 入)	
409	F	277	主体部以外	1 須恵器	杯蓋	口縁一部	П						密(~2mmの白色砂粒少含)	

第14表 土器観察表 (9)

番	地	古墳	出土	整理	種類	器種	残存部位		法	量(cm)	型式	調整・文様	色調・焼成	胎士	備考
号	X	番号	層位	番号	俚規	661里	7又行 即位.	口径	器高	その他	空八	調電・又依	巴胸・光风	加工	加与
	F	277	主体部 以外	2	須恵器	魙	体部一部					タタキ	灰白2.5Y7/1・良好	普(黒色粒子若干含)	
	F	277	主体部 以外		土師器		体部一部					体部外面ハケメ	淡橙5YR 8/4 · やや 不良		
	F	277	主体部 以外	16	土師器	不明	不明						にぶい橙5YR 7/4・ やや不良	普(~5mmの礫多混入)	
	F	277	主体部 以外	14	土師器	S字甕	体部一部					体部外面ハケメ	赤橙10R 6/6·不良	普(~lmmの砂粒若干混 入)	
410		278	埋土?			高杯	口縁〜脚 部一部			脚端部径10.3 脚基部径3.3		脚部タテミガキ	良	密(~1mmの砂粒少混 入)	
411			主体部 埋土?				口縁~体 部一部				D1類	外面ハケメ	良	普(~2mmの砂粒少混 入)	
412		278	主体部 埋土?			S字甕	頸部一部				D2類 ?	外面ハケメ		密(~1mmの砂粒若干混 入)	
413			表・流 土			高杯	口縁一部					外面タテミガキ・口縁 部内面ヨコナデ		密(~1mmの砂粒若干・ 茶色粒子混入)	
414	F		表・流 土	3	土師器	壺	底部1/4			底径7.8			橙5YR 6/6・やや不 良	普(~2mmの砂粒多含)	
415	F		表・流土	4	土師器	有段口縁 壺	口縁部 1/2·体部· 底部2/3			底径8.0 頸部径11.1			橙5YR 6/8・やや不 良	普(~3mmの砂粒少・乳 白粒子混入)	底部穿孔の可能性 有
416	F		表・流 土	5	土師器	宇田型甕	台部欠					体部外面ハケメ	明黄褐10YR6/6 ·良 好	密(~5mmの砂礫少含)	
	F		表・流 土	1	須恵器	蓋杯	天井(底)部					天井(底)部ヘラケズリ (右)	青灰5PB5/1・良好	普 (0.1~1mmの白色砂粒 多含)	
	F		表・流	2	須恵器	甕	体部一部					タタキ	灰7.5Y6/1 ·良好	密(黒色粒子若干)	

第15表 土器観察表 (10)

	Liste		I-C I	hada atat .							法量(c	m);()内に	残				
		出土		遺物	分類		残存部位			鏃身部	3		頸部			茎部		木質残存状況
	番号	層位	番号	番号				全長	長さ		厚さ	長さ	幅	厚さ	長さ		厚さ	
A	107	床面	9	26	平根式三角形A	両丸造・棘状関	完形	(10.9)	4.9	1.7	0.2	2.2	0.7	0.2	(3.8)	,		木質→樹皮
	.			-	平根式三角形A		鏃身部·頸部·茎部	(7.7)	(5.0)	1.6	0.2	2.3	0.6	0.2	(0.5)			木質 樹皮
			ŀ		平根式三角形C	両丸造	ほぼ完形	(8.6)	4.2	(2.7)	0.3	3.0	0.8	0.4	(1.4)		0.3	
			ŀ		平根式三角形C	両丸造・棘状関		(7.7)	3.1	2.3	0.4	3.0	0.6	0.4	(1.7)		0.2	
			ŀ		平根式三角形C	両丸造	鏃身部・頸部	(4.1)	3.2	2.1	0.3	(0.9)	0.7	0.3	(1.1.)	0.1	0.2	
			ŀ		平根式腸抉三角形A		ほぼ完形	(10.5)	5.9	(2.5)	0.2	3.1	1.0	0.2	(3.2)	0.4	0.4	
			ŀ		平根式腸抉三角形A		鏃身部·頸部·茎部	(7.5)	5.7	(2.4)	0.2	2.6	0.9	0.4	(0.5)		0.3	
			ŀ		平根式腸抉三角形B		ほぼ完形	(8.5)	4.9	(3.2)	0.3	3.6	0.8	0.4	(1.2)		0.4	
			ı		平根式腸抉三角形B	両丸造·棘状関		(9.2)	4.3	2.6	0.4	3.3	0.6	0.5	(2.0)		0.3	
			ŀ		平根式腸抉三角形B	平造	鏃身部・頸部	(4.3)	(3.0)	3.1	0.2	(1.8)	0.8	0.4	(=10)			
	ŀ	埋土	ŀ	_	長頸式	1 22	不明	(7.6)	(0.0)	0.1	0.5	(1.0)	0.0	0.1				
			ŀ		平根式?	台形関	頸部・茎部	(5.2)				(1.0)	0.8		(4.2)	0.7	0.8	
В	254	床面	37	171	1 1000		2777	(0.2)				(=10)			()			
		1 - Jac	٠. ا	172														
	105	床面	43		平根式三角形C	両丸造・棘状関	ほぼ完形	(12.4)	(5.2)	2.7	0.2	2.5	0.8	0.6	4.8	0.4	0.3	木質
				_	平根式三角形C	両丸造	鏃身部	()	(0.12)									
			ŀ		平根式?	棘状関	頸部・茎部	(7.0)				(1.7)	0.8	0.5	(5.3)	0.5	0.4	木質→樹皮
			ŀ	-	平根式腸抉三角形A	両丸造・台形関		11.9	5.6	3.2	0.4	4.1	0.6	0.3	3.8	0.3		樹皮→木質
			ŀ		平根式腸抉三角形A	平造	鏃身部	(7.3)	(7.3)		0.2							1750
			ŀ		平根式?	両丸造	鏃身部	(4.4)	(4.4)	1.4	0.3							
			ŀ	232	長頸式BV (腸抉長三角形)	片丸浩・台形関	鏃身部·頸部·茎部	(7.6)	(0.5)	(0.9)		7.0	0.7	0.3	(0.4)	0.5	0.3	
			ŀ		長頸式BV (腸抉長三角形)		鏃身部・頸部	(3.2)	(2.4)	1.0	0.2	(0.6)	0.6	0.2	(0.12)			
			ı		長頸式BV (腸抉長三角形)		鏃身部・頸部	(4.5)	(2.9)		0.2	(2.0)	0.6	0.2				
			ŀ		長頸式BV (腸抉長三角形)		鏃身部・頸部	(3.6)	2.5	1.0	0.2	(1.3)	0.5	0.3				
			ı		長頸式	棘状関	頸部・茎部	(11.6)				(7.2)	0.5	0.3	(4.4)	0.6	0.4	木質
			ı	237			茎部	, ,										
			f	238	長頸式	台形関	頸部	(6.2)				(5.0)	0.5	0.3	(1.2)	0.4	0.3	
			İ	239	長頸式	台形関	頸部・茎部	(3.8)				(2.4)	0.8	0.3	(1.4)	0.5		
			İ	240	長頸式		頸部	(3.3)				(3.2)	0.5	0.3	<u> </u>			
			İ	241	長頸式?	台形関	頸部・茎部	(3.4)				(2.6)	0.6	0.3	(0.8)	0.8	0.4	木質→樹皮
Е	71	床面	85	324	長頸式BⅣ(柳葉)	片丸造·棘状関	ほぼ完形	(18.8)	3.5	0.9	0.3	8.7	0.4	0.3	(6.6)	0.4	0.3	樹皮→木質→樹皮
			İ	325	長頸式BⅣ(柳葉)	片丸造	刃部・頸部	(3.5)	2.8	1.0	0.3	(0.7)	0.4	0.2				
			ı	326	長頸式BⅣ(柳葉)	片丸造	刃部・頸部	(8.7)	3.5	1.0	0.3	(5.2)	0.5	0.5				
			Ī	327	長頸式	棘状関	頸部・茎部	(11.8)				(8.1)	0.5	0.3	(3.7)	0.3	0.4	樹皮→木質→樹皮
			Ī	328	長頸式?		茎部	(2.1)							(2.1)	0.4	0.4	樹皮→木質
				329	長頸式	台形関	頸部・茎部	(9.5)				(8.0)	0.4	0.3	(1.5)	0.4	0.3	
			Ī	330	長頸式?	棘状関	頸部・茎部	(9.2)				(2.5)	0.5	0.3	(6.7)	0.3	0.2	樹皮→木質→樹皮
				331	長頸式		頸部	(7.1)				(7.1)	0.5	0.4				
			Ī	332	長頸式		頸部	(4.8)				(4.8)	0.6	0.3				
					長頸式?		茎部	(3.0)					0.2	0.2	(3.0)	0.2	0.2	木質
			Ī	334	平根式三角形C	平造	刃部	(4.5)	4.5	(3.3)	0.2							
	Ī	埋土	Ī	339	長頸式BIV (柳葉)	片丸造	刃部・頸部	(8.3)	2.0	0.8	0.2	(6.3)	0.5	0.3				
			İ	340	長頸式BIV (柳葉)	両丸造	刃部・頸部	(3.5)	(0.9)	1.0	0.2	(2.1)	0.5	0.3				
			Ī	341	長頸式?	棘状関	頸部・茎部	(2.0)				(0.9)	0.6		(1.2)	0.6	0.4	木質→樹皮
	248	埋土	96	363	長頸式BN(長三角形)		刃部・頸部	(7.0)	3.1	1.1	0.2	(3.9)	0.5	0.4				

第16表 鉄鏃観察表

地区			挿図	遺物	残存部位			法量(cm)			成形
7E [2]	番号	層位	番号	番号	7X1T IIP IV.	長径	短径	厚さ	幅	端間隔	195/12
A	107	床面	9	36	完形	3.35	2.85	0.60	0.70	0.30	銅芯銀張り(内側一部金色)
С	92	床面	48	259	完形	3.00	2.70	0.70	0.80	0.25	銅芯銀張り(内側のみ金色)
	235	床面	52	270	一部欠	2.50	2.25	0.50	0.60	0.37	銅芯銀張り(内側のみ金色)
				271	一部欠	2.55	2.35	0.50	0.60	0.15	銅芯銀張り
Е	248	床面	96	364	完形	2.35	2.15	0.45	0.75	0.22	銅芯銀張り(全面金色)

第17表 耳環観察表

地	古墳	出土	挿図	遺物	種類	状態	材質		法量	(mm)		色調	地	古墳			遺物	種類	状態	材質		法量	(mm)		色調
区	番号	層位	番号	番号	俚规	小思	初頁	全長	長径	短径	孔径	巴神	区	番号	層位	番号	番号	俚親	1人忠	171頁	全長	長径	短径	孔径	巴洞
Α	107	床面	9	37	切子玉	完形	水晶	20.5	13.0	12.5	4.0	白色透明	Α	107	埋土	9	63	小玉	半損	ガラス	2.5	4.0		1.5	スカイブルー
				38	丸玉	完形	土製	6.0	7.0	7.0	1.5	暗灰N3/0	ı				64	小玉	完形	ガラス	2.5	4.0	3.5	1.5	スカイブルー
				39	丸玉	完形	土製	6.0	8.0	6.5	1.5	暗灰N3/0	ı				65	小玉	完形	ガラス	2.5	4.5	4.0	2.0	スカイブルー
				40	小玉	完形	ガラス	2.0	4.0	4.0	1.0	スカイブルー					66	小玉		ガラス	2.0	4.5	4.0	2.0	スカイブルー
				41	小玉	完形	ガラス	2.5	4.0	4.0	1.5	スカイブルー	ı				67	小玉	完形	ガラス	3.0	4.0	4.0	2.0	スカイブルー
		埋土		49	丸玉	完形	土製	5.5	7.5	7.0	1.0	暗灰N3/0					68	小玉		ガラス	2.0	4.0	4.0	2.0	スカイブルー
				50	丸玉	完形	土製	5.5	7.5	7.0	1.5	暗灰N3/0	ı				69	小玉		ガラス	2.0	4.0	3.5	1.5	スカイブルー
					丸玉	完形	土製	6.0	7.5	7.0	1.5	暗灰N3/0						小玉	完形		2.5	4.0	3.5	1.5	
					丸玉	完形	土製	6.0	7.0	7.0	1.0	暗灰N3/0	ı					小玉		ガラス	2.5	4.0	3.5		スカイブルー
					丸玉	完形	土製	5.5	6.5	6.0	1.0	暗灰N3/0						小玉		ガラス	2.0	4.5	4.0		スカイブルー
					丸玉	完形	土製	5.5	7.0	6.0	1.0	暗灰N3/0	В		床面	43		臼玉	完形		3.0	7.5	7.0		緑灰7.5GY5/1
				_	丸玉	完形	土製	5.0	6.5	6.0	1.5		L	104	床面	44		楽玉	完形		23.0	16.5	14.5		暗赤褐2.5YR3/4
					丸玉	完形	土製	5.5	7.0	6.5	2.0		Е	71	床面	85	_	管玉	完形		23.5	9.0	8.0		暗緑灰10G3/1
					丸玉	完形	土製	5.5	7.5	6.5	2.0	暗灰N3/0	ı		埋土		_	勾玉	完形			幅24.0	厚10.0	4.0	黄褐2.5Y5/4
					丸玉	完形	土製	6.0	7.5	7.0	1.0		ı					丸玉	完形		5.0	8.0	7.5	1.5	コバルトブルー
					丸玉	完形	土製	5.0	7.0	6.5	1.5	暗灰N3/0	ı					丸玉	完形		5.0	7.0	6.0	1.5	コバルトブルー
				60	丸玉	半損		6.0				暗灰N3/0	ı				347	丸玉	完形		5.0	7.5	6.5	1.5	コバルトブルー
					小玉	完形	ガラス	3.0	4.0	4.0	_	乳青	上				348	小玉	完形	ガラス	2.5	5.0	4.0	1.0	コバル ブルー
Ш				62	小玉	完形	ガラス	2.5	4.0	4.0	1.5	乳青													

第18表 玉類観察表

	value er e	whole			atr. t	**D -*-	外面調整		ハケメ				п			凸带		厚さ(cm)	
	遺物 番号		器種	出土 位置	出土 層位	残存 部位	(静止痕間隔)	内面 調整	本数 (/cm)	色調	胎土	焼成	胎土 分類	スカシ	断面形	高さ (cm)	幅(cm) 下 上	破片上位 破片下位	備考
24	85	16	円筒	後円部 南東	流土中	口縁~	B種 ヨコハケ (3cm)後口縁 部 ヨコナデ	ナデ	7~8	明黄褐 10YR7/6	緻密(砂粒 混入無し)	良好	Ι		M字状	0.5	1.2 1.0		口径26.0 凸带径24.5 口縁~凸带8.9
	86	17	円筒	後円部 南	流土中	口縁部				浅黄橙 10YR8/4	緻密(砂粒 混入無し)	良好	Ι		不明				
	87	26	円筒		流土中	口縁部	ヨコハケ後口 縁部ヨコナ	ヨコハケ	6~8	浅黄橙	緻密(砂粒	良好	Ι		不明				
	88	27	円筒	南 後円部 南	流土中	口縁部	B種ヨコハケ 後口縁部ヨ	後口縁部		10YR8/4 黄橙 10YR8/6	混入無し) 緻密(砂粒 混入無し)	良好	I		不明				
	89	37	円筒	後円部 北	流土中	口縁部	コナデ B種ヨコハケ 後口縁部ヨ			浅黄橙 7.5YR8/6	緻密(砂粒 混入無し)	良好	I		不明				
	90	31	円筒	後円部南	流土中	体部	コナデ B種ヨコハケ (3.3cm)	ナデ	8	浅黄橙 7.5YR8/6	緻密(砂粒 混入無し)	良好	I	円形・周囲に ヘラ記号	M字状	0.5	1.5 1.0		
	91	36	円筒	後円部	流土中	体部	B種ヨコハケ	ナデ	5~6	浅黄橙	緻密(砂粒	良好	Ι	マノルク	不明		1.0		
-	92	38	円筒	北東 後円部	流土中	体部	B種ヨコハケ		8~9	7.5YR8/6 浅黄橙	混入無し) 緻密(砂粒	良好	I		M字状	0.4	1.4		
	93	30	円筒		流土中	体部	ヨコハケ			10YR8/4 浅黄橙	混入無し) 緻密(砂粒	良好	I	円形	M字状	0.5	0.6		
	94	29	円筒	南 後円部	流土中	体部	B種ヨコハケ	ナデ	7~8	7.5YR8/6 黄橙	混入無し) 緻密(砂粒	良好	I	円形・断面に	M字状	0.5	0.9		
	95	32	円筒		流土中	体部	B種ヨコハケ		5	10YR8/6 浅黄橙	混入無し) 緻密(砂粒	良好	I	1条の沈線 円形・周囲に	M字状	0.4	1.0		
-	96	39	円筒	南 後円部	流土中	体部	タテノケ(細)		9	7.5YR8/6 浅黄橙	混入無し) 緻密(砂粒	良好	I	ヘラ記号	M字状	0.7	0.7		
	97		円筒	南	流土中		(1947)			7.5YR8/6 浅黄橙	混入無し) 緻密(砂粒	良好			不明	5	0.7		
	98	33	円筒	南谷田部	流土中	底部		ナデ		7.5YR8/6 浅黄橙	混入無し) 緻密(砂粒	良好	Т		不明				
	99		円筒	南	流土中	底部		, ,		10YR8/4 黄橙	混入無し) 緻密(砂粒	普通			不明				
				南			7765	- 42 50 -		10YR8/6	混入無し)			Intack o	,				- T- T- 1 2
	100		朝顔形	南	流土中	体部	B種 ヨコハケ 後口縁部ヨ コナデ	コナデ		浅黄橙 10YR8/4	緻密(砂粒 混入無し)	良好		円形?	M字状	0.4	1.5 1.1		口径24.6 凸带径25.8 口縁~凸帯9.8
25	101	19	朝顔形	後円部 南西	流土中	口縁部	タテハケ(細)	ヨコハケ	8~10	浅黄橙 10YR8/4	緻密(砂粒 混入無し)	良好	Ι		不明				
	102	20	朝顔形	後円部 南西	表土	口縁部	ナデ	ナデ		浅黄橙 7.5YR8/4	緻密(砂粒 混入無し)	良好	Ι		不明				
	103	21	朝顔形	後円部 南西	流土中	口縁部	タテハケ		8	浅黄橙 10YR8/4	緻密(砂粒 混入無し)	良好	Ι		不明				
	104	25	朝顔形	後円部 西	流土中	口縁部	タテハケ	ナデ	8	浅黄橙 7.5YR8/6	緻密(砂粒 混入無し)	良好	Ι		不明				
	105	22	朝顔形		表土	頸部				浅黄橙 10YR8/4	緻密(砂粒 混入無し)	良好	Ι		不明				
	106	23	朝顔形	後円部 南	流土中	口縁部	ヨコハケ			浅黄橙 7.5YR8/6	緻密(砂粒 混入無し)	良好	Ι		不明				
	107	24	朝顔形	後円部 南	流土中	肩部	B種ヨコハケ (2.8cm)	ナデ	8	浅黄橙 10YR8/4	緻密(砂粒 混入無し)	良好	Ι		不明				
	108	28	円筒	後円部 南	表土	体部	ヨコハケ→B 種ヨコハケ	ナデ		浅黄橙 10YR8/4	緻密(砂粒 混入無し)	良好	Ι		M字状	0.5	1.6 1.1		
		41	朝顔形	後円部 南西	表土	口縁部下				にぶい橙 5YR7/4	緻密(砂粒 混入無し)	良好	Ι		不明			1.0 0.9	
		42	朝顔形	後円部 南西	流土中	口縁部	ナデ	ヨコハケ		にぶい橙 5YR7/4	緻密(砂粒 混入無し)	良好	I		不明			1.0 1.1	
		43	朝顔形	後円部 南	流土中	頸部	ヨコハケ	ナデ	5~6	浅橙5YR8/4	緻密(砂粒 混入無し)	良好	Ι		不明			1.0 1.0	
		44	朝顔形	後円部 南	流土中	口縁部	ヨコハケ		7	浅黄橙 10YR8/3	緻密(砂粒 混入無し)	良好	Ι		不明			1.0 0.9	
		45	朝顔形	1	流土中	頸部				橙7.5YR7/6		普通	Ι		不明		1.7 0.9	1.0	
		46	朝顔形	後円部西	流土中	口縁部	ナデ			浅黄橙 10YR8/4	緻密(砂粒 混入無し)	普通	Ι		不明			1.0 0.9	
		47	朝顔形	I	流土中	口縁部				浅黄橙 7.5YR8/6		普通	Ι		不明			1.1	
		48	朝顔形		流土中	口縁部	ナデ	ナデ		にぶい橙 5YR7/4	緻密(砂粒 混入無し)	良好	Ι		不明			1.1	
			朝顔 形?		流土中	口縁部				黄橙 10YR8/6	緻密(砂粒 混入無し)	普通	Ι		不明			0.9	
			朝顔形	1	流土中	口縁部		ヨコハケ	8	浅黄橙 10YR8/4	概念無し) 緻密(砂粒 混入無し)	普通	Ι		不明			1.0	
		51	円筒	前方部	流土中	体部	B種ヨコハケ	ナデ	8~9	浅橙5YR8/4	緻密(砂粒	普通	Ι		M字状	0.4	1.6	0.8	
		52	円筒		流土中	底部				浅橙5YR8/4		普通	Ι		不明		0.9	0.8	
		53	円筒		流土中	体部	B種ヨコハケ	ナデ		浅黄橙	混入無し) 緻密(砂粒	普通	I		M字状	0.3	1.5	1.5	
-		54	円筒		流土中	体部	B種ヨコハケ	ナデ		7.5YR8/6 浅黄橙	混入無し) 緻密(砂粒	普通	I		台形	0.5		1.0	
-		55	円筒	北前方部	流土中	体部				7.5YR8/4 浅黄橙	混入無し) 緻密(砂粒	普通	Ι		不明		0.8	1.0	
			円筒	北	流土中			ナデ		7.5YR8/6 浅黄橙	混入無し) 緻密(砂粒	普通			不明			1.0	
			円筒	北	流土中					7.5YR8/4 浅黄橙	報告(砂粒 混入無し) 緻密(砂粒	普通			不明			0.9	
		57	门间	削力部 北	机工円	4年4月				浅黄橙 7.5YR8/4	緻密(砂粒	百地	1		小明			0.8 0.9	

第19表 埴輪観察表(1)

145 [50]	1984 BL.	46 TU		102.1	10. 1	144 七	外面調整	.t+==	ハケメ				RZ- I			凸帯	Aur.	厚さ(cm)	
	遺物 番号		器種	位置	出土 層位	残存 部位	(静止痕間隔)	内面 調整	本数 (/cm)	色調	胎土	焼成	胎土 分類	スカシ	断面形	高さ (cm)	幅(cm) 下 上	破片上位 破片下位	備考
		58	円筒	前方部 北	流土中	体部	B種ヨコハケ			浅黄橙 7.5YR8/4	緻密(砂粒 混入無し)	普通	Ι		不明			0.8 0.9	
		59	円筒	前方部北	流土中	体部				浅黄橙 7.5YR8/4	緻密(砂粒 混入無し)	普通	Ι		不明			0.6 0.7	
		60	円筒		流土中	体部		ナデ		浅黄橙 7.5YR8/6	緻密(砂粒 混入無し)	普通	Ι		不明			1.0	
		61	円筒		流土中	口縁部		ヨコハケ		浅黄橙 7.5YR8/6	緻密(砂粒 混入無し)	普通	Ι		不明			0.6	
		62	円筒	前方部	流土中	底部				浅黄橙	緻密(砂粒	普通	Ι		不明			0.8	
		63	円筒		流土中	体部	B種ヨコハケ		8~9	7.5YR8/4 浅黄橙	混入無し) 緻密(砂粒	普通	I		M字状	0.7		1.5	
		64	円筒	北前方部	流土中	口縁部	ヨコハケ			10YR8/4 浅黄橙	混入無し) 緻密(砂粒	普通	I		不明		0.9	0.7	
		65	円筒	北前方部	流土中	体部	B種ヨコハケ	ナデ		10YR8/4 浅黄橙	混入無し) 緻密(砂粒	普通	I		不明			1.0	
		66	円筒	北前方部	流土中	体部	ヨコハケ		7~8	10YR8/4 浅黄橙	混入無し) 緻密(砂粒	普通	I		不明			1.0	
			円筒	北	流土中		B種ヨコハケ	ナデ		10YR8/4 浅黄橙	混入無し) 緻密(砂粒	普通			不明			0.9	
			円筒	北	流土中		, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	, ,		10YR8/4 浅黄橙	混入無し) 緻密(砂粒	普通			不明			1.0	
			円筒	北						10YR8/4 浅黄橙	混入無し) 緻密(砂粒				不明			1.0	
				北	流土中					10YR8/4	混入無し)	普通						0.9	
			円筒	北	流土中					黄橙 10YR8/6	緻密(砂粒 混入無し)	良好			不明			1.0	
			円筒	北		口縁部				黄橙 10YR8/6	緻密(砂粒 混入無し)	良好			不明			0.9	
		72	円筒	前方部 北	流土中	体部				浅黄橙 7.5YR8/6	緻密(砂粒 混入無し)	普通	Ι		不明			1.2	·
		73	円筒	前方部北	流土中	体部				浅黄橙 7.5YR8/6	緻密(砂粒 混入無し)	普通	Ι		不明			0.9	
		74	円筒	前方部北	流土中	体部				浅黄橙 10YR8/4	緻密(砂粒 混入無し)	普通	Ι		不明			1.2	
		75	円筒		流土中	体部				にぶい黄橙 10YR7/4	緻密(砂粒 混入無し)	普通	Ι		不明			0.9	
		76	円筒		流土中	口縁 部?				浅黄橙 7.5YR8/3	緻密(砂粒 混入無し)	普通	Ι		不明			0.8	
		77	円筒	前方部	流土中					浅黄橙	緻密(砂粒	不良	Ι		不明			0.8	
		78	円筒		流土中	体部	B種ヨコハケ	ナデ	7~8	10YR8/4 浅黄橙	混入無し) 緻密(砂粒	良好	I		不明				ベンガラ?
		79	円筒	北 後円部	表土	体部	タテハケ(細)	ヨコハケ	8~9	10YR8/4 浅黄橙	混入無し) 緻密(砂粒	良好	I		不明			0.9	
		80	円筒	南 後円部	流土中	体部	タテハケ(細)	ヨコハケ	8~9	10YR8/3 浅黄橙	混入無し) 緻密(砂粒	良好	I		不明			0.9	
		81	円筒	南西	表土	体部	タテハケ(細)	ヨコハケ	9	10YR8/3 浅黄橙	混入無し) 緻密(砂粒	普通	I		不明			1.3 0.9	
		82	朝顔	後円部	流土中	体部	ヨコハケ		9~10	10YR8/4 浅黄橙	混入無し) 緻密(砂粒	普通			不明			1.1 0.9	
			形?	南	流土中		タテハケ(細)	ヨコハケ		7.5YR8/4 浅黄橙	混入無し) 緻密(砂粒	普通			不明			1.0	
			円筒	南東	表土	体部	タテハケ(細)			10YR8/4 浅黄橙	混入無し) 緻密(砂粒	普通			不明			1.2	
				56 III 69			, ,	33/19		10YR8/4	混入無し)								
			円筒	北東	流土中		ヨコハケ		9~10	浅黄橙 10YR8/4	緻密(砂粒 混入無し)	普通	I		不明				
			円筒	北東	流土中		ヨコハケ			浅黄橙 10YR8/4	緻密(砂粒 混入無し)	普通			不明			1.2	
		87	円筒	後円部 北東	流土中	底部	タテハケ(細)		8~9	浅黄橙 10YR8/4	緻密(砂粒 混入無し)	普通	I		不明			1.2 1.4	
		88	円筒		表土	体部	タテハケ(細)	ヨコハケ	10~11	浅黄橙 10YR8/3	緻密(砂粒 混入無し)	不良	Ι		不明			1.1 1.2	
		89	円筒	後円部北	流土中	体部		ナデ		浅黄橙 10YR8/4	緻密(砂粒 混入無し)	普通	Ι	円形・上位凸 帯より0.8cm 断面に2条の 沈線		0.4	1.4 0.8	0.8 0.9	
		90	円筒		表土	体部	ヨコハケ			にぶい橙 7.5YR7/4	緻密(砂粒 混入無し)	良好	Ι		M字状	0.4	1.2 0.9	0.7 0.8	
		91	円筒		表土	体部	ヨコハケ	ナデ		浅黄橙 10YR8/3	総密(砂粒混入無し)	普通	Ι		M字状	0.5		0.9 1.1	
		92	円筒		表土	口縁部				浅黄橙	緻密(砂粒	普通	I		不明		0.0	0.5	
		93	円筒		表土	体部		ナデ		10YR8/4 浅黄橙	混入無し) 緻密(砂粒	良好	I	円形・上位凸	M字状	0.3		0.9	
		94	円筒		流土中	体部	B種ヨコハケ	ナデ	5~6	10YR8/4 にぶい黄橙	混入無し) 緻密(砂粒	普通	I	帯より0.3cm	不明		1.0	1.0	
		95	円筒	北東 後円部	流土中	口縁部				10YR7/4 浅黄橙	混入無し) 緻密(砂粒	良好	I		不明			1.1 1.0	
		96	円筒	北 後円部	流土中	体部	ヨコハケ	ナデ		10YR8/4 浅黄橙	混入無し) 緻密(砂粒	普通			台形	0.5	1.5	0.9	
			円筒	北東	流土中			ナデ		10YR8/4 浅黄橙	混入無し) 緻密(砂粒	良好		円形・上位凸		0.4	0.6	1.0	
		30	1 11년	北	NE L.T	- CHE PROPERTY OF				10YR8/4	混入無し)	1631	1	市ル・エ位日 帯より0.5cm 周囲にヘラ記 号・断面に 2 条の沈線		0.4	0.8	1.0	
		100	円筒	後円部 北	流土中	体部	B種ヨコハケ	ナデ		浅黄橙 7.5YR8/6	緻密(砂粒 混入無し)	良好	Ι		M字状	0.6	1.7 0.9	1.0 1.0	

第 20 表 埴輪観察表 (2)

	遺物 番号		器種	出土位置	出土層位	残存 部位	外面調整 (静止痕 間隔)	内面調整	ハケメ 本数 (/cm)	色調	胎土	焼成	胎土	スカシ	断面形	凸帯 高さ (cm)	幅(cm) 下 上	厚さ(cm) 破片上位 破片下位	備考
		101	円筒	後円部 北	流土中	体部	B種ヨコハケ		6~7	浅黄橙 7.5YR8/4	緻密(砂粒 混入無し)	良好	Ι		不明			0.9 0.8	
		102	円筒		流土中	底部		ナデ		浅黄橙 7.5YR8/4	緻密(砂粒 混入無し)	良好	Ι		不明			0.8 1.6	
		103	円筒		流土中	体部	B種ヨコハケ	ナデ		浅黄橙 7.5YR8/4	総密(砂粒 混入無し)	良好	Ι		M字状	0.4	1.3 0.9	0.9	
		104	円筒	後円部	流土中	底部				浅黄橙 7.5YR8/4	級密(砂粒 混入無し)	普通	I		不明		0.9	0.9	
		105	円筒		流土中	体部	ヨコハケ		9~10	浅黄橙	緻密(砂粒	普通	I		台形	0.2		1.1	
		106	円筒		流土中	底部	タテハケ(細)		8	7.5YR8/4 明黄褐	混入無し) 緻密(砂粒	普通	I		不明		0.5	1.1	
		107	円筒		流土中	体部	ヨコハケ	ヨコハケ		10YR7/6 黄橙	混入無し) 緻密(砂粒	普通	I		不明		1.5	1.2	
		108	円筒	北東 後円部	流土中	体部	B種ヨコハケ		7~8	10YR8/6 浅黄橙	混入無し) 緻密(砂粒	良好	I		不明		1.0	0.9	
		109	円筒	北 後円部	流土中	体部		ナデ		7.5YR8/4 浅黄橙	混入無し) 緻密(砂粒	普通	I		M字状	0.4	1.1	-	
		110	円筒	北 後円部	流土中	体部				7.5YR8/4 浅黄橙	混入無し) 緻密(砂粒	普通	I		M字状	0.3	0.6	0.9	
			円筒	北 後円部	流土中	体部				7.5YR8/3 橙7.5YR7/6	混入無し) 緻密 砂粒	普通	I		M字状	0.4	0.7	0.8	
			円筒	北	流土中		B種ヨコハケ	ナデ		浅黄橙	混入無し) 緻密(砂粒	良好			M字状	0.6	0.9	0.7	
			円筒	南	流土中		DESCRIPTION	ナデ		10YR8/4 浅黄橙	混入無し) 緻密(砂粒	普通		円形	M字状	0.4	1.0	1.0	
				南			D番ココハケ		0-0	10YR8/4	混入無し)			11/15			1.0	0.8	
			円筒	南	流土中		B種ヨコハケ		8~9	にぶい黄橙 10YR7/3	緻密(砂粒 混入無し)	良好			M字状	0.5	1.0	1.0	
			円筒	南		体部	ヨコハケ	ナデ		黄橙 10YR8/6	緻密(砂粒混入無し)	良好	Ι		M字状	0.4	1.6 1.1	1.0 1.0	
			円筒	南	流土中		B種ヨコハケ	ナデ		浅黄橙 10YR8/4	緻密(砂粒 混入無し)	良好			不明			0.9 0.9	
			円筒	南		体部	B種ヨコハケ			黄橙 10YR8/6	緻密(砂粒 混入無し)	良好	I	円形	不明			1.1 1.0	
		118	円筒	後円部 南	流土中	体部		ナデ		にぶい黄橙 10YR7/4	緻密(砂粒 混入無し)	良好	Ι		M字状	0.4	1.4 0.7	1.0 0.9	
		119	円筒	後円部 南	流土中	体部	B種ヨコハケ	ナデ		黄橙 10YR8/6	緻密(砂粒 混入無し)	良好	Ι		M字状	0.2	1.4 0.7	0.8	
		120	円筒	後円部 南	流土中	底部	B種ヨコハケ	ナデ		にぶい黄橙 10YR7/4	緻密(砂粒 混入無し)	普通	Ι		不明			1.2 1.3	
		121	円筒	後円部 南	流土中	体部	B種ヨコハケ (3.2cm以上)	ナデ	5	浅黄橙 10YR8/3	緻密(砂粒 混入無し)	普通	Ι		M字状	0.4	1.6 0.6	1.0 1.1	
		122	円筒	****	流土中	体部	(0.20113.22)	ナデ		浅黄橙 7.5YR8/4	緻密(砂粒 混入無し)	普通	I		M字状	0.5		0.8	
		123	円筒		流土中	体部	ヨコハケ	ナデ		浅黄橙 7.5YR8/6	緻密(砂粒 混入無し)	普通	Ι	円形・下位凸 帯より0.5cm	M字状	0.4	1.3	0.9	
		124	円筒		流土中	体部	ヨコハケ	ナデ	8~9	浅黄橙 10YR8/4	緻密(砂粒 混入無し)	普通	I	1) & 9 0.5cm	不明		0.0	0.9 0.7	
		125	円筒	後円部	流土中	体部		ナデ		浅黄橙	緻密(砂粒	普通	I		M字状	0.4	1.5	0.9	
		126	円筒	南 後円部	表土	体部		ナデ		10YR8/3 にぶい黄橙	混入無し) 緻密(砂粒	普通	I	円形・下位凸	M字状	0.4	0.9	1.0	ベンガラ
		127	円筒		流土中	体部		ナデ		10YR7/4 浅黄橙	混入無し) 緻密(砂粒	普通	I	帯より0.4cm	M字状	0.3		0.8	
		128	円筒		流土中	底部		ナデ		10YR8/4 にぶい黄橙		普通	Ι		不明		0.8	0.9 1.0	
		129	円筒		流土中	体部	ヨコハケ	ナデ	推定10	浅黄橙	混入無し) 緻密(砂粒	普通	I		M字状	0.4	1.2	1.5 0.9	1次調整タテハケ
\vdash		130	円筒		流土中	体部	ヨコハケ	ナデ	4~5	7.5YR8/4 浅黄橙	混入無し) 緻密(砂粒	良好	I		不明	0.3	0.7	0.8	
		131	円筒	南 後円部	流土中	体部	ヨコハケ	ナデ	4~5	7.5YR8/6 明黄褐	混入無し) 緻密(砂粒	良好	I	上位凸帯より	M字状	0.4	1.4	0.9	
			円筒	南東 後円部	流土中	体部	ヨコハケ	ナデ	7~8	10YR7/6 にぶい橙	混入無し) 緻密(砂粒	良好		1.1cm 円形・下位凸	M字状	0.5	0.8 1.5	1.0 1.0	
			円筒	西 後円部	流土中	体部		ナデ		7.5YR7/4 浅黄橙	混入無し) 緻密(砂粒	普通		帯より1.0cm	M字状	0.4	0.9	1.0	
			円筒	南	流土中		B種ヨコハケ			7.5YR8/4 明黄褐	混入無し) 緻密(砂粒	良好			不明		1.0	1.0	
			円筒	南	流土中					10YR7/6 浅黄橙	混入無し) 緻密(砂粒		I	円形・下位凸		0.5	1.4	0.9	
			円筒	南	流土中		B種ヨコハケ	ナデ	8~9	10YR8/4 浅黄橙	混入無し) 緻密(砂粒	普通		帯より0.5cm	不明	0.0	0.9		
				南	流土中		D1E 3 2/1/	ナデ	0-9	10YR8/4	報告(砂粒 混入無し) 緻密(砂粒	普通		円形・上位凸		0.4	1.0	0.8	
			円筒	南					0 10	10YR7/4	混入無し)			帯より0.5cm		0.4	1.6 0.9	1.0	
			円筒	南東	流土中		ヨコハケ	ナデ	9~10	明黄褐 10YR7/6	緻密(砂粒混入無し)	良好		円形	不明			1.0 1.0	
			円筒	南	流土中		ヨコハケ	ナデ	5~7	浅黄橙 7.5YR8/4	緻密(砂粒 混入無し)	良好			不明			0.9 1.0	
			円筒	南	流土中					浅黄橙 7.5YR8/6	緻密(砂粒 混入無し)	良好			不明			0.8 0.9	
		141	円筒	後円部 南	流土中	底部				浅黄橙 10YR8/4	緻密(砂粒 混入無し)	普通	I		不明			1.0 1.5	
		142	円筒	後円部 南	流土中	肩部	ヨコハケ	ナデ		浅黄橙 10YR8/4	緻密(砂粒 混入無し)	普通	I		不明			0.9 0.9	
		143	円筒		流土中	底部		ナデ		浅黄橙 10YR8/3	緻密(砂粒 混入無し)	不良	Ι		不明			1.0 1.6	

第 21 表 埴輪観察表 (3)

35 to 2	1981 BZ.	dple ven		,,,,	10. 1	T-41	外面調整	ph-2-	ハケメ				II/- 1			凸帯	Aur -	厚さ(cm)	
軍凶 番号	遺物 番号	整理 番号	器種	出土 位置	出土 層位	残存 部位	(静止痕 間隔)	内面 調整	本数 (/cm)	色調	胎土	焼成	胎土 分類	スカシ	断面形	高さ (cm)	幅(cm) 下 上	破片上位破片下位	備考
		144	円筒	後円部 南西	流土中	口縁部		ナデ		浅黄橙 7.5YR8/4	緻密(砂粒 混入無し)	普通	Ι		不明				
		145	円筒	後円部 南西	流土中	底部		ナデ		明黄褐 10YR7/6	緻密(砂粒 混入無し)	普通	Ι		不明			1.0 1.4	
		146	円筒	後円部	流土中	体部	B種ヨコハケ	ヨコハケ	9~10	浅黄橙	緻密(砂粒	良好	I		不明			0.6	
		147	円筒	南 後円部	表土	体部	(4.7cm以上)	ヨコハケ		7.5YR8/6 浅黄橙	混入無し) 緻密(砂粒	良好	Ι		不明			0.9	
		148	円筒	南西 後円部	表土	体部	B種ヨコハケ		8~9	7.5YR8/6 橙7.5YR7/6	混入無し) 緻密(砂粒	良好	I		不明			0.9	
			円筒	南西	流土中		ヨコハケ	ナデ	6~7	浅黄橙	混入無し) 緻密(砂粒	良好			不明			1.0	
				南			,			7.5YR8/4	混入無し)							0.8	
			円筒	南西	流土中		B種ヨコハケ	アア	7~8	浅黄橙 7.5YR8/6	緻密(砂粒 混入無し)	良好			不明			1.0 0.9	
		151	円筒	後円部 西	流土中	体部				にぶい橙 7.5YR7/4	緻密(砂粒 混入無し)	普通	I		不明			0.8 0.9	
		152	円筒	後円部 南西	流土中	体部	B種ヨコハケ	ナデ	9~10	にぶい黄橙 10YR7/4	緻密(砂粒 混入無し)	普通	Ι		M字状	0.4	1.7 0.8	1.0	
		153	円筒	後円部 南西	表土	口縁部	ナデ	ナデ		浅黄橙 7.5YR8/4	緻密(砂粒 混入無し)	普通	Ι		不明			0.7 0.8	
		154	円筒		流土中	体部	ヨコハケ		6~7	黄橙	緻密(砂粒	普通	Ι		不明			-	
		155	円筒	後円部	流土中	口縁部		ナデ		10YR8/6 浅黄橙	混入無し) 緻密(砂粒	良好	I		不明			0.8	
		156	円筒		流土中	口縁部	B種ヨコハケ	ナデ	6~7	7.5YR8/4 浅黄橙	混入無し) 緻密(砂粒	普通	I		不明			0.9	
		157	円筒	南西 後円部	流土中	体部	(3.5cm以上) ヨコハケ			7.5YR8/6 浅黄橙	混入無し) 緻密(砂粒	普通	I		不明			1.1	
			円筒	西	流土中		ヨコハケ	ナデ	推定10	7.5YR8/6	混入無し) 緻密(砂粒	良好			M字状	0.4	1.4	1.0	
			円筒	南西	流土中			ナデ	ηι. ΛΕ1U	戊貝位 10YR8/4 黄橙	混入無し)				不明	0.4	1.4		
				北西				アア		10YR8/6	緻密(砂粒 混入無し)	普通						0.9	
		160	円筒	後円部 西	流土中	体部				にぶい橙 7.5YR7/4	緻密(砂粒 混入無し)	普通	I		不明			1.1	
		161	円筒	後円部 西	流土中	体部				浅黄橙 7.5YR8/4	緻密(砂粒 混入無し)	普通	Ι		M字状	0.2	1.4 0.7	1.0	
		162	円筒		流土中	体部				黄橙 10YR8/6	緻密(砂粒 混入無し)	普通	Ι		M字状	0.4	1.3		
		163	円筒	後円部	流土中	口縁部	ヨコハケ	ヨコハケ		にぶい黄橙	緻密(砂粒	普通	I		不明		0.0	0.7	
		165	円筒		流土中	体部				10YR7/4 浅黄橙	混入無し) 緻密(砂粒	普通	Ι		M字状	0.6			
		166	円筒	北 後円部	流土中	体部				10YR8/4 橙7.5YR7/6	混入無し) 緻密(砂粒	良好	I		M字状	0.3	0.9		
		167	円筒	西 後田部	流土中	体部	ヨコハケ			にぶい黄橙	混入無し) 緻密(砂粒	普通	I		M字状	0.5	0.9		
			円筒	北西	流土中			ナデ		10YR7/4 浅黄橙	混入無し) 緻密(砂粒	良好			不明	0.0	1.0		
				北西				7 7		10YR8/4	混入無し)							1.9	
		173	円筒	南	流土中					浅黄橙 10YR8/4	緻密(砂粒 混入無し)	普通	1		不明			0.8 0.9	
25	109	194	円筒	後円部北	流土中		ヨコハケ (10cm以上)		9~10	黄橙 10YR8/6	普通(砂粒 少量混入)	普通	П	隅丸方形 上位凸帯より 0.5cm	M字状	0.4	1.8 0.8		
	110	172	円筒	後円部 北西	流土中	口縁部	ヨコハケ後ナ デ	ヨコハケ	6~7	浅黄橙 7.5YR8/6	普通(砂粒 少量混入)	不良	II		不明			0.9 1.0	
	111	179	円筒	_	表土	口縁部	ヨコハケ	ヨコハケ	5~6	明黄褐	普通(砂粒	普通	II		不明			1.2	
	112	188	円筒		流土中	体部	ヨコハケ	ナデ		10YR7/6 橙7.5 YR7/6		普通	II		M字状	0.8			
	113	207	円筒	西 後円部	流土中	体部	ヨコハケ	ヨコハケ	6~7	明黄褐	少量混入) 普通(砂粒	良好	II		不明		1.0	-	
	114	183	円筒	北東	流土中		ヨコハケ	ナデ	7~8	10YR7/6 明黄褐	少量混入) 普通(砂粒	良好			不明			1.0	
	115		円筒	南西	流土中		ヨコハケ	ヨコハケ		10YR7/6 黄橙	少量混入) 普通(砂粒	普通			M字状	0.6	9.5	1.2	962
				北東			(5.5cm以上)	&ナデ		7.5YR8/8	少量混入)						1.0	1.0	io:
	116		円筒	南西	流土中		ヨコハケ	ナデ	7~8	明黄褐 10YR7/6	普通(砂粒 少量混入)	良好			M字状	0.7	0.6	1.4	
	117	190	円筒	後円部 西	流土中	体部	ヨコハケ			橙7.5 YR7/6	普通(砂粒 少量混入)	普通	П		台形	0.7	1.4 0.8		
26	118	230	円筒	後円部 北西	流土中	口縁部	タテハケ	ヨコハケ &ナデ	6~7	黄橙 10YR7/8	普通(砂粒 少量混入)	普通	П		不明			0.9 I 1.0 3	コ径23.7 85
	119	240	円筒	1	流土中	口縁部	タテハケ		4~5	明黄褐 10YR6/6	普通(砂粒	普通	II		不明			0.8	
	120	229	円筒	後円部	流土中	口縁部	タテハケ	ヨコハケ	7~8	也YR7/6	微量混入) 普通(砂粒	良好	II		不明			0.9	
	121	239	円筒		流土中	口縁部	タテハケ			橙7.5 YR6/6		普通	II		不明			0.9	
	122	206	円筒	北 後円部	流土中	口縁部	タテハケ			明黄褐	微量混入) 普通(砂粒	良好	П		不明			0.7	
	123		円筒	北西	流土中		,	ナデ		10YR7/6 橙7.5 YR7/6	微量混入)	普通			不明			0.8	□径21.5
				南西							少量混入)							1.4	
	124		円筒	北	流土中		タテハケ	ナデ	6~7	黄橙 10YR8/6	普通(砂粒 微量混入)	普通			不明			0.9 1.1	
Ī	125	231	円筒	後円部 北西	流土中	体部	タテハケ	ナデ	5~6	明黄褐 10YR7/6	普通(砂粒 少量混入)	普通	П		台形	0.7	1.7 0.7	1.0 1.0	
	126	237	円筒	後円部 西	流土中	体部	ナナメハケ	ナデ	3~4	橙7.5 YR7/6		良好	II		M字状	0.5	1.8 0.6		马带径20.5

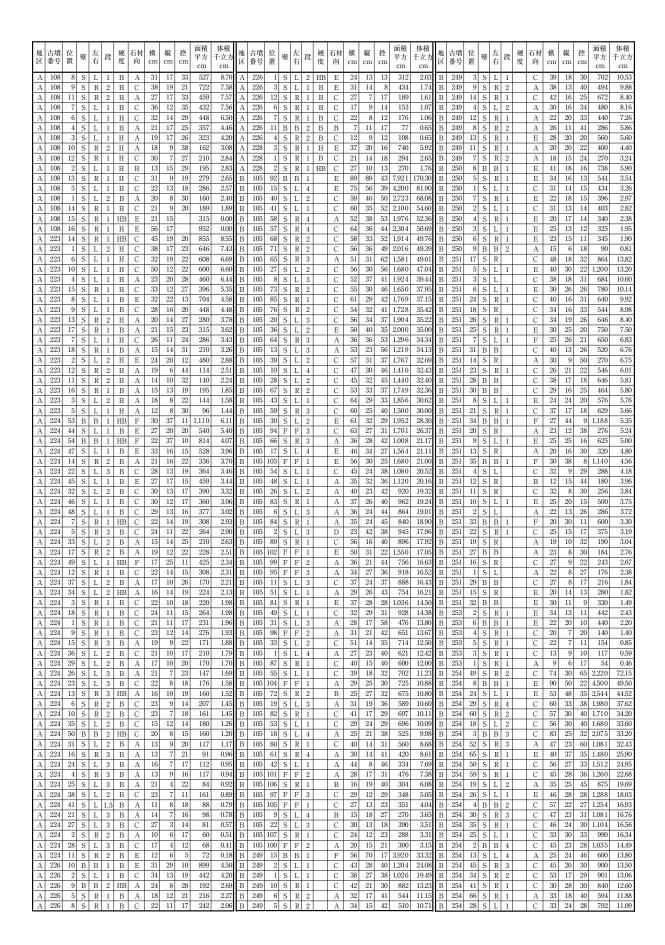
第 22 表 埴輪観察表 (4)

							外面調整		ハケメ							凸带		厚さ(cm)	
挿図 番号		整理 番号	器種	出土 位置	出土 層位	残存 部位	(静止痕間隔)	内面 調整	本数 (/cm)	色調	胎土	焼成	胎土 分類	スカシ	断面形	高さ (cm)	幅(cm) 下 上	母 み (CIII) 破片上位 破片下位	備考
	127	244	円筒	後円部 北西	流土中	体部	タテハケ	ナデ	6~7	明黄褐 10YR7/6	普通(砂粒 少量混入)	良好	П	半円形? 下位凸帯より 2~2.5cm	台形	0.4	1.7 0.5	0.9 1.1	凸帯径22.1 36
	128	238	円筒		表土	体部	タテハケ	ナデ	6~7	橙7.5 YR6/6	普通(砂粒 少量混入)	普通	П		台形	0.8	1.8 0.6	0.9	凸帯部違う土,36
	129	195	円筒		流土中	体部	タテハケ		5~6	橙7.5 YR7/6	普通(砂粒	普通	П		M字状	0.4	1.4	0.9	
	130	198	円筒		流土中	体部	タテハケ	ナデ	6~7	橙7.5 YR7/6	微量混入) 普通(砂粒	普通	Π		M字状	0.5		0.8	;
	131	205	円筒	北 後円部	流土中	底部	タテハケ	ナデ	6~7	明黄褐	少量混入) 普通(砂粒	良好	II		不明		0.7	1.0	
	132	197	円筒	北東 後円部	流土中	底部	タテハケ		6~7	10YR7/6 橙7.5 YR7/6	微量混入) 普通(砂粒	普通	П		不明			1.4 0.9	
	133		円筒	北	流土中		タテハケ	ナデ	6~7	橙5YR7/6	微量混入) 普通(砂粒	普通	П		不明			1.1	
				北				, ,			微量混入)							1.2	
	134		円筒	北西	流土中		タテハケ		7~8	浅黄橙 7.5YR8/6	普通(砂粒 少量混入)	良好			不明			1.1 1.7	
	135		円筒	後円部北	流土中	底部				浅黄橙 10YR8/3	級通(砂粒 混入無し)	良好	П		不明			0.8 1.7	
	136	171	朝顔形		表土	肩部	ヨコハケ(9cm 以上)	ヨコハケ	3~4	浅黄橙 7.5YR8/6	普通(砂粒 少量混入)	良好	П		M字状	1.0	1.6 0.8	0.9 1.2	
		174	円筒	後円部 南西	流土中	体部	ヨコハケ			浅黄橙 7.5YR8/4	普通(砂粒 微量混入)	普通	П		M字状	0.6	1.8 0.8	0.9	
	\dashv	175	円筒	_	流土中	体部		ナデ		橙5YR7/6	普通(砂粒 多量混入)	良好	П		M字状	0.6			
	\dashv	176	円筒	後円部	流土中	体部	タテハケ	ヨコハケ			普通(砂粒	良好	II		不明		0.0	-	
	\dashv	177	円筒		流土中	体部	タテハケ(2	ナデ	内7~8 3~4	7.5YR8/6 橙7.5YR7/6	少量混入) 普通(砂粒	良好	П		不明		1.5	0.8	
	\dashv	178	円筒	南西 後円部	流土中	体部	次調整無し)			明黄褐	少量混入) 普通(砂粒	良好	П		M字状	0.7	1.3	0.7	
	\rightarrow	180	円筒	南西	表土	体部	タテハケ		6~7	10YR7/6 明黄褐	微量混入) 普通(砂粒	普通	П		不明		0.8	_	
				经田並	流土中		ヨコハケ	ヨコハケ		10YR7/6 明黄褐	少量混入) 普通(砂粒					0.5	9.9	0.8	962
			円筒	北西				&ナデ		10YR7/6	少量混入)	普通			M字状	0.5	2.2 1.1	1.0	26?
			円筒	南西	流土中	体部	ヨコハケ	ナデ	7~8	明黄褐 10YR7/6	普通(砂粒 少量混入)	良好	П		不明			1.4	
		185	円筒	後円部 南西	流土中	体部	ヨコハケ	ナデ	7~8	明黄褐 10YR7/6	普通(砂粒 多量混入)	良好	П		M字状	0.9	1.7 0.7	1.2 1.4	
		189	円筒	後円部 南西	表土	体部				にぶい橙 7.5YR7/4	普通(砂粒 少量混入)	普通	П		不明			1.4 1.3	
		191	円筒	後円部 西	流土中	体部				橙7.5YR7/6	普通(砂粒 少量混入)	普通	П		台形	0.9	1.4 0.7	1.5 1.4	
	\dashv	192	円筒		流土中	体部				黄橙 10YR8/6	普通(砂粒 少量混入)	普通	П		不明	0.5	1.5	0.9	
	\dashv	193	円筒	後円部	流土中	体部				黄橙	普通(砂粒	普通	П	円形・上位凸	M字状	0.4	1.5	1.1	
	\dashv	196	円筒		流土中	体部	タテハケ		5~6	10YR8/6 橙7.5 YR7/6	少量混入) 普通(砂粒	普通	П	帯より0cm	M字状	0.6		0.9	
	\dashv	199	円筒	北西 後円部	流土中	体部	ヨコハケ	ヨコハケ	7~8	橙5YR7/6	少量混入) 普通(砂粒	普通	II		不明		0.6	0.7	
	\dashv	201	円筒	北西 後円部	流土中	体部	タテハケ	ナデ	7~8	橙7.5 YR7/6	少量混入) 普通(砂粒	普通	П		不明			1.0	
_			円筒	北	流土中		タテハケ	ナデ		黄橙	少量混入) 普通(砂粒	普通			不明			1.1	
				北東					7 0	7.5YR7/8	微量混入)							1.3	
			円筒	北西	流土中			ヨコハケ		橙7.5 YR7/6	少量混入)	普通			不明			1.1	
		204	円筒	北西	流土中		ヨコハケ	ヨコハケ	8~9	橙7.5 YR7/6	普通(砂粒 微量混入)	普通	П		不明			1.0	
		208	円筒	後円部 北西	流土中	体部	タテハケ	ナデ	6~7	明黄褐 10YR7/6	普通(砂粒 少量混入)	良好	П		不明			1.0	
	\exists	209	円筒	後円部 北西	流土中	体部	タテハケ	ナデ	6~7	明黄褐 10YR7/6	普通(砂粒 少量混入)	良好	П		不明			0.9	
	\exists	212	円筒		流土中	底部				橙7.5YR7/6		普通	П		不明			0.9 1.6	
	\dashv	213	円筒	後円部	流土中	体部	タテハケ	ナデ	3~4	橙7.5 YR7/6	普通(砂粒	普通	П		台形	0.6		0.8	
	\dashv	214	円筒		流土中	体部	タテハケ	ナデ	5~6	橙7.5 YR7/6		良好	П		不明		0.4	0.7	
	-	215	円筒	北西 後円部	流土中	体部	ヨコハケ	ヨコハケ	7~8	黄橙	少量混入) 普通(砂粒	普通	П		不明			0.9	
\dashv	\dashv	216	円筒	北西 後田部	流土中	底部				10YR8/6 橙7.5YR7/6	少量混入) 普通(砂粒	普通	П		不明			0.9	
	_		円筒	北東	流土中					浅黄橙	微量混入) 普通(砂粒	普通			不明	0.3		1.3 0.8	
				北東						7.5YR8/6	微量混入)							-	+
			円筒	北西	流土中					橙7.5YR7/6	微量混入)	良好			台形	1.0	1.3 0.6		赤
		219	円筒	後円部 北西	流土中	口縁部	タテハケ			浅黄橙 7.5YR8/6	普通(砂粒 微量混入)	普通	П		不明			0.6 0.7	
		220	円筒	後円部 北西	流土中	体部	ヨコハケ	ヨコハケ	7~8	黄橙 7.5YR8/8	普通(砂粒 少量混入)	普通	П		不明		1.5	1.0	
	\dashv	221	円筒		流土中	体部				橙7.5YR6/6		普通	П		台形	0.8	1.3 0.6		
	\dashv	222	円筒	後円部	流土中	体部				浅黄橙 75VD9/6	普通(砂粒	不良	П		台形	0.6	1.6		
	\dashv	223	円筒		流土中	口縁部	ナナメハケ	ヨコハケ		7.5YR8/6 にぶい黄橙		不良	П		不明		0.9	0.6	
				北						10YR7/4	少量混入)							0.7	

第 23 表 埴輪観察表 (5)

क्र क्य	184. see.	this run				120 七	外面調整		ハケメ				RZ- 1			凸帯	Aur.	厚さ(cm	
#図 番号		整理 番号	器種	出土 位置	出土 層位	残存 部位	(静止痕 間隔)	内面 調整	本数 (/cm)	色調	胎土	焼成	刀規	スカシ	断面形	高さ (cm)	幅(cm) 下 上	破片上位 破片下位	備考
		224	円筒	後円部 北西	流土中	体部	ヨコハケ			橙7.5 YR7/6	普通(砂粒 少量混入)	良好	Π _		台形	0.6	1.7 1.4		
		225	円筒	後円部 北東	流土中		タテハケ	ヨコハケ	7~8	橙7.5 YR6/6	普通(砂粒 微量混入)	不良	П		不明			0.6	
		226	円筒	後円部 北東	流土中	体部		ヨコハケ		浅黄橙 7.5YR8/6	普通(砂粒 少量混入)	不良	Π		M字状	0.6	1.0 0.8		
			円筒	北	流土中					明黄褐 10YR7/6	普通(砂粒 微量混入)	良好			M字状	0.8	1.5 0.9		
			円筒	北西	流土中			ヨコハケ	4~5	明黄褐 10YR7/6	普通(砂粒 少量混入)	普通			不明			0.9	;
		233		北西	流土中			ナデ		明黄褐 10YR7/6	普通(砂粒 少量混入)	普通	Ш		台形	0.7	1.4 0.6	0.9	1
			円筒	北西	流土中					にぶい黄橙 10YR7/4	普通(砂粒 微量混入)	普通			台形	0.5	1.4 0.6	-	
		235		北西	流土中					明黄褐 10YR7/6	普通(砂粒 微量混入)	普通			台形	0.6	1.5 0.6	0.9)
			円筒	北東	流土中					にぶい黄橙 10YR7/4	普通(砂粒 少量混入)	普通			不明			0.9	
		241		北西		口縁部	タテハケ			明黄褐 10YR7/6	普通(砂粒 微量混入)	不良			不明			0.9	
			円筒	北西	流土中					明黄褐 10YR6/6	普通(砂粒 少量混入)	普通			台形	0.6	0.6	0.7	
		243	円筒	北西	流土中	体部				明黄褐 10YR7/6	普通(砂粒 微量混入)	普通	Π		台形	0.6	1.5 0.5		
		245		北	流土中	体部	タテハケ	ナデ	6~7	明黄褐 10YR7/6	普通(砂粒 少量混入)	良好			不明			1.1	
		246	円筒	後円部 北東	流土中	体部	タテハケ	ナデ	6~7	明黄褐 10YR7/6	普通(砂粒 少量混入)	良好	П		不明			1.1	
27	137 ~ 140	10	円筒	後円部 北西	流土中	口縁~ 底部	タテハケ	口縁部ヨコハケ	3~4	橙2.5 YR6/8	普通(砂粒 微量混入)	普通	Ш	円形・上位凸 帯より0.5cm	台形	0.5	1.6 0.7		破片数40
	141 142	7	円筒	後円部 北西 前方部 北	流土中	口縁~ 体部	タテハケ	ナデ	4~5	橙5YR7/8	普通(砂粒 多量混入)	良好	Ш	円形・上位凸 帯より0.7cm 断面に1条の 凹線	台形	0.5	1.5 0.6		破片数5
	143	9	円筒	後円部 北西・ 北東	流土中	口縁~ 体部	タテハケ		4~5	橙2.5 YR6/8	普通(砂粒 少量混入)	普通	Ш		不明				破片数3
	144	8	円筒	後円部 南・南	流土中	体部	タテハケ	ナデ	6~7	橙2.5 YR6/8	普通(砂粒 多量混入)	普通	Ш		台形	0.7	1.7		破片数3
	145 146	6	円筒		流土中	体部~ 底部	タテハケ	ナデ	6~7	橙5YR7/8	普通(砂粒 多量混入)	普通	Ш		台形	0.5	1.5		破片数7
	147	14	円筒	後円部 南東・ 北西・	流土中	口縁~ 底部	タテハケ	口縁部ヨコハケ	3~4	明赤褐 2.5YR5/8	普通(砂粒 多量混入)	普通	Ш		不明				破片数9
	148	2	朝顏形	1	流土中	口縁~ 体部	タテハケ	口縁部ヨコナデ	3	明赤褐 5YR5/8	普通(礫多 量混入)	不良	Ш		変台形	0.8	1.6 1.0		破片数10
	149 150	15	朝顏形	後円部 北西・ 北	流土中	口縁~ 底部	タテハケ	口縁部ヨコハケ	3~4	明赤褐 2.5 YR5/8~ 橙2.5 YR6/8	普通(礫少 量混入)	普通	Ш		不明				破片数25
	151 152		朝願 形?	後円部 北西・ 北	流土中	体部	タテハケ	口縁部ヨコハケ	4~5	橙2.5 YR6/8	普通(碟少 量混入)	普通	Ш	円形?	台形	0.4	1.9 1.0		凸帯剥離部にタデ ハケ、横線が確認 できる・破片数2
		1	円筒		流土中	口縁~	タテハケ		6	黄橙 7.5YR7/8	普通(礫多 量混入)	不良	Ш		台形	0.7	1.4 0.7		破片数4
		3	円筒	後円部 南西	流土中		タテハケ		4		普通(礫少量混入)	不良	ш	円形?	変台形	0.5		1	破片数3
		5	円筒		流土中	底部	タテハケ	ナデ	7~8	橙5YR7/6	普通(砂粒 少量混入)	普通	ш		不明				破片数1
		12	円筒		流土中	口縁~ 体部	タテハケ	ナデ	4	橙2.5 YR6/8		普通	Ш		不明				破片数7
		13	円筒		流土中		タテハケ	ナデ	3~4	橙2.5 YR6/8		普通	Ш		不明				破片数4
28	153	4	円筒		流土中	口縁~ 体部	タテハケ		外3~4 内4~5	橙2.5 YR6/8		良好	IV	円形・上位凸 帯より0.2cm	台形	0.8	1.6 0.9		口径21.7 凸带径21.6 口縁~凸帯12.7 破片数7
	154	169	円筒	後円部南	流土中	体部	ヨコハケ	ヨコハケ &ナデ	6~7	橙5YR7/8	普通(砂粒 多量混入)	良好	V	径4~5cmの 隅丸方形 上位凸帯より 0.3cm	M字状	0.7	1.7 0.9		
	155	170	円筒		表土	底部	ヨコハケ	ナデ	7~8	橙5YR7/8	普通(砂粒 多量混入)	良好	V		不明			0.7	

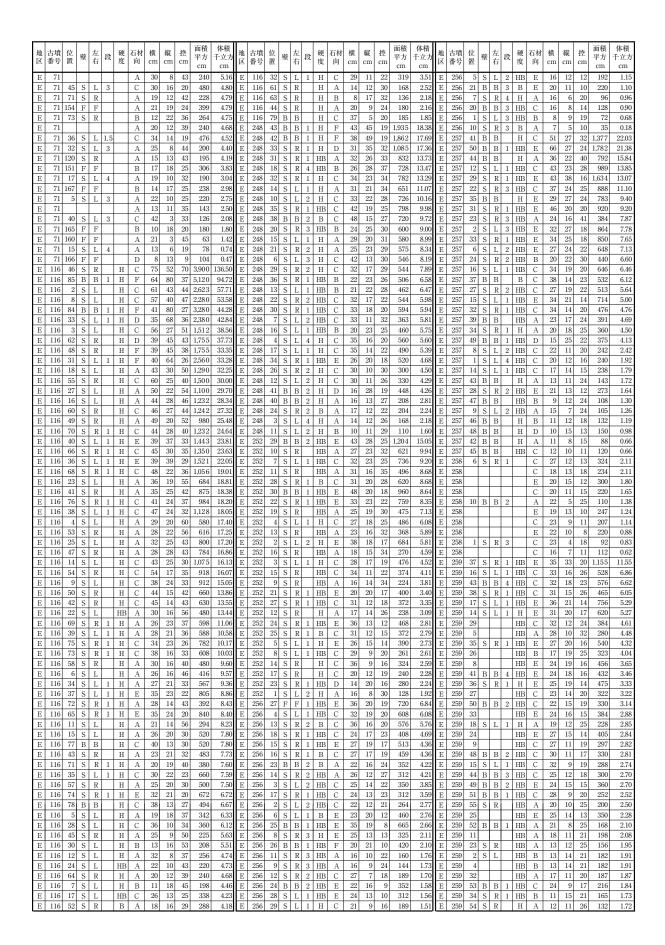
第 24 表 埴輪観察表 (6)



第 25 表 石材法量表 (1)

	_																														_						
Note 10 10 10 10 10 10 10 1				壁	左	段											壁	左段											壁	左郎							体積 千立方
	区	番号	置	-345.	右	**	度	向	cm	cm	cm			区	番号	置	-#-	右	度	向	cm	cm	cm			区	番号	置	-#5	右	Į.	度 向	cm	cm	cm		cm
	-		-	+	_	-			27	25	-					21	S	R 1		_	-		_			_	_	_			T	_	_				27.56
						-											\dashv	_	-												+		_				25.74
			_	_	_	-					_						S	R 1									_	_		_	+	_		_	-		25.50 25.48
	-		_	_	_	_								_		6		_								_		_			t	_					24.96
			_	-		2			-		-		_	D							-		-	_			_	-					_	_	-		24.48
			_	+-		-			-		_				_					_	$\overline{}$	_	_	_		_		_			+		_				24.27
	-		_	+-	_	_		_			_	_		_		-		_					_			_	_	_	$\overline{}$	-	+	_		_	-		21.55 20.95
	-		_	_	_	_								_	_			_		_			_			_	_	<u> </u>			+	_		_			20.63
	-		_			4				14	33	252			239		-	_		_	18			144		_	_	_	-	R			_		-		19.88
	-		_	_		4			$\overline{}$		_	_					\rightarrow	_			$\overline{}$					_	_	_		_	-	_	_				19.54
	-		_	+	_	1.5					_	_		-			-	_		_	_			_		_	_	_	-	_	1	_	_	_			18.41 18.21
			_			1					_			_	_		-	_		_	-		_	-		_				_	+	_					17.78
	-		_			1		_	_		_			_	_		-				-		_	_		_	_			Ť	T		_	-			17.63
D	-		-			-					_						-	_						_		_		_	$\overline{}$	_	I	_	_	_			17.50
D	-		_	+	_	_					_			-			-	_		_				-		_	_	_		_	-	_	_				17.50
D	-		_	+		-					_				_	19	5	K Z		_	_	_	_	-		_	_	_		_	_	_	_				17.25 17.11
D	-		_	-	-	_		_	-		_			ш—		14	S	R 3		-	$\overline{}$		_			_	_	-		-	-	-	_	-	-		16.83
D	-		_	S	L	_			_		_					10		_		Е				_		_		_	S	_		С	_	_	-		16.80
D			_	_		_					_			_	_	20	-	D ,	-					-			_	_		_	+						16.80
D	-		_			_				_	_			_		33	5	K 1	-	_	_		_	-			_	_		_	+		_	_			16.45 16.20
D			_	-		-			_		-			_	_		\dashv	+	t				_				_	-		_	+		_				15.81
D	D		5 3	S	L	-		С			28		8.40	D						С	42		_	840	15.96	Е	_	34	S	L 2	:	Е	60	27	19		15.39
D	-		+-	-	_	1					_			_	_					_						_		_			+	_	_	_			15.36
D	-		_	+	-	9				_	_				_		\vdash	+	-	_						_			-	_	+	_		_	-		15.36 14.91
D 115 0 S L L C G6 24 4 1560 3432 D 240 C C G7 G8 G8 G8 T C G8 G8 C G8 G8 G8 T	-		_	-		-		_	-					_	_	H	+	+					_			_	_	-	$\overline{}$	_	$^{+}$	_	_	-	-		14.51
D 116 21 S L L L C C 51 27 47 1377 3256 D 240 C C 48 14 36 36 26 49 90 1005 E 71 87 S R C C 32 23 575 154 12 15 15 15 15 15 15 15	D	115	5 6			1		С	65	24	44	1,560	34.32	D	240					С	47	16	33	752	12.41	Е	71	65		R	İ	A	31	19	49	589	14.43
D 115 21 S R 2	-		-			1					_				_					_			_			_		_		_	_	_		_			14.10
D	-		_			-		_	_	_	_						\dashv	+	-				_			_	_	-		_	+		_		-		14.00
D 115 29 S R 1	-		-	-	-	_			-		-				_		\dashv	+		-	$\overline{}$		_			_	_	_	$\overline{}$	_	+	-	_		$\overline{}$		13.73
D	-	115	5 29			1			53	29	37	_	28.43		240						_	20	33	600	9.90	_		_	$\overline{}$	_	t	_	_	_		896	13.44
D	-		_			_					_				_	29	S	R 1		_	-		_			_	_	_			I		_				13.25
D	-		+	-	-	-		_	-		_			ш—			\dashv	+	-	-	$\overline{}$		_	_		_	_	-	-	-	+		_	_	-		12.90 12.88
D	-		_			-			-	_	_	_		-			\dashv		+							_	_	-		_	+		_	-	$\overline{}$		12.80
D	D	115	5 25	+-	_	1		С	35	20	32	700	11.20	D	240					В	21	23	32	483	7.73	_	71	137		-	-	С	41	19	31	779	12.07
D	-		_					_		_	_			_	_							_	_				_	27	S	L 2	:	_	_				11.96
D	-		_	S	R	1		_	_		-		_				\dashv	+	-		-		_	_		_	_	103	c	D	+		_	_	-		11.78 11.76
D	-		-		+				-		-				_		+	_			$\overline{}$		_	_		_		_		_	+	_	_	-			11.61
D	-		_	S	L	2		_			_	_		_						_			_			_	_	_		_			_	_	-		11.61
D	-		_					_			_	_			_					_			_			_	_	L.,			L		_	_	-		11.50
D	-		_	\vdash	⊬	\vdash		_	_		-		_		_		\dashv	+	-	_	-		_	_		_	_	-		_	-		_	-	-		11.17 11.06
D	-		_		+				_		-			_			+	_		-	$\overline{}$					_	_	_		_	-		_				11.00
D	D	115	5					Α	24	14	29	336	4.87	D	240						31	7	26	217	2.82	Е	71	_		R				16	37	592	10.95
D			_	S	R	1	_				_			_			I		1				_			_	_			_	1				$\overline{}$		10.89
D 115 C 24 10 24 240 288 D 241 2 S R 1 C 30 11 20 330 330 E 71 18 S L 4			_	+	+			_			_					1	0	R 1	\vdash					_						-	+		_		$\overline{}$		10.80
D	-		-	+	+						_			-						-	-		_	_		_		_	_	_	+	_	_				10.58
D	D	115	5					С	29	8	23	232	2.67	D	244	7	В	В 1	L	F	49	62	42	3,038	63.80	Е	71	39	S	L 2	_	С	44	16	29	704	10.21
D 233 3 B B 1 F 30 44 22 1320 1452 1320 1452 1320 1452 1320 1452 1320 1452 1320 1452 1320 1452 1320 1452 1320 1452 1320 1452 1320 1452 1320 1452 1320 1452 1320 1452 1320 1452 1320 1452 1320 1452 1320 1452 1320 1452 1320 1367	-		_		_				_	_	_			_	_				+	_						_	_	-		_	1		_				10.17
D 233 1 S L 1 C 241 23 29 943 13.67 D 233 2 S L 1 C 28 21 23 588 6.76 D 234 3 B B 1 E 55 42 29 231 0 33.50 D 244 3 S L 1 E 26 44 26 S E 71 72 782 8.60 E 71 12 S L 4 C 31 22 29 682 588 D 234 2 S R 1 C 44 32 35 1.408 24.64 D 234 2 S R 1 E 45 42 29 23.10 33.50 D 234 2 S R 1 E 44 32 35 1.408 24.64 D 235 2 S R 1 E 46 44 26 20.24 D 236 25 B B 1 E 46 44 26 20.24 D 236 25 B B 1 E 46 44 26 20.24 D 236 25 B B 1 E 46 44 D 236 25 B B 1 E 46 44 D 236 25 B B 1 E 46 44 D 236 25 B B 1 E 46 D 236 24 B	-		_	D	P	1			-		-		_	-	_						$\overline{}$		_	_							+	-	_	-	$\overline{}$		10.14
D 233 2 S L 1 C 28 21 23 588 6.76 D 244 1 S L 2 C 46 17 22 782 8.60 E 71 12 S L 4 C 31 22 29 6.82 5.8 D 234 3 S S S S S S S S S	-		_						_		_	_		_							_						_	_	3	L 3	+	_	_				10.13
D 234 2 S R 1 C 44 32 35 1.408 24.64 D 245 2 B B 1 E 46 44 26 20.24 26.31 E 71 23 S L 3 B 20 23 41 460 50 50 50 50 50 50 50	-											588	6.76	D							46	17			8.60	Е	71	12	S	L 4	I						9.89
D 236 23 8 8 1 8 8 1 8 8 1 8 8									_	_	_				_						-		_										_				9.87
D 236 25 B B 1 F 76 82 28 6.232 87.25 D 245 1 S L 1 C 31 18 22 558 6.14 E 71 101 S R A 22 19 44 418 54 54 54 54 54 54 54 5									-		_												_	-									_				9.43 9.38
D 236 18 S R 1 E 58 31 54 1.856 50.11 E 71 149 B B 1 F 59 72 28 4.248 5.947 E 71 61 S R A 21 15 58 315 59 1								_						_	_				\vdash		_									-	+		_	_			9.38
D 236 18 S R 2 C 57 32 52 1.824 47.42 E 71 89 S R C 88 32 41 2.816 57.73 E 71 158 F F A 2.4 2.2 33 528 82 D 236 4 S L 2 E 47 44 40 2.068 41.36 E 71 72 S R A 47 30 75 1.410 52.88 E 71 14 S L 4 D 23 28 27 644 8 B D 236 24 B B 1 D 25 60 26 1.500 1.950 E 71 163 F F A 50 50 26 1.500	D	236	5 1	S	L							1,856	50.11	_		149	В	В 1	L		59	72	28	4,248	59.47	Е	71	61		_	İ	_			58		9.14
D 236 4 S L 2 E 47 44 40 2.068 41.36 E 71 72 S R															_								-	_									_				8.81
D 236 16 S R 2			-				-		-		_		_	_					-		$\overline{}$										+		_	_	$\overline{}$		8.71 8.69
D 236 24 B B 1 D 25 60 26 1,500 19,50 E 71 163 F F C 51 40 45 90 E 71 56 S L 1 A 23 20 37 460 8 B 2 36 26 B B 1 F 42 64 13 2,688 17.77 E 71 92 S R C 55 30 48 1,650 3,660 E 71 0 S L 4 A 26 15 40 3,90 E 71 10 S L 4 A 26 15 40 3,90 E 71 10 S L 4 A 26 15 40 3,90 E 71 10 S L 4 A 26 15 40 3,90 E 71 10 S L 4 A 26 15 40 3,90 E 71 10 S L 4 A 26 15 40 3,90 E 71 10 S L 4 A 26 15 40 3,90 E 71 10 S L 4 A 26 15 40 3,90 E 71 10 S L 4 A 26 17 35 442 10 D 236 B B B B B B B B B B B B B B B B B B B	-										_			_					+											-	+	_					8.69
D 236 24 B B 1 D 25 60 26 1.500 1950 E 71 163 F F C 51 40 45 2040 4590 E 71				- 3	-	Ť													t											_	+			_			8.51
D 236 20 S R 1	-		_					_	-					Е			F	F		С					45.90	Е				T	T	A	_				7.96
D 236 L E 59 30 18 1,770 15.93 E 71 145 B B I F 41 70 26 28.70 37.31 E 71 135 S R I A 26 17 35 442 G D 236 L C 41 25 29 1,025 14.86 E 71 162 F A 49 29 50 1,241 35.33 E 71 121 S R I A 26 17 35 442 G D 236 L 1 E 44 30 21 1,320 1,386 E 71 18 A 49 29 50 1,421 35.33 E 71 11 S R L A 20 A 49 29 50 1,421 35.33 E 71	-		_						_		_			_					-		$\overline{}$		_	_			_	10	6	1 .	+	_	_	_	$\overline{}$		7.88
D 236 S C 41 25 29 1,025 1,186 E 71 138 S L 3 4 3 4 3 4 3 4 3 6 1,121 8 8 E 43 20 17 860 7 D 236 9 8 L 1 E 44 30 21 1,320 1,386 E 71 38 8 L 3 C 66 23 43 1,518 3,264 E 71 1,15 8 C 35 1,18 3,264 E 71 1,15 8 C 3 3,18 6 2 4 3,18 3,264 E 71 1,15 8 0 2 3,38 6 2 4 3,18 3,264 E 71 1,15 8 0 0 3,38 0 0 4 1,15 3,2	-		_	S	R	1					_										-									_	_	_		_			7.80 7.74
D 236 I C 41 25 29 1,025 1,486 E 71 162 F I A 49 29 50 1,421 35.53 E 71 I B 13 27 39 351 6 D 236 9 S L 1 E 44 30 21 1,320 13.86 E 71 38 S L 3 C 66 23 43 1,518 32.64 E 71 115 S R C 35 11 34 385 6			_		t						_			_							-										+			_			7.74
	D	236	5						41	25	29	1,025	14.86	_	71	162	F	F		Α	49	29	50	1,421	35.53	Е	71					В	13	27	39	351	6.84
[D] 236 E 46 30 20 1,380 13.80 E 71 86 S R C 53 24 49 1,272 31.16 E 71 116 S R A 23 16 34 368 6	-		_	S	L	1					_			_	_						$\overline{}$			_							F	_	_	_	$\overline{}$		
	-			\vdash	+									-	_				-	_						_	_	_		-	+	_	_	-			6.26
			_	+	+						_				_				+				_				_	_					_	_			6.08
			_	İ	T				_										İ								_				T			-			5.21

第 26 表 石材法量表 (2)



第 27 表 石材法量表 (3)

地区	古書番		壁	左右	段	硬度	石材向	横 cm	縦 cm	控 cm	面積 平方 cm	体積 千立方 cm	地区	古墳 番号	位置	壁	左右	段	硬度	石材向	横 cm	縦 cm	控 cm	面積 平方 cm	体積 千立方 cm	地区	古墳番号	位置	壁	左右	段	硬度	石材向	横 cm	縦 cm	控 cm	面積 平方 cm	体積 千立方 cm
E E	25 25	_	S	R	1	HB HB	СВ	19 10	11 14	16 20	209 140	1.67	E E	260 260	63 76		R L	1		C A	28 22	20 14	25 45	560 308	7.00 6.93	F F	222 222		S S	L R			A C	28 26	10 19	40 22	280 494	5.60 5.43
Е	25	59 39	S			НВ	С	20	10	13	200	1.30	Е	260	137	В	В			A	33	11	35	363	6.35	F	222		S	R			С	26	19	21	494	5.19
E	25	_	B		_	HB HB	A D	11 12	11	17	121 156	1.03	E	260 260	129 108	B	B L			A B	24 18	20	26 29	480 396	6.24 5.74	F	222 222		B	B L			C	35 21	16 17	18 28	560 357	5.04
Е	25	_	B	+-	3		A C	13 91	8 53	17 60	104 4,823	0.88 144.69	Е	260 260	40 75		R			D	18 32	25 10	25 35	450 320	5.63 5.60	F	222 222		S	L R			Α	27 23	12 15	30 28	324 345	4.86 4.83
E	26		S		1		E	70	63	_	4,410	99.23	E	260	89	S	L			A	20	12	45	240	5.40	F F	222		В	В			A	25	12	30	300	4.50
E	26	_	S	R B	_		E F	70 60	60 70	45	4,200 4,200	94.50 86.10	E	260	116 132	S	L B	1		В	14 35	15 11	51 25	210 385	5.36 4.81	F	222		S	L			A	21	14 16	30 25	294 352	4.41
Е	26	50 13	S	R			С	63	30	60	1,890	56.70	Е	260	128	В	В			В	15	20	30	300	4.50	F	222		S	R			Е	27	18	18	486	4.37
E	26	_	B S		_		F C	46 78	57 24	48	_	52.44 44.93	E E	260 260	38 41	S	R R			C A	34 20	14 16	18 26	476 320	4.28 4.16	F F	222 222		S	R L			A	17 21	15 10	33 40	255 210	4.21
E	26	_	S		1		F A	45 40	58 32		2,610 1,280	41.76 36.48	E E	260 260	106 32	S	L R			A C	16 28	14 12	37 22	224 336	4.14 3.70	F F	222 222		S	R L			C	29 23	15 16	19 22	435 368	4.13
Е	26	60 123	S	L	1		F	42	67	25	2,814	35.18	Е	260	27	S	R			С	27	12	21	324	3.40	F	222		S	L			В	17	21	22	357	3.93
E	26	_	S		+	\vdash	C A	51 39	31 35	_	_	34.78 30.71	E	260	49	-	R			C	33 21	12	17 28	396 231	3.37 3.23	F	222		S	R R			C	25 23	12	25 29	300 253	3.75
E	26	_	S		F		A C	45 64	27 20	48 44	1,215 1,280	29.16 28.16	E E	260 260	53 131	S B	R B			A	17 19	6 12	53 23	102 228	2.70 2.62	F F	222 222		S S	L L			A	21 16	11 13	30	231 208	3.47 3.43
Е	26	60 93	S	L			С	50	23	47	1,150	27.03	Е	260	43	S	R			A	22	8	26	176	2.29	F	222		S	R			Α	20	10	34	200	3.40
E	26	_	S		+	\vdash	С	47 52	25 25	46		27.03 26.00	E	260 260	21 102	S	R L			D A	9	22 8	19 30	198 80	1.88	F	222		S	L R			B A	14 22	17 12	28 25	238 264	3.33
Е	26	60 133	В	В			Е	62 43	31	27	1,922	25.95 24.51	Е	260 260	122 28	S	L	1		В	4	19	27 24	76 80	1.03	F	222 222		S	R			A	20 29	13 13	25 17	260 377	3.25
E	26	60 114	S	L	_		C A	38	33	39	1,254	24.45	E F	222	28	S	R L			С	46	33	42	1,518	31.88	F F	222		S	B R			Α	19	12	27	228	3.08
E	26	_	S		1	-	C E	48 52	23 30			24.29 21.84	F	222		S	L B	1		F	36 36	46 56	26 20	1,656 2,016	21.53 20.16	F F	222 222		S	R R			A C	13 21	10 16	46 17	130 336	2.99 2.86
Е	26	50 57	S	R	1		С	50	26	30	1,300	19.50	F	222		S	R			С	40	29	34	1,160	19.72	F	222		S	L			Α	18	12	26	216 270	2.81
E	26	_	S	R L	+	\vdash	C A	41 35	25 29	38 38	1,025 1,015	19.48 19.29	F	222		S	L R			C	29 40	41 27	33 35	1,189 1,080	19.62 18.90	F F	222 222		S	L R			C A	30 19	9	_	190	2.70 2.57
E	26	_	S		1		B A	24 31	30 23	_	720 713	19.08 18.89	F F	222 222		S	R R			C	42 48	23 22	33 30	966 1,056	15.94 15.84	F F	222 222		S	L L			A	19 19	6		114 114	2.45 2.22
Е	26	60 67	S	R			С	45	27	31	1,215	18.83	F	222		S	L			В	25	27	46	675	15.53	F	222		S	L			Α	17	12	20	204	2.04
E	26		S		╁	\vdash	C A	50 37	15 21	50 48	750 777	18.75 18.65	F	222		S	L R			C	39 32	22	33 41	858 672	14.16 13.78	F	222		S B	L B			A	16 15	10	25 23	160 150	2.00 1.73
Е	26	50 58	S	R	1		Α	34	27	40	918	18.36	F	222		S	R			С	38	20	34	760	12.92	F	222		S	R			С	22	9	16	198	1.58
E	26	_	S		1		C A	37 42	30 17	32 48	1,110 714	17.76 17.14	F	222 222		B	B R			A	32 28	21	36 37	672 644	12.10 11.91	F F	222 222		S	R R			A	14 14	14 9	15 21	196 126	1.47
E	26	_	S		+		C E	35 37	29 32	-	1,015	16.75 15.98	F	222		S	R L	1		C	41 37	21	27 28	861 814	11.62 11.40	F	222		S	R R			C	22	8 10		176 140	1.23
Е	26	60 97	S	L	Ĺ		Α	30	30	35	900	15.75	F	222		S	R			F	37	40	15	1,480	11.10	F	222		S	R			Α	13	8	19	104	0.99
E	26	_	S		1		A C	32 56	27 18	36	864 1,008	15.55 15.12	F	222 222		S	L	1		C	34	24 25	27 27	816 800	11.02 10.80	F F	222 222		S	L R			B E	13	13 12	14	117 156	0.82
E	26	_	S	L R	F		A	32 32	26 28	36	832 896	14.98 14.78	F F	222 222		S	L R			C	32 42	25 21	27 24	800 882	10.80 10.58	F F	222 225		S B	L B	1		C F	26 46	4 72	10 46	104 3,312	0.52 76.18
Е	26	66	S	R	1		С	40	20	35	800	14.00	F	222		S	L			С	32	22	30	704	10.56	F	225		S	R	1		D	34	62	42	2,108	44.27
E	26	_	S	R	_	\vdash	C A	54 30	14 26	37	756 780	13.99 13.65	F	222		S	R			C	46 35	17 23	27 26	782 805	10.56 10.47	F	225 225		S B	R B	1		E D	55 33	40 67	39 36	2,200 2,211	42.90 39.80
E	26	_	S		_		C	37 40	21 17	34	777	13.21 12.24	F	222 222		S	L			С	31	25	26 17	775	10.08 9.95	F	225 225		S	R L	1		B E	26	53 35	55 34	1,378	37.90 29.75
Е	26	50 52	S	R	+		С	40	20		680 800	12.00	F F	222		B	B R			E C	45 39	26 18	28	1,170 702	9.83	F F	225		S	L	1		C	50 49	26	35	1,750 1,274	22.30
E	26	_	S		1	-	С	20 36	21 24	56 27	420 864	11.76 11.66	F	222		S	R R			A C	30	19 20	34 29	570 660	9.69 9.57	F	225 225		S	R R			A C	44	21	47	924 989	21.71 21.26
Е	26	60 80	S	L			Α	28	16	50	448	11.20	F	222		S	R			С	36	17	31	612	9.49	F	225		S	L			Α	35	26	40	910	18.20
E	26	_	+				E	37	20 26			11.10 11.05	F F	222 222			R L	1		E B	44 21	22 29	19 30	968 609	9.20 9.14	F	225 225		S		1		E F	53 26	25 50	25 25	1,325 1,300	16.56 16.25
E	26	_	-			<u> </u>	A	35 24	14 23	-	490 552	10.78 10.76	F F	222 222		S	L L	H		E E	31 31	29 29	20 20	899 899	8.99 8.99	F F	225 225	\vdash	S		1		С	46 40	25 20		1,150 800	16.10 16.00
Е	26	60 14	S	R			Α	28	19	40	532	10.64	F	222		В	В			Е	27	26	25	702	8.78	F	225		S	L			D	30	31	31	930	14.42
E	26	60 112 60 115	+	L		_	C	34 35	24 23		816 805	10.61	F	222 222		S	R			B E	16 31	24 25	45 22	384 775	8.64 8.53	F	225 225		B	B	1		E	41	28 22	25 29	1,148 946	14.35 13.72
E	26	_	S	R	1		A	31 30	17 18	-	527 540	10.01	F F	222 222		S	L L			C	40 24	13 22	32 31	520 528	8.32 8.18	F F	225 225		S	L R			E A	32	30 15	_	960 450	12.96 11.70
Е	26	6 6	S	R			Α	30	17	38	510	9.69	F	222		S	R			С	33	16	30	528	7.92	F	225		S	R			В	24	26	37	624	11.54
E	26	_			_		C A	42 25	17 20	_	714 500	9.28 9.25	F F	222 222		S	L B			E F	29 37	23 41	23 10	667 1,517	7.67 7.59	F F	225 225		S	L L			A	28 26	26 24		728 624	11.28 10.92
Е	26	60 134	В	В			С	40	20	23	800	9.20 9.04	F	222 222		S	L			С	28	21	25	588	7.35	F	225		В	В			Е	33	28	23	924 700	10.63 10.15
E	26	50 111	S	L	1		A D	23	14 28	28	476 644	9.02	F F	222		S	L			E A	34 27	18	18 30	816 486	7.34 7.29	F	225 225		S	L R	1		C A	35 24	24	35	576	10.08
E	26	_	S				C	36 30	14 18	_	504 540	8.82 8.64	F F	222 222		S	R R			C	31 23	19 17	24 35	589 391	7.07 6.84	F F	225 225		S	L R	1		A B	31 20	20 26		620 520	9.92 9.62
Е	26	60 71	S	L			Α	34	14	36	476	8.57	F	222		S	R			С	35	15	26	525	6.83	F	225		S	R			С	38	18	28	684	9.58
E	26	_	S		_		B A	20	21 19	_		8.40 8.36	F	222 222		S	R L			C E	35 33	16 22	24 18	560 726	6.72 6.53	F F	225 225		S	R		_	С	20 35	29 20		580 700	9.57 8.75
E	26	60 47	S	R			A C	22 37	20 16	38		8.36 8.29	F F	222 222		B				A C	22 37	22 16	26	484 592	6.29 6.22	F F	225 225		S	L B	1		A C	24 50	24 17	30	576 850	8.64 8.50
Е	26	68 68	S	R	1	_	Α	26	14	43	364	7.83	F	222		S	R			С	31	18	22	558	6.14	F	225		S	R			Α	25	21	32	525	8.40
E	26	_	+				A	30 27	16 13	_	480 351	7.68 7.55	F F	222 222		B	B L	1		E	35 32	19 19	18 19	665 608	5.99 5.78	F F	225 225	\vdash	B S	B R	\vdash		D A	20 26	30 17		600 442	7.80 7.74
Е	26	50 8	S	R			Α	29	14	37	406	7.51 7.45	F	222		В	В			А	24 26	16	30	384 468	5.76 5.62	F	225 225		S	R			С	33	20	23	660 779	7.59
E	26						A	29	15	-		7.45	F	222		S	R R			C A	22	15	_	330	5.61	F F	225		S	L	1		E A	31	11		341	7.40

第 28 表 石材法量表 (4)

地区	古墳 番号	位置	壁	左右		硬度	石材 向	横 cm	縦 cm	控 cm	面積 平方 cm	体積 千立方 cm	地区	古墳 番号	位置	壁	左右	段	硬度	石材 向	横 cm	縦 cm	控 cm	面積 平方 cm	体積 千立方 cm	地区	古墳 番号	位置	壁	左右	段	硬 石林度 向	横 cm	縦 cm	控 cm	面積 平方 cm	体積 千立方 cm
F	225			L			С	29	21	24	609	7.31	F	227		S	R	1		D	27	46	31	1,242	19.25	F	229		S	L		С	25	14	20	350	3.50
F	225		S	R			Α	20	20	36	400	7.20	F	227		В	В	1		F	35	40	27	1,400	18.90	F	229		S	-^-	1	С	29	12	18	348	3.13
F	225		S	L	-	_	С	32	16	28	512	7.17	F	227		S	L	1		Е	50	40	18	2,000	18.00	F	229		В	В	4	С	24	12	21	288	3.02
F	225 225	_	В	B R	+	\dashv	D C	23 34	25 12	24 33	575	6.90	F	227 227		S	R R	1		F	35	39	25 31	1,365	17.06 16.12	F	229		S		1	C	25 19	13	16	325 209	2.60
F	225	-	S	R	+	\dashv	A	22	16	38	408 352	6.69	F	227		S	R	1		C B	40 25	26 28	36	700	12.60	F	229		S	L R	+	C	20	11 9	16 17	180	1.53
F	225		S	R		_	A	24	17	31	408	6.32	F	227		S	L	1		E	39	31	20	1,209	12.09	F	229		В	В	+	C	15	6	10	90	0.45
F	225		S	R		_	С	31	17	24	527	6.32	F	227		S	L	1		F	26	42	20	1,092	10.92	F	230		S	-	1	E	43	42	42	1,806	37.93
F	225		S	R			Α	21	20	30	420	6.30	F	227		S	R	1		Е	36	30	19	1,080	10.26	F	230		S	_	1	Е	45	35	35	1,575	27.56
F	225		В	В			В	20	21	30	420	6.30	F	227		S	R	1		С	45	18	21	810	8.51	F	230		S	R		A	43	24	52	1,032	26.83
F	225		S	R			Α	28	11	40	308	6.16	F	227		S	L	1		A	23	20	26	460	5.98	F	230		S	R	1	A	30	27	43	810	17.42
F	225		S	R	4	_	Е	36	19	18	684	6.16	F	227		S	R	1		Е	28	24	14	672	4.70	F	230		В	-	1	F	44	52	15	2,288	17.16
F	225	_	S	L	_	\dashv	Е	26	26	18	676	6.08	F	227		S	R	1		A	20	17	23	340	3.91	F	230		S		1	D	29	33	31	957	14.83
F	225 225	_	B S	B R	+	\dashv	C C	35 27	13	26 25	455 432	5.92 5.40	F	227	_	S	L R	1		E A	27 19	18 16	16 24	486 304	3.89	F	230		B S	-	1	F C	40	52 23	14 28	2,080 966	14.56
F	225	-	S	-	1	\dashv	С	35	17	18	595	5.36	F	227		S	R	1		D	12	18	18	216	1.94	F	230		S	L	1	C	39	20	32	780	12.48
F	225		S	R	-		A	22	16	28	352	4.93	F	229		S	L	1		В	25	26	32	650	10.40	F	230		S	R	1	C	32	24	32	768	12.29
F	225		В	В			С	34	11	23	374	4.30	F	229		S	L	1		A	29	22	32	638	10.21	F	230		S	R	1	С	41	19	30	779	11.69
F	225		S	L	1		В	18	20	22	360	3.96	F	229		S	L			С	38	20	26	760	9.88	F	230		S	R	1	С	34	20	34	680	11.56
F	225		S	L			Α	20	11	32	220	3.52	F	229		S	R	1		F	25	38	20	950	9.50	F	230		S	R	1	F	33	40	17	1,320	11.22
F	225		S	L			Α	16	14	31	224	3.47	F	229		S	R	1		Е	40	25	18	1,000	9.00	F	230		S		1	С	35	20	32	700	11.20
F	225	_	S	R	+	\dashv	Е	27	16	16	432	3.46	F	229		S	L	1		E	35	26	18	910	8.19	F	230		S	L		A	30	20	35	600	10.50
F	225 225	_	S	R R	+	\dashv	A B	20 16	15 17	22 23	300 272	3.30	F	229 229		S B	R B	,		C	30 23	18 42	29 16	540 966	7.83 7.73	F	230		S	R R	1	C	35 28	23 20	26 37	805 560	10.47
F	225		S	R	+	\dashv	D	16	23	17	368	3.13	F	229		В	В	1		А	24	18	34	432	7.73	F	230		S	R	+	C	30	23	27	690	9.32
F	225		S	R	+	\dashv	С	31	10	20	310	3.10	F	229		S	L	_		A	28	14	35	392	6.86	F	230		S	L	\forall	A	28	18	36	504	9.07
F	225		S	R			A	20	13	22	260	2.86	F	229		S	L	1		C	33	17	24	561	6.73	F	230		S	R	1	A	28	18	35	504	8.82
F	225		S	L			Α	16	13	25	208	2.60	F	229		В	В			С	30	17	26	510	6.63	F	230		S	L	T	Е	26	25	24	650	7.80
F	225		В	В			С	30	8	21	240	2.52	F	229		S	R			С	36	17	21	612	6.43	F	230		S	R	1	A	23	19	33	437	7.21
F	225		S	R			В	9	20	27	180	2.43	F	229		S	L			С	24	22	24	528	6.34	F	230		S	L	4	A	23	16	36	368	6.62
F	225		В	В			D	10	22	22	220	2.42	F	229		S	R			C	31	16	24	496	5.95	F	230		В	В	_	С	32	15	27	480	6.48
F	225 225	_	S	L R	-	\dashv	В	11	16	27 29	176 160	2.38	F	229 229		S	R R	1		C	30 27	17 16	23 27	510 432	5.87 5.83	F	230		S B	R B	1	E	32	24 18	16 26	768 432	6.14 5.62
F	225	-	В	В	+	\dashv	В	10	18	24	180	2.32	F	229		В	В	1		F	18	37	17	666	5.66	F	230		S	-	1	A C	30	17	22	510	5.61
F	225		S	R	+	\dashv	A	16	10	20	160	1.60	F	229	_	S	R	_		C	31	17	19	527	5.01	F	230		S	L	1	C	27	16	25	432	5.40
F	225		В	В	\top	\dashv	A	14	11	17	154	1.31	F	229		S	R			C	29	15	22	435	4.79	F	230		В	В	\forall	C	24	16	21	384	4.03
F	225		S	R			Α	16	8	18	128	1.15	F	229		S	L			С	30	15	21	450	4.73	F	230		В	В	1	A	25	12	26	300	3.90
F	225		S	L			С	21	7	15	147	1.10	F	229		S	L			A	22	15	28	330	4.62	F	230		S	R		A	16	10	48	160	3.84
F	225		S	R			С	15	9	12	135	0.81	F	229		S	L	1		A	19	18	26	342	4.45	F	230		S	L		A	22	13	24	286	3.43
F	225		S	L	_	_	Е	13	11	11	143	0.79	F	229		S	R			С	31	15	17	465	3.95	F	230		S		1	Е	28	15	15	420	3.15
F	227		В	-	1	4	F	48	64	42	3,072	64.51	F	229		В	В			С	34	10	22	340	3.74	F	230		В	В	4	C	26	12	20	312	3.12
F	227	-	S		1	\dashv	Е	50	30	30	1,500	22.50	F	229		В	В	1		F	19	39	10	741	3.71	F	230		S	R	+	A	12	11	20	132	1.32
F	227	_	S	-	1	\dashv	С	50	25	33	1,250	20.63	F	229		S	L	1		A	20	15	24	300	3.60	F	230		В	В		A	18	5	24	90	1.08
F	227		S	R	1		Е	49	31	26	1,519	19.75	F	229		S	R	1		Е	30	16	15	480	3.60	∐ ¯							_				_

凡例

壁左右	S B F R L B F	側奥前 右左奥 壁壁壁 整壁壁 整壁壁		石材向面積	A 小口積み(横) B 小口積み(縦) C 長手積み(横) D 長手積み(縦) E 平積み(横) F 平積み(縦)
段硬度	下か H B HB	ら1段目、2 硬質砂岩 軟質砂岩 中間	段目・・・	体積	(面積×控×1/2)/1,000 ※角柱と角錐の中間的な形状が多かったため、1/2を乗じた

第29表 石材法量表 (5)

第4章 自然科学分析

赤色物の蛍光X線分析

藤根 久(パレオ・ラボ)

1. はじめに

船来山古墳の277号墳では、内側底部付近に赤色物が付着した丸底壺が出土した。この赤色物は、赤褐色を呈することから赤色顔料の可能性が高い。ここでは、この赤色物の蛍光X線分析により化学成分を調べ、赤色物について検討した。

2. 試料と方法

試料は、丸底壺底部付近に付着していた赤色部にセロハン粘着テープを貼り付けて採取した。

分析は、蛍光X線分析計を用いて定性的に元素組成を調べた。分析装置は、セイコー電子工業(株)製のエネルギー分散型蛍光X線分析計SEA-2001L、X線発生部の管球はロジウム(Rh)ターゲット、ベリリウム(Be)窓、X線検出器はSi(Li)半導体検出器である。測定条件は、測定時間300秒、照射径10mm、電流30μm、電圧50kV、試料室内は真空である。

3. 結果

赤色物の蛍光X線スペクトル図を第1図に示す。試料からは、アルミニウム (Al) やケイ素 (Si) あるいは鉄 (Fe) のピークが高率で検出された。その他では、カリウム (K)、カルシウム (Ca)、チタン (Ti)、イオウ (S) が検出された。なお、ロジウム (Rh) のピークはX線管球 (ロジウムターゲット) に由来するものであり、赤色物に含まれる元素とは関係がない。

4. 考察

顔料の種類として水銀朱(HgS)、ベンガラ (Fe_2O_3) などが知られている(例えば市毛, 1984)。 赤色物は、赤褐色を呈するが、この赤褐色を呈する成分は鉄(Fe)である。また、イオウ(S)が同時に 検出されているが、土器付着赤色顔料ではベンガラの鉄とともにイオウ(S)が検出されることが多く、 赤色顔料としてのベンガラと考える。なお、これらイオウは、硫化鉄(FeS)起源のベンガラである可能性を示すことが考えられる。

アルミニウムやケイ素などが検出されたが、これら元素は土壌中に一般的に含まれる元素である。

ベンガラ (Fe₂O₃) は赤色の由来となる主成分元素が鉄 (Fe) であるものを言う。古代においては、鉄分に富んだ土壌 (例えば褐鉄鉱など) を焼いて作られたと考えられている。また、天然の赤鉄鉱などの鉄鉱石を採取して製造した (山崎, 1987)。近世においては、硫化鉄 (磁鉄鉱FeS、黄鉄鉱FeS₂) が風化して形成された緑礬 (りょくばん、硫化鉄 (FeSO₄ (7H₂O)) を原材料とし、これを焼焙してベンガラを生産していたことが知られている (北野, 1994)。最近の研究では、縄文時代や弥生時代の赤色漆に用いられた赤色顔料中に珪藻化石が見られることから、水成環境下で生成した酸化鉄であることも分かってきた (岡田, 1997)。

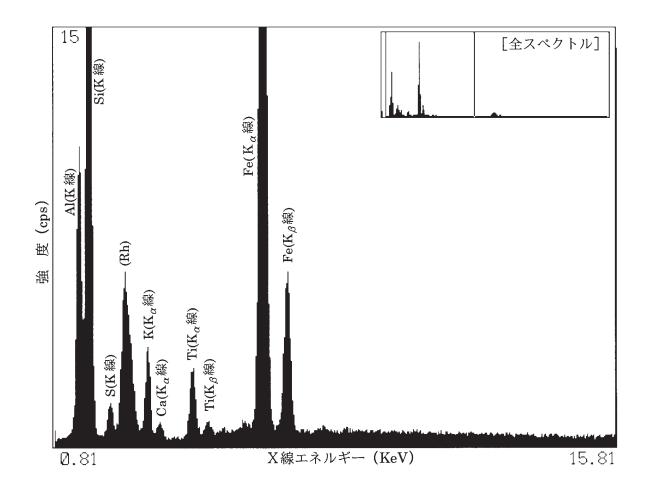
引用文献

市毛 勲(1984)「増補 朱の考古学」, 第2版, 考古学選書12, 雄山閣出版, 324.

岡田文男 (1997) 「パイプ状ベンガラ粒子の復元」、日本文化財科学会、第14回大会研究発表要旨集、38-39.

北野信彦(1994) 「近世出土漆器資料の保存処理に関する問題点 II -文献史料からみた赤色系漆に使用するベンガラの製法について - 」「古文化財の科学」,39,93-102.

山崎一雄(1987)「古文化財の科学」, 思文閣出版, 352p.



第122図 赤色物の蛍光X線スペクトル図

A1; アルミニウム、Si; ケイ素、S; イオウ、K; カリウム、Ca; カルシウム、Ti; チタン、Fe; 鉄、(Rh); ロジウム

第5章 総括

今回の調査で確認された墳墓は52基で、その内訳は周溝墓が3基、前方後円墳1基の他、圧倒的多数の48基が横穴式石室を主体部に持つ後期古墳である。ところが石室の残存状況は非常に悪く、その構造がはっきりしないものが多い。また遺物の出土が見られたものも少なく、全体の38%と少ない。本章では、各支群の造墓の推移と構造を総括することを目的とするが、その前に既に報告されている糸貫町・本巣町(現本巣市)の様相をまとめつつ、石室の形態や構築時期に関わる参考材料を検討することとしたい。

時期区分

美濃の須恵器は渡辺博人氏が、古墳出土の蓋杯を中心にして、詳細な分類編年を成している(註1)。今回の調査で出土した須恵器は渡辺氏に実見して頂き、ご教示を賜った。第3章では氏の分類に即して報告を行った。一方糸貫町の報告書(註2)では、担当者の吉田英敏氏が、出土した膨大な量の須恵器から独自の編年を作成し、その時期観により報告が行われている。本章では糸貫町のデータを使用するため、統一的な時期区分が必要であるが、渡辺氏の編年と吉田氏の編年では区分に微妙なずれが生じているため、直接対応させることができない。本来出土遺物を検討し、時期区分をすべきであるが、筆者の力量ではかえって混乱を生じる可能性がある。よって糸貫町報告書に掲載されている対照表を元に次のように置き換えて解釈することとした。問題があることは承知であるが、今回の報告書を作成するに当たって、唯一の方法であり、ご理解を頂きたい。

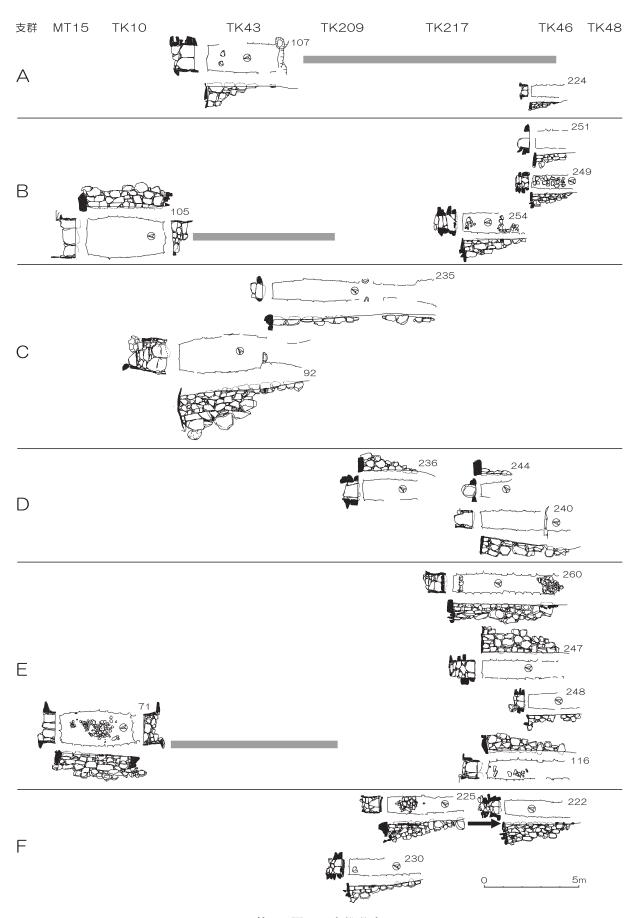
本章では糸貫町報告書からデータを作成しているが、時期に関しては以上の対応関係で処理を行った。なお、この対応に関しては全て筆者に責があることを記しておく。

石室の形態

糸貫町報告書では、石室の形態について、 $A1\sim3\cdot B1\sim3$ の6つに分け、それぞれの消長についても明らかにされている。今回の岐阜市の調査で確認された石室を、その分類に当てはめると2基の A2類、1基のB2類、2基の分類不可のものの他は、すべてB1類に相当する。大多数がある分類に集中している状況では、石室の形態や推移を検討するには若干材料不足である。よって大部分を占めるB類を中心に、今少し詳細に分析、検討し、石室プランと立柱石の有無を主眼に $I\sim W$ 類に分類を行った。

I類は石室幅は奥壁部で最大となり、開口部に向かって狭くなるもので、入口部分は片袖式や段をもつもの見られる。糸貫町報告書のA1類で、岐阜市では確認されていない。

Ⅱ類は石室長に比べ幅が広い、太鼓形の平面プランを持つもので、入口部分は明らかに大きな段を持つ。岐阜市では2基が確認されている。糸貫町で検出された1基には、板状の立石による片袖が見られるが、それ以外のものの構造は不明である。糸貫町A2類に相当し、岐阜市では71・105号墳がある。Ⅲ類は胴張を有する無袖式の平面プランで、石室前半部は開口部に向かって幅を減じるものである。



第123図 石室推移表

大部分は入口部分に石積みがあると見られる。また立柱石があるもの、段があるものがある。糸貫町 A 3 類に相当する。岐阜市では確認されていないが、平面プランでは235号墳(C支群)が酷似する。

IV類は玄室幅より羨道幅が小さくなっているものとした。明確に袖を形成するいわゆる両袖式のIV 1類と、立柱石の羨道側のみ内側に配する徳利形のIV 2類とに細分した。IV 1類は糸貫町B 3類で、IV 2類はB 1類とB 2類に分類される。両者とも袖部は全て立柱石からなっており、IV 2類は後述する V 1類とまぎらわしい。岐阜市ではIV 1類は無く、IV 2類として225・230号墳などが挙げられる。また92号墳は片袖式の可能性が高いため、IV 類に分類した。

V類は玄室と羨道の幅が同じで、立柱石によって玄室と羨道の区別をしているものである。立柱石のみが内側に配置されるいわゆる疑似両袖式のV1類と、立柱石が他の側壁と直線に配されるV2類とに細分した。V1類は糸貫町B2類、V2類はB1類に分類されている。岐阜市では116号墳がV1類に、 $251\cdot 240\cdot 246$ 号墳がV2類に分類される。

Ⅵ類は立柱石のない無袖式の石室で、糸貫町ではB1類に分類される。岐阜市では260号墳が代表例である。

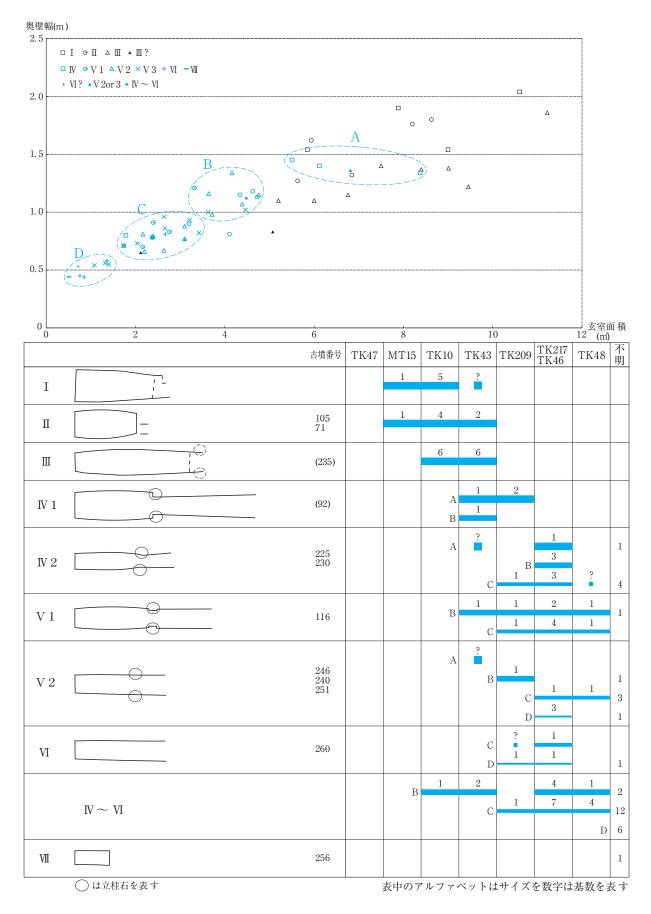
Ⅲ類は小型の竪穴式石室で、糸貫町では分類されていない。256号墳の他、250・237号墳がこれに該当する可能性が高い。石室は小型で、明瞭な掘方が無く、尾根上など平坦に近い場所に立地するという共通の特徴がある。

各類の消長は第124図(下)のとおりで、糸貫町報告書と大きな変化はない。

石室のサイズ

 $\mathbb{N} \sim \mathbb{N}$ 類の横穴式石室は本巣市のものを含めて111基と圧倒的多数を占めるが、斜面に構築されているものが多く、完存するものはわずかに28基のみである。最も残存数の多い奥壁部の幅を見ると、石室のサイズはいくつかに分けられそうであるが、残存状況の悪さから石室長では判断することができない。よって玄室の面積で代用することとした。玄室の長さを測定できるものは48基あり、玄室長×((奥壁幅+最大幅)/2)で玄室面積を求めた。玄室面積と奥壁幅を軸に作成した散布図が第124図(上)である。突出して大きな面積を持つサイズAと小さいサイズDは明確に認識ができる。最も数が多い中間規模のものは、散布の粗密から 2 ㎡余りと4㎡辺りに中心を持つ 2 つのサイズに分けられそうである。奥壁幅との関連で見れば、その傾向性は高まり、B・Cの 2 つに分けることとした。このように玄室面積は4つのサイズに大別することができ、奥壁幅によってそれを推測できると判断した。

以上のように、石室の形態と大きさにはある程度の関連があり、また時期が下るに連れ、石室が小



第124図 石室の分類と法量グラフ

型化する傾向を示している。全体的にデータ点数が少なく、確信は持てないが、ある程度の傾向性は示しているものと考える。

石材から見た石室の構築方法

今回の調査では通常の石室の調査を行った後、可能な限り石室の解体を行った。解体に際しては、石室の裏込めの状況を記録しつつ、石材の大きさを計測した。解体調査の途中からは、使用されていた位置も記録することにした。その結果は、第25~29表と第126~129図に記した。表のうち位置の欄が空白のもの、図中番号が付されていないものは計測は行ったものの、位置の記録がないものである。石材を全て取り除いた後、掘方の記録を作成した。

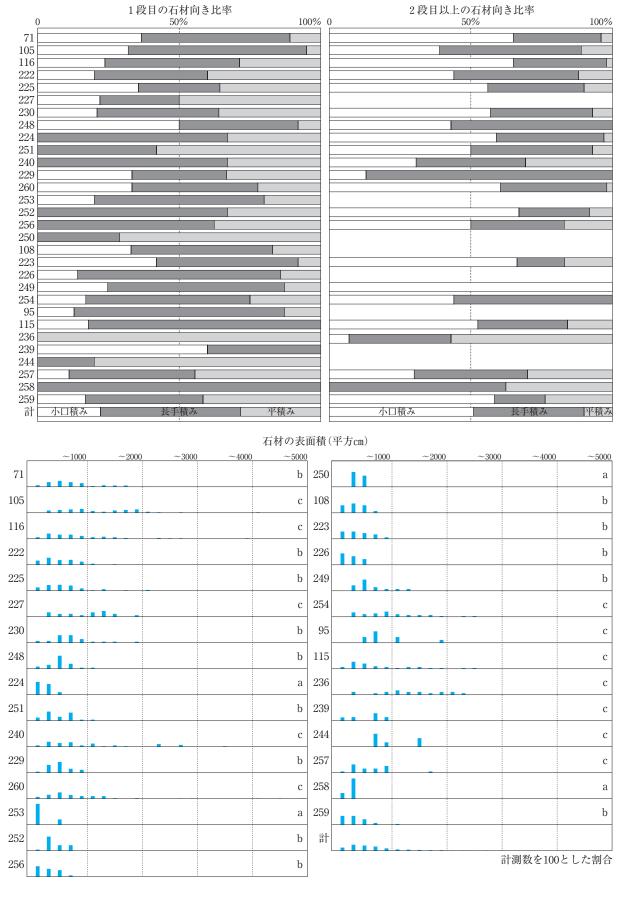
解体調査中も見受けられたことであるが、側壁の1段目を形成する基底石と上半に積まれる石材では、使用される向きが異なることがある。それをグラフ化したものが第125図(上)である。各数値の計測方法は縦・横・控とも最大値を採ったため、印象ほど明確には現れていないが、それでも1段目の石材の総数329石のうち、半数が長手積み、約30%が平積み、残り約20%が小口積みの方向で使用しているのに対して、2段目以上の上部では、総数604石のうち、半数が小口積み、約40%が長手積み、残り10%が平積みと、異なる割合を示している。基本的に平積みは安定性を欠く積み方であると考えるが、その一方で、少ない石材で多くの面積を構成することができる。一方小口積みは安定性は高いが、面積を確保するには多くの石材を必要とする。長手積みは両者の中間的性質を持つと思われ、また1番多く採用されている。

石材の向きから石室の構築方法を検討した成瀬正勝氏の論考があるが(註3)、氏は掘方内では長手積み・平積みを多用しつつ、石室が構造的に不安定になる掘方の外では小口積み多用する傾向があることを示した。今回の調査結果もそれを実証するデータを表している。長手積みを基本としつつ、掘方内では平積みも用い、上に行くほど小口積みを多用しているといえよう。この傾向は総体的にいえることで、石室の形態や時期によっての変化は見られない。

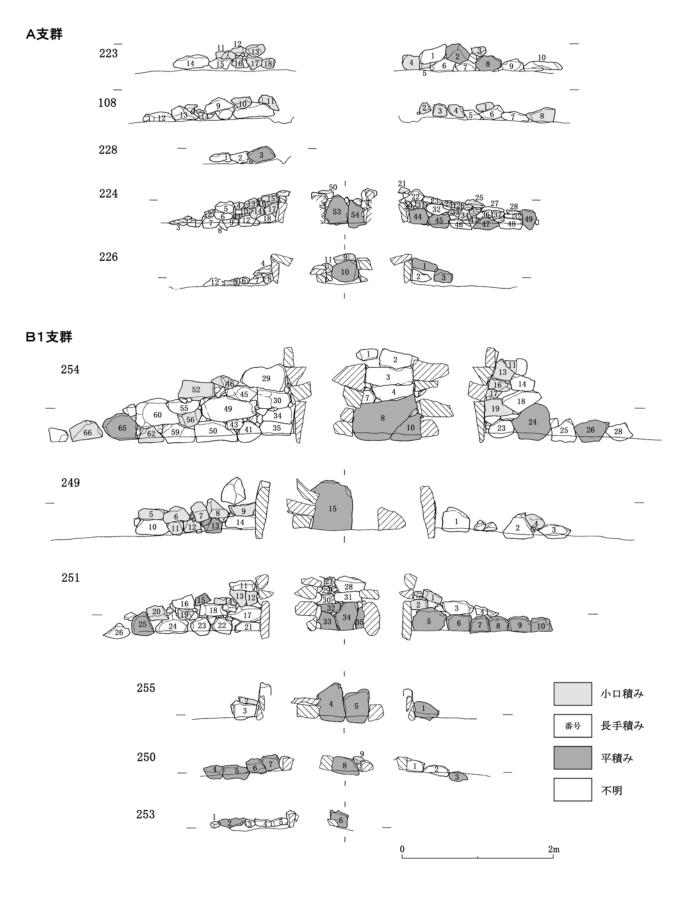
次に石材の規格性から見た傾向を検討してみる。第125図(下)は石材が壁面を形成する面の表面積の分布図である。表面積は縦×横で求めている。石室によって面積がある数値に集中するもの(a)、ある数値を中心として正規分布状の広がりを示すもの(b)、面積にばらつきが見られるもの(c)がある。aは表面積の小さいところに集中しており、石室は全て小型のものである。bは小さい値を中心とした分布を示しており、やはり全体的には比較的大きさの揃った小さい石材を用いた石室といえる。そのため石室自体の規模も小型のものが多い。ただし71号墳は大きな石室であるにも関わらず、bの分布を示しており、比較的規格性の整った石材で、大きな石室を構築していることがわかる。cは各石材の表面積にばらつきが大きく、中心とする数値が見えない。比較的大きな石室に多い。

石室の掘方

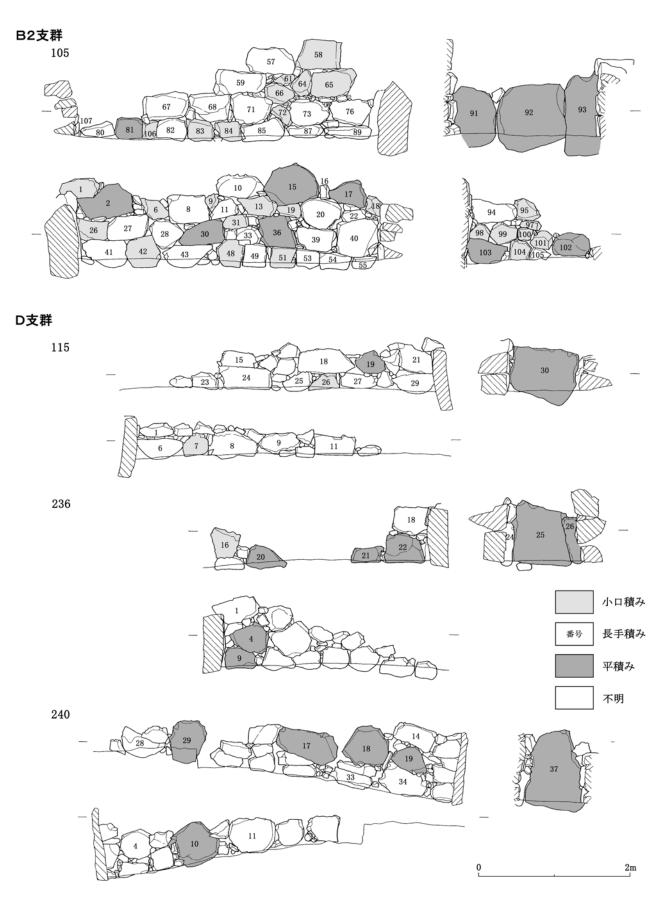
船来山古墳群では全ての石室に岩盤を掘り込んだ掘方がある。唯一掘方が見られないのはC支群の235号墳であるが、これは山裾の平地部に構築されたものであるため、立地からくる例外といえる。掘方の形状は石室の形態と立地によって異なるが、Ⅳ~Ⅵ類の大多数が占める斜面の立地では、平面では「コ」字状、断面では「L」字状の掘方が基本である。



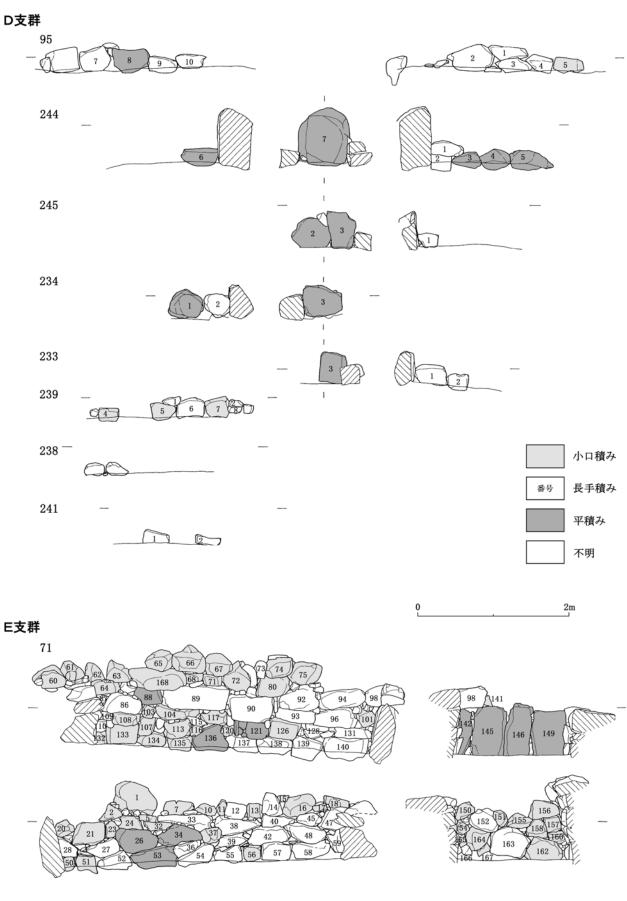
第125図 石材法量グラフ



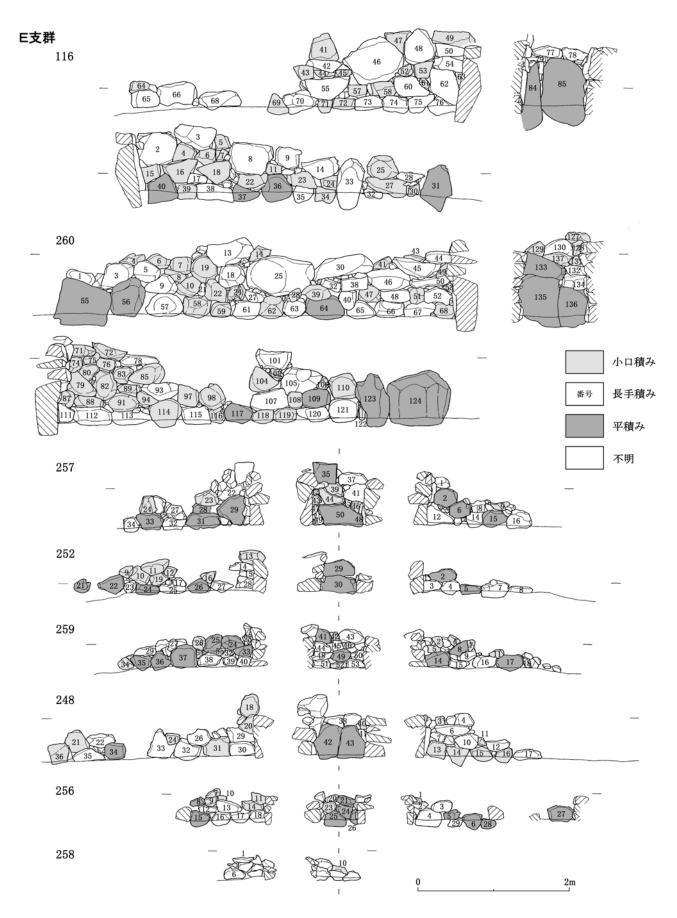
第126図 石材の使用方向(1)



第127図 石材の使用方向(2)



第128図 石材の使用方向(3)



第129図 石材の使用方向(4)

少数ではあるが、明確な掘方を掘削せず、凹地状の自然地形を利用して石室を構築するものも見られる。A支群では224・226号墳、B1支群では250・253号墳、D支群では237号墳、E支群では256・258号墳、F支群では229号墳が該当し、いずれもサイズDあるいはそれに推定される小型の石室である。 VII類も同様な掘方を持つと見られる。

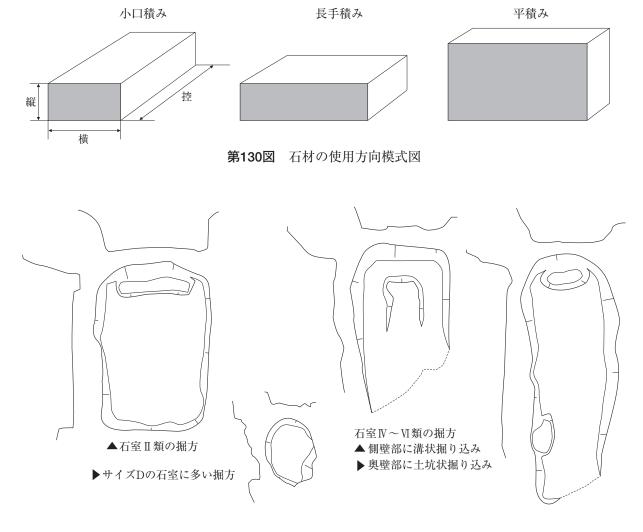
Ⅱ類の石室は巨大な方形土坑状の掘方を有し、開口部にも段を持つことが明らかである。糸貫町ではⅡ類の石室に、墓道が接続する例が検出されているが、岐阜市では2基とも見られない。

掘方の底には、奥壁が位置する場所に溝状あるいは土坑状の掘り込みを持つもの、側壁の位置に溝 状の掘り込みを持つものがあるが、石室の形態やサイズによる傾向性は見られない。

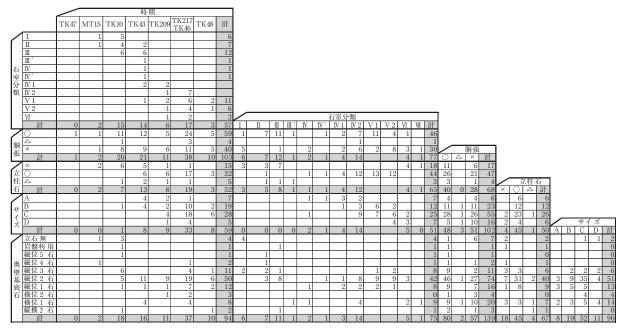
石室の各要素

石室に見られる各要素を集計したものが第30表である。玄室の平面形には胴張形と方形形があるが、 87基:72基とほぼ同数といえる。サイズが推定できるものとの比較では、各サイズほぼ同数で推移す るのが注目される。

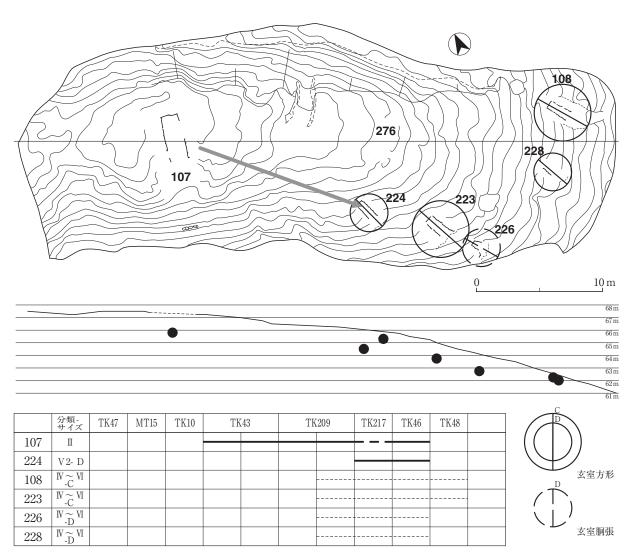
奥壁の造り方では、板状の石材を縦位に2石並べるものが圧倒的多数を占める。



第131図 石室の掘方模式図



第30表 石室各要素の集計表



第132図 A支群の立地と変遷

各支群のまとめ

前項までの分析結果を踏まえつつ、各支群の立地・変遷・形態・サイズをまとめたものが第132~ 138図である。これらの状況をまとめ、総括としたい。

A支群(第132図)

第3章で述べたとおり、A支群は船来山本体ともいえる主尾根から離れて形成された、立地的に独立した古墳群といえる。群が形成される場所は尾根筋が緩傾斜となるところで、尾根筋上、その南斜面、東斜面にその範囲がある。南斜面、東斜面とも完全には調査を行っておらず、検出された古墳以外にも存在する可能性はある。

尾根筋の先端部に最初の墳墓276号墳が構築される。木棺直葬の主体部を持つ周溝墓と見られ、その時期は廻間Ⅱ併行期と見られる。

後期古墳では最高所に最初の横穴式石室107号墳が構築される。玄門部に段を有するもので、TK43期に造られ、TK46期まで追葬が行われているようである。玄室面積はサイズAに属し、副葬品には馬具の他、鉄鏃、耳環、玉を持つ。

107号墳構築後、108・223・224・226・228が立て続けに造られると見られるが、遺物の出土があったのは224号墳のみである。224号墳はサイズDのV2類の石室で、TK217・TK46期の築造である。それ以外は、サイズCの108・223号墳、サイズDの226・228号墳と全体的に小規模な古墳の集まりといえる。立地的には、東斜面に構築される108・228号墳と南斜面の223・224・226号墳があるが、開口方向はほぼ同じで、特に南斜面のものは斜面の向きに対して、極端に斜めに構築しつつも、統一的な向きを意識していることが看取される。玄室の平面形状で胴張の可能性があるものは226号墳のみで、それ以外は方形である。古墳の配置はD・E支群と比べると密度が小さい。

A支群は廻間Ⅱ併行期に周溝墓が構築されるが、長期にわたり、造墓は行われず、後期に入り、TK43期に大型の古墳が構築される。TK217・TK46期以降立て続けに小規模な古墳が構築されたと見られる。

B1支群(第133図)

支尾根の先端に形成された独立したピークとその南斜面に展開する。南斜面は広範囲に調査を行っており、他の古墳は検出されていない。よってB1支群は調査で確認された7基で構成された古墳群といえる。

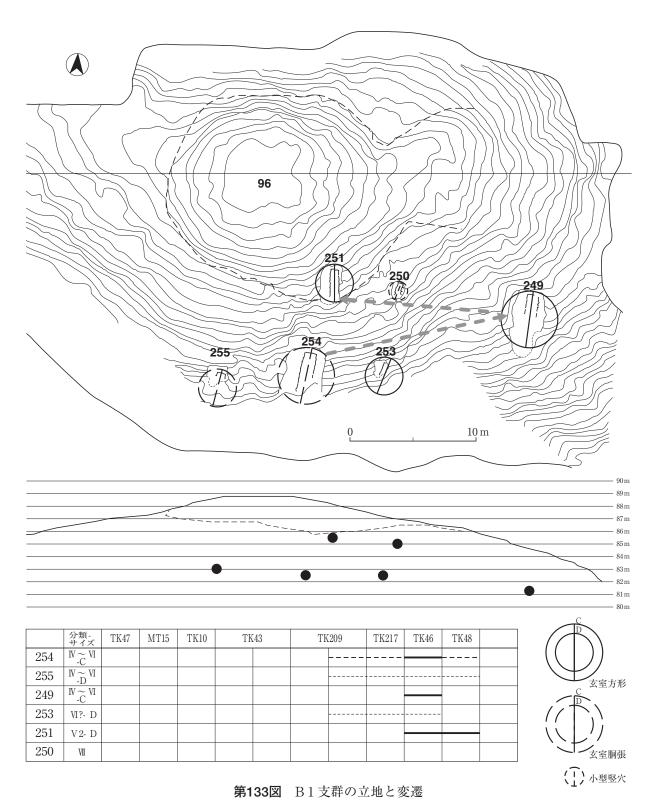
最初に築造されるのは、ピークに立地する96号墳である。埴輪を持つ前方後円墳で、その時期は TK208~TK23併行期と考えられる。主体部は削平を受け残存しない。

TK46期を中心とする時期に、連続して横穴式石室が構築されていく。古墳の立地は全て南斜面であり、255・254・253・249号墳は、ほぼ同じレベルで横一列に配列されている。一方251・250号墳は96号墳の裾に造られており、251号墳にいたっては、96号墳墳丘を破壊していると見られる。

これらの中で最も先行する可能性が高いのは254号墳である。サイズCで、石室の形態は判明しないが、玄室平面形は若干の胴張を有する。出土遺物から判断してTK46期の構築とするが、TK209~TK217期の可能性も考えられる。また鉄鏃が出土している。続いて249号墳、251号墳が構築されると

見られる。249号墳はサイズCで方形の玄室、251号墳はサイズDでV2類、方形の玄室を有する。これ以外ではサイズDの250・253・255号墳があり、250号墳はW類の可能性がある。開口方向は249・254・255号墳がほぼ同じ、250・253号墳がほぼ同じ、251号墳のみ異なる向きを持つ。

B1支群は、TK208~TK23併行期、尾根の先端頂部に前方後円墳が築造されることから造墓が開始 する。空白期間を経て、TK46期頃、南斜面に254・249号墳のサイズCの石室が先行して構築され、次



— 161 —

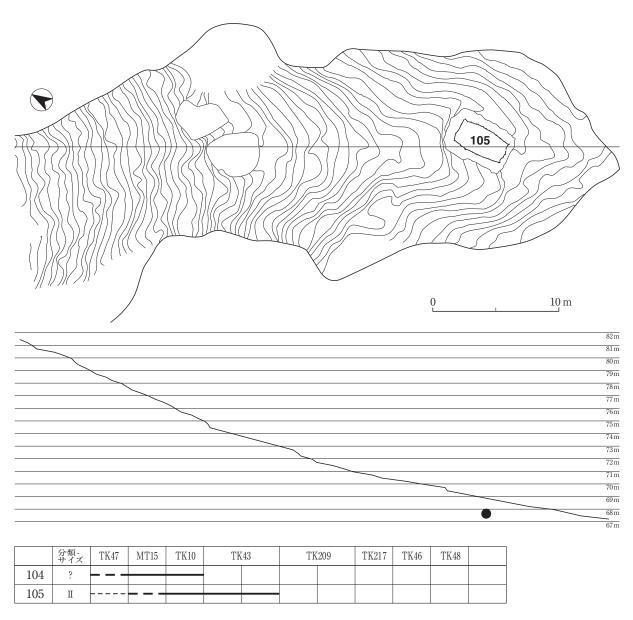
いでサイズDの251号墳やその他のものも構築されると見られる。

B2支群(第134図・別添図)

B2支群はB1区から派生する尾根上に展開する。尾根筋が緩斜面となった部分で、今のところ尾根線上にしか古墳は確認されていない。その最高所にあるのが105号墳である。105号墳はⅡ類の石室で、入口には石積みがあり、明瞭に段を成す。TK10期に構築され、出土遺物には鉄刀・鉄鏃を有し、玄室面積はサイズAに相当する。

104号墳は尾根の先端に立地する横穴式石室で、試掘調査のトレンチで遺物が出土している。調査は 試掘に止めているため、石室の形態は判明していない。遺物は105号墳よりも先行する可能性が高い。

104号墳と105号墳の間の尾根線上で電波塔建設に先立ち、試掘調査を行っている。(註4)12m×12m の範囲を岩盤まで掘り下げたが、古墳は検出されていない。南斜面の調査を行っていないため、支群



第134図 B2支群の立地と変遷

の全容は明らかでないが、他に古墳がある可能性は高い。

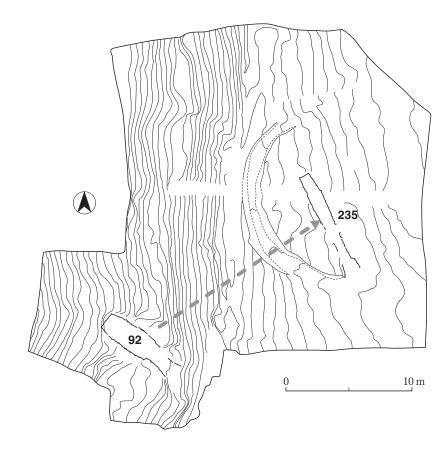
C支群(第135図・別添図)

C支群は山の東麓に立地する。調査では92号墳、235号墳の2基が検出され、南に隣接する墓地内にもマウンドが1基見られるが(91号墳)、支群の全容は明らかでない。

92号墳は右片袖式の横穴式石室の可能性が高く、サイズAの規模を持つ。袖は立柱石ではなく、通常の石積みで形成され、左側壁部には立柱石がある。船来山古墳群でも他に類例のない形態で、分類上は IV 類とした。出土遺物は少なく、時期の特定は困難であるが、埋土中の須恵器からTK43期には構築されていたようである。

235号墳は山裾に接する緩傾斜面にあり、狭長な石室を持つ。平面形態からはⅢ類に類するが、側壁には立柱石があった可能性が高く、Ⅲ類の特徴とは異なるため、Ⅲ 類とした。玄室面積はサイズBに相当する。出土遺物からTK209の構築である。

2基とも開口方向が斜面の下方に対して、大きく南に振れる。91号墳も同様と見られ、主軸の向きに意味を持つと思われる。また石室の形態も船来山古墳の中では類例の見られない特異な横穴式石室である。



	分類- サイズ	TK47	MT15	TK10	TK43		TK209		TK217	TK46	TK48	
92	IV '											
235	Ш'											

第135図 C支群の立地と変遷

D支群 (第136図)

D支群は主尾根から北東に延びる支尾根上に立地する。尾根筋の北半は土砂崩れなどで崩落しており、尾根線上の状況は不明であるが、古墳が構築された様子はない。調査で確認された古墳は全て南斜面に立地している。調査区の周囲は古墳の空白地帯が取り囲んでおり、D支群は調査で検出した15基で全てと判断しているが、尾根先端部に残存する可能性を残す。

石室は急な斜面に構築されているものが多く、残存状況も悪い。また狭い範囲に密集しており、船来山古墳群全体から見ても最も密集度の高い支群といえる。出土遺物から分かる最古のものは236号墳で、TK217期と他の支群に比べて群形成が遅れている。それを前後した時期に、14基の古墳が構築されるが、サイズB2基、サイズC9基、サイズD4基と全体的に小さい石室が多い。大部分が $V\sim VI$ 類の横穴式石室と推測されるが、237号墳のみ小型竪穴式石室の可能性がある。

237号墳を除く石室の主軸は概ね 3 方向に集中する。開口方向がS6~17° Eのグループ1、S22~34° Eのグループ 2、S49~56° Eのグループ 3 である。グループ 1 は234・239・240・241・242・245号墳で、支群の東に密集して構築されている。サイズC 4 基、サイズD 2 基で全体的に小さい石室が多く、玄室の平面形が明らかなものでは方形のものしか見られない。グループ2は95・115・232・233・236・238号墳で、支群の西半に位置するものが多く、立地上同じ高さでほぼ等間隔に構築され、比較的密集度も低い。サイズB 1 基、サイズC 4 基、サイズD 1 基と大きめの石室が多い。グループ 3 は243・244号墳で、中央部にサイズBとCの石室が 2 基並んで構築されている。

立地では全体に3~4段の段状に構築されているようである。グループ1は中段と下段にわたっており、それを分離するなら下段の234・245号墳と、中段のそれ以外となる。グループ2は、1つ離れて立地する236号墳を除くと、上段を占め、グループ3は中段あるいは下段に位置する。

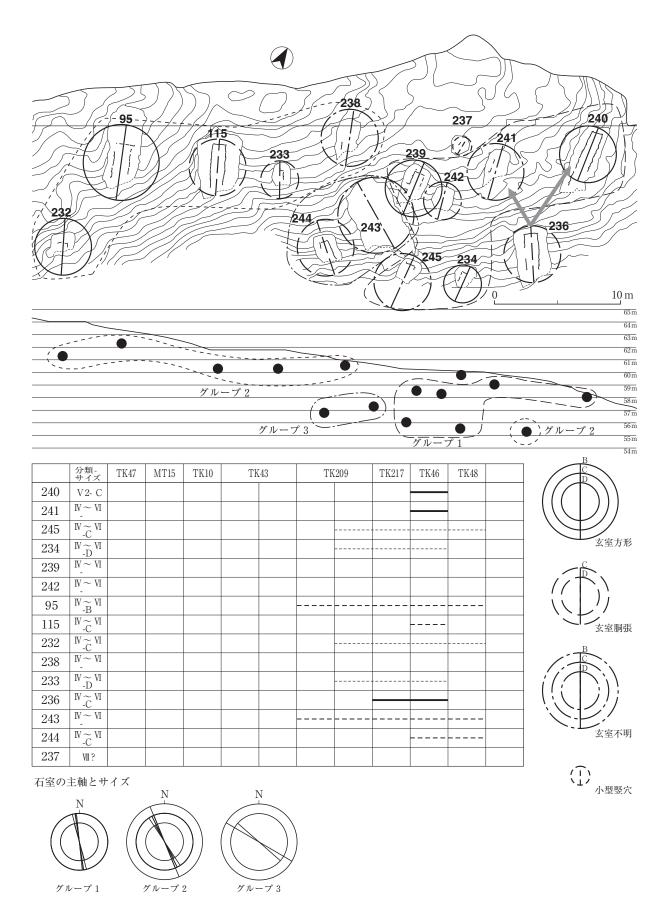
D支群は構築時期が明かでないものが多く、変遷は述べるのは難しい。狭い範囲をさらに分割した 造墓域に限定されていた複数の集団が、並行的に築造を行った結果、成された支群と見られる。 E支群(第137図)

E支群は主尾根から東に延びる尾根線上とその南斜面に立地する。南斜面は調査範囲が狭く、支群の全容を示しているとは言い難い。調査範囲内では11基の横穴式石室を検出した。

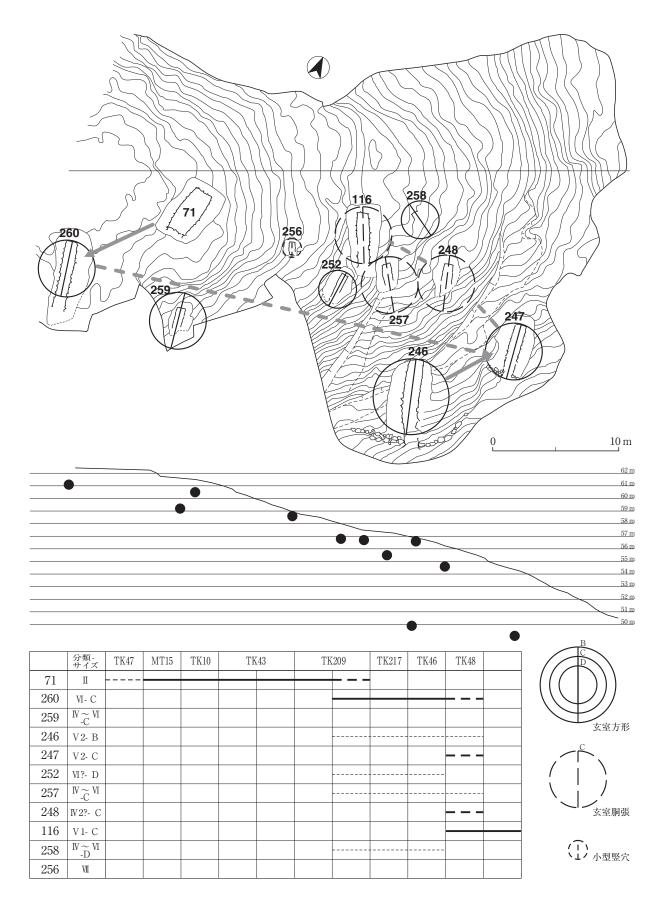
支群最古のものは71号墳で、石室形態はII類、尾根の付け根に近い最高所に立地する。銀象眼を有する鉄刀、鉄鏃など豊富な遺物の出土があり、築造時期はMT15と推測される。71号墳はTK209期まで追葬が行われており、その終了と前後して、周辺に新たな築造が開始されると見られる。サイズB1基、サイズC6基、サイズD2基という構成で、小型竪穴式石室が1基ある。石室の形態では、推測を含めると、IV2類1基、V1類1基、V2類2基、VI類2基である。

260号墳は遺物から時期を特定するのは難しいが、最古でTK209期に構築された可能性がある。次いで見られるのが116・247・248号墳であるが、これらは遺物からTK48期と見られる。墳丘の構築順序から、246号墳は247号墳より先行するが、時期の特定には至っていない。

主軸方向はほとんどが近似しており、グルーピングは難しい。立地状況では尾根線から数m下の緩 斜面に構築され、密集度が低いもの(260・259・246・247号墳)と、尾根上緩斜面の縁辺部に密集して



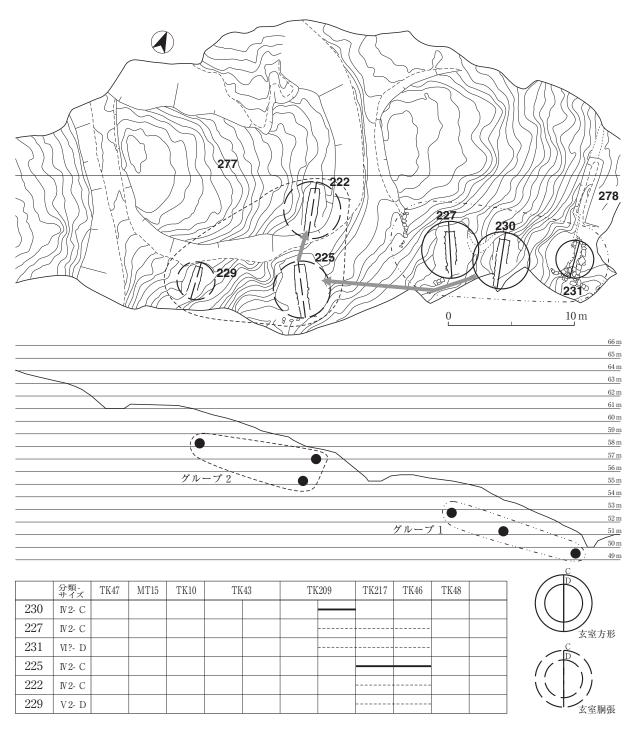
第136図 D支群の立地と変遷



第137図 E支群の立地と変遷

築かれているもの $(116\cdot 248\cdot 252\cdot 257\cdot 258$ 号墳)とに分けられる可能性がある。前者はさらに尾根線に近い $260\cdot 259$ 号墳と $5\sim 7$ m下方の $246\cdot 247$ 号墳に分けられるかも知れない。玄室の平面形は前者が方形のもので、サイズB1基とサイズC3基で構成される。後者は玄室が胴張でサイズCのもの3基とサイズD2基で構成される。石室の形態、サイズの時期的な傾向性から言うと、前者が先行して形成を開始し、後者は集中的に構築されたと思われるが、推測の域を出ない。

F支群(第138図)



第138図 F支群の立地と変遷

F支群は主尾根から北東に延びる尾根線上とその南斜面に立地する。南斜面の多量の土砂で埋没しており、斜面下方や尾根先端方向に支群が広がっている可能性は高い。よって調査で検出した2基の周溝墓と6基の横穴式石室は支群の全容を示しているものではないと見られる。

尾根線上には2基の周溝墓が検出された。277・278号墳とも尾根を断ち切るような明瞭な周溝を持ち、それぞれの築造時期は松河戸Ⅰ併行期と、廻間Ⅲ併行期と推測される。

後期群集墳が形成されるのはTK209期からと見られる。出土遺物から判断できる最初のものは230号墳でTK209期である。次いで225号墳のTK217~TK46期があり、層位からその後222号墳が構築されていることが判る。

横穴式石室は \mathbb{N} 2 類サイズ \mathbb{C} が 4 基、 \mathbb{N} 2 類サイズ \mathbb{D} が 1 基、 \mathbb{N} 2 類と推測されるサイズ \mathbb{D} 1 基という内訳で、全体的に小規模な古墳が多い。古墳の立地と玄室の形状から 2 つにグルーピングできそうであるが、主軸の向きとは合致しない。両グループとも 2 基のサイズ \mathbb{C} 2 基のサイズ \mathbb{D} 0 のセットになっており、サイズ \mathbb{C} 2 基は近接する状況が見られる。

グループ 1 は $227 \cdot 230 \cdot 231$ 号墳の 3 基で、玄室の形状は方形である。グループ 2 は $225 \cdot 222 \cdot 229$ の3基で、玄室の形状は胴張を呈する。

石室の形態とサイズの消長を加味して考えると、グループ1がやや先行して群の形成を開始し、追ってグループ2が形成され始める。また構築は並行的に進んでいた様子が窺える。

以上、各支群の群構成をまとめたが、そのパターンは一様でないことが判った。後期群集墳に関して、 $TK217 \sim TK46$ 期に急増することは糸貫町と同様である。ただ増加の具合は大きく2パターンあり、密集度の高いD・E支群と、やや低いA・B 1・F支群である。また急増期に新たに群形成が始まるB 1・D・F支群と、以前に横穴式石室の構築があるA・E支群とがある。以上を組み合わせるとB 1 支群とF支群が似た様相を見せるが、他のものは全て違うパターンとなる。

また、糸貫町を含め、船来山古墳群の調査では、石材を調達した場所が推定されるのも大きな成果といえよう。A・F支群では尾根の北斜面、B2支群では尾根の付根、E支群では尾根の先端に見られる。古墳が立地する範囲内と言っても良い位の近接した場所であり、近場で確保したことが推測される貴重な事例である。

- 註1 渡辺博人「美濃の後期古墳出土須恵器の様相-蓋杯の型式設定とその編年試案-」『美濃の考古学』創刊号 1996
- 註 2 『船来山古墳群』糸貫町教育委員会·本巣町教育委員会(船来山古墳群発掘調査団) 1999
- 註3 成瀬正勝「美濃における横穴式石室の築造技法 側壁の積石技法を中心に 」『岐阜史学』96 1999
- 註 4 『平成 8 年度岐阜市市内遺跡発掘調査報告書』岐阜市教育委員会 1997

図 版

図版1 A区遺構



A区完掘状況全景(東から)



A区完掘状況

図版2 A区遺構





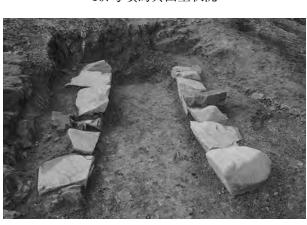
107号墳右側壁



107号墳左側壁



107号墳馬具出土状況



108号墳石室



108号墳右側壁

図版3 A区遺構





223号墳石室



223号墳右側壁



223号墳左側壁



224号墳石室

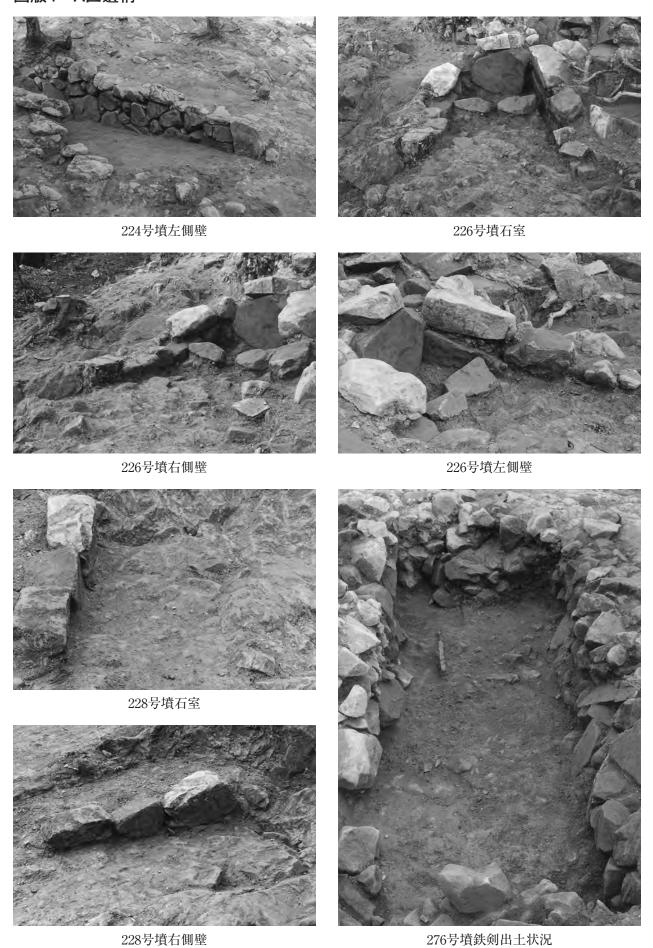


f側壁 224号墳遺物出土状況



224号墳右側壁

図版4 A区遺構



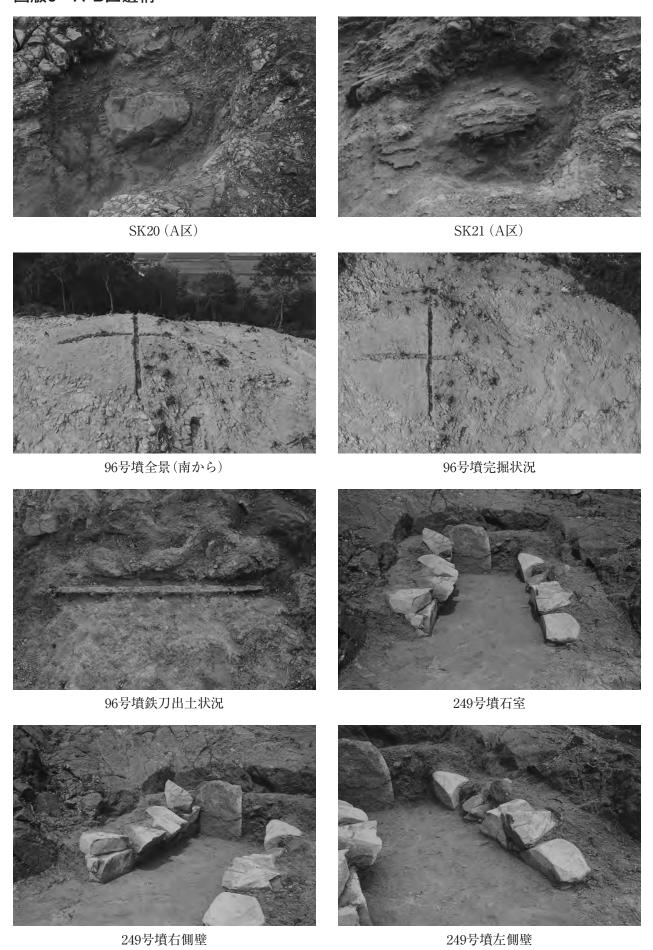


B区完掘状況全景(東から)



B区完掘状況

図版6 A·B区遺構



図版7 B区遺構





250号墳石室



250号墳右側壁



250号墳左側壁



250号墳断割状況

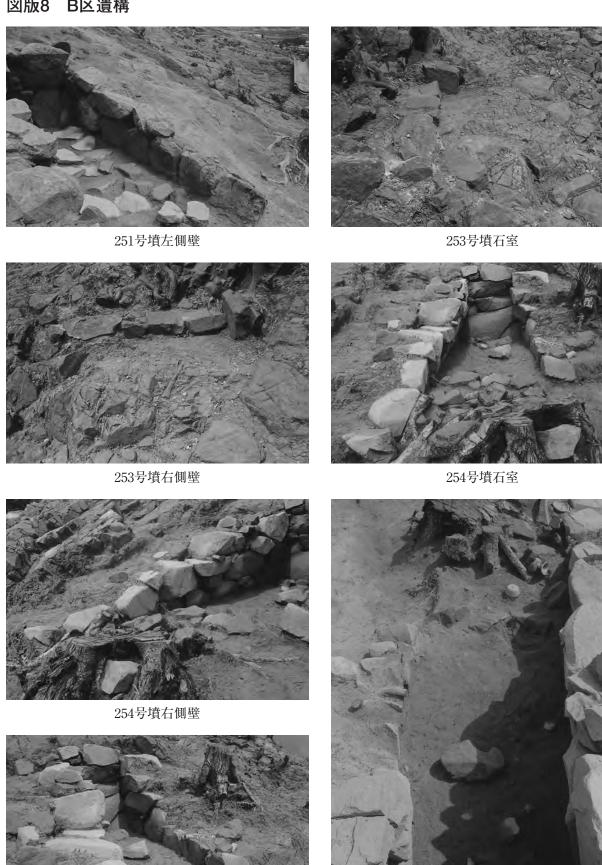


251号墳石室、遺物出土状況



251号墳右側壁

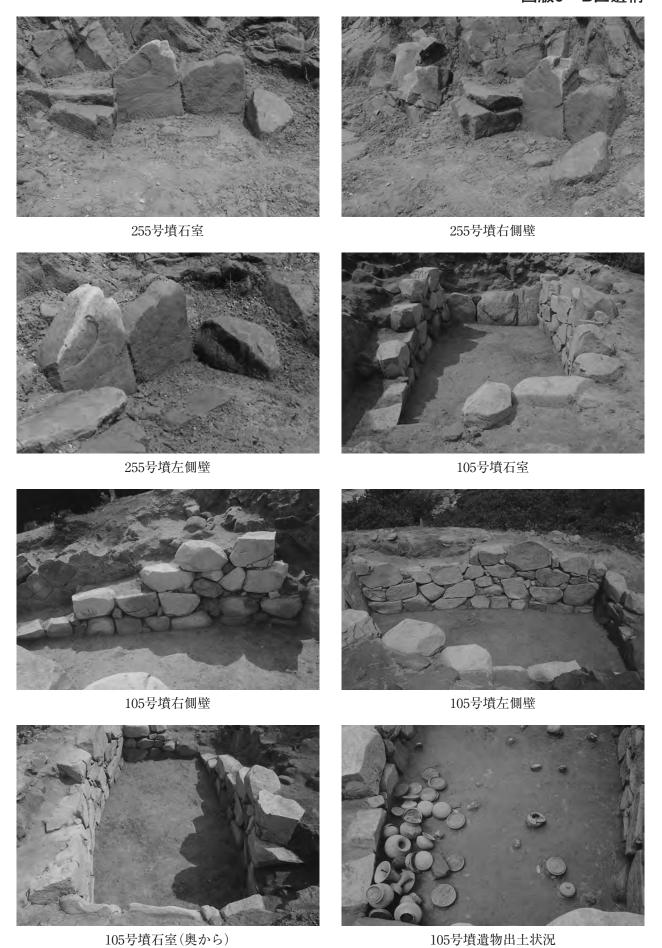
図版8 B区遺構



254号墳左側壁

254号墳遺物出土状況(奥から)

図版9 B区遺構



図版10 B·C区遺構



105号墳遺物出土状況(奥から)



105号墳石室奥壁設置状況



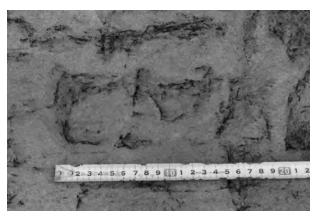
92号墳石室、墳丘 (C区)



105号墳遺物出土状況



105号墳掘方(側壁除去後)



105号墳掘方掘削工具痕



92号墳奥壁 (C区)

図版11 C区遺構



C区完掘状況全景(南から)



92号墳右側壁



92号墳左側壁

図版12 C区遺構



235号墳墳丘、周溝



235号墳墳丘、周溝(西から)



235号墳石室



235号墳右側壁



235号墳左側壁



235号墳遺物出土状況



235号墳遺物出土状況



235号墳周溝埋土断面

図版13 D区遺構

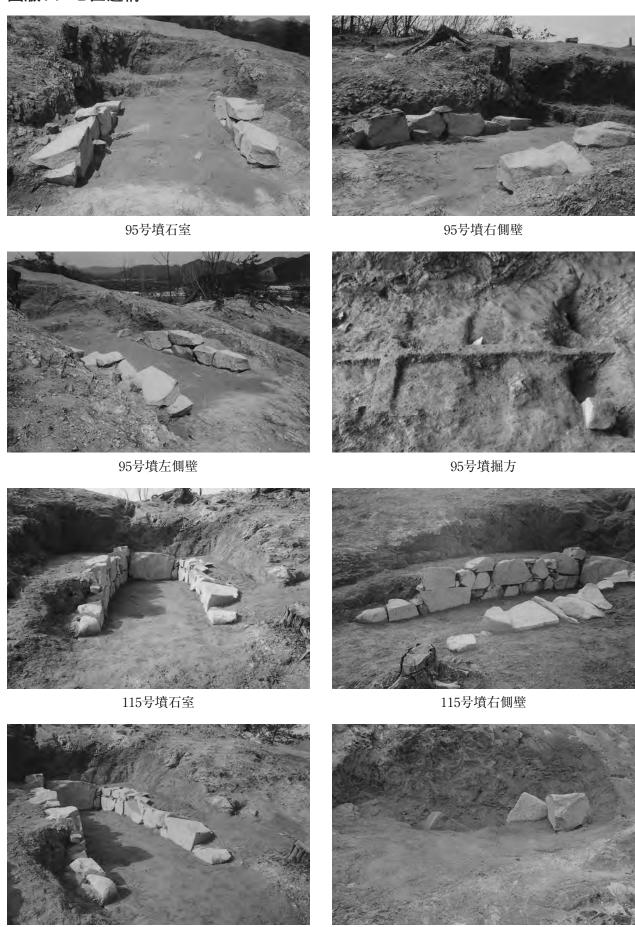


D区完掘状況全景(南から)



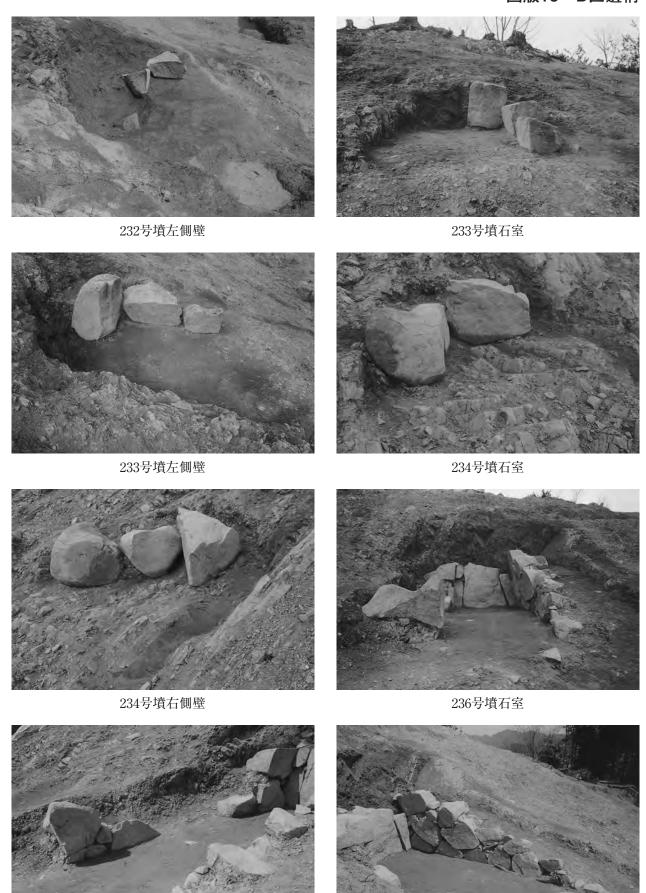
D区完掘状況

図版14 D区遺構



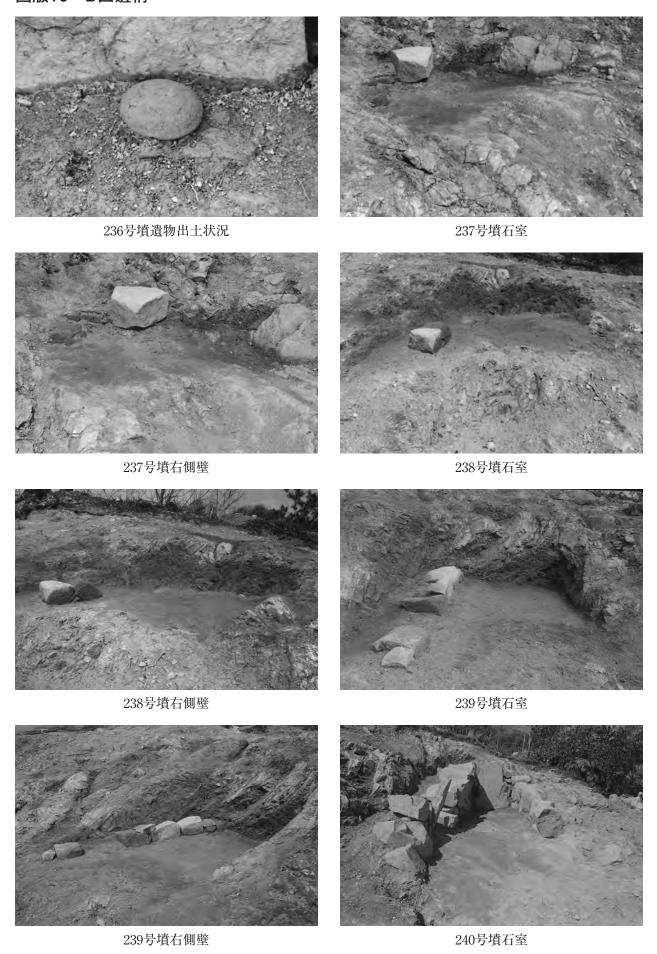
115号墳左側壁 232号墳石室

図版15 D区遺構

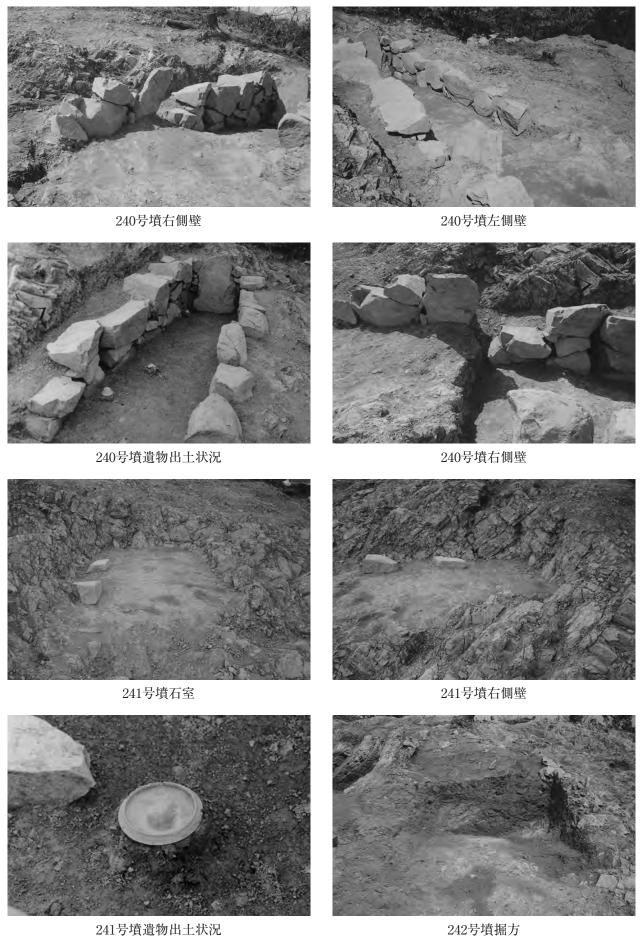


236号墳右側壁 236号墳左側壁

図版16 D区遺構

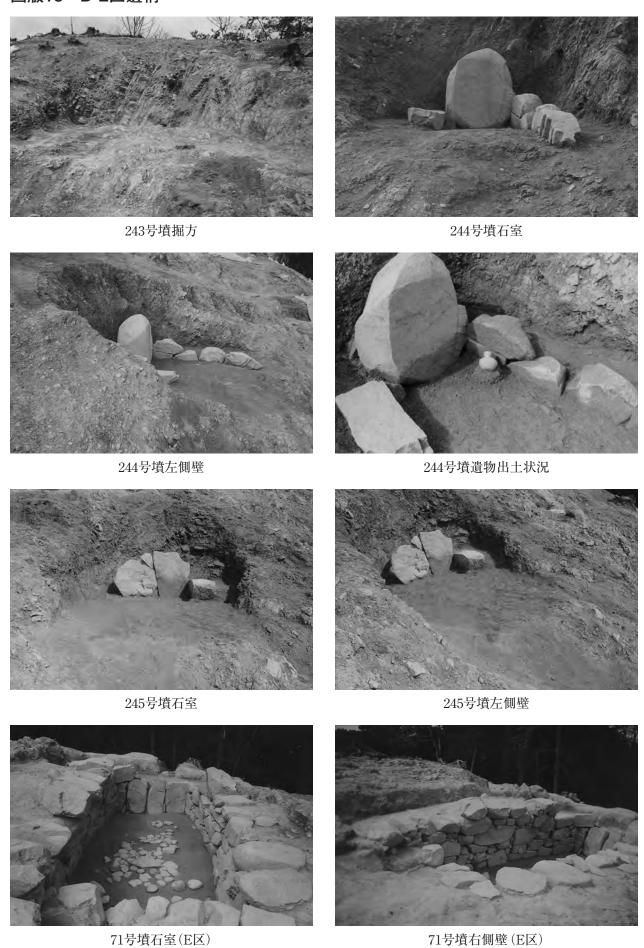


図版17 D区遺構



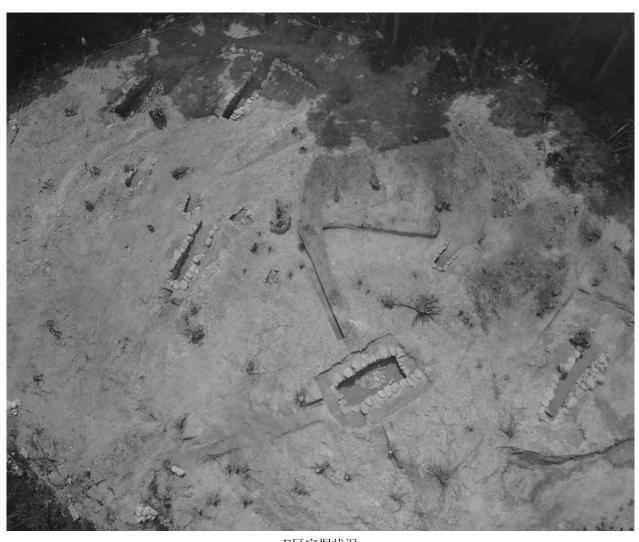
242号墳掘方

図版18 D·E区遺構





E区完掘状況全景(東から)



E区完掘状況

図版20 E区遺構



71号墳左側壁



71号墳石室 (奥から)



71号墳遺物出土状況



71号墳遺物出土状況(奥から)



71号墳遺物出土状況



71号墳遺物出土状況



71号墳右側壁(入口石積除去後)



71号墳左側壁(入口石積除去後)

図版21 E区遺構



116号墳石室



116号墳右側壁



116号墳左側壁



116号墳遺物出土状況



246号墳石室



246号墳右側壁

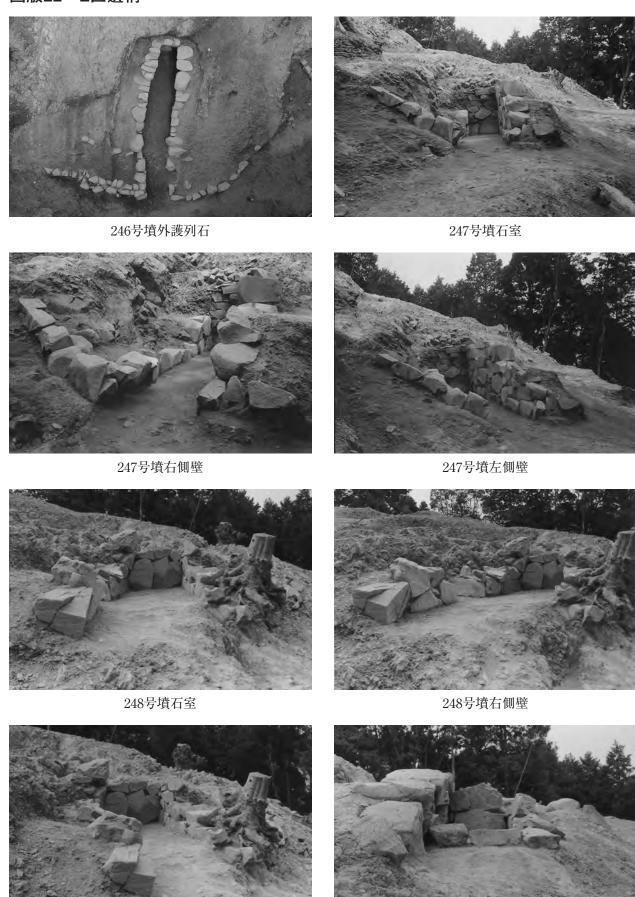


246号墳左側壁



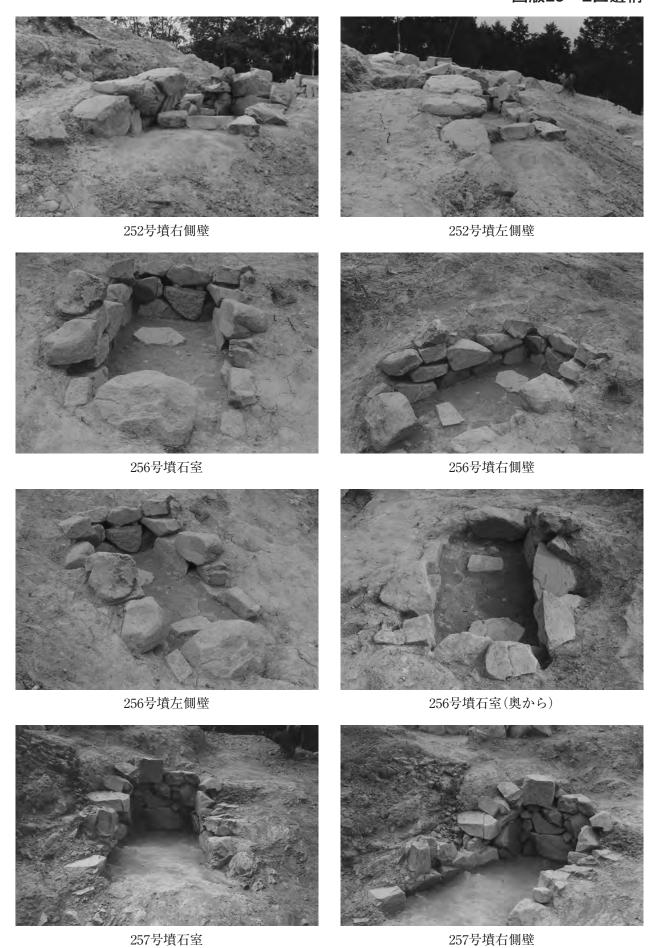
246号墳外護列石,墳丘

図版22 E区遺構



248号墳左側壁 252号墳石室

図版23 E区遺構



図版24 E区遺構





258号墳石室



258号墳右側壁



259号墳石室



259号墳右側壁



259号墳左側壁



260号墳石室



260号墳右側壁

図版25 E·F区遺構



260号墳左側壁



260号墳遺物出土状況



256号墳閉塞石



通路状遺構SS1



222号墳石室(F区)



222号墳右側壁(F区)



222号墳左側壁(F区)



225号墳石室(F区)

図版26 F区遺構



F区完掘状況全景(東から)



F区完掘状況

図版27 F区遺構



225号墳右側壁



225号墳左側壁



225号墳遺物出土状況



227号墳石室



227号墳右側壁



227号墳左側壁



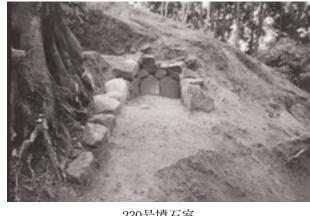
229号墳石室



229号墳右側壁

図版28 F区遺構









230号墳右側壁



230号墳左側壁



230号墳遺物出土状況



231号墳石室, 閉塞石



231号墳閉塞石(奥から)



231号墳掘方断面

図版29 F区遺構



277号墳墳丘



277号墳周溝(西)



277号墳周溝(東)



277号墳溝遺物出土状況



278号墳石積み



278号墳墳丘断面

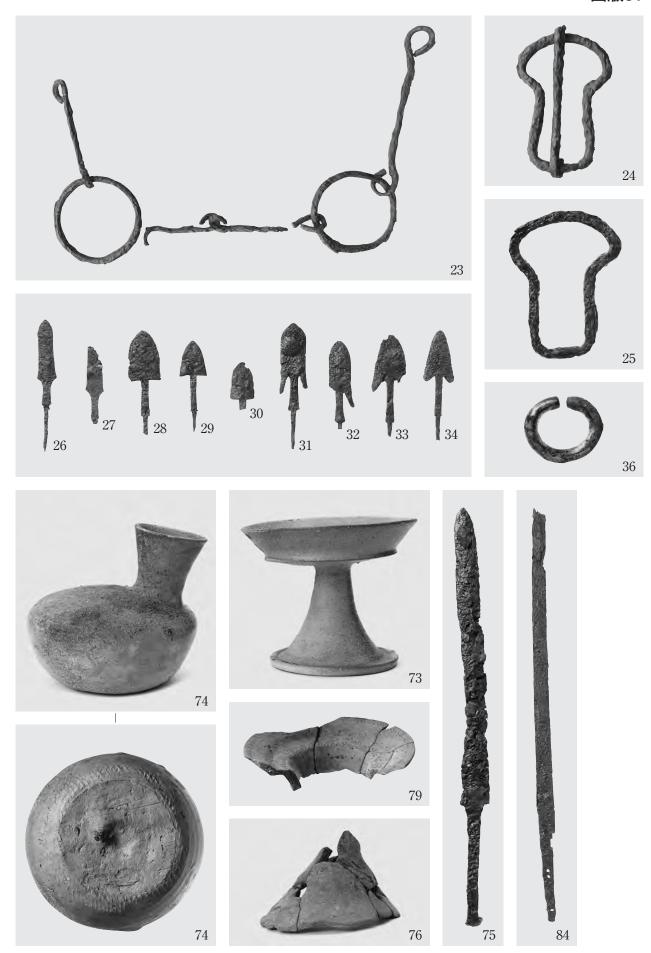


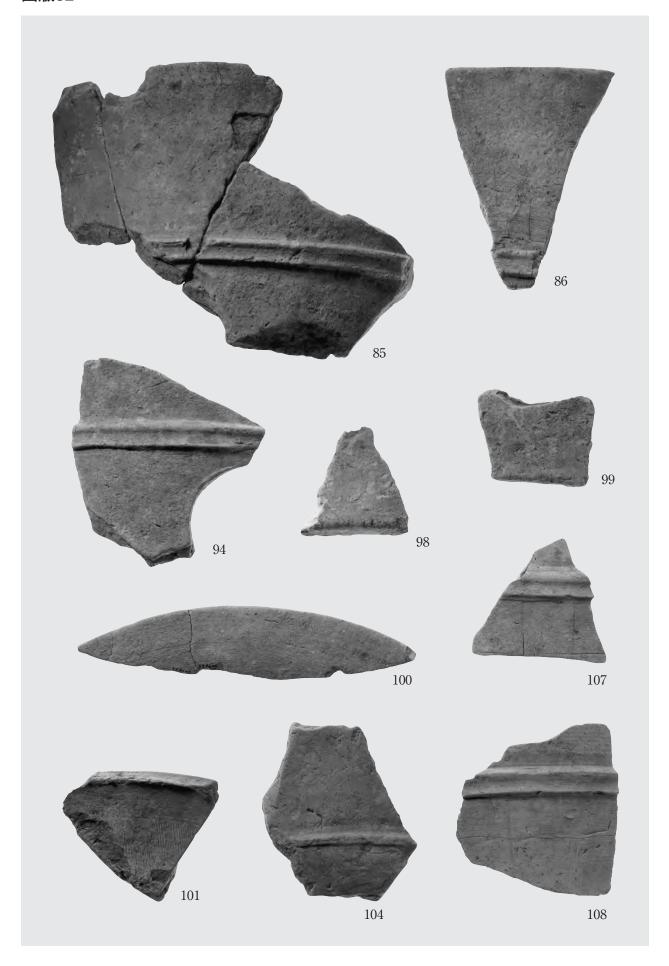
278号墳石積み,溝

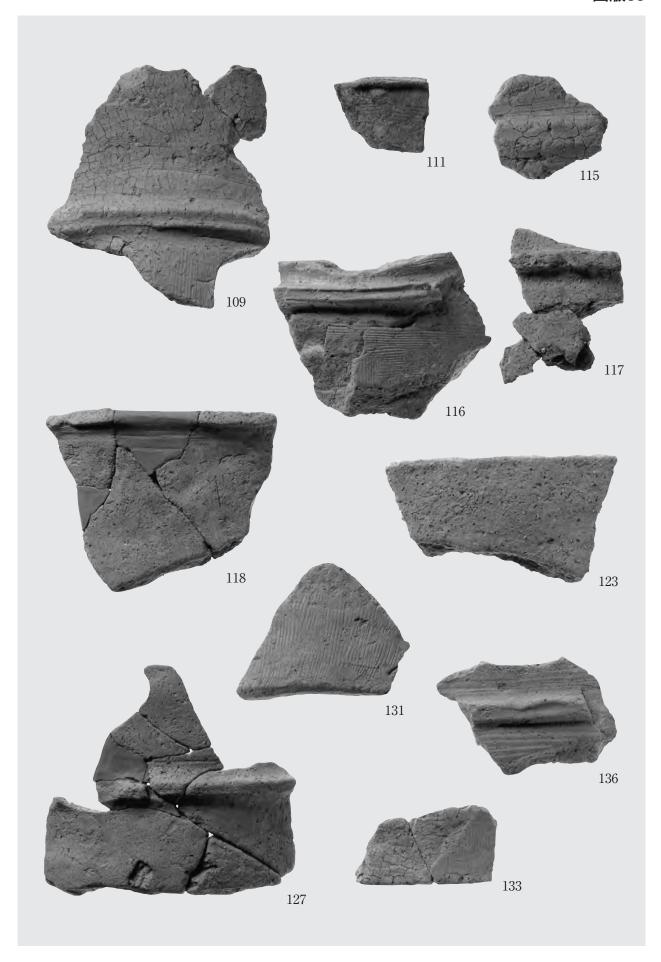


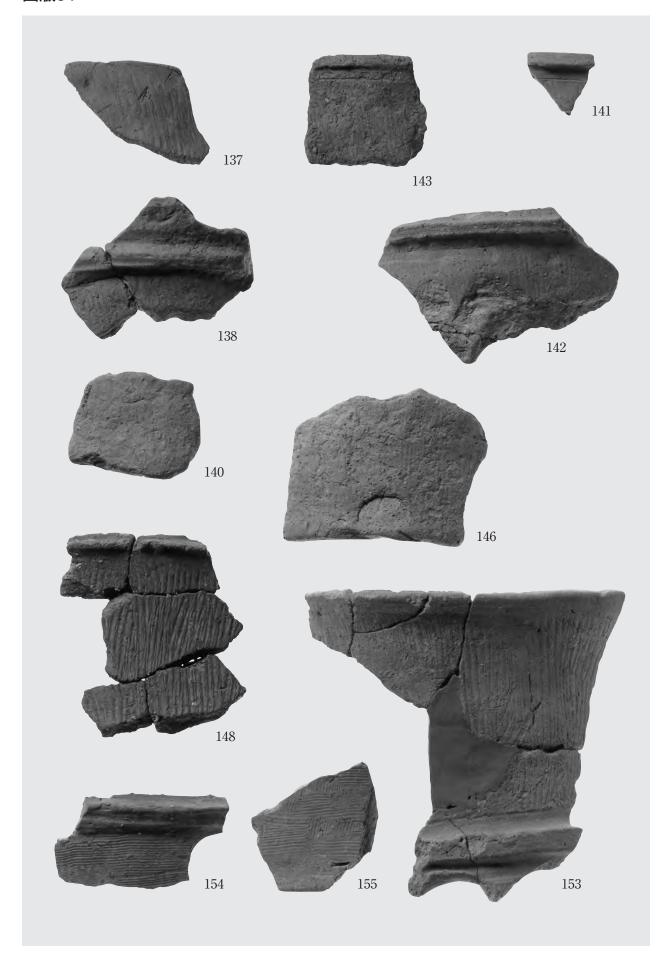
土抗SK26









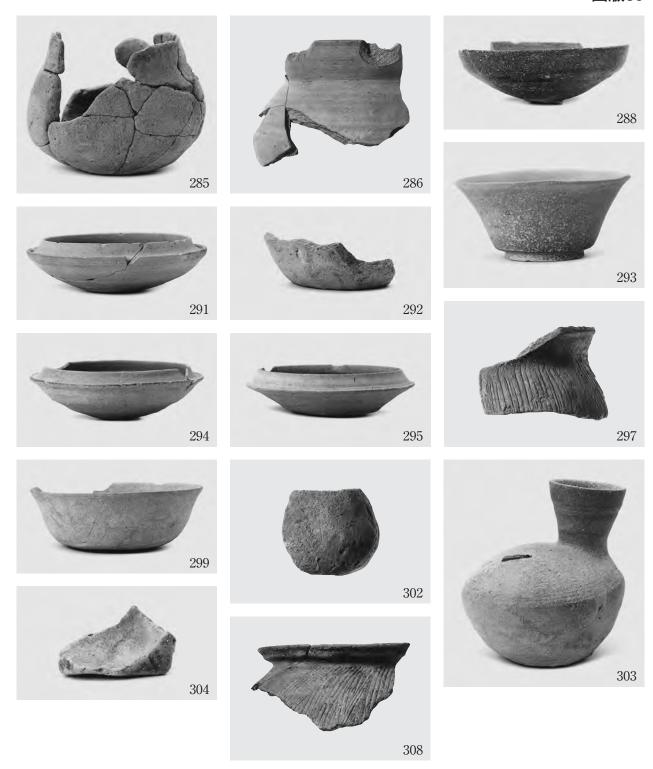


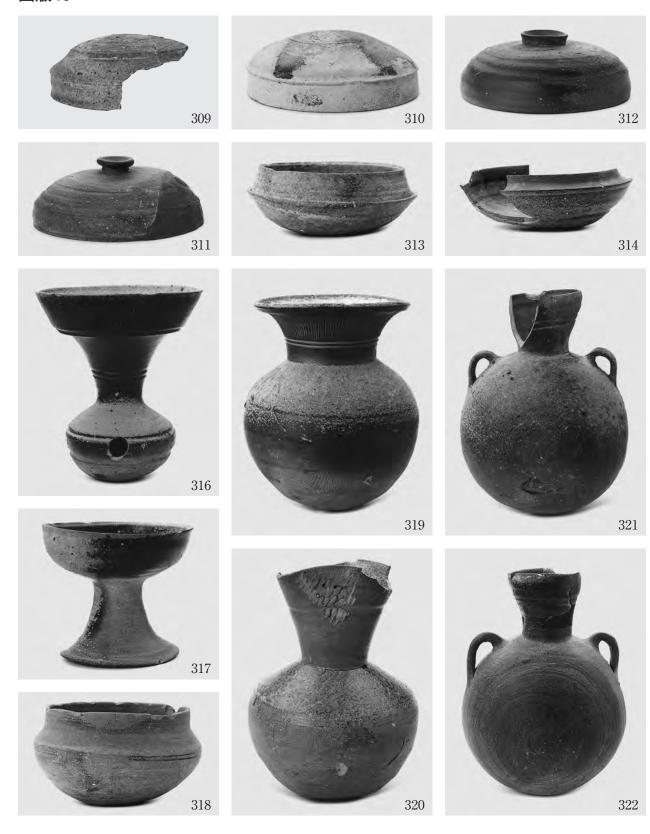


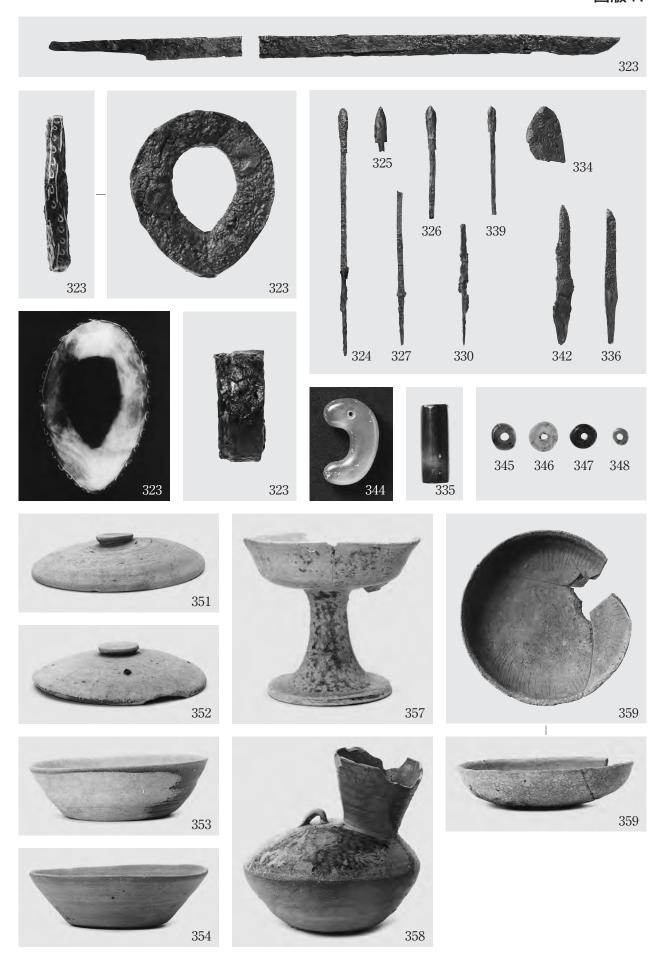


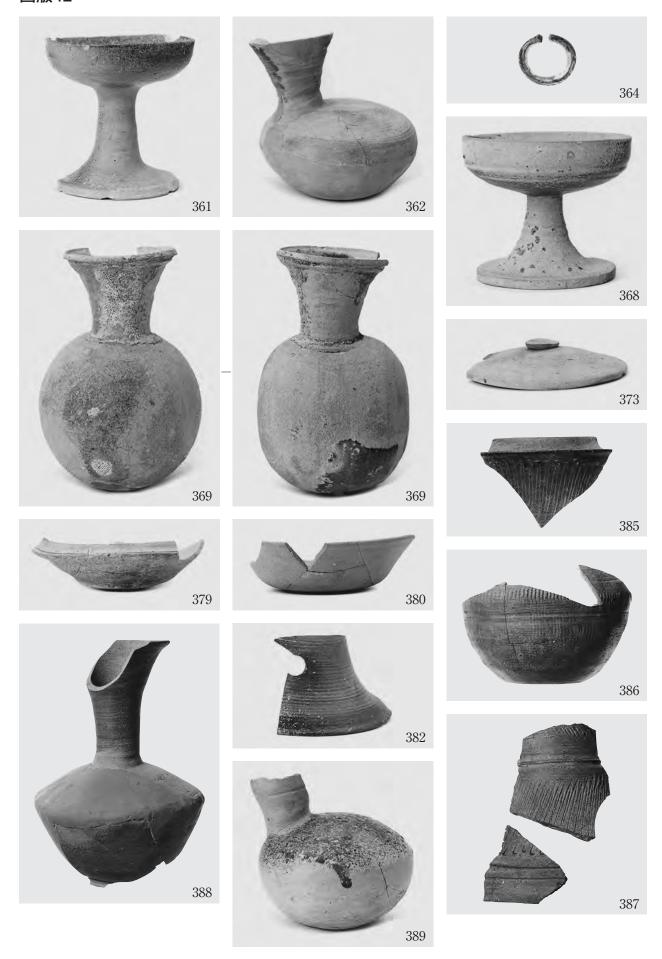




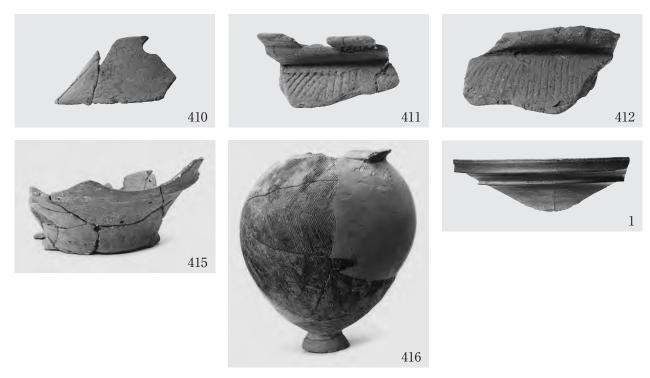














報告書抄録

フリガナ	フナキヤマコフングン					
書名	船来山古墳群					
副書名						
巻次						
シリーズ名	(財)岐阜市教育文化振興事業団報告書					
シリーズ番号	第16集					
編著者名	恩田裕之・若尾政春・松葉竜司・藤根 久					
編集機関	(財)岐阜市教育文化振興事業団 埋蔵文化財調査事務所					
所在地	〒501-3133 岐阜市芥見南山3-10-1					
発行年月日	2007年10月31日					

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調本而穩	調査原因
		市町村	遺跡番号	コレが手	水社		門 田	朔 重原囚
船来山古墳群	岐阜市中西	21201	02763-	35°27'40"	136°	951016		(仮称)岐阜西カント
	郷船木山ほ		02767	~28'20"	41'10"~	~970930		リー(ゴルフ場) 造成
	か				41'50"			

所収遺跡名	主な時代	種別	主な遺構		主な遺物	特記事項
船来山古墳群	古墳時代	墳墓	周溝墓 3		土師器	
					鉄剣	
			前方後円墳	1	円筒埴輪	
					鉄刀	
			横穴式石室墳	47	須恵器・土師器	
					鉄刀・鉄鏃	
					馬具	
					耳環・玉類	
		土坑				採石坑か

